

Hyogo University of Health Sciences



兵庫医療大学年報

平成22・23年度



学校法人 兵庫医科大学

兵庫医療大学

兵庫医療大学年報第3巻の発刊に当たって

兵庫医療大学 学 長 松田 暉

本学が兵庫医科大学の姉妹大学として、薬学部、看護学部、およびリハビリテーション学部の3学部を擁して、平成19年4月に神戸のポートアイランドに開学して早くも5年目が終わりました。既に看護学部、リハビリテーション学部の1期生・2期生が卒業し医療現場で活躍を始めています。また、大学院では看護学研究科とリハビリテーション領域を含む医療科学研究科の二つの修士課程も始まっている。学校法人兵庫医科大学はもとより行政、医療関係施設、近隣大学、そして地域の皆様のお蔭と感謝申し上げます。

この2年間の特筆すべきことといえば、何といても平成23年3月11日の東日本大震災であります。本学では丁度第一回卒業式の前々日でありました、本学体育館で震災で亡くなられた方々への黙祷の後、予定どおり卒業式行うことができました。入試合格者の中に被災地からの受験生がありましたが、無事入学にこぎつけてくれて安堵いたしました。改めて多くの亡くなられた方々のご冥福と被災された地域の一刻も早い復興を願っています。

さて、本学は開学以来「チーム医療とボーダレス」を旗頭に次世代の医療を担う人材育成を目指してきました。大学の教職員全体がこれを理解し、また兵庫医科大学の支援もあり、平成22年3月には看護学部とリハビリテーション学部（理学療法学科、作業療法学科）の1期生が無事卒業し、国家試験を経て医療現場に巣立っていきました。両学部ではこの3月に2期生も卒業し、1期生を含めこれまで国家試験、就職状況も良好な結果で、大学としてうれしい限りであります。

薬学部は6年制でありますからこの年報を出す平成24年度が完成年度で、来春に1期生が卒業します。新規参入ということで教育や実習での種々の課題が待ち構えていましたが、総力を挙げて一歩一歩乗り越え、最初の目標達成へと一歩となりました。同学部では低学年時から学生のモチベーションを高く維持することに教員一同頑張ってきた成果がOSCE、CBT、そして実務実習で現れてきています。新たに始まった6年制薬学教育は当初より種々の課題が指摘されていましたが、兵庫医科大学や多数の関連医療機関が、薬物治療の新しい時代を担う6年制薬剤師の卒業に大きな期待をかけていることを強く感じています。

開学4～5年度に当たる2年間の成果はこの年報で詳らかにされますが、各学部と共通教育センターが教育はもとより研究面でそれぞれの役割を果たし、成果が出てきていることを確信しています。新大学の教員は学生教育にほとんどの時間と努力が費やされますが、そのなかで研究面でも着実に成果が出てきています。このことは科学研究費補助金はじめ外部資金の獲得で示されています。研究面では国際交流も進み、薬学部の芝崎准教授のグループはフィンランド共和国のトゥルク応用科学大学との共同研究が始まっています。看護学部学生のデンマーク研修も軌道に乗ってきて、他学部の学生も参加するようになりました。

大学院は完成年度を迎えた看護学部とリハビリテーション学部が修士課程を始めました。平成23年度に1期生を受け入れたところですが、継続して定員確保もでき、担当教員の努力でしっかりしたスタートができたと思っています。これが次の博士課程（後期）へとつながって行くものと期待しています。

地域貢献では、地域医療実践推進センターの活動が近隣4大学連携事業の支援のもとで着実な歩みを示しています。成果の一つとして、認知症患者さんの在宅介護の教育活動が小冊子、「認知症がよく分かる本」で世に出されました。また、ボランティア活動としては、東日本大震災後、学生のみならず教職員の被災地へのボランティア活動については全学的な議論をいたしました。医療を教え、また

学ぶものとして、黙ってみているのはどうかという事で大学として被災地への支援活動を支援する方針を取りました。学生については単位の問題が大きかったわけですが、夏休みになってやっとボーアイ4大学連携に関わる神戸学院大学の活動に一部の学生が参加しました。これを機会に、学生のボランティアサークルができて継続的な活動を始めています。(P154頁、Ⅲ-5-1・2)ボランティア活動を参照ください)

これまでの5年間を振り返って、期待どおりに進んだところやそうでないところも多々あります。共通教育センターが法人の医療人育成センターと連携し、課題であるチーム医療教育の充実を進め、特に兵庫医科大学第3学年次の医学生と本学第4学年次学生との合同チュートリアルも実現し、新たな展開が始まりました。一方、課題としては、広報と連携した入試戦略の強化、初年次教育の充実、チーム医療教育のさらなる展開、教育の質の向上、学部教育での国際性、などであろうかと思っています。入試戦略では平成23年度から学費免除を伴う特別奨学金制度を導入し、その成果が今後期待されるところです。全体としてこれまでを振り返って新たな展開に繋げる大事な時期になっていますが、平成23年度は財団法人大学基準協会への申請の年になり、馬場副学長の陣頭指揮のもとで既に申請済みであります。その結果を踏まえ、兵庫医科大学の次期中期事業計画へ反映させていくべきものと思っています。

年報もやっと3巻目となりましたが、平成22・23年度の成果として概要をまとめました。関係各位のこれまでのご厚情に感謝し、今後も益々のご支援をお願いしてご挨拶いたします。

目 次

年報挨拶 年報第3巻発刊にあたって

学 長 松田 暉

目 次

I 兵庫医療大学の学事と組織

1. 沿革	1
2. 兵庫医療大学の理念	
1) 学部	2
2) 大学院	4
3. 学年歴	
1) 学部	6
2) 大学院	9
4. 学校法人兵庫医科大学組織機構図	11
5. 兵庫医療大学組織機構図	12
6. 大学協議会	13
7. 学部・学科構成	17
8. 役員名簿	19
9. 校舎・施設設備の概要	20
10. 各委員会委員一覧	23
11. 委員会の取り組み	
1) FD 委員会	26
2) 教育委員会	29
3) 自己点検・評価委員会	31
4) 学生委員会	34
5) 地域連携推進委員会	38
6) 入試運営委員会	39
7) 広報委員会	40
8) 倫理審査委員会	43
9) 将来構想委員会	47

II 教育・研究活動

1. 特色あるカリキュラム	50
2. 各部門の活動	
1) 薬学部	54
2) 看護学部	62
3) リハビリテーション学部	76
4) 共通教育センター	86
5) 医療人育成センター	90
6) 臨床薬学研修センター	91
3. 大学院	
1) 兵庫医療大学大学院の構成	93

2) 看護学研究科	97
3) 医療科学研究科	97
4. 研究施設の活動状況	
1) 動物実験センター	104
2) 薬用植物園	105
3) 学外研究費の取得一覧	106
4) 兵庫医療大学研究セミナー	112
5) 教育・研究・社会活動における新聞記事	113
Ⅲ 管理・運営活動	
1. 学生の受け入れ	
1) 入学試験状況	116
2) 学生数	122
2. 学生の福利厚生	
1) 奨学金の貸与状況	123
2) 学生会活動	123
3) 保健管理センター	128
3. 付属施設・活動状況	
1) 図書館	136
2) キャリアデザインセンター	138
3) 情報センター	141
4) 地域連携実践センター	142
4. 神戸ポートアイランド4大学連携事業	
1) ポーアイ健康・生活支援ステーション	146
2) 地域交流プロジェクト	147
3) 部会活動	151
(1) 図書館部会	151
(2) キャリア支援部会	152
5. ボランティア活動	
1) 東日本大震災に対する対応	154
2) その他の学生ボランティア活動	156
Ⅳ 写真 (カラー)	157
Ⅴ 研究業績	163
1. 薬学部	165
2. 看護学部	198
3. リハビリテーション学部	213
4. 共通教育センター	235
5. 先端医薬研究センター	238
6. 学長	239

I 兵庫医療大学の学事と組織

1. 沿革

- 昭和46年11月 学校法人兵庫医科大学寄附行為認可及び兵庫医科大学設置認可
- 昭和47年 4 月 兵庫医科大学開学
- 4 月 兵庫医科大学病院開設
- 昭和53年 3 月 兵庫医科大学大学院医学研究科設置認可
- 10月 兵庫医科大学篠山病院開設
- 9 月 兵庫医科大学ささやま老人保健施設開設
- 平成18年11月 学校法人兵庫医科大学寄附行為変更認可及び兵庫医療大学設置認可
- 平成19年 4 月 兵庫医療大学開学
- 4 月 保健管理センター開設
- 6 月 医療人育成センター（西宮キャンパス）開設
（旧：医学・医療教育研修センター）
- 10月 地域連携実践センター開設
- 10月 兵庫医療大学先端医薬研究センター開設
（旧：医薬共同創薬研究開発センター）
- 平成20年 1 月 神戸ポートアイランドキャンパス 4 大学連携協定締結
- 4 月 動物実験センター開設
- 9 月 薬用植物園開設
- 9 月 平成21年度看護学部看護学科三年次編入学試験開始
- 10月 第1回兵庫医療大学大学祭（海梟祭）開催
- 10月 臨床薬学研修センター開設
- 12月 神戸ポートアイランドキャンパス 4 大学連携における単位互換に関する協定締結
（兵庫医療大学、神戸学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学）
- 平成21年 3 月 兵庫医療大学体育館（アリーナ）完成
- 3 月 防災・減災及びボランティア活動に関する 5 大学連携支援協定を締結
（兵庫医療大学、工学院大学、大妻女子大学、神戸学院大学、神戸女子大学）
- 4 月 キャリアデザインセンター開設
- 7 月 神戸夙川学院大学 大学入試センター試験の共同実施に関する協定書調印
- 9 月 RI 実験センター開設
- 平成22年 1 月 平成22年度大学入試センター試験利用入学試験（薬学部、看護学部）開始
- 平成22年12月 兵庫医療大学大学院看護学研究科・医療科学研究科設置認可
- 平成23年 4 月 兵庫医療大学大学院開設
- 平成23年 6 月 フィンランド共和国トゥルク応用科学大学との学術交流に関する協定を締結

2. 兵庫医療大学の理念

1) 学 部

兵庫医療大学の教育理念

人間への深い愛と豊かな人間性を持ち、幅広い知識と優れた技術を備え、社会とともに医療を担う医療専門職者を育成する

兵庫医療大学の教育目標

「幅広い教養と心豊かな人格の育成」、「関連分野とのボーダレスな教育環境のもと、専門性の高い知識と技術の修得」「優れたコミュニケーション能力を基礎としたチーム医療・地域医療を担える資質の育成」及び「次世代の医療科学を担う創造性と国際性の涵養」

〈薬学部〉

教育理念

基礎と臨床を融合させた薬学教育とともに、医学・医療の関連分野との横断的実践教育により、人と社会の健康と幸福に広く貢献できる薬剤師を育成する。

教育目的

薬学部では、「くすり」(医薬品、化学物質、手段)と「生体」(ヒト、生物／病原体、生体成分)に関する正しい知識とともに、生命の尊厳を畏敬し、人々の健康と幸福を真に願う医療専門職者としての適格な意識を備え、多様な分野で薬学的立場から全人的医療を支えることのできる薬剤師の養成を目指す。

教育目標

- i) 「くすり」と「生体」及びその相互作用に対する科学的理解を深め、幅広い教養とともに薬剤師として基盤となる正しい知識を身に付ける。
- ii) 生命の尊厳を尊重する高い倫理観とともに、人々の健康と幸福を願い、その治療とケアに携わることができる豊かな人間性を養う。
- iii) ボーダレスな教育環境のもと、様々な医療専門職者の役割を理解し、連携を保ち互いに協調し、患者の病態のみならず心理的・社会的背景をも理解し、適切な薬物治療を推進する総合的実践能力を身に付ける。
- iv) 医療の高度化・多様化及び科学技術の進展に適切に迅速に対応するため、高い創造性と生涯にわたり自ら学び続ける自己開発能力を身に付ける。
- v) 個人にとって安全かつ適正な薬の使用を促すため、くすりの有効性・安全性に関する正しい知識とともにリスク管理能力を身に付ける。
- vi) 優れたコミュニケーション能力を身に付けるとともに、医療・保健衛生分野における薬剤師のあり方について学び、社会的視野を広げる。

〈看護学部〉

教育理念

看護学における理論的知と臨床の知が融合した豊かな教育環境のなかで、倫理観に富んだ人間愛を育み、看護の専門的な知・技・心を培うとともに、他職種と協働し、様々な療養の場における人々のクオリティ・オブ・ライフを高め、同時に、地域で生活を営む人々の最適健康状態を導き、維持、

増進させる看護専門職者を育成する。

教育目的

看護学部は、人の生命や価値観を尊重し、基本的な看護の専門的知識・技術・態度を教授し、クオリティ・オブ・ライフの向上をめざし、最適健康状態を維持、増進させる実践力と、医療関連学部間の有機的連携をもとにしたチーム医療に必要な能力を育成するとともに、グローバルな視野で保健・医療・福祉の課題を総合的にとらえられる、感性豊かで倫理的・創造的な看護専門職者の養成を目指す。

教育目標

- i) 豊かな人間性を備え、人の痛み、苦しみや生命の尊厳を理解し、人がもつ権利や価値観を尊重して行動することができる。
- ii) 理論と実践から導き出された看護学に関する専門的知識と科学的根拠に基づく判断能力及び問題解決能力を身に付ける。
- iii) 対象者の安全・安楽と主体性を重視した科学に基づく専門的技術及び人の尊厳と権利を擁護するのに大切なコミュニケーション技法を身に付ける。
- iv) 医学、薬学、リハビリテーション学におけるそれぞれの専門性や役割について理解し、それぞれの職種の人々と有機的に連携協力するとともに調整できる能力を身に付ける。
- v) 地域的・国際的な視野で、保健・医療・福祉の課題を幅広くとらえ、看護職者の役割・機能を展望できる。
- vi) 自ら考え創造する態度を身に付け、生涯にわたって看護学を探究し続ける基盤をもつことができる。

〈リハビリテーション学部〉

教育理念

リハビリテーション学部は人の機能・活動・社会参加を心身の両面から支援し、幸福と共生に奉仕できることを目指す。そのために幅広い教養、高度な専門的知識と技術及び教育研究技術を育み、社会人として、またリハビリテーション専門職者として社会に貢献できる人材を育成する。

教育目的

リハビリテーション学部は人々の幸福と共生に奉仕する精神のもと、リハビリテーションに必要な人と社会の理解及び保健・医療・福祉に関する諸学問の知識を教授し、チーム医療実践の場においてリハビリテーション専門職者として力を発揮することができる総合的实践力、社会の多様なニーズに応え先駆的な教育・研究へ展開できる能力及び生涯にわたって自己を練成できる能力を持った人材の育成を目指します。

教育目標

- i) 多様な文化や価値観を受け容れる、地域的・国際的感覚及び豊かな人間性を備え、人々の幸福と共生に奉仕する精神をもって行動することができる。
- ii) 様々な医療専門職者の役割や専門性を理解し、チーム医療実践の場において他の医療専門職者と有機的に連携協力できる総合的实践力を身に付ける。
- iii) 地域での医療ケアや教育など社会の多様なニーズに応えることができ、さらに中核的な行動を担うことができるよう、生涯にわたって自己を練成できる能力を身に付ける。
- iv) リハビリテーションを実践するにあたり必要な基礎医学とともに、人の機能のみならず心理や行動をも深く理解し基礎学力として身に付ける。
- v) 効果的なリハビリテーションに必要な保健・医療・福祉の知識と確かな技術を有し、種々の課

題を柔軟に解決できる能力を身に付ける。

vi) 医療の高度化・多様化に対応した知識・技能を修得し、先駆的な教育・研究へ展開できる能力を身に付ける。

2) 大 学 院

兵庫医療大学大学院の教育理念・目的

社会の福祉への奉仕、人間への深い愛、人間への幅の広い科学的理解という学校法人兵庫医科大学の建学の精神のもと、人間への深い愛と豊かな人間性を持ち、幅広い知識と優れた技術を備え、社会とともに医療を担う医療専門職を育成する。

本学の大学修士課程の目的は、基盤とする医療関連の知識や経験をさらに発展させ、優れた科学的知識と実践的能力を培い、創造性、科学性、そして広い視野を持って医療やヘルスサイエンスの領域で社会に貢献し、さらに医療科学の新たな分野を開拓できる人材を育成することである。

〈看護学研究科〉

看護学専攻は、看護専門職者が保健・医療・福祉の場で行う看護実践の科学的根拠となる基礎理論及びその応用について体系的に授業・研究すると共に、地域社会における人々の健康生活の維持増進、疾病の予防と健康の回復に向けた看護援助・支援を創造的・科学的に実践できる高度な看護専門職者を育成することを目的とする。

教育・研究の理念・目標

兵庫医療大学看護学研究科の理念は、保健・医療・福祉及び社会の変動に対応して、生命と人権を尊重し、看護学の専門的知識と技術を立脚し、創造的かつ科学的に看護が実践できる人材ならびに看護の教育と研究に携わる人材を育成し、人々の健康と QOL の向上及び看護学の進歩・発展に寄与することである。そのために、以下の5つを目標とする。

- ①専攻する看護学専門分野に関連する科学的根拠と理論を修得し、看護実践に応用することができる。
- ②専攻する看護学専門分野において、専門性の高い知識・技術を持って看護を実践し、相談・教育・調整機能を高め、看護の質向上と変革を推進することができる。
- ③人間愛と高い倫理観を持ち、複雑な倫理的問題を的確に判断し調整することができる。
- ④先進医療における看護実践を先導的に行うことを通じて、地域医療の向上に資することができる。
- ⑤専攻する看護学専門分野に関する研究課題に取り組み、研究能力を高める。

〈医療科学研究科〉

多岐にわたる医療科学の研究を横断的かつ科学的に推進する研究科として医療科学研究科を置き、その中にリハビリテーション科学を中心とした専攻を構築し、リハビリテーション科学を推進していくための研究者養成を行う一方、多様化・複雑化してくる医療の問題に向き合い、質の高い臨床的思考によって効果的なリハビリテーション支援が展開できる高度専門職業人を養成することを目的とする。

教育・研究の理念・目標

医療科学研究科は、設置の目的を達成するため、2分野3コースにて構成し、入学対象者は、理学療法士・作業療法士を中心としながらも、研究科の目的に則して医療・保険・福祉分野で活躍する幅広い職種とする。各コースにおいて理学療法士・作業療法士を対象とした高度実践専門職志向の院生の教育を実践するとともに、幅広い職種を含めた研究志向の院生を対象とした教育を行う。

高度実践専門職者を志向する院生に対しては、臨床現場での臨床研修ならびに臨床的テーマに関する課題研究を課し、高度な専門的知識と臨床技能を身につけ、臨床現場のリーダーとなる人材を育成する。

研究志向の院生については、修士論文を課し、研究に必要な知識・技術を修得し研究者として研究を企画遂行できる人材を育成する。これらの人材養成を実現するため、以下の4つを目標とする。

- ①医療科学における科学的根拠ならびに最新の専門的知識を修得し、幅広い医療人としての教養を培う。
- ②専攻する分野におけるより高度な専門的知識ならびに技術を修得し、臨床現場において実践できるとともに更なる発展・向上に努めることができる素養を培う。
- ③専攻する分野における研究課題に取り組み、研究能力を高める。
- ④専攻する分野において、高度な臨床的推論に基づく臨床実践が展開できるとともに、後進の育成ができ、臨床現場での指導者としての素養を高める。

3. 学 年 暦

1) 学 部

【平成22年度】

【前 期】

入 学 式	4月5日（月）
オリエンテーション（第1学年次）	4月5日（月）午後～6日（火）
〃（薬学部第2・3・4学年次）	4月1日（木）
〃（看護学部第2・3・4学年次）	4月2日（金）
〃（リハビリテーション学部第2・3・4学年次）	4月2日（金）
前期授業開始	4月7日（水）
アドバイザー懇談会・BLS（Basic Life Support）講習会（第1学年次）	4月10日（土）
前期履修届提出期限	4月16日（金）
〃（薬学部第3・4学年次は、別途通知する）	
前期単位認定試験期間（第1学年次）	7月28日（水）～7月31日（土）
〃（第2・3学年次）	7月28日（水）～8月6日（金）
〃（薬学部第4学年次）	7月28日（水）～8月13日（金）
〃（看護学部第4学年次は、別途通知する）	
Early Clinical Exposure（第1学年次）	8月2日（月）～8月9日（月）
（実習場所：兵庫医科大学病院）	
医学部との合同チュートリアル（第1学年次）	9月21日（火）・22日（水）
医学部との合同チュートリアル（第4学年次）	9月24日（金）・27日（月）～30日（木）
（場所：西宮キャンパス）	
前期単位認定（再試験）期間（第1学年次）	9月24日（金）・27日（月）～9月30日（木）
〃（第2学年次）	9月24日（金）・27日（月）～9月30日（木）
〃（薬学部第3学年次）	9月6日（月）～9月10日（金）
〃（リハビリテーション学部第3学年次）	8月30日（月）～9月3日（金）
〃（薬学部第4学年次）	9月15日（木）～9月22日（水）
〃（看護学部第4学年次は、別途通知する）	

【後 期】

後期授業開始	10月1日（金）
後期履修届提出期限（第1・2・4学年次）	10月15日（金）
〃（薬学部第4学年次の再履修者は、別途通知する）	
後期履修届提出期限（看護学部第3学年次）	9月30日（木）～10月1日（金）
〃（リハビリテーション学部第3学年次）	10月25日（月）～10月29日（金）
〃（薬学部第3学年次の再履修者は、別途通知する）	
大学祭（第3回海泉祭）	10月8日（金）～10月11日（月）
【※看護学部・リハビリテーション学部第3学年次は、通常通り学外実習を行う】	
法人創立記念日	11月22日（月）
後期授業再開	1月4日（火）

後期単位認定期間（第1・2学年次）	2月2日（水）～2月11日（金）
〃（薬学部第3学年次）	2月2日（水）～2月11日（金）
〃（看護学部第3・4学年次は、別途通知する）	
〃（リハビリテーション学部第3学年次）	12月16日（木）～12月22日（水）
〃（薬学部第4学年次）	2月2日（水）～2月18日（金）
〃（リハビリテーション学部第4学年次）	2月2日（水）～2月11日（金）
後期単位認定（再試験）期間（第1学年次）	2月21日（月）～3月4日（金）
〃（薬学部・リハビリテーション学部第2学年次）	2月21日（月）～3月4日（金）
〃（看護学部第2学年次）	2月28日（月）～3月5日（土）
〃（薬学部第3・4学年次）	2月21日（月）～3月4日（金）
〃（看護学部第3・4学年次は、別途通知する）	
〃（リハビリテーション学部第3学年次）	12月24日（金）・12月27日（月）
〃（リハビリテーション学部第4学年次は、別途通知する）	
〃（リハビリテーション学部第3学年次）	8月30日（月）～9月3日（金）
〃（薬学部第4学年次）	9月15日（木）～9月22日（水）
〃（看護学部第4学年次は、別途通知する）	
共用試験 OSCE（薬学部第4学年次）	12月26日（日）
〃 CBT（薬学部第4学年次）	1月31日（月）
【※但し、薬学部第4学年次後期日程は共用試験の都合により変更することがある。（詳細は別に通知）】	
卒 業 式	3月13日（日）

※健康診断日・抗体検査日・ワクチン接種説明会・4種ワクチン接種日

抗体検査日（第1学年次）	4月6日（火）
健康診断日（第1学年次）	4月10日（土）
〃（薬学部第2・3・4学年次）	4月1日（木）
〃（看護学部第2・3・4学年次）	4月2日（金）
〃（リハビリテーション学部第2・3・4学年次）	4月2日（金）
ワクチン接種説明会（第1学年次）	4月30日（金）
4種ワクチン接種日（第1学年次）第1回目	5月7日（金）
〃第2回目	6月11日（金）
〃第3回目	7月16日（金）

[平成23年度]

【前 期】

入 学 式	4月5日（火）
オリエンテーション（第1学年次）	4月5日（火）午後～9日（土）
〃（薬学部第2・3・4・5学年次）	4月1日（金）
〃（看護学部第2・3・4学年次）	4月4日（月）
〃（リハビリテーション学部第2・3・4学年次）	4月4日（月）

前期授業開始（第1学年次）	4月11日（月）
〃 （薬学部第5学年次）	4月4日（月）
〃 （第2・3・4学年次）	4月6日（水）
アドバイザー懇談会・BLS講習会（第1学年次）	4月9日（土）
前期履修届提出期限（第1学年次）	4月22日（金）
〃 （第2・3・4学年次）	4月20日（水）
〃 （薬学部第3・4学年次の再履修者は、別途通知する）	
前期単位認定試験期間（第1学年次）	7月25日（月）～7月29日（金）
〃 （看護学部第4学年次は、別途通知する）	
Early Clinical Exposure（第1学年次）	8月1日（月）～8月6日（土）
（実習場所：兵庫医科大学病院）	
前期単位認定（再試験）期間（第1・2・3・4学年次）	8月18日（木）～8月26日（金）
〃 （看護学部第4学年次は、別途通知する）	

【後 期】

後期授業開始	9月12日（月）
医学部との合同チュートリアル（第1学年次）	9月21日（水）・22日（木）
医学部との合同チュートリアル（第4学年次）	9月26日（月）～30日（金）
（場所：西宮キャンパス）	
後期履修届提出期限（第1学年次）	9月20日（火）
〃 （第2・3・4学年次）	9月16日（金）
〃 （薬学部第4学年次の再履修者は、別途通知する）	
後期履修届提出期限（リハビリテーション学部第3学年次）	10月24日（月）～10月28日（金）
〃 （薬学部第3学年次の再履修者は、別途通知する）	
大学祭（第4回海皇祭）	10月7日（金）～10月10日（月）
【※薬学部第5学年次、看護学部・リハビリテーション学部第3学年次は、通常通り学外実習を行う】	
法人創立記念日	11月22日（火）
後期授業再開	1月5日（木）
後期単位認定期間（第1学年次）	1月23日（月）～1月28日（土）
〃 （第2学年次）	1月23日（月）～1月31日（火）（※28（土）含む）
〃 （薬学部第3・4学年次）	1月23日（月）～1月31日（火）（※28（土）含む）
〃 （看護学部第3・4学年次は、別途通知する）	
〃 （リハビリテーション学部第3学年次）	12月16日（金）～12月22日（木）
〃 （リハビリテーション学部第4学年次）	1月23日（月）～1月24日（火）
後期単位認定（再試験）期間（第1・2学年次）	2月4日（月）～2月11日（土・祝）
〃 （薬学部第3・4学年次）	2月4日（月）～2月11日（土・祝）
〃 （看護学部第3・4学年次は、別途通知する）	
〃 （リハビリテーション学部第3学年次）	12月26日（月）～12月27日（火）
〃 （リハビリテーション学部第4学年次は、別途通知する）	
共用試験 OSCE（薬学部第4学年次）	12月25日（日）
〃 CBT（薬学部第4学年次）	1月31日（火）

【※但し、薬学部第4学年次後期日程は共用試験の都合により変更することがある。（詳細は別に通知）】

※健康診断日・抗体検査日・ワクチン接種説明会・4種ワクチン接種日

抗体検査日（第1学年次）	4月7日（木）
健康診断日（第1学年次）	4月9日（土）
〃（薬学部第2・3・4学年次）	4月1日（金）
〃（看護学部第2・3・4学年次）	4月4日（月）
〃（リハビリテーション学部第2・3・4学年次）	4月4日（月）
ワクチン接種説明会（第1学年次）	5月6日（金）
4種ワクチン接種日（第1学年次）第1回目	5月13日（金）
〃第2回目	6月10日（金）
〃第3回目	7月15日（金）

※授業時間帯

第1時限	9時30分 ～ 11時00分（90分）
第2時限	11時10分 ～ 12時40分（90分）
第3時限	13時40分 ～ 15時10分（90分）
第4時限	15時20分 ～ 16時50分（90分）
第5時限	17時00分 ～ 18時30分（90分）

2）大 学 院

平成23年度

【前 期】

入学式	4月5日（火）
オリエンテーション	5月5日（火）午後
前期授業開始	4月11日（月）
前後期履修届提出期限	4月15日（金）
前期授業終了	7月25日（月）

【後 期】

後期授業開始	10月3日（月）
法人創立記念日	11月22日（火）
後期授業再開	1月5日（木）
後期授業終了	1月25日（水）

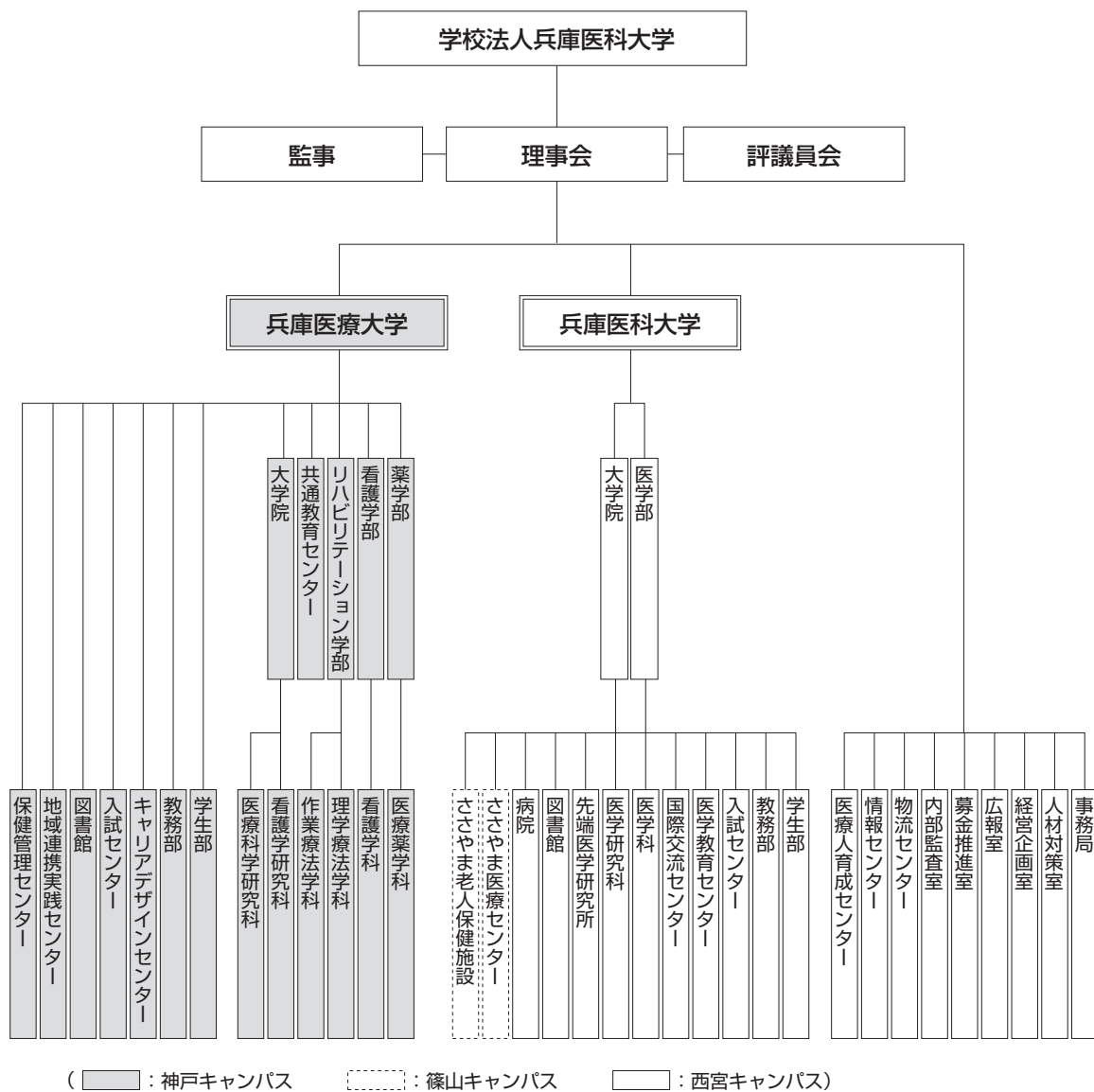
※健康診断日・抗体検査日・ワクチン接種説明会・4種ワクチン接種日

ワクチン接種説明会（第1学年次）	4月5日（火）
抗体検査日	4月7日（木）
健康診断日	4月9日（土）
4種ワクチン接種日（第1学年次）第1回目	5月13日（金）
〃 第2回目	6月10日（金）
〃 第3回目	7月15日（金）

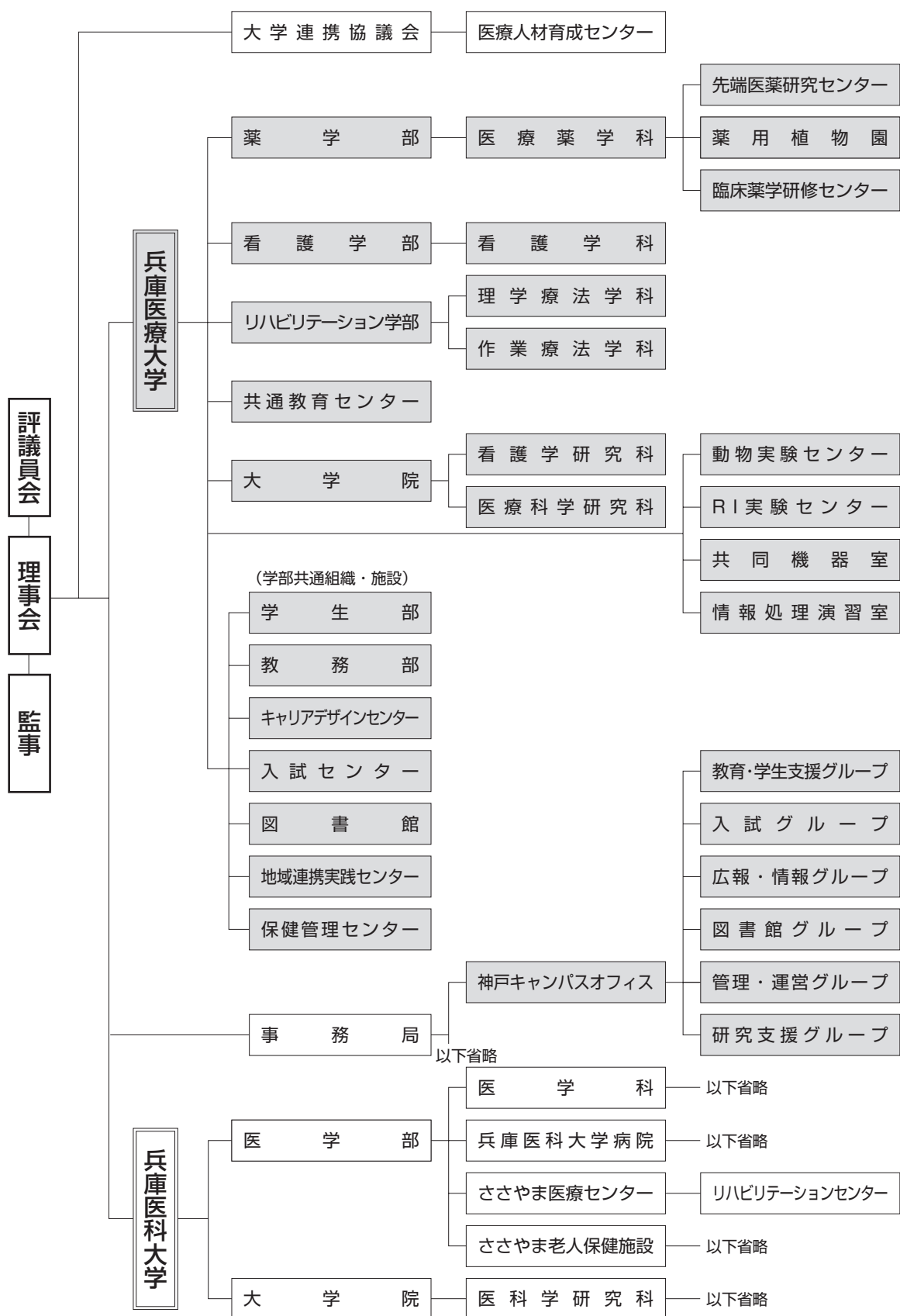
※授業時間帯

第1時限	9時30分 ～ 11時00分（90分）
第2時限	11時10分 ～ 12時40分（90分）
第3時限	13時40分 ～ 15時10分（90分）
第4時限	15時20分 ～ 16時50分（90分）
第5時限	17時00分 ～ 18時30分（90分）
第6時限	18時40分 ～ 20時10分（90分）
第7時限	20時20分 ～ 21時50分（90分）

4. 学校法人兵庫医科大学組織図



5. 兵庫医療大学組織図



（ ）：神戸キャンパス

6. 大学協議会

i) 概要

大学協議会は、本学の最高意思決定機関として月2回開催している。構成メンバーは、学長、副学長、各学部長、共通教育センター長、教務部長、学生部長、ゼネラルマネージャーである。

協議内容は、学年暦、教員人事、予算の方針に関する事項、入試要項策定から入試実施、入学判定、進級判定、諸行事、広報、安全危機管理、各種規程の策定など、大学としての基本的な運営の指揮、調整をとっている。

平成22年度は大学院（修士課程）設置申請と開設準備、入学試験制度の徹底検証と新戦略による入学試験の実施、キャンパスの有効利用による教育施設の確保と学生のアメニティの向上、研究推進組織の構築と研究活動の活性化、国家試験の合格率100%をめざす対策の実践と支援、優良な就職先の確保と就職支援活動の実践、等を検討してきた。平成23年度では兵庫医療大学グランドデザインの策定、大学院（博士課程）の設置認可申請準備と修士課程の充実、カリキュラムの評価と改定による学部教育の充実、入学試験制度の徹底検証と新戦略による入学試験の実施、優良な就職先の確保と就職支援の強化、国際交流の推進と交流プログラムの構築、研究環境の整備と研究活動の活性化、等を協議している。

ii) 活動状況

(1) 平成22年度前期（要約）

1. 大学院設置認可申請の文部科学省相談結果報告
2. 平成22年度開講状況
 - ①平成22年度学籍異動状況
 - ②新入生の状況
 - ③成績優秀者表彰
3. 平成22年度予算
4. 平成21年度事業計画進捗状況
5. 兵庫医科大学への兼任教員
6. 研究推進委員会の設置
7. 年報（平成20・21年度）の発行
8. 自己点検・評価委員会の進め方
9. 研究助成寄付金の間接経費の取扱い
10. 高校教員対象入試説明会の開催
11. 学生募集イベントの開催
12. 情報センター教員の委託
13. 大学院設置認可申請
14. 財政状況及び施設等整備状況（AC 実地調査）
15. 倫理審査委員会委員の選考
16. 平成22年度科研費採択状況
17. レストラン、アメニティ、通学等の現状
18. 病原体等の安全管理に関する内規
19. 動物実験センター分室に関する内規
20. 兵庫医科大学との連携

21. 奨学金制度新設と入学試験による選考
22. 学位授与式と学位記
23. リハビリテーション学部カリキュラム改訂
24. 薬学実務実習に係る申請の補正と医科大学病院の課題
25. 入学生・在学生特別奨学金の運用
26. 保護者懇談会の開催
27. 研究用大型機器の購入

(2) 平成22年度後期（要約）

1. 兵庫医療大学教員選考規程
2. 平成22年度補正予算
3. 4 学部合同チュートリアル（反省と今後）
4. 平成23年度推薦入学試験実施体制
5. ポーアイ 4 大学連携事業の継続（中間報告）
6. 平成23年度事業計画案
7. リハビリテーション学部作業療法学科教授選考
8. ポートライナー・バス共通回数券の社会実験
9. 大学院設置認可申請審査結果と対応
10. 文部科学省 AC 実地調査
11. 平成22年度事業計画の進捗状況と平成23年度事業計画
12. 4 大学連携事業の継続案
13. 平成23年度予算編成方針
14. 平成23年度大学入試センター試験
15. 看護学部長候補者の選考
16. 専任教員変更申請
17. 平成23年度学部学年歴
18. 平成23年度授業時間帯
19. 推薦入試入学生の入学前教育
20. ポーアイ 4 大学連携単位互換・平成23年度提供科目
21. 全学教員集会開催とアンケート調査
22. 卒業生のアフターケア
23. 任期制教員の更新
24. 授業評価の対応
25. 成績優秀者・特別奨学生選考方法
26. ボランティア活動の評価方法
27. 知的財産セミナーの開催
28. 卒業生各賞授与
29. 大学院入学生
30. ベストティーチャー（仮称）
31. 入学生・在学生特別奨学金規程案
32. 学校教育法改正に伴う情報公開義務化に伴う本学対応

(3) 平成23年度前期（要約）

1. 学則等改正の検討
2. 各種委員会委員及び委員長の選出
3. 平成24年度入学要項（骨子）
4. 看護学部編入試験の募集停止
5. 国家試験結果と今後の対策
6. 東北・関東大震災に伴う対応
7. 危機管理体制
8. 平成22年度事業計画状況調査票（案）及び平成23年度事業計画（案）
9. 個人情報保護体制
10. 情報公開における研究業績と学位の取扱い
11. 兵庫医療大学倫理審査委員会への申請手続き（案）
12. 平成22年度進級認定結果
13. 休学の取扱いと在籍料の設定（学則改正）
14. 指定規則改定に伴う看護学部保健師教育
15. 中期事業計画の進捗状況報告
16. 入試問題の作成と検証体制
17. 学生キャンパス滞留に関する対応
18. 危機管理・防災対応
19. 東日本大震災への学生ボランティア活動
20. 東日本大震災・広域大学連携ボランティアセンター構想
21. 大学院院生教育経費
22. 科学研究費補助金の募集資格
23. 平成23年度科学研究費の採択状況
24. 大学院生の研究倫理審査
25. 私立大学等研究設備整備補助金申請
26. 兵庫医療大学ボランティア
27. 図書館の休日開館
28. 平成23年度夏季休暇
29. 保健師関連科目の選択制
30. キャリアデザインセンター運営
31. ホームカミングデーの開催
32. 専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業の応募

(4) 平成23年度後期（要約）

1. 平成24年度末退職予定教員の補充
2. 大学院担当教員発令と手当支給
3. 指定規則変更に伴う看護学部カリキュラム改訂
4. 平成23年度事業計画の進捗状況と今後の予定
5. 授業評価の在り方と今後の計画
6. 大学紀要の刊行
7. 平成24年度学年歴（案）

8. 平成24年度大学院入試結果
9. 大学院研究指導教員研究費助成
10. 将来構想委員会提案（教育支援センター構想）
11. 紀要委員会規程（案）
12. インフルエンザワクチン接種（教職員）
13. 中期事業計画兵庫医療大学検討部会委員選出
14. 点検・評価活動の強化と大学評価申請準備状況
15. 教員人事
 - 1) 教員資格審査結果と申請
 - 2) 看護学部助教昇任
16. 修士課程におけるコース新設
17. 平成25年度以降の修士課程指導員の選考
18. 再入学制度の運用
19. 平成24年度事業計画
20. 大学認証評価申請準備状況
21. 学校法人兵庫医科大学中医孔子学院（仮称）設立
22. メールシステムの Gmail への移行
23. 大学院薬学研究科設置申請
24. 平成25年度教員採用計画（定年退職者補充）
25. 学部教育充実事業計画に係る教員の増員
26. 兵庫医療大学ティーチング・アシスタントに関する規程（案）
27. 薬学部卒業試験と卒業判定
28. 再入学制度の運用
29. 平成24年度ボーアイ 4 大学連携事業予算
30. Eーラーニング検討ワーキンググループの設置
31. 平成24年度広報計画
32. 教員選考基準及び特任教員規程
33. 防災対応マニュアル
34. 学校法人兵庫医科大学コンプライアンス推進体制
35. 危機管理に関する学生への周知
36. 平成23年度事業計画進捗状況報告
37. 神戸キャンパスオフィスの改組と事務分掌の改正
38. 授業評価の公表

7. 学部・大学院の構成

1) 学部・学科

i) 概要・教員構成

本学は、共通教育センター、薬学部、看護学部、及びリハビリテーション学部、及び共通教育センターの1センター、3学部4学科及び1センターより構成されている。

本学の特色ある教育の一つである共通教育センターは、これら3学部4学科の全学生に対して、医療人としての人格形成のための一般教養科目からチーム医療関連など、多彩な基礎科目と専門基礎科目を含めたボーダレスな教育を行っている。

表1. 学部等の概要

学 部	学 科	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号
薬学部	医療薬学科	6	150	—	900	学士 (薬学)
看護学部	看護学科	4	100	(3年次)10	420	学士 (看護学)
リハビリ テーション学部	理学療法学科	4	40	—	160	学士 (理学療法学)
	作業療法学科	4	40	—	160	学士 (作業療法学)
合 計		—	330	(3年次)10	1,640	

表2. 教育課程の授業科目数

学部等の名称	授業科目の総数				卒業要件 単 位 数
	講 義	演 習	実 習	合 計	
薬学部医療薬学科	106科目	18科目	15科目	139科目	205.5単位
看護学部看護学科	50科目	50科目	13科目	113科目	126単位
リハビリテーション学部理学療法学科	72科目	22科目	23科目	117科目	128単位
リハビリテーション学部作業療法学科	89科目	24科目	13科目	126科目	131単位

表3. 教員組織の概要

学部等の名称	専任教員等 (人数)					合 計
	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	
薬学部医療薬学科	18	7	9	6	13	53
看護学部看護学科	12	7	9	5	10	43
リハビリテーション学部理学療法学科	5	0	3	0	0	8
リハビリテーション学部作業療法学科	4	1	5	0	0	10
共通教育センター	6	0	4	0	0	10
合 計	45	15	30	11	23	124

2) 大学院・研究科

i) 概要・教員構成

平成23年度には本学の基本理念である、次世代の医療を担う医療人の育成の趣旨を発展させるべく、看護学及びリハビリテーション学の二分野において、新たな展開を目指した研究を指導・推進する領域とともに、社会の期待に対応すべく高度実践専門職を育てる大学院修士課程を設置した。なお、後者では学生募集において、社会人に主水を広げ現在医療現場で活躍している人達が入学しやすいよう配慮している。

表 1. 大学院・研究科等の概要

	学 科	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号
看護学研究科	看護学専攻	2	8		16	修士 (看護学)
医療科学研究科	医療科学専攻	2	6		12	修士 (医療科学)
合 計			14		28	

表 2. 教育課程の授業科目数

研究科等の名称	授業科目の総数				修了要件 単 位 数
	講 義	演 習	実験・実習	合 計	
看護学研究科看護学専攻	36科目	24科目	4 科目	64科目	32単位
医療科学研究科医療科学専攻	15科目	12科目	0 科目	27科目	32単位

表 3. 教員組織の概要

研究科等の名称	専任教員等 (人数)				合 計
	教 授	准 教 授	講 師	助 教	
看護学研究科看護学専攻	11	5	4	5	25
医療科学研究科医療科学専攻	10	2	8	0	20
合 計	21	7	12	5	45

8. 役員名簿

表 1. 平成22年度役員一覧

役 職 名	氏 名	所 属
学 長	医 学 博 士 松 田 暉	
副 学 長	保 健 学 博 士 佐 藤 禮 子	看護学部
副 学 長	薬 学 博 士 馬 場 明 道	薬学部
学 長 補 佐	薬 学 博 士 西 原 力	薬学部
薬 学 部 長	医 学 学 士 東 純 一	薬学部
看 護 学 部 長	医 学 博 士 土 居 洋 子	看護学部
リハビリテーション学部長	医 学 博 士 土 肥 信 之	リハビリテーション学部
共 通 教 育 セ ン タ ー 長	医 学 博 士 末 廣 謙	共通教育センター
図 書 館 長	薬 学 博 士 西 原 力	薬学部
学 生 部 長	工 学 博 士 藤 田 幸 久	共通教育センター
教 務 部 長	医 学 博 士 末 廣 謙	共通教育センター
入 試 セ ン タ ー 長	薬 学 博 士 前 田 初 男	薬学部
保 健 管 理 セ ン タ ー 長	医 学 博 士 岩 崎 剛	薬学部
地 域 連 携 実 践 セ ン タ ー 長	医 学 博 士 土 居 洋 子	看護学部
先 端 医 薬 研 究 セ ン タ ー 長	薬 学 博 士 西 原 力	薬学部
キャリアデザインセンター長	工 学 博 士 藤 田 幸 久	共通教育センター
臨床薬学研修センター長	薬 学 博 士 門 林 宗 男	薬学部

表 2. 平成23年度役員一覧

役 職 名	氏 名	所 属
学 長	医 学 博 士 松 田 暉	
副 学 長	保 健 学 博 士 佐 藤 禮 子	看護学部
副 学 長	薬 学 博 士 馬 場 明 道	薬学部
学 長 補 佐	薬 学 博 士 西 原 力	薬学部
薬 学 部 長	医 学 学 士 東 純 一	薬学部
看 護 学 部 長	看 護 学 修 士 竹 田 千 佐 子	看護学部
リハビリテーション学部長	医 学 博 士 藤 岡 宏 幸	リハビリテーション学部
共 通 教 育 セ ン タ ー 長	医 学 博 士 末 廣 謙	共通教育センター
大 学 院 研 究 科 長	教 育 学 修 士 上 原 ま す 子	看護学研究科
大 学 院 研 究 科 長	医 学 博 士 野 崎 園 子	医療科学研究科
図 書 館 長	薬 学 博 士 西 原 力	薬学部
学 生 部 長	工 学 博 士 藤 田 幸 久	共通教育センター
教 務 部 長	医 学 博 士 末 廣 謙	共通教育センター
入 試 セ ン タ ー 長	薬 学 博 士 前 田 初 男	薬学部
保 健 管 理 セ ン タ ー 長	医 学 博 士 岩 崎 剛	薬学部
地 域 連 携 実 践 セ ン タ ー 長	獣 医 学 博 士 清 宮 健 一	薬学部
先 端 医 薬 研 究 セ ン タ ー 長	医 学 学 士 東 純 一	薬学部
キャリアデザインセンター長	薬 学 博 士 田 中 明 人	薬学部
臨床薬学研修センター長	薬 学 博 士 門 林 宗 男	薬学部

9. 校舎・施設設備の概要

1) 兵庫医療大学の概要

i) 施設設備の概要

(1) 教員研究室

教員研究室は、M棟4階に62室、G棟4階に28室あり、平成19年度着任以降の教員がアトランダムに配置されている。また、G棟2階・3階の薬学研究室には、薬学教員が領域毎に配置されている。校舎の建物区分・延床面積及び施設の使用区分を表1. に示す。

表1. 校舎面積

(平成24年3月31日現在)

建物区分	規模・構造	延床面積 m ²	使用区分	敷地面積 m ²
P棟	SRC造3階	8,753.86	管理部門、講堂、図書館、食堂、売店、グループ学習室、保健室地域連携実践センター	49,138
M棟	SRC造4階	17,025.71	講義室、学生実習室、教員研究室、カンファレンス室、臨床薬学研修センター、キャリアデザインセンター	
G棟	SRC造4階	9,296.26	研究室、動物実験室、RI実験室、先端医薬研究センター、リハビリテーションラボ教員研究室、カンファレンス室	
G棟アリーナ (体育館)	SRC造2階	2,792.26	アリーナ、部室、多目的室	
附属棟	RC造平屋建	125.06	薬用植物園・温室・倉庫	
守衛所	RC造平屋建	4.20	警備員詰所	
合 計		37,997.35		49,138

(2) シンボルマーク

兵庫医療大学では、P棟のエントランスホールのステンドグラスと中庭中央の噴水に「ふくろう」を見ることができる。「フクロウ」には、ヨーロッパで学問の神様という意味があり、本学の目視するものを表わしていることから、大学のシンボルマークとなっている。

知の象徴であるフクロウと建学の精神

- ・人間への幅広い科学的理解の必要性に“気づく”
- ・人間への深い愛を師や学友との交流を通じて“学ぶ”
- ・社会の福祉への奉仕を標榜し実践の場へ“羽ばたく”

(3) シンボル彫刻 風の環「ハーモニー」

P棟1階オクタホール前におかれています大理石の白い彫刻は、武藤順九氏の作品で、風の環「ハーモニー」であります。武藤順九氏は、国際的に著名な彫刻家で、イタリアを本拠地にして大理石の環を基本コンセプトにした彫刻を世に出されています。「風邪の環」というシリーズで多数の作品があり、有名なものとした、バチカン公邸の「風の環・PAX2000」、インド・ブッダガヤ・マハボディ寺院の「風の環・PAX2005」があります。兵庫医療大学開学にあたり何か学風にあったモニュメントを探すなかで武藤順九氏の、風の環「ハーモニー」を得ることができました。大学の目指す、人の輪、と協調、について語りかける素晴らしいものであります。大事にしていってほしいと思います。

[学長 記]

ii) 設備設置工事関係

[平成22年度]

- ・ 国家試験対策コーナーを G 棟 4 階ラウンジに設置して、従来、各学部学科教員研究室前におかれていた分散資料等を同コーナーに集約するとともに閲覧できるスペースを確保した。
- ・ 自学自習のために図書館の閲覧席を76席増設した。

[平成23年度]

- ・ なし

iii) 建物・設備等の主な改修及び更新

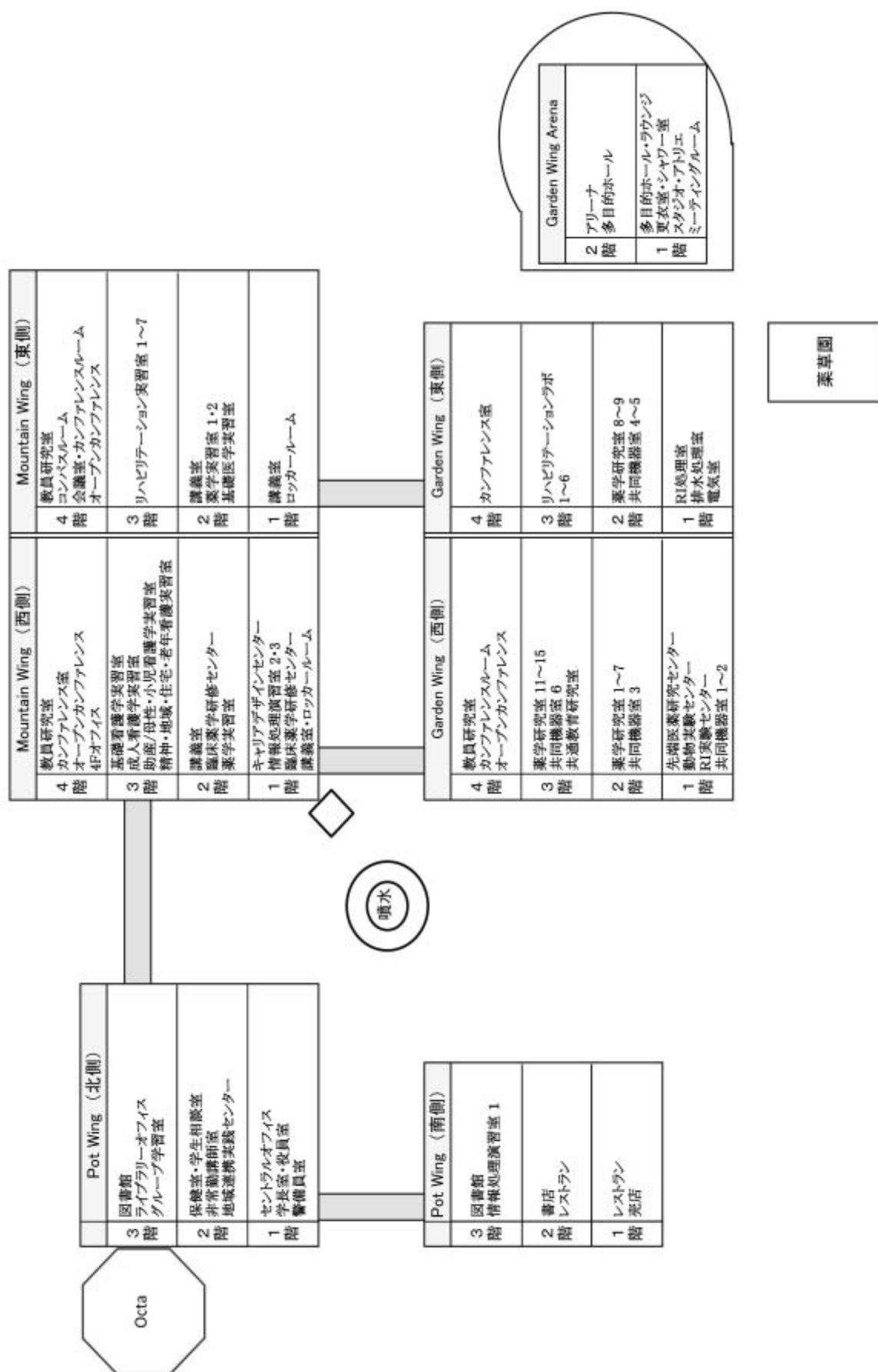
[平成22年度]

- ・ 兵庫医療大学 M 棟 2 階臨床薬学研修センター内装改修
新築時に未内装であった部屋の内装改修のため、建築工事、電気設備工事、機器設備工事を実施した。
- ・ 兵庫医療大学 P 棟 3 階図書館閲覧席増設に伴う照明器具増設
図書館内閲覧席レイアウト変更のため、照明器具増設の電気設備工事を実施した。
- ・ 兵庫医療大学 M 棟 1 階キャリアデザインセンターへの改修
学生ギャラリーをキャリアデザインセンターへ改修するため、照明回路の電気設備工事、空調設備スイッチ取付の機械設備工事、入口扉取付の建築工事を実施した。
- ・ 兵庫医療大学 M 棟 3 階サーバー室エアコン増設
事務用倉庫をサーバー室に転用したため、エアコン増設の機械設備工事を実施した。
- ・ 兵庫医療大学テニスコート照明設備
環境改善のため、照明の電気設備工事を実施した。

[平成23年度]

- ・ なし

2) 兵庫医療大学 施設配置図



10. 各委員会委員一覧

(太字：委員長)

自己点検・評価委員会		学生委員会	
松田 暉	学長	藤田 幸久	学生部長
馬場 明道	副学長	大河原知水	薬学部准教授
佐藤 禮子	副学長	上田 寛樹	薬学部講師
東 純一	薬学部長	細見 明代	看護学部教授
竹田千佐子	看護学部長	齋藤 雅子	看護学部准教授
藤岡 宏幸	リハビリテーション学部長	山田 大豪	リハビリテーション学部講師
末廣 謙	共通教育センター長	坂口 顕	リハビリテーション学部講師
上原ます子	看護学研究科長	賀屋 光晴	共通教育センター講師
野崎 園子	医療科学研究科長	岩崎 剛	学校医
藤田 幸久	学生部長	菊地 良平	神戸キャンパスオフィス GM
末廣 謙	教務部長	岩佐 義久	教務学生支援グループ M
西原 力	図書館長		
田中 明人	キャリアデザインセンター長		
前田 初男	入試センター長		
土井 洋子	地域連携実践センター長		
西山 信好	薬学部教授		
安屋敷和秀	薬学部教授		
鈴木 久美	看護学部教授		
稲富 宏之	リハビリテーション学部准教授		
藤田 幸久	共通教育センター教授		
菊地 良平	神戸キャンパスオフィス GM		

ファカルティ・ディベロップメント委員会		教育委員会	
末原紀美代	看護学部教授	末廣 謙	教務部長
辻野 健	薬学部教授	西山 信好	薬学部教授
戴 毅	薬学部准教授	齋藤あつ子	薬学部教授
藤井真理子	看護学部教授	新井 信之	看護学部教授
小西美ゆき	看護学部講師	網島ひづる	看護学部教授
湖海 正尋	リハビリテーション学部教授	川口浩太郎	リハビリテーション学部教授
松井 徳造	リハビリテーション学部教授	山崎 節子	リハビリテーション学部教授
森 明子	リハビリテーション学部講師	伊東 久男	共通教育センター教授
紀平 知樹	共通教育センター准教授	岩佐 義久	教務学生支援グループ M
賀屋 光晴	共通教育センター講師		
橋本 幸哉	管理運営グループ M		

入試運営委員会		広報委員会	
前田 初男	入試センター長	青木 俊二	薬学部教授
九川 文彦	薬学部教授	長野 基子	薬学部講師
芝崎 誠司	薬学部准教授	青木葉穂子	看護学部准教授
鈴木 久美	看護学部教授	松本 麻里	看護学部講師
清水 玲子	看護学部准教授	香川 真二	リハビリテーション学部講師
日高 正巳	リハビリテーション学部教授	有吉 正則	リハビリテーション学部講師
伊藤 斉子	リハビリテーション学部准教授	福田 範子	共通教育センター講師
伊東 久男	共通教育センター教授	中村 高志	広報・情報グループ M
加藤 精一	共通教育センター准教授		
赤井 一之	入試グループ M		

医療人育成センター運営委員会	
末廣 謙	教育部長
岩崎 剛	薬学部教授
網島ひづる	看護学部教授
藤岡 宏幸	リハビリテーション学部教授
磯 博行	共通教育センター教授

地域連携推進委員会	
清宮 健一	地域連携実践センター長
青木 俊二	薬学部教授
末原紀美代	看護学部教授
坂本 利恵	リハビリテーション学部講師
伊東 久男	共通教育センター教授
橋本 幸哉	管理運営グループ M

倫理審査委員会	
東 純一	薬学部長
九川 文彦	薬学部教授
土居 洋子	看護学部教授
野崎 園子	リハビリテーション学部教授
紀平 知樹	共通教育センター准教授
塚田 哲之	神戸学院大学
式 實	一般学外者
菊地 良平	神戸キャンパスオフィス GM

図書館委員会	
西原 力	図書館長
伊藤 壮一	薬学部准教授
堀口 和子	看護学部准教授
佐野 恭子	リハビリテーション学部講師
森沢 知之	リハビリテーション学部講師
磯部 孝彦	共通教育センター教授
松原 良知	図書館グループ M

動物実験委員会	
清宮 健一	薬学部教授
田中 稔之	薬学部教授
安屋敷和秀	薬学部教授
平木 直実	看護学部講師
坂口 顕	リハビリテーション学部講師
伊東 久男	共通教育センター教授
山本 悟史	動物実験センター長
佐加良英治	学外学識者
木原 淳彦	研究支援グループ M

情報倫理委員会	
田中 明人	薬学部教授
土田 敏恵	看護学部准教授
野崎 園子	リハビリテーション学部教授
加藤 精一	共通教育センター准教授
菊地 良平	神戸キャンパスオフィス GM
橋本 幸哉	管理運営グループ M
中村 高志	広報情報グループ M

遺伝子組換え実験安全委員会	
田中 稔之	遺伝子組換え実験安全主任者
大河原主水	薬学部准教授
三浦 大作	薬学部助教
石原 あや	看護学部准教授
磯 博行	共通教育センター教授
岩崎 剛	保健管理センター長
木原 淳彦	研究支援グループ M

動物実験センター運営委員会	
山本 悟史	動物実験センター長
上田 晴康	薬学部准教授
平木 尚美	看護学部講師
坂口 顕	リハビリテーション学部講師
伊東 久男	共通教育センター教授
木原 淳彦	研究支援グループ M
三浦 大作	薬学部助教

環境安全委員会	
東 純一	薬学部長
宮部 豪人	薬学部教授
斎藤あつ子	薬学部教授
太田 直実	看護学部准教授
野崎 園子	リハビリテーション学部教授
磯部 孝彦	共通教育センター教授
木原 淳彦	研究支援グループ M

病原体等安全管理委員会	
西原 力	薬学部教授
斎藤あつ子	薬学部教授
野崎 園子	リハビリテーション学部教授
岩崎 剛	保健管理センター長
木原 淳彦	研究支援グループ M

共同機器室運営委員会	
田中 稔之	共同機器室長
青木 俊二	薬学部教授
九川 文彦	薬学部教授
坂口 顕	リハビリテーション学部講師
木原 淳彦	研究支援グループ M

放射線障害予防委員会	
藤野 秀樹	放射線取扱責任者
上田 寛樹	薬学部講師
西村 明子	看護学部准教授
土肥 信行	リハビリテーション学部教授
末廣 謙	共通教育センター教授
前田 拓也	薬学部准教授
木原 淳彦	研究支援グループ M

RI 実験センター運営委員会	
藤野 秀樹	放射線取扱責任者
田中 康一	薬学部助教
水野 陽子	看護学部講師
松井 徳三	リハビリテーション学部教授
末廣 謙	共通教育センター教授
前田 拓也	管理区域責任者
上田 寛樹	安全管理責任者
田中 昭二	研究支援グループ L
木原 淳彦	研究支援グループ M

キャリアデザイン委員会	
田中 明人	キャリアデザインセンター長
林 幸男	キャリアデザイン副センター長
西原 力	薬学部教授
南畝 晋平	薬学部講師
鈴井江三子	看護学部教授
工藤 里香	看護学部教授
玉木 彰	リハビリテーション学部教授
坂本 浩	リハビリテーション学部講師
藤田 幸久	共通教育センター教授
岩佐 義久	教務学生支援グループ M

国際交流委員会	
辻野 健	薬学部教授
戴 毅	薬学部准教授
土田 敏恵	看護学部准教授
山崎せつ子	リハビリテーション学部教授
秦 正哲	共通教育センター教授

キャンパス有効利用委員会	
磯 博行	共通教育センター教授
前田 初男	薬学部教授
末原紀美代	看護学部教授
野崎 園子	リハビリテーション学部教授
高木 範子	共通教育センター講師
橋本 幸哉	管理運営グループ M
岩佐 義久	教務学生支援グループ M

研究推進委員会	
馬場 明道	副学長（研究担当）
田中 明人	薬学部教授
富永 真己	看護学部准教授
森 明子	リハビリテーション学部講師
加藤 精一	共通教育センター准教授
田中 稔之	共同機器室長
山本 悟史	動物実験センター長
藤野 秀樹	RI 実験センター長

将来構想委員会	
山本 悟史	薬学部教授
田中 稔之	薬学部教授
宮部 豪人	薬学部教授
上田 晴康	薬学部准教授
鈴木 久美	看護学部教授
藤井真理子	看護学部教授
西村 明子	看護学部准教授
玉木 彰	リハビリテーション学部教授
山崎せつ子	リハビリテーション学部教授
磯 博行	共通教育センター教授

(H23.10.1現在)

11. 委員会の取り組み

1) FD 委員会

i) 概要

兵庫医療大学ファカルティ・ディベロップメント (FD) 委員会の目的は、教員個人及び教員組織としての教育能力を開発・改善し、兵庫医療大学の教育研究機能の向上を図ることであり、以下を具体的目標としている。

- ①教員個々の教育力の向上
- ②集団・組織としての教育力の向上
- ③学部間の相互理解力の向上
- ④教員の研究力の向上及び相互協力体制による研究力の向上
- ⑤本学としての教育及び研究の質の向上、⑥教員と協働する職員の資質の向上

ii) 委員会の構成

3 学部・共通教育センターから選出された教員・キャンパスオフィス職員と委員長の10名により組織され、全学 FD 活動の企画・運営にあたっている。また、学部・センターから選出された教員は、3 学部及び共通教育センターがそれぞれ独自に企画・運営する FD・SD 活動との連携を責務としている。

iii) 活動実績

(1) 全学 FD ワークショップ開催

[平成22年度]

テ ー マ：「学士課程教育の質を保証する PDCA サイクル」

—学位授与方針を保証するための教育課程編成に向けて—

日 時：平成23年 3 月16日（水） 9 :15～16:00

内 容： 9:30～ 外部講師による特別講演（開催場所：オクタホール）

「学士課程教育の質を保証する PDCA サイクル」

講師 山口大学大学教育センター 小川 勤 教授

13:00～ グループ討議（場所：グループ学習室）

テーマ：教育改善に向けた PDCA サイクルの実質化

15:30～ まとめ、評価アンケート（開催場所：レストラン）

事前準備：ファシリテーター指名と説明会の実施

[平成23年度]

テ ー マ：学生の自学自習する態度を引き出す教育のあり方

日 時：平成24年 3 月13日（火） 9 :15～16:00

内 容： 9:30～ 外部講師による特別講演（開催場所：オクタホール）

学生の自学自習する態度を引き出す教育のあり方」

講師 株式会社オフィス・サンタ代表取締役 鈴木あきら 氏

14:00～ グループ討議（場所：グループ学習室）

テーマ：「よい授業」を実現するために何をなすべきか？

15:30～ 発表、全体討議（開催場所：レストラン）

16:00～ まとめ、評価アンケート（場所：レストラン）

事前準備：① ファシリテーター指名と説明会の実施

②株式会社オフィス・サンタ発行の CAREERLABO VOL.1～VOL.3 を配布

(2) FD 委員会

委員会では、平成22、23年度においても学部・共通教育センター毎による FD 活動並びに全学合同 FD 活動を継続実施して行く方針とすることにした。

①平成22年度委員会協議内容

前年度のテーマ「教育成果の測定と授業改善への活用」を踏まえ、個々の授業改善のベースとなる各学部、センターにおけるカリキュラムの整合性や質の保証をどのように行っていくべきかが共通の課題として認識した。平成22年度はこうした課題を教職員全員で共有し、理解する必要性があるという結論にいたり全学 FD ワークショップのテーマとして、「学士課程教育の質を保証する PDCA サイクル ―学位授与方針を保証するための教育課程編成に向けて―」を決定した。

全学 FD ワークショップの形式は、前年度と同様の形式として、午前中に外部講師による講演、午後からは教職員によるグループワークを行うこととした。外部講師として山口大学大学教育センターの小川勤教授に依頼し、「学士課程教育の質を保証する PDCA サイクル」というタイトルで講演を行っていただいた。午後のグループワークでは、「教育改善に向けた PDCA サイクルの実質化」について話し合うことになった。

②平成23年度委員会協議内容

平成23年度 FD 活動年間計画を策定するにあたり、これまでの全学 FD ワークショップ評価を基に活動成果及び課題について協議し、「学生の自学自習をいかに推し進めるか」について共通理解し、到達目標を定めることが重要であるとの認識を得た。

学生の自学自習する態度を引き出す教育のあり方について FD 活動を進める必要性は高く、全教職員を対象とした講演会とワークショップを開催することにした。協議の結果、目的を「学生のコミュニケーション技法を導入した教育力、授業運営力の向上を目指す」とし、講演会では「学生の自学自習する態度を引き出す教育のあり方」を、グループワークでは『『良い授業』を実現するために何をなすべきか?』について教職員が話し合うことにした。

教職員を5～6名のグループ分けを行い17グループに分けてワーク討議された内容について、17グループ中の5グループを抽出し、それぞれ3分間の発表を実施した。各グループから提出された討議内容については、後日、全教職員に配信を行った。

iv) FD ワークショップの成果

全学 FD 活動参加者から、年1回、3学部・共通教育センターの教員並びに事務職員メンバーと一緒に会し、同じテーマについて話し合うことについて、教職員間のコミュニケーションが図れるとともに大学が抱える課題について共通認識するうえで有意義であることが調査結果から判明している。毎年開催し、継続して行うことに意義がある。平成22・23年度全学 FD ワークショップ実施時においてアンケートした回答結果を図1・2に示す。

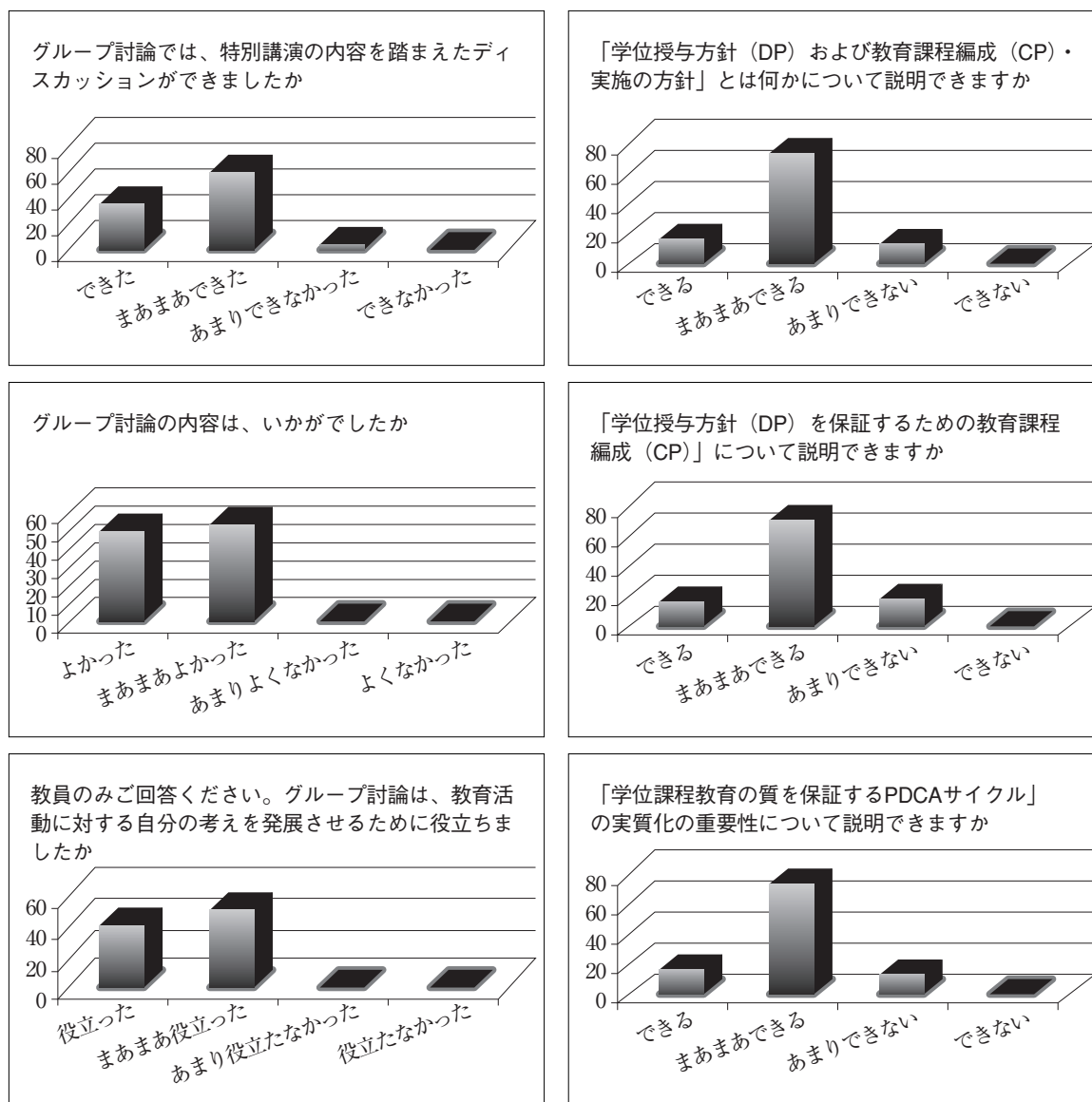


図 1. 平成22年度アンケート結果 (抜粋)

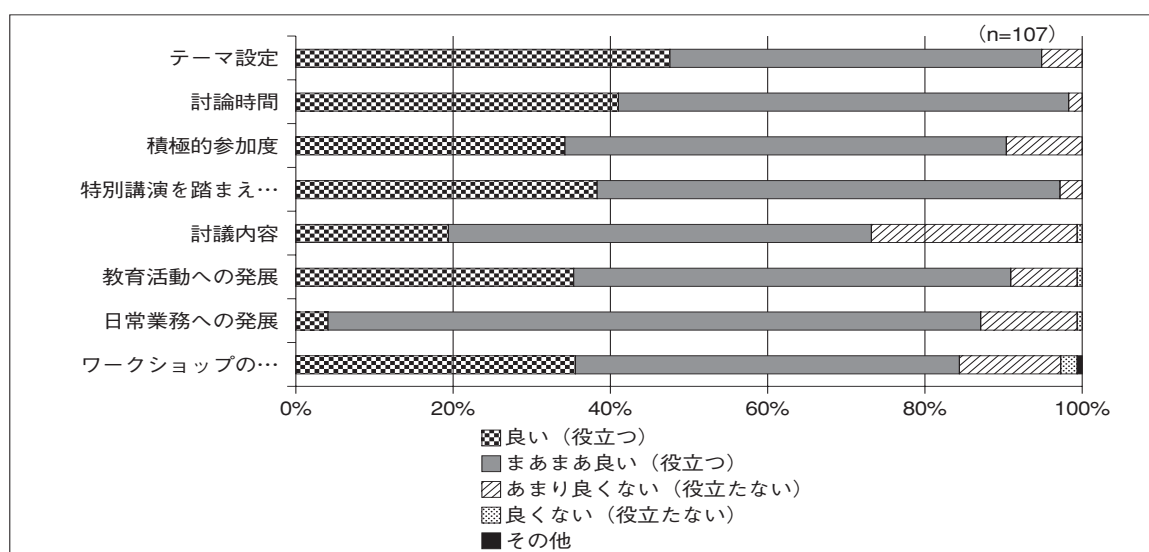


図 2. 平成23年度アンケート結果 (抜粋)

2) 教育委員会

i) 概要

教育委員会では、本学におけるカリキュラム、兵庫医科大学との連携カリキュラム、教育実習、試験など、教務に関する基本方針や3学部共通課題案を作成し、大学協議会上に上申（答申）している。具体的・詳細事項については、教授会に付議するなど本学における学部教育に関する企画立案並びに調整を行っている。

一方、本学の教育の特徴であるチーム医療を担う人材の育成を実践するため、医療関連分野の講義科目・内容及び臨床実習に関する企画を検討するなど、兵庫医科大学に設置の医療人育成センターとの連携を担う役割を果たしている。本学と兵庫医科大学との教育連携に係る事項については、本委員会において協議のうえ医療人育成センター運営委員会へ上程する流れとしている。

ii) 委員の構成

委員会は、教務部長、共通教育センター教授2名、薬学部教授2名、看護学部教授2名、リハビリテーション学部教授2名、教育・学生支援マネージャーで構成している。委員長には教務部長がこの任に当たっている。

iii) 活動状況

教育委員会の開催については、平成22年度は15回（臨時4回含む）、23年度では12回（臨時1回含む）開催している。以下に主に検討した協議項目のまとめを記す。

(1) 早期臨床体験実習（ECE）の実施

早期臨床体験実習は、早期に医療の実際に直接触れ医療専門職者になるための自覚を培い、勉学のモチベーションを高めることを目標とし、3学部4学科の学生が混合グループを編成し合同で実施している。薬学部、看護学部、リハビリテーション学部の第1学年次生を対象に、平成22年度は8月2～6日の5日間、23年度は8月1～6日の6日間、兵庫医科大学病院における20病棟、薬剤部及び、リハビリテーション部において実施した。

現代医療の中心でもある「チーム医療」を見学を通じて体験し、すぐれた医療専門職者を育成するためのボーダーレスな教育の実践を目指している。

(2) 4学部合同チュートリアル教育の実施（第1学年次対象）

平成22年度は、「脳血管障害をおこした74歳の女性が急性期から回復期を経て、最終的に介護老人施設へ入居するまで」のシナリオに沿って、「疾患の急性期から回復期に行われる医療やサポート、それぞれに関与する医療職者、主体となる医療施設」・「症例には登場しない想定されること」について導き出すことをテーマとし、9月21・22日、本学において兵庫医科大学と兵庫医療大学の第1学年次を対象に合同チュートリアルを行った。各学部生ともすでにECEを経験しており、この教育効果と同様に入学早期に他の医療職者を目指す学生の交流は、今後の修学のモチベーションを高めるよい機会となった。

平成23年度では、昨年度と同様に本学において9月21・22日に開催する予定であったが、台風15号の影響のため、予定を短縮して22日だけで実施した。「臓器移植」をテーマとして両大学の学部混成60グループに分かれて小グループで討議し、様々な問題点毎にグループ単位でレポート提出する形式で行った。この教育企画は、学生にとって脳死や臓器移植に含まれる倫理的問題も含めて、

自学部以外の学生と意見交換するよい機会となった

(3) 4 学部合同チーム医療演習の実施（第3・4学年次対象）

平成22年度より、西宮キャンパスにおいて兵庫医科大学第3学年次生と兵庫医療大学第4学年次生を対象に合同チーム医療演習を実施している。平成22年度では9月24日・27～30日の5日間、平成23年度は9月26～30日の5日間に渡り、医学部生と薬学部・看護学部・リハビリテーション学部の学生が一堂に会して、チーム医療の立場で医療を考え、様々な問題を解決することを目的に行われた。この教育を通じて、短時間ではあるが将来一緒に働く医療人としてお互いを意識し、チーム医療について更に考える機会となっている。

(4) 薬学共用試験

6年制薬学では、5年生になると病院と薬局でそれぞれ11週間ずつ実務実習が行われ、薬剤師の指導・監督のもとに、実際の調剤や服薬指導を学修する。そのため、薬剤師免許をもたない学生が臨床現場に臨むために基本的な知識・技能・態度を確認するために、全国の薬科大学・薬学部共通で行われる薬学共用試験を第4学年次生対象に次のとおり実施した。

①CBT（Computer-based Testing）

知識及び問題解決能力を評価する客観的試験

（合格基準：正答率60%以上）

②OSCE（Objective Structured Clinical Examination）

技能・態度を評価する客観的能力試験

領域：患者・来局者応対、調剤の調製、調剤監査、無菌操作の実践、情報の提供

（合格基準：各領域ごとに、細目評価70%以上、概略評価5以上）

表1. CBT 試験結果（Computer-based Testing）

年 度	項 目	試 験 日	受 験 者	合 格 者
平成22年度	本 試 験	平成23年1月31日	147	144
	追 再 試 験	平成23年3月18日	3	2
平成23年度	本 試 験	平成24年1月31日	156	153
	追 再 試 験	平成24年3月18日	3	2

表2. OSCE 試験結果（Objective Structured Clinical Examination）

年 度	項 目	試 験 日	受 験 者	合 格 者
平成22年度	本 試 験	平成22年12月26日	147	147
	追 再 試 験	—	—	—
平成23年度	本 試 験	平成23年12月25日	156	156
	追 再 試 験	—	—	—

3) 自己点検・評価委員会

i) 概要

本学は、学則第2条1項において「自己点検・評価」及びその結果の公表については、同条第2項において、その取り組みを定めている。ともに、自己点検・評価委員会がその中核の会議体として、本学における自己点検から改善に至るPDCAサイクルの実質化を図っている。併せて、積極的な「情報開示」についても学則第3条に定めている。

ii) 委員会の構成、

委員会は、学長、副学長、学部長、共通教育センター長、大学院研究科長、学生部長、教務部長、図書館長、キャリアデザインセンター長、入試センター長、学部・センターからの教員及びジェネラルマネージャーで構成され、学長を委員長、副委員長を副学長としている。

(1) 平成22年度

委員長：松田（学長）、副委員長：馬場（副学長）

委員：佐藤（副学長、看護）、東（薬学）、土居（地域連携実践センター長、看護）、土肥（リハ）、末廣（教務部長、共通）、藤田（キャリアデザインセンター長、共通）、西原（図書館長、薬）、前田（入試センター長、薬）、西山（薬）、安屋敷（薬）、鈴木（看護）、稲富（リハ）、秦（共通）、菊池（GM）

〈部会構成〉

教育部会：佐藤（部会長）、西山（薬）、鈴木（看護）、末廣（共通）、山崎（リハ）

研究部会：馬場（部会長）、東（薬）、安屋敷（薬）、稲富（リハ）、末原（看護）

管理運営部会：菊池（部会長）、土肥（リハ）、秦（共通）、馬場（副学長）、橋本（M）

社会貢献部会：土居（部会長）、前田（薬）、藤田（共通）、稲富（リハ）

年報編集WG：西原（委員長）、清宮（薬）、紀平（共通）、森沢（リハ）、佐野（リハ）、齋藤（看護）、松原（M）；八木L、津田

(2) 平成23年度

〈委員の交代（職責を含む）〉：

藤岡（リハ）、上原（看護学研）、野崎（医療科学研）、藤田（学生部長）、田中（キャリアデザインセンター長）、清宮（地域連携実践センター長）

〈部会の交代（職責を含む）〉：

末廣（教育部会長）、佐藤（管理運営部会長）、上原（研究部会）、野崎（研究部会）、玉木（研究部会）、清宮（社会貢献部会）、田中（社会貢献部会）

〈評価書作成WG〉：

馬場（委員長）、末廣（共通）、西山（薬）、鈴木（看護）、山崎（リハ）、安屋敷（薬）、末原（看護）、上原（看護研）、野崎（医療科学研）、藤岡（リハ）、菊池（GM）、橋本（M）、藤田（共通）、稲富（リハ）；事務局WG、宿院L、神代L、南部L、小川L、松原M

iii) 活動実績

(1) 全体構想

開学初年度から、自己点検・評価体制について検討を始め、ほぼ一年で全体の委員会体制と今後

の実施体制を定めた。委員会は、学長を委員長、副学長を副委員長とし、学部など全部局からの委員により構成する管理・運営、教育、研究、社会貢献の4部会を設置している。これら部会は必要に応じ、複数回／年の頻度で開催し、所掌する教学事項について検討している。教育目的・目標に沿った基盤的な教学事業の推進方策を検討するほか、授業評価（教育部会）、地域連携事業（社会貢献部会）、教員教育研究業績データベースの整備（研究部会）など、各々、特記的事項も実施した。

(2) 各部会の活動の概要

平成23年度は大学認証評価への対応となったので、ここでは22年度のみ掲載する。

①教育部会

平成22年度：恒常的な授業評価の進め方、演習実習の評価法、結果のカリキュラムへのフィードバックの方法、などを年度課題とした。

②研究部会

平成22年度：部会長が西原教授から馬場副学長に変更。平成22年度は21年度の継続を基本として、業績プロの更新、セミナー開催を進める。

③社会貢献部会

平成22年度：社会貢献評価基準の策定。教員の社会貢献活動の評価のためのリストと点数制度の導入の検討。各学部、および大学としての評価基準の策定をした。

④管理運営部会

平成22年度：大学基準協会の評価基準の変更に合わせた本学の対応を進める。

平成22年12月より認証評価申請の準備を始め、23年度末に提出するロードマップを確認した。各学部、センターの意思決定におけるプロセスとそれによる適切な運営が行われているかの調査を進める。

(3) 委員会活動のまとめ

①開学4年を迎えるにあたっての「自己点検・評価に関する全学教員アンケート」の実施

平成22年12月に、看護学部、リハビリテーション学部の完成年度に合わせ、開学4年間における教学活動の多項目について、その進捗状況を把握するため、「自己点検・評価に関する全学教員アンケート」を実施し、その結果を学内に公開した。

アンケート集計結果のうち、大学のミッション、教育目標の適切性・達成度の評価結果を表1.に示す。本学のミッションの適切性、同達成度についての教員評価は極めて高く、また、4つの教育目標についても、教育目標4「次世代の医療科学を担う創造性と国際性の涵養」を除いて高い評価を示している。教育目標4の評価が他に比べて低いことについては、「国際性の涵養」が、大学設置後間もないこともあり、実績が得られていないことによる。

表1. 自己点検・評価に関する全学教員アンケート結果（一部抜粋）

評価項目	ミッション	同達成度	教育目標1	教育目標2	教育目標3	教育目標4
評価値 ※	93%	81%	84%	90%	84%	51%

※5段階評価の3から5までの合計%（5が最高）

②「授業アンケート」の実施

自己点検・評価委員会教育部会において、平成21年の本学における授業評価について、その

目的、実施科目、実施内容などの詳細を定めた実施要項を策定し、21年度後期より、本学専任教員が授業科目責任者である全授業科目を対象に実施した。

さらに、その実施結果をもとに、授業評価の結果を改善へ反映させるための「教員授業評価振り返り表」方式を新たに導入するなど、いくつかの改善点を加えた兵庫医療大学授業評価実施要項を平成22年に策定した。これに基づき、本学専任教員を授業科目責任者とする全授業科目について、前・後期にそれぞれ実施している。

平成22年度前・後期の各学部授業評価の集計結果から、学生の自学自習時間が極めて少ない、との結果が明らかになった。これら授業評価の集計結果を、学部長、各教員に配布し、学部毎にそれらの結果を今後の授業改善、カリキュラム改善へ活かす体制を敷いた。

③大学認証評価への対応

平成20年度より、自己点検・評価委員会の各部会における評価項目について現況調査を行い、平成22年度に自己点検・評価委員会の中に、認証評価対応委員会（委員長は副学長）を設置し、管理・運営、教育、研究、社会貢献の4部門の現況分析を始めるとともに、抽出された未着手及び改善すべき課題について、自己点検・評価委員会で審議後、大学協議会に諮り、対応を始めた。

④学部自己点検・評価の実施

薬学部、看護学部、リハビリテーション学部では、学部自己点検・評価委員会を設置し、全学自己点検・評価委員会のもとで学部独自の対応を図った。薬学部については、薬学教育評価機構が実施する「自己評価22」に則り、自己点検・評価を実施し、自己評価書を平成23年5月に公開した。

(4) 全学集会

開学5年目を迎え、教員へのアンケート結果の公表と将来構想WGの報告を行い、総合討論を行う企画で、平成22年12月27日行った。アンケート結果は上述、将来構想WG報告は図1. 参照)。

学長詰問将来構想WG

メンバー：

田中稔之教授、山本悟史教授、鈴木久美教授、
高橋哲也教授、山崎せつ子教授、磯博行教授、
北江M、学長

テーマ

1. これまでを振り返って、所期の目標や行動計画が良かったのか、どう達成されてきたか？
2. これからの本学の目指す所は？ キーワードは？

1：基本路線

- 共通の理念を（広い視野、斬新性、チャレンジ）
- PDCAサイクルの視点で自己点検評価
- 共通教育センターの役割の確認と発展を
- 教員、学生が自由に意見を言える環境
- 法人との新たなスキーム
- 新校舎計画 予算面での活性化 マンパワー充実
- 医療現場としてのクリニック・薬局の併設

2：社会的プレゼンスの向上と優秀な入学者の確保について（入試広報）

- これまでの検証
- Admission Policy と適切な学生獲得
- 医科大との連携を強調（医大の方からも積極的応援する雰囲気作りを）
- 地域で一番を目指す戦略
- キャンパスの魅力をアピール
- 医学部と薬学部を持つ総合医療大

3：教育および教育支援体制について－1

- 学生に4年ないし6年間でどういう教育がなされ、到達は何かを最初から提示する。Diploma Policy とそれに連動するCurriculum Policyの提示。
- 持続的に教育改善が行える組織運営と、機能するPDCAサイクルの確立。
- （授業評価、教員評価、FD活動）
- 全体を総括し、改善、改革を進めるリーダーシップが取れるセンターが要る。出来れば専任教員。組織としては、医療教育センター構想を。
- 重要な旗頭であるチーム医療については、チーム医療教育開発推進機能を上記センターに置く。
- （より積極的、斬新的に進める）

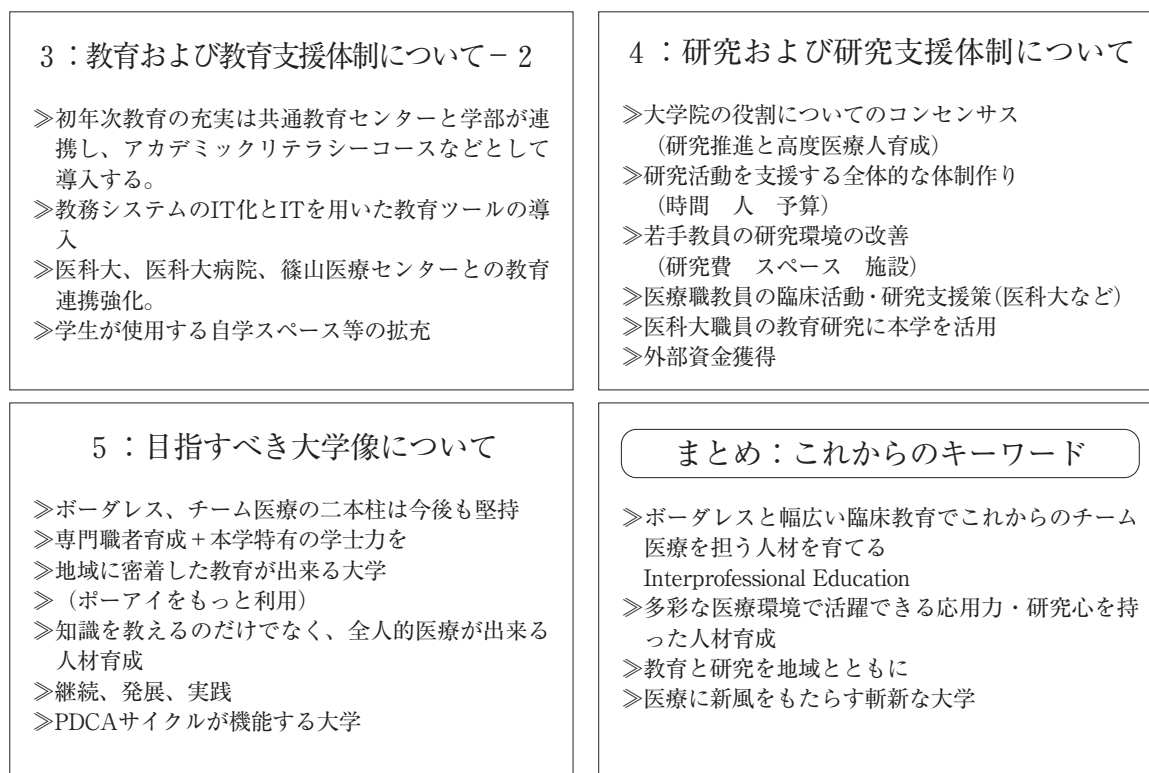


図1. 平成22年度全学教員集会 将来構想WG報告（学長 松田 暉）

(5) 自己点検・評価結果の公表、情報公開

本学の建学の精神、教育理念、学事、組織、教育研究活動、管理運営活動など、大学の基盤的事項に加え、財務に関すること、設置認可申請、同計画履行状況報告書なども、本学ホームページの「情報の公表」で開示している。また、大学の基盤的事項に加えて、教員の研究業績を収載した刊行物「兵庫医療大学年報」を開学以来、他大学など関連機関に配布し（配布数約2,000部）、広く本学の教学活動及びその成果を社会に対して開示している。

本学教員の教育研究業績については、平成23年11月から教員個人レベルでの教育研究業績データベース「研究業績プロ」に登録し、本学ホームページに掲載した。

4) 学生委員会

i) 概要

学生委員会は、人間形成を目的として行われる課程外の実践活動及び大学教育に対する適応を図り学習効果を高めることを目的とし活動を行っており、学生委員会規程に基づいて学生の修学に係る指導・助言や学生の生活相談、学生の健康管理、奨学金に関すること等、学生会活動及び課外活動に関する活動を協議し、問題の解決に当たっている。

ii) 委員会の構成

委員は、学生委員会規程に基づき計11名で構成している。また、兵庫医療大学貸与奨学金の選考や、学生会、課外活動団体への対応など、継続的な調整や、詳細な検討が必要な事項については、担当委

員を当て対応を行うとともに、必要に応じワーキンググループを設置し対応を行っている。

iii) 委員会の活動実績

(1) 委員会の開催及び委員の活動

委員会の開催は、夏季期間を除き年11回開催してきた。また、健康診断、ワクチン接種での学生誘導や、奨学金担当委員による奨学生への面談、学生団体担当委員によるキャップ会への出席、学生会との打ち合わせへの出席、顧問懇談会での顧問に対する説明及び課外活動団体ヒアリングへの参加、学生委員全員にて課外活動リーダーズキャンプへの参加、交通信号無視学生への指導立哨、喫煙マナー指導巡回等、会議以外でも積極的に活動を行った。

(2) 主たる活動状況

①アドバイザーシステムについて

[平成22年度]

- a. 平成21年度と同様に、ECE の実施に合わせて40グループで実施した。
- b. 平成21年度に導入された学生相談室による教員に対するコンサルテーション制度についてアドバイザーに対し説明、周知を行った。

[平成23年度]

- a. 平成22年度と同様に、ECE の実施に合わせて40グループで実施した。

②新入生・在学生に対するオリエンテーションについて

[平成22年度]

- a. 4月1日（木）に薬学部在学生に対し、4月2日（金）に看護、リハビリテーション学部学生に対しオリエンテーションを実施した。
- b. 4月5日（月）に新入生に対し大学生活に関するオリエンテーションを行った。また4月6日（火）に抗体検査を実施し、4月10日（土）にアドバイザーグループ懇談会、健康診断、BLS講習会を実施した。
- c. 大学行事实行委員会主催による新入生歓迎会が催され、それ以外にも各課外活動団体による勧誘が活発に行われた。

[平成23年度]

- a. 在学生のオリエンテーションは薬学部が4月1日、看護学部・リハビリテーション学部が4月4日に実施した。第3学年次学生対象とした、薬物乱用防止に関するオリエンテーションを新たに実施した。
- b. 新入生への大学生活に関するオリエンテーションは4月5日入学式後に実施した。また、4月6日に抗体検査を実施し、4月8日にはマナーモラルに関する内容や危機管理に関するオリエンテーションとして、毎年実施している悪徳商法に関する内容に加え、薬物乱用防止、カルト集団に関するオリエンテーションを行った。さらに4月9日にはアドバイザーグループ懇談会、健康診断、BLS講習会を実施した。

(3) 健康管理とワクチン接種について

[平成22年度]

- a. 健康診断については、在学生は学部別に実施されるオリエンテーション、シラバス等新年度の資料配布、教科書販売と同日に実施し、新入生はオリエンテーションにあわせて実施した。この日程については、シラバスやハンドブック等の予定に記載し、またオリエンテーション

- とあわせて実施したため、未受診者も減少し、円滑に進めることができた。
- b. 健康診断検査項目についても学生の傷病事故を未然に察知し、防止することを目的に見直しを行い、次年度より新入生に対し、従来の項目に血圧、血液検査、尿検査、心電図検診等の項目を追加し対応することとなった。
 - c. また、学生に対して実施する健康調査票について、調査項目、調査実施方法や情報開示方法に関して検討が行われ、学生生活を安心して送れるよう、学校医、保健師が指導、助言したり、救急時等必要に応じて、情報が開示され対応される体制となった。
 - d. 抗体検査、ワクチン接種については、抗体検査をオリエンテーション時に実施し、ワクチン接種を新入生全員が受講する授業の空き時間等を利用し、スムーズに実施することができた。
- [平成23年度]
- e. 健康診断については、前年度と同様、在学生は学部別に実施されるオリエンテーション、シラバス等新年度の資料配布、教科書販売と同日に実施し、新入生はオリエンテーションにあわせて実施した。この日程については、シラバスやハンドブック等の予定に記載し、またオリエンテーションとあわせて実施したため、未受診者も減少し、円滑に進めることができた。
 - f. 抗体検査、ワクチン接種についても、前年度と同様に抗体検査をオリエンテーション時に実施し、ワクチン接種を新入生全員が受講する授業の空き時間等を利用し、スムーズに実施することができた。
 - g. 平成22年度に引き続き、保健室イベントとして12月に女性の健康応援セミナーが開催された。

(4) メンタルヘルスと学生相談室の活動について

[平成22年度]

- a. 昨年度に引き続き、学生と相談員との交流を行い、学生相談室の存在を身近に感じてもらえるよう、4月と11月の2回学生相談室イベントを実施した。イベントでは心理テストやキャリアデザインセンターと協賛し職業興味検査を行った。
- b. 平成21年度に作成した「教職員サポートハンドブック」について、改定を行った。

[平成23年度]

- a. 昨年度に引き続き、学生と相談員との交流を行い、学生相談室の存在を身近に感じてもらえるよう、4月と11月の2回学生相談室イベントを実施した。イベントでは心理テストやリラクゼーション法の体得を行った。

(5) 学生団体への支援について

[平成22年度]

- a. 課外活動実施場所の確保のため、関西電力と交渉し、関西電力グラウンドの使用が可能となった。
- b. 共通教育センター賀屋講師の協力により、熱中症講習会を開催した。
- c. 学生会、大学行事実行委員会、公認課外活動団体の幹部学生に対し、各学生団体の役割やあり方について理解を深め、学生会を中心とした組織作りを行うことを目的とし1泊2日にてリーダーズキャンプを実施した。
- d. 在学期間中に学生会活動、クラブ活動、人道活動等の諸活動を通じて兵庫医療大学の発展に功労のあった学生に対し、課外活動功労賞を設け、当該年度卒業生3名を卒業式にて表彰した。
- e. 兵庫医科大学及び兵庫医療大学を卒業する学生のうちから、学業成績が優秀でかつ課外活動にも特に功績があった者を表彰する理事長特別賞についても、1名を推薦し、卒業式にて表

彰した。

[平成23年度]

- f. 体育館設置以降、要望してきたテニスコートに照明が設置され、夜間でも活動が可能となった。
- g. 前年度に引き続き学生会、大学行事实行委員会、公認課外活動団体の幹部学生に対し、各学生団体の役割やあり方について理解を深め、学生会を中心とした組織作りを行うことを目的とし1泊2日にてリーダーズキャンプを実施した。
- h. 熱中症講習会を保健管理センター主催で賀屋講師の協力により実施した。
- i. 兵庫医科大学との各課外活動団体間で交流戦が実施されることに合わせて、各団体で実施される親睦会の経費に補助を行い、両大学の交流支援を行った。
- j. 前年度と同様に在学期間中に学生会活動、クラブ活動、人道活動等の諸活動を通じて兵庫医療大学の発展に功労のあった学生に対し、課外活動功労賞として、当該年度卒業生3名を卒業式にて表彰した。

(6) 学生団体の活動について

[平成22年度]

- a. 第3回海梟祭を開催した。
- b. 第4回クリスマスイルミネーション点灯式を行った。
- c. 第2回スポーツ大会を実施した。
- d. 卒業生により卒業アルバム作成及び謝恩会開催が行われた。

[平成23年度]

- a. 第4回海梟祭を開催した。
- b. 第5回クリスマスイルミネーション点灯式を行った。
- c. 第3回スポーツ大会を実施した。
- d. 第1回兵庫医科大学との交流戦を実施した。
- e. 卒業生により卒業アルバム作成及び謝恩会開催が行われた。

(7) 奨学金について

[平成22年度]

- a. 入学生・在学生特別奨学金制度検討ワーキンググループが立ち上がり、学生委員も2名が参加し、本奨学金制度の運用、選考方法等の検討がなされた。

[平成23年度]

- b. 平成23年度入学生より入学生・在学生特別奨学金制度の運用を開始し、3名の奨学生を採用し、給付を行った。また、平成24年度奨学生として、在学生を含め、教育委員会と共同にて奨学生の選考を行った。

(8) 東日本大震災関連の対応について

[平成23年度]

- a. 震災直後のボランティアについて、当時、被災地の環境や原発問題により、安全面の確保を最優先に、学生がボランティアに参加する場合は、大学に相談、届出の上、参加する体制にて展開した。
- b. 上記体制を展開したところ、数名の学生より問い合わせ等があったことから東日本大震災ボランティア準備会を立ち上げ、神戸学院大学の協力の下、実施に向けて準備を進めることと

なった。

- c.被災地の視察も行い、8月末にポートアイランド4大学連携事業である神戸学院大学主催のボランティアバスツアーに本学学生7名が参加し、宮城県名取市、石巻市の仮設住宅にてボランティア活動を行った。また、ボランティア活動参加した学生を中心にボランティア団体「ふくろう」が立ち上がり、当団体を中心に12月、2月にも同様に宮城県名取市、石巻市の仮設住宅にて活動が行われ、支援を行った。

(9) その他の取組について

- a.平成20・21年度に引き続き、22・23年度も学生の生活実態調査を実施した。聴取したデータは、顧問懇談会や保護者懇談会、委員会等での基礎データとして利用した。

5) 地域連携推進委員会

i) 概要

本学では、地域との連携を推進するために地域連携推進委員会を設置している。本委員会は地域連携実践センター長と薬学部、看護学部、リハビリテーション学部、共通教育センターからそれぞれ1名ずつ選出された教員（計4名）と事務職員1名で構成し、地域連携実践センターの運営及び本学の地域連携に関する企画立案を行っている。本委員会を中心に各学部、共通教育センターの教員による市民健康公開講座の開催、及び個別の健康相談事業、地域交流プロジェクト等を実施している。

ii) 活動状況

公開講座・個別健康相談は、薬学部、看護学部、リハビリテーション学部、共通教育センターが各々企画し、地域連携推進委員会が中心となって「神戸ポートアイランド・キャンパス4大学連携事業」によって本学に設置された「ポーアイ健康・生活支援ステーション」と連動して開催している。各公開講座の様子は、ビデオ撮影してアーカイブとしてDVDに収め一般にも公開する予定である。

地域交流プロジェクトは、地域の方々の健康の維持・増進・回復のために本学教員が主体的に企画し、平成20年度から開始した。平成21年度までは、「ポーアイ健康・生活支援ステーション」と連動して開催してきたが、平成22年度からは、本委員会が独自で実施している。本プロジェクトは、学内教員を対象に公募して、地域連携推進委員会で審査し、採択している。平成22年度及び23年度は、各プロジェクトに10万円の予算を配分した。

「全国同時七夕記念講演会」、「HIV講演会」は、平成22年度及び23年度も継続開催した。前者は、地本委員会が独自として、後者は「ポーアイ健康・生活支援ステーション」と連動して実施した。

平成22年度からは、「ポーアイ健康・生活支援ステーション」が企画申請書並びにヒアリングに基づき厳選したポーアイ健康推進プロジェクトを「ポーアイ健康・生活支援ステーション」と連動して実施した。

平成23年度から、兵庫県と大学コンソーシアムひょうご神戸が協働する少子化対策及び子育て支援推進事業「まちの寺子屋師範塾」に参画した。平成23年度は、看護学部がワークショップを実施した。平成24年度以降は、薬学部と看護学部が交互に担当する。

iii) 活動内容

公開講座・個別健康相談、講演会、地域交流プロジェクト、ポーアイ健康推進プロジェクト等の活動内容については、Ⅲ-3-4) 地域連携実践センターの項(143頁、表1～4 参照) 及び、神戸ポートアイランド4 大学連携事業は、Ⅲ-4-1) ポーアイ健康・生活支援ステーション(146頁、表1～2 参照) に掲載する。

6) 入試運営委員会

i) 概要

入試運営委員会は、入学者選考要領の作成及び入学試験実施に関する業務等について協議するとともに、志願者数及び入学者数の確保を図るための最善な入試制度について協議している。

ii) 委員会の構成

当委員会は、入試運営委員会規程に基づき、入試センター長、薬学部教員2 名、看護学部教員2 名、リハビリテーション学部教員2 名、共通教育センター教員1 名及び入試グループマネージャーの9 名の委員をもって構成され、委員長は入試センター長が務めている。

iii) 委員会の活動状況

平成22年度入学試験では、薬学部及び看護学部において大学入試センター試験利用入学試験を新たに導入した。また、文部科学省による「平成22年度大学入学者選抜に係る新型インフルエンザ対応方針」に基づき推薦入学試験、及び一般入学試験に係る追試験を次のとおり実施した。

- ①専願制及び併願制 A 日程の追試験 ……平成21年12月5 日(土) に実施
- ②前期 A 日程及び前期 B 日程の追試験 ……平成22年2 月11日(木・祝) に実施
- ③併願制 B 日程及び後期日程の追試験 ……日程等の関係から実施しない

平成23年度入学試験では、平成22年度入学試験における志願者が、前年度に比べ薬学部45%減少など、全体で6 %減少となったことなどから、開学以降実施した4 回の入学試験結果について分析・検討を行い、次のとおり入試制度改革を実施した。また、新たに「入学生・在学生特別奨学金制度」を設け、一般入学試験前期 A 日程及び大学入試センター試験利用入学試験前期日程の合格者の中から、高得点順に奨学生を選考した。

(1) 新たな入試種別・日程の追加

- ①薬学部……………一般入試前期 C 日程
- ②看護学部……………大学入試センター試験利用入試後期日程
- ③リハビリテーション学部……………大学入試センター試験利用入試前期日程

(2) 薬学部入学試験を化学重視型に変更

- ①推薦入試の試験科目及び配点を、「外国語150点、小論文100点」から「外国語100点、化学150点」に変更
- ②推薦入試併願制 B 日程の試験科目を「化学」のみに変更
- ③一般入試前期 B 日程の「化学」の配点を「外国語」の2 倍に変更

- ④一般入試前期 C 日程の試験科目を、「化学」必須、「外国語・数学」から 1 教科選択に設定
- ⑤大学入試センター試験利用入試の利用科目を、「4 教科・6 科目」から数学と国語を除き、「2 教科・3 科目」（化学と外国語を必須、物理と生物から 1 科目選択）に変更

(3) 薬学部と看護学部推薦入試の調査書評価方法を変更

- ①入学後、特に必要とする教科の評定平均値に加えて、高校生活の記録等を総合的に評価することに変更

7) 広報委員会

i) 委員会の目的

当委員会は、下記事項に関して協議し、課題解決にあたることを目的として、活動するものである。

1. 本学の大学広報の企画・立案に関すること
2. 入試広報施策の企画・立案及び実施に関すること
3. 大学のホームページの運用方針及び内容の企画・立案に関すること
4. 法人の広報関連部署及び広報戦略との連携、強調、情報の共有等に関すること
5. その他本学の広報全般に関すること

ii) 委員会の構成

委員会は、下記委員をもって構成される。

- ①薬学部教員 2 名
- ②看護学部教員 2 名
- ③リハビリテーション学部教員 2 名
- ④共通教育センター教員 1 名
- ⑤広報・情報グループマネージャー

委員長は平成21年度から薬学部 青木俊二教授が 2 年の任期を務め、平成23年度の改選にて再任され、引き続き 2 年間務めることとなった。

iii) 委員会の活動実績

月 1 回の委員会を開催し、その中で上記目的に記載の事項について協議してきた。同委員会は協議機関であるとともに、オープンキャンパス等イベントの企画・運営、大学案内や WEB サイト等各種広報媒体の企画・編集・制作、高等学校への出張講義・ガイダンスやキャンパス見学会・体験実習の企画調整・実施等を行う実動部隊であり、各委員は日常的にこれらの業務に携わっている。

(1) オープンキャンパス等学生募集イベント

[平成22年度]

8 月 7 日 (土)・8 日 (日)・21 日 (土)・22 日 (日) の計 4 日間開催した。昨年度に引き続き、ポートアイランド 4 大学による同日開催に向け調整した結果、同日開催は実現しなかったが、4 大学による合同チラシ等を作成し各高等学校に配布するなどの合同広報活動を行った。各開催日の参加者は表 1 の通り、高校生・受験生ベースでは合計延べ 1,469 名であった。また、新たな広報活動として、薬学部および兵庫医科大学病院薬剤部との合同による、薬学部志望者向けイベントを 6 月 19

日（土）兵庫医科大学キャンパスにて開催した。さらに、低学年層を対象とした職業体験イベントを、大学祭 2 日目に合わせ、10月10日（日）に開催した。

[平成23年度]

8月6日（土）・7日（日）・20日（土）・21日（日）の計4日間開催した。ポートアイランド4大学による合同広報活動を昨年度に引き続き行った。各開催日の参加者は表2の通り、前年度に比して参加者数は伸び、高校生・受験生ベースで合計延べ1,674名となった。

また、昨年度好評を博したことから、昨年度に引き続き薬学部・兵庫医科大学病院薬剤部の合同イベントを6月4日（日）に、低学年向け職業体験イベントを10月9日（日）に開催した。

表 1. 平成22年度オープンキャンパス参加者数

(8月7日)

志望学科	受験生数	同伴者数	合計
医療薬学科	68	54	122
看護学科	207	126	333
理学療法学科	97	98	195
作業療法学科	43	27	70
合計	415	305	720

(8月8日)

志望学科	受験生数	同伴者数	合計
医療薬学科	79	81	160
看護学科	248	174	422
理学療法学科	126	85	211
作業療法学科	37	31	68
合計	490	371	861

(8月21日)

志望学科	受験生数	同伴者数	合計
医療薬学科	44	26	70
看護学科	148	81	229
理学療法学科	64	36	100
作業療法学科	20	23	43
合計	276	166	442

(8月22日)

志望学科	受験生数	同伴者数	合計
医療薬学科	47	37	84
看護学科	144	77	221
理学療法学科	75	52	127
作業療法学科	22	20	42
合計	288	186	474

表 2. 平成23年度オープンキャンパス参加者数

(8月7日)

志望学科	受験生数	同伴者数	合計
医療薬学科	81	75	156
看護学科	230	137	367
理学療法学科	121	101	222
作業療法学科	37	28	65
合計	469	341	810

(8月7日)

志望学科	受験生数	同伴者数	合計
医療薬学科	88	81	169
看護学科	238	169	407
理学療法学科	104	58	162
作業療法学科	36	27	63
合計	466	335	801

(8月20日)

志望学科	受験生数	同伴者数	合計
医療薬学科	69	63	132
看護学科	172	100	272
理学療法学科	71	70	141
作業療法学科	17	19	36
合計	329	252	581

(8月21日)

志望学科	受験生数	同伴者数	合計
医療薬学科	57	41	98
看護学科	230	115	345
理学療法学科	90	66	156
作業療法学科	33	28	61
合計	410	250	660

表 3. 平成22年度（4日間合計）

志望学科	受験生数	同伴者数	合計
医療薬学科	238	198	436
看護学科	747	458	1,205
理学療法学科	362	271	633
作業療法学科	122	101	223
合計	1,469	1,028	2,497

表 4. 平成23年度（4日間合計）

志望学科	受験生数	同伴者数	合計
医療薬学科	295	260	555
看護学科	870	521	1,391
理学療法学科	386	295	681
作業療法学科	123	102	225
合計	1,674	1,178	2,852

(2) 大学案内等の制作

平成22年度、23年度学生募集用大学案内を制作した。この制作にあたっては昨年度の制作者を引き続き2ヶ年採用し、できるだけデザイン・コンテンツを流用することでコストメリットを創出し、節減したコストで副読本、サブリーフレットを制作した。その他、イベント動員、出願促進のためのダイレクトメールを制作した。

(3) ホームページ（大学公式 Web サイト）のリニューアル

大学公式 Web サイト（<http://www.huhs.ac.jp/>）について、平成20年12月のリニューアルより2年経過したことから、トップページのデザイン刷新を行うとともに、合同チュートリアル学習の特集やキャリアデザインセンターのページなど、新たなコンテンツを追加するとともに、適宜既存ページの更新を行ってきた。

(4) 大学合同進学相談会への参加

進学情報業者等主催による大学合同進学相談会に参加し、オープンキャンパス等イベントへの誘導、入試相談等による出願促進を行った。平成22・23年度入学試験関連における大学合同進学相談会への参加等の広報活動件数を表3に示す。

(5) 高等学校・予備校教員対象入試説明会

次年度学生募集要項の確定に合わせて、高等学校及び予備校の教員を本学キャンパスに招き、次年度入学試験の説明会を行った。平成22年度は48校、23年度には46校の参加があった。

(6) 高校訪問の実施

平成22・23年度ともに、全教職員を動員して、近畿地区、中国・四国地区の高等学校を訪問し、当該年度の入試説明、オープンキャンパス告知とともに大学のPRを行った。

(7) 高大連携への取り組み

高等学校内での出張講義・進学ガイダンス、大学キャンパスでのキャンパス見学とあわせた模擬講義、体験実習等を実施した。多くは進学情報業者主催のものではあるが、高等学校との積極的な交流・連携を図るため、これら模擬講義、体験実習等の内容をパッケージ化し Web サイトに情報公開するなど広報してきた結果、高等学校からの直接依頼によるものも徐々に増えつつある。

表 5. 平成22・23年度入学試験関連の広報活動

項 目	平成22年度	平成23年度
大学合同進学相談会	40 件	41 件
高等学校校内ガイダンス・模擬授業（薬学部）	23 件	31 件
高等学校校内ガイダンス・模擬授業（看護学部）	14 件	14 件
高等学校校内ガイダンス・模擬授業（理学療法学科）	16 件	11 件
高等学校校内ガイダンス・模擬授業（作業療法学科）	13 件	20 件
広報グループ	52 件	55 件
高大連携出張講義・進学ガイダンス	43 件	32 件
キャンパス見学会	19 件	17 件

8）倫理審査委員会

i）概要

倫理審査委員会は、平成20年5月に設置され、兵庫医療大学及び関連する医療施設並びに研究施設で行われる、人間を直接対象とした臨床研究、疫学研究、観察研究、その他医療に関する研究がヘルシンキ宣言の趣旨に沿って倫理的配慮のもとに行われることを目的としている。

研究責任者等から申請された実施計画の内容について、学長の諮問に基づき倫理的、社会的観点から、研究等の対象となる個人の人權の擁護、研究等の対象となる者に理解を求め同意を得る方法、研究等によって生じる個人への不利益並びに危険性に対する配慮及び補償、医療並びに社会への貢献度の予測、等の点に留意して審査する。

ii）委員会の構成

委員会は、副学長、各学部長から1名、薬学部の教授1名、看護学部の教授1名、リハビリテーション学部の教授1名、共通教育センターの教授または倫理を専門とする教員1名、人文社会科学の学外学識経験者1名、一般の立場を代表する学外の者1名、事務局（神戸キャンパスオフィス）の代表者1名で構成されている。

iii）活動状況

平成22年度においては、倫理審査委員会を計6回開催し、研究課題名39件（薬学部6件、看護学部20件、リハビリテーション学部12件、その他1件）を承認した。また、平成23年度は、計6回開催し、研究課題名33件（薬学部5件、看護学部13件、リハビリテーション学部15件）を承認した。審査結果の研究課題名を表1～2に示す。

表 1. 平成22年度倫理審査委員会承認研究課題一覧

承認番号	所属	職名	氏名	研究課題名	実施期間
08018-2	薬学部	講師	前田真貴子	禁煙補助薬の個別化適正確立のためのゲノム薬理学的研究	H21.9.28～ H23.3.31
08018-3	薬学部	講師	前田真貴子	禁煙補助薬の個別化適正投与法確立のためのゲノム薬理学的研究	H23.3.17～ H25.3.31
09012-1	看護学部	講師	平木 尚美	認知症高齢者グループホームの終末期ケアにおける看護連携システムの開発	H21.7.28～ H22.3.31
09020-1	薬学部	教授	齋藤あつ子	アジア地域における赤血球内寄生原虫症に関する疫学調査研究	H23.3.17～ H26.3.31
09021-1	薬学部	教授	齋藤あつ子	血液寄生原虫感染症の診断治療法の開発ならびに予防法の確立にかかわる研究	H23.3.17～ H26.3.31
10001	リハビリテーション学部	講師	坂口 顕	微弱電流刺激が、術創部に与える影響	H22.6.11～ H24.3.31
10002	看護学部	准教授	土田 敏恵	非医療者向けストマー（人工肛門・人工膀胱）啓発用リーフレットの評価	H22.7.29～ H22.12.31
10003	リハビリテーション学部	教授	高橋 哲也	心疾患患者の身体活動量と運動機能、心理機能、QOL などとの関連性について	H22.6.11～ H23.3.31
10004	リハビリテーション学部	教授	高橋 哲也	心臓血管外科手術後のリハビリテーション進行に関する因子の検討	H22.6.11～ H23.3.31
10005	リハビリテーション学部	講師	坂本 利恵	注意障害を評価するための計算課題を用いたスクリーニング検査の開発及び地域高齢者の注意能力と社会生活能力の関連性の研究	H22.7.29～ H25.3.31
10006	リハビリテーション学部	講師	森 明子	地域在住高齢者の健康維持増進を目的とした指導の短期的効果について	H22.6.11～ H24.3.31
10007	看護学部	教授	新井 信之	精神障害者の病気の理解を促す支援 ―病識・症状・ADL 評価を通して―	H22.6.11～ H23.3.25
10008	看護学部	講師	松本 麻里	慢性閉塞性肺疾患患者の増悪予防のための自己管理を促す心理教育的介入プログラム開発―慢性閉塞性肺疾患患者の増悪による入院の経験を有する患者の自己管理行動に対する認知、および自己管理行動遂行上の困難―	H22.7.13～ H22.10.29
10010	リハビリテーション学部	准教授	稲富 宏之	地域高齢者の予防・健康増進を目的とする「花？楽部」がストレスと認知機能に及ぼす効果	H22.6.11～ H23.2.25
10011	看護学部	助教	高山 京子	がん臨床試験に参加する患者のセルフ・アセスメント能力向上のための教育用ツール開発―「症状自己評価ノート」に対する有用性の評価―	H22.6.11～ H23.3.31
10012	看護学部	准教授	土田 敏恵	3 軸加速センサを利用した新しい手指衛生教育方法の非医療従事者における教育効果の検証	H22.7.29～ H23.3.31
10013	看護学部	助教	藤田 優一	入院している小児の転倒・転落とその対策に関する調査	H22.7.29～ H23.3.31
10015	看護学部	助教	鈴木みゆき	排尿障害を有する回復期脳卒中患者に対する排尿援助についての実態調査	H22.7.29～ H23.3.31
10017	看護学部	講師	石原 あや	虐待が起こるかもしれないと看護職が感じた子どもや家族の言動や状況	H22.10.19～ H23.3.31
10018	リハビリテーション学部	助手	奥谷 研	学生のストレスコーピングと演習形式の授業の関連性について	H22.10.19～ H22.12.25
10019	看護学部	助教	藤田 優一	入院している小児の転倒・転落の危険因子―デルファイ法による調査―	H22.10.19～ H23.9.30
10020	看護学部	講師	小西みゆき	がん患者のがん罹患原因・罹患時期の捉え方と治療への取り組みの姿勢との関連に関する研究	H22.10.19～ H23.3.31
10021	看護学部	教授	鈴木 久美	「C 型慢性肝炎患者の心身のセルフマネジメントを促す心理教育的グループ介入プログラムの開発」―ベグインターフェロン・リパリン併用療法を受けている C 型慢性肝炎患者のセルフマネジメントを促す心理教育グループ介入プログラムの開発と評価―	H22.10.1～ H23.3.31
10022	看護学部	教授	鈴木 久美	「乳がん早期発見のための乳房セルフケア促進プログラムの開発と妥当性の検討」―乳房セルフチェック指導教材の開発―	H22.10.19～ H23. 3.20

承認番号	所属	職名	氏名	研究課題名	実施期間
10023	看護学部	教授	鈴木 久美	「乳がん早期発見のための乳房セルフケア促進プログラムの開発と妥当性の検討」—成人女性の乳がん検診に対する信念および受診行動に関する調査—	H22.10.19～ H23.3.20
10024	看護学部	准教授	土田 敏恵	人工肛門・人工膀胱保有者の社会生活における困った経験と相談内容の実態	H22.12.7～ H23.9.30
10025	リハビリテーション学部	教授	川口浩太郎	外側広筋の硬さが腸脛靭帯の硬さ及び下腿の内旋角度に及ぼす影響	H22.12.7～ H23.9.30
10027	兵庫医科大学病原微生物学	准教授	奥野 壽臣	水痘・带状疱疹ウイルスに対する細胞性免疫の評価	H23.2.7～ H26.3.31
10028	看護学部	准教授	富永 真己	諸外国のマグネット・ホスピタルの組織特性とその要素に影響する取り組みに関する研究	H23.2.7～ H24.3.31
10029	リハビリテーション学部	教授	山田 大豪	精神障害者における主観的ウェルビーイング評価尺度と社会生活評価尺度の関連	H23.2.7～ H24.3.31
10030	看護学部	教授	土居 洋子	看護系大学卒業生の看護実践能力とその影響要因	H23.2.7～ H27.3.31
10031	看護学部	講師	石原 あや	子ども虐待予防に向けた家族支援のために看護職が行うアセスメント	H23.2.7～ H23.6.30
10032	看護学部	助教	増田富美子	体位変換・車椅子移乗技術習得過程におけるコーチングソフトの比較画像を用いた指導法の確立	H23.2.7～ H23.4.30
10033	看護学部	講師	西村 明子	父親と母親の出産前後の心の状態に関する研究	H23.2.7～ H24.3.31
10034	リハビリテーション学部	教授	野崎 園子	重症筋無力症患者の摂食・嚥下障害に関する調査	H23.3.17～ H25.3.31
10035	薬学部	講師	前田真貴子	禁煙補助薬の個別化適正投与法確立のためのゲノム薬理学的研究—ニコチンパッチ使用経験調査—	H23.3.17～ H25.3.31
10036	リハビリテーション学部	講師	佐野 恭子	高次脳機能障害と家族の協働関係構築に向けた家族会活動の活性化に対する作業療法士による支援の効果	H23.3.17～ H24.3.31
10037	リハビリテーション学部	教授	山田 大豪	簡易な作業遂行スケール作成に関する予備的研究	H23.3.17～ H23.3.31
10038	薬学部	教授	辻野 健	献血が酸化ストレスに及ぼす影響	H23.3.17～ H25.3.31

表 2. 平成23年度倫理審査委員会承認研究課題一覧

承認番号	所属	職名	氏名	研究課題名	実施期間
11001	看護学部	助教	藤田 優一	入院している小児の転倒・転落防止プログラム実施に関する調査	H23.6.2～ H26.3.31
11002	リハビリテーション学部	教授	山田 大豪	デイケア利用者の主観的な精神活動が社会生活に及ぼす影響	H23.6.2～ H25.3.31
11003	リハビリテーション学部	教授	P.D. Andrew	走行時および歩行時における足部の状態と脚の各関節角度との関係	H23.6.2～ H25.3.31
11004	リハビリテーション学部	教授	野崎 園子	誤嚥予防のためのカプサイシンゼリー直接嚥下訓練—長期効果の検討	H23.8.4～ H25.3.31
11005	リハビリテーション学部	講師	森 明子	地域在住高齢者の生活習慣病予防を目的とした取り組み —高齢化が進む海上都市の現状把握から—	H23.8.4～ H25.3.31
11006	薬学部	教授	前田 初男	血しょうのスーパーオキシド消去能に対する市販茶飲料の影響の評価	H23.8.4～ H24.3.30
11007	リハビリテーション学部	教授	玉木 彰	ベダリング運動における Locomotor Respiratory Coupling 発生による呼吸困難の抑制効果と呼吸パターンの特徴について	H23.9.6～ H24.9.30
11008	リハビリテーション学部	教授	玉木 彰	新しい骨盤底筋体操確立のための基礎的研究～呼吸指導、フィードバックによる骨盤底筋トレーニングとアクティビティトレーニングとの比較～	H23.8.4～ H24.10.30

承認番号	所属	職名	氏名	研究課題名	実施期間
11009	リハビリテーション学部	教授	玉木 彰	人工股関節全置換術後のリハビリテーションプログラム確立のための基礎的研究～進入法の違いによる検討～	H23.8.4～ H24.10.31
11010	リハビリテーション学部	教授	玉木 彰	換気力学的指標からみた胸郭ストレッチの効果に関する研究	H23.8.4～ H24.12.30
11011	看護学部	助手	加藤 泰子	レビー小体病のある高齢者の体験に基づいたケア方法の構築	H23.11.1～ H25.3.31
11012	看護学部	教授	上原ます子	がんグループサポートプログラム「語りあい・学びあい・支えあい ―がんと共に生きる―」の評価	H23.8.4～ H24.3.31
11013	看護学部	准教授	土田 敏恵	手術部位と術中体位による低体温発生への影響と手術部位感染との関連	H23.8.4～ H24.3.31
11014	看護学部	講師	小西美ゆき	転移性肝がんで手術を受ける患者の原発がん手術体験と転移性肝がん手術への取り組み	H23.8.4～ H24.3.31
11015	看護学部	准教授	富永 真己	メンタルヘルス不全により休職した看護師の復職支援ツールの開発	H23.9.30～ H25.3.31
11016	リハビリテーション学部	教授	川口浩太郎	肩甲上腕関節問題における専門家と初心者との間での臨床像の違い―デルファイ法を用いて上都市の現状把握から―	H23.9.30～ H24.3.31
11017	看護学部	教授	土居 洋子	血圧の自己測定と自己管理プログラムの開発と検証 ―介入プログラムの作成―	H23.9.30～ H24.3.31
11018	看護学部	講師	松本 麻里	慢性閉塞性肺疾患の急性増悪により入院した患者の再増悪の予防と対処を促す心理教育的介入プログラム開発と評価	H23.9.30～ H24.3.31
11019	看護学部	教授	鈴木 久美	C型肝炎患者の治療中のセルフマネジメントを促すグループ介入プログラムの効果の検証	H23.9.30～ H26.3.31
11020	看護学部	教授	鈴木 久美	乳がん早期発見のための乳房セルフケアプログラムの有効性と妥当性の評価	H23.9.30～ H25.8.31
11021	リハビリテーション学部	講師	櫛邊 勇	橈骨遠位端骨折後の自主トレーニングの実施時間と治療成績の関連性について	H23.9.30～ H24.12.31
11022	看護学部	講師	西村 明子	模擬患者を活用した母性看護技術演習における学習効果の評価	H23.9.30～ H25.3.31
11023	リハビリテーション学部	教授	玉木 彰	上肢支持が呼吸運動に及ぼす影響について	H23.9.30～ H24.8.31
11024	薬学部	助手	芝田 宏美	サーモグラフィを手法とした感染制御のための発熱判定ガイドラインの構築	H23.9.30～ H27.3.31
11025	薬学部	教授	岩崎 剛	チーム医療における薬剤師の現状と将来像についての研究	H23.12.1～ H24.3.31
11026	リハビリテーション学部	准教授	稲富 宏之	精神科入院患者の退院意識と関連要因を考慮した作業療法プログラムの立案・実施に関する研究	H24.2.2～ H24.11.30
11027	リハビリテーション学部	教授	日高 正巳	関節拘縮予防のための安全な他動運動の実施に関する研究	H24.2.15～ H25.3.31
11028	薬学部	教授	九川 文彦	リウマチ治療中の他疾患罹患時における、抗リウマチ薬薬効変動の患者自覚調査	H24.2.15～ H26.3.31
11029	薬学部	教授	九川 文彦	EXCEL VBAプログラムを用いた免疫抑制剤のTDM	H24.2.2～ H25.3.31
11030	看護学部	助手	加藤 泰子	高齢者への倫理的問題を踏まえた胃瘻栄養法に関する演習方法の検討	H24.2.2～ H24.7.31
11031	看護学部	准教授	土田 敏恵	看護基礎教育課程の学生における標準予防策の知識と影響要因の検討	H24.4.2～ H24.12.31
23001	リハビリテーション学部	准教授	稲富 宏之	花俱樂部が及ぼすストレス緩和と脳機能の活性に関する研究	H23.5.16～ H24.3.9
23002	リハビリテーション学部	助手	奥谷 研	学生のストレス対処様式と演習形式の授業との関連性について	H23.6.20～ H23.12.25

9) 将来構想委員会

i) 概要

将来構想委員会は、学長の諮問に応じ、兵庫医療大学の将来構想及び事業計画について検討し、答申することを目的としている。平成22年度は将来構想ワーキングとして活動し、23年度より将来構想委員会となった。平成23年度における学長からの諮問事項とそれに対する答申内容については、iii) 活動状況の項に示す。

ii) 委員の構成

委員会は、委員長、薬学教授会で選出した教授2名、看護学部教授会で選出した教授2名、リハビリテーション学部教授会で選出した教授2名、共通教育センター教授会で選出した教授1名、委員長が必要と認めた教員（准教授又は講師）若干名で構成される。委員長は、大学協議会の議を経て学長が任命することとなっており、平成23年度から山本悟史教授（薬学部）が務めている。委員会構成メンバーについては、表1に示す。

表1. 将来構想委員会メンバー

所 属	委 員 名
薬学部	山本悟史 教授（委員長）、田中稔之 教授、宮部豪人 教授、上田晴康 准教授
看護学部	藤井真理子 教授、鈴木久美 教授、西村明子 准教授
リハビリテーション学部	玉木 彰 教授、山崎せつ子 教授
共通教育センター	磯 博行 教授

iii) 活動状況

学長からの諮問事項に対して、平成23年度に審議・答申した項目を表2に示す。

表2. 平成23年度における諮問事項と答申内容

諮 問 事 項	答 申 内 容（項目）
当面の課題（1—2年）	
大学としての基本理念と目標	
初年度教育・ボーダレス教育の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・初年次教育における学士力・コミュニケーション能力の強化 ・ボーダレスな環境を用いたチーム医療教育 ・教育支援センター構想の意義と具体案 ・Web-tool の導入
研究推進	<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進にあたっての問題点 ・研究推進における対策と環境整備 ・若手研究者育成における対策
他大学との差別化	<ul style="list-style-type: none"> ・医科大学との連携強化 ・地域との連携 ・入試対策 ・就職（キャリアデザイン）
中期的計画（3—5年後への青写真）	
ガバナンスからみた大学組織改革	・大学運営に関する問題点と対策
医科大学との連携強化	・医科大学—医療大学間の問題点と対策
新棟計画	・新棟計画（教育、研究、地域貢献等）に関する構想

以下に、1～2年間における「当面の課題」についての具体的提案を示す。

(1) 大学としての基本理念と目標

大学の基本理念は既に決まっていることであり、この事項に関して協議・答申できない。

(2) 初年度教育・ボーダレス教育の進め方

①初年次教育

a. 学士力の強化

ア. アカデミックリテラシー教育の導入を提言する。

イ. 各学部教育において、参加型教育を積極的に取り入れるよう提言したいが、その意図を教員が十分に理解している必要があるため、しっかりとした教員研修の必要がある。

b. コミュニケーション能力の強化

ア. 一つの案として SP 参加型教育の導入を考える。OSCE で言う SP ではなく、外部の人と接すること、コミュニケーションをとる意味合い。初年次からコミュニケーション能力強化に繋がるカリキュラムを導入し、その中に SP 的な存在もあればなお良い。SP 参加型教育を導入するのであれば、SP 教育委員会を編成し、SP 募集と SP 教育を行う。薬学部の例を参考にする。

c. その他（宿泊研修）

ア. 入学して直ぐ（第1学年次の4月）の時期に宿泊研究の導入を提言したい。学部への帰属意識、同級生（ヨコ）の繋がりの強化、医療人としての心構え、チーム医療の重要性、豊かな人間性を身につける。上級生や卒業生が参加できればタテの繋がりもでき、自分の近い将来が見える。モチベーションアップなど更に効果が期待できる。

②ボーダレスな環境を用いたチーム医療教育

a. キャンパス改造計画（案）

現在、3学部でチーム医療教育や医学部を加えた4学部合同チュートリアルを実施しているが、イベント的な感が否めない。本格的にチーム医療教育を行うのであれば、昭和大学のように医学部を加えたボーダレスな環境（キャンパス）を作る必要があると考える。

b. ECE・チュートリアルの改善

チーム医療の目的は、「医療の対象者（患者）」のニーズを多職種が協働して最大限に満たすことであって、「チーム」に貢献することではない。従って、最も育まれる必要がある学生の資質は、医療の対象者を理解しようとする態度である。現行の教育では、医療チームの役割や機能の理解が中心になってしまっているため、対象者の側からものを見ることができるようプログラムも必要である。

③教育支援センター構想の意義と具体案

本学の特徴であるボーダレスな環境を用いた教育の実践、学部横断的な教育や教育にかかる PDCA サイクルの実質化のためには、3(4)学部・共通教育センターを支援する専門の組織「医療教育センター（仮称）」が必要である。専任教員（准教授1名）を置き、センター長（教務部長が兼務）をサポート。医学を背景に持ち、医学医療教育の実践経験が豊富な者を公募する。また、教育学の専門家を非常勤教員として配置する。

④Web-tool の導入

Web-tool として Moodle (Modular Object-Oriented Dynamic Learning Environment) があり、教育へ利用することが可能な状況にある。本学においては一部の教員がこれを利用して

いるのみで、全学的に周知・利用されていない。Moodle では、教員から学生への情報（講義資料の事前配布など）、学生から教員への情報（レポート提出等）、及び学生からの質問と教員からの回答、などのように「双方向コミュニケーション」が可能であるため、これを利用することで教育効果が高まるメリットがある。Moodle 利用を周知徹底して導入率を高め、教育効果の向上を目指す計画（Moodle マニュアル作製、講習会開催）を立てることを提言したい。

(3) 研究推進

①研究推進にあたっての問題点

a. 研究時間の問題

教育、仮進級学生に対する補講、国試対策、学生ケア、事務サポート不足、などの要因により、多くの教員は研究に時間を十分費やすことが出来ない状況にある。

b. 研究スペースの問題

省略

c. 研究体制の問題

省略

d. 研究費の問題

今後、外部から研究費獲得への組織的な対応が必要である。

②研究推進における対策と環境整備

a. 人員、場所、研究費の充実

人員、場所、研究費の3要因の1つでも改善できれば状況は良い方向に向かうはずである。なかでも研究時間の問題が大きいと思われるので、教員ならびに事務員の人的要因を改善すべきである。

b. 教員間の協力体制の構築

教員間で協力体制を作り、研究体制の問題を少しでも改善できないか。学内研究会を積極的に開催して互いの研究を理解し合い、協力できる研究チームの構築を模索してはどうか。

c. 若手研究者育成における対策

若手研究者・学部横断的研究に対して学内研究助成制度を充実させることはできないか。また大学院後のポストクに対する制度を準備しておく必要がある。若手教員が教育業務等に携わる時間が多いため、カリキュラムを工夫してその時間を少しでも減らすことができないか。

Ⅱ 教育・研究活動

1. 教 育

1) 特色あるカリキュラム

i) 概要

健康とは、人間の最も基本的な願いです。その願いを支えるために欠かすことのできないものの一つに医療がある。その医療は、近年ますます高度化・専門化が進み、またニーズも複雑化している。そんな中求められているのが、患者さんを中心とした「チーム医療」です。

兵庫医療大学は「チーム医療の実現」をキーワードに、伝統ある兵庫医科大学との連携、学部を超えた教育・実習環境のもと、将来の医療の担い手を育成している。医療のスペシャリストとして、幅広い知識と専門的な技術はもちろんのこと、恵まれた環境で「豊かな人間性」と「優れたコミュニケーション力」を育むことが本学の大きな目標となっている。

医療を学ぶことはひとを学ぶこと。「チーム医療」とは「コミュニケーション医療」だと、私たちは考えている。

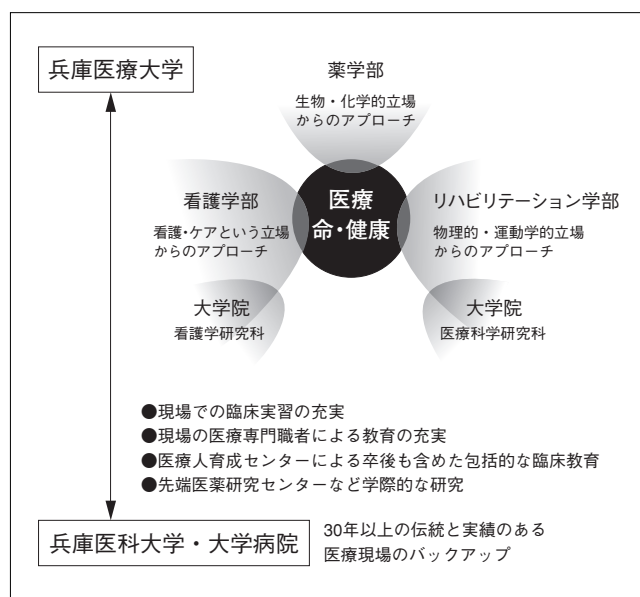


図1. 医療への3方向からのアプローチと医科大学・大学病院のバックアップ

ii) 学びの特徴

(1) 医療総合大学だからできる特色ある教育

兵庫医療大学は、同一法人の下で併設の、兵庫医科大学及び兵庫医科大学病院、ささやま医療センターと密接に連携する「医療総合大学」である。

一つのキャンパスに薬学部・看護学部・リハビリテーション学部（理学療法学科・作業療法学科）の3学部4学科を持ち、また兵庫医科大学医学部とともに兵庫医科大学病院、ささやま医療センターなどの医療施設と連携しながら、特色ある教育を行っている。

兵庫医療大学で最も特徴的な科目は、チーム医療をテーマとした学部合同科目である。総合医療大学である特徴を活かし、薬学部や看護学部、リハビリテーション学部の仲間と3学部合同講義を受けたりグループ学習したりすることで、チーム医療の実践に必要な他の専門職種に対する理解と

コミュニケーション能力を養っている。

第1学年次の医療科学概論では、3学部混成少人数グループによるチュートリアル学習とともに、夏休み前には兵庫医科大学病院での早期臨床体験実習を実施している。また兵庫医科大学医学部生も交えた4学部合同演習も行っている。これは医科大学の併設姉妹校として、複数の医療系学部を持つ本学ならではのもので、入学後間もない段階から他の職種を目指す学生とともに医療について考え、また現場を体験することで将来チーム医療を支える力を身に付ける学習をしている。

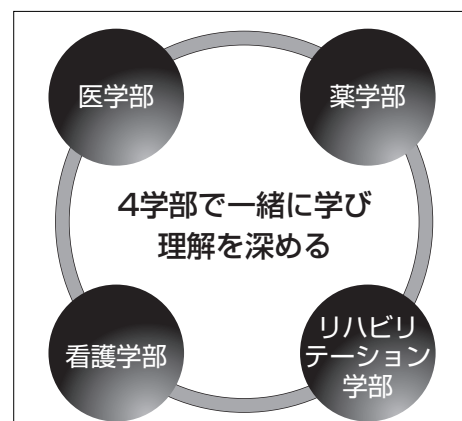


図2. 医学部生とともに学ぶ4学部での学び

(2) 共通教育センターによる学び

本学が医療総合大学として取り組む特色ある教育の中に、共通教育センターによる教育がある。医療人としての土台を築くことを目的に、医療にかかわるための教養や基礎知識の学びを学部横断的に支えている。

心の通った医療を提供するために個々の患者さんの社会的背景を理解できる人間性、社会人としての教養、そして専門領域以外の医療にかかわる基礎知識がとても大切である。また高度化する医療と複雑化する疾病に対応するために、医療専門職者は担当領域のみならず、幅広い教養を備えることが求められている。こうした素養を身につけるため、自然科学、人文科学、語学などの多彩な教養科目とともに専門基礎科目の学びを支えるのが共通教育センターである。

共通教育センターは、3学部合同で医療チームの一員として心の通った医療を提供するために、療専門者に必要な基本知識とひとの気持ちを感じられる心を養い、チーム医療関連科目の合同実習・演習のコーディネートなど、本学の特徴であるボーダレスな教育体制を整える役割を担っている。

(3) 学びのトライアングル

本学は、兵庫医科大学病院、ささやま医療センターをはじめとする関連機関との「学びのトライアングル」を基盤に、実際の医療現場を肌で感じながら他職種の学生と共に学べる、恵まれた教育環境です。臨床実習の機会を多く設けて質の高い医療専門職者を育成している。臨床経験豊富な専任教員に加えて、現職医師や看護師などの兵庫医科大学の教職員が講師として積極的に教育にかかわり、将来を見据えた実践的な教育を実現している。

また、教育連携の拠点として「医学・医療教育研修センター」を設置し、臨床実習のコーディネートから卒業研修まで、医学部を含めた4学部の包括的な臨床教育を支えている。

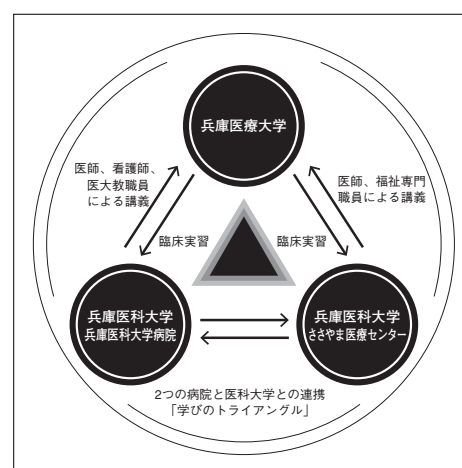


図3. 学びのトライアングル

(4) チーム医療を共に学ぶ合同教育プログラム

チーム医療とは、患者さんとその家族を中心に、各医療専門職者がそれぞれの専門性を発揮し、相互に連携・協力しながら、最善の治療・ケアを行うことを言う。高度化・複雑化が進む現代の医療現場では、ますます求められている医療のあり方である。

本学では、医療総合大学という恵まれた教育環境を生かし、チーム医療をテーマとした様々な教育プログラムを展開している。チーム医療で欠かすことのできないのが他職種への理解とコミュニケーション能力です。その素地を育成するため、学部の枠を越えた合同教育プログラムを積極的に取り入れている。入学早期から第4年次まで、段階を踏んで取り入れられる合同授業は、他分野専門領域を理解するとともに、医療人としての自覚と責任感を育んでいる。

本学は兵庫医科大学の姉妹校であり、教育・研究において密接につながっていて、互いに育ち合う体制を取っている。合同教育プログラムは、その関係が活かされた内容となっている。医療全般にかかわる入門講義。医療職者としての自覚を促すとともに、各専門分野への導入講義として、入学後間もなく開講されている。

(5) グループ討議形式で学ぶチュートリアル学習

講義終了後、3学部混成少人数を編成しグループ討議形式で学ぶチュートリアル学習が行われる。各グループには、それぞれチューター（教員）が学びをしっかりとサポートしている。さらに後半では、兵庫医科大学の医学部生も含めた4学部合同チュートリアル学習を実施しお互いの学びを深める。医師や看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士などの医療専門職者が、それぞれの領域で責任を果たすとともに、お互いの職域と専門性を理解し尊重しあうことが目的である。チーム医療において必要なことをコミュニケーションをとりながら、お互いの学びを深め他部学生との職域の理解を促している。

チュートリアル学習終了後は、総括としてチュートリアル発表会（各グループの討議内容の発表）を行なっている。

(6) ロールプレイング学習で実践力に結びつける

チーム医療についての学びの総括は、チームカンファレンス学習である。医学部を含めた4学部で混成グループを編成し、それぞれの医療専門職者の立場として患者さんの治療計画を臨場感を持ったロールプレイング形式での討議・学習を展開している。各学部の専門教育で学んだ知識を持ちより、コミュニケーションをとりながら実践力を高めている。

チーム医療を実践する上で重要な他職種の専門性への理解は、本学では「相互理解プログラム」として、各学部の専任教員がその専門領域を他学部の学生に講義する科目が設けられている。各専門領域のスペシャリストが身近に存在しているという医療総合大学のメリットが、ここでも活かされている。

(7) 早期臨床体験実習

チュートリアル終了後には、兵庫医科大学病院において学部混成グループによる「早期臨床体験実習」が行なわれている。各グループごとに、各診療科の病棟や病院内薬剤部、リハビリテーション部等に配属され、各専門職者の役割や患者さんへの関わり方などについて、実体験をもって学んでいる。

早期臨床体験実習は、本学の教育プログラムの大きな特長である。入学後早期に行われるこの実習は、医療現場を早期に体験し、今後の学びへのモチベーションを高めるとともに、医療人としての自覚を養っている。学生全員が、第1学年次の夏休み前という非常に早い段階で、患者さんが療養されている病棟内での実習ができることは、大学病院を併設する本学ならではのメリットといえる。

(8) オムニバス講義

第2学年次以降は、専任教員や大学病院の現職医師らによるオムニバス形式の講義を通じて、チーム医療など医療現場の実際について学んでいる。オムニバス形式の講義は、各学部の専任教員がその専門領域を他学部の学生に向けて行います。各専門領域のスペシャリストが身近に存在しているという医療総合大学のメリットが活用された講義を実施している。

2. 各部門の活動

1) 薬 学 部

i) 薬学部の概要

平成19年の開学以来5ヵ年が経過し、学生数が802名になった（平成23年5月現在）。内定していた教員もほぼ全員が着任し、完成時の姿が間近に見えてきた。

カリキュラムに基づく教育課程は当初の予定通り粛々と進行しており、平成23年度までに2回の共用試験が実施され、学生はとても高い成績を残した。さらに、平成23年度には6年制薬学教育の大きな柱である病院・薬局実務実習が開始され、学外施設での体験的な臨床実習を通じて学生の飛躍的な成長が認められたことは本学の喜びである。また卒業研究の完成に向けて、第5学年次生の研究実習もスタートしている。

一方、カリキュラム外の諸活動（長期密着ゼミナール等）やカリキュラムを支えるための諸活動（FD活動、模擬患者養成事業、国際交流活動、高大連携事業）も、従来に増して活発に展開されている。研究面では、本学の教員は広く全国から公募され、教育に対する情熱と同時に研究志向の高い候補者の中から選ばれていて、兵庫医科大学はもちろん他大学との共同研究等で成果を生みつつある。平成25年度に大学院薬学研究科の設置に向けての申請作業も平成23年度から開始されている。さらに、科学研究費などの外部資金獲得状況も順調である。

ii) 学部教育組織

薬学部は6つの専門分野で教員組織を構成している。すなわち化学系基礎薬学、生物系基礎薬学、衛生薬学、医療薬学、臨床薬理学、未来医療薬学の専門分野である。教員は平成19年度着任者20名（退職者1名）、20年度着任者17名（退職者1名）、21年度着任者10名、22年度着任者4名、23年度着任者1名である。平成23年度における教員の氏名、専門分野などの教員一覧を表1に示す。

薬学部長：東 純一 教授

表1. 平成23年度薬学部教員一覧

領 域	職 位	氏 名	専 門 分 野	着任年月日
基礎薬学 (化学系) 8名	教 授	青木 俊二	天然薬物学	H19. 4. 1
	教 授	前田 初男	生体分析化学	H19. 4. 1
	教 授	宮部 豪人	有機化学	H19. 4. 1
	准 教 授	芝崎 誠司	応用生化学	H19. 4. 1
	講 師	甲谷 繁	物理化学	H19. 4. 1
	助 教	塚本 効司	生体分析化学	H19. 4. 1
	助 教	吉岡 英斗	有機化学	H20. 4. 1
	助 教	岩岡恵実子	天然薬物学	H19. 4. 1
基礎薬学 (生物系) 7名	教 授	田中 稔之	免疫学	H19. 4. 1
	教 授	山本 悟史	生理学	H19.10. 1
	准 教 授	大河原知水	生化学	H20. 4. 1
	准 教 授	上田 晴康	免疫学	H20. 4. 1
	助 教	大野 喜也	免疫学	H20. 4. 1
	助 教	是金 敦子	生化学	H19. 4. 1
	助 手	小暮 洋子	生理学	H21. 4. 1

領 域	職 位	氏 名	専 門 分 野	着任年月日
衛生薬学 8名	教 授	西原 力	衛生化学	H19. 4. 1
	教 授	清宮 健一	毒性学	H20. 4. 1
	教 授	斎藤あつ子	微生物学	H21. 4. 1
	准教授	前田 拓也	微生物学	H19. 4. 1
	講 師	長野 基子	微生物学	H20. 4. 1
	助 教	佐藤江利子	衛生化学	H19. 4. 1
	助 教	三浦 大作	毒性学	H20. 4. 1
	助 教	大森 志保	微生物学	H21. 4. 1
医療薬学 14名	教 授	安屋敷和秀	薬理学	H21. 4. 1
	教 授	岩崎 剛	薬物治療学	H20. 4. 1
	教 授	九川 文彦	薬物動態学	H20. 4. 1
	教 授	西山 信好	薬理学	H19. 4. 1
	教 授	辻野 健	薬物治療学	H21.10.1
	教 授	馬場 明道	薬理学	H22. 4. 1
	准教授	伊藤 壮一	薬剤学、製剤科学	H20. 4. 1
	准教授	戴 毅	漢方医学	H20. 4. 1
	助 教	田中 康一	薬理学	H19.10. 1
	助 教	中野 博明	薬剤学、製剤科学	H20. 4. 1
	助 手	小渕 修平	薬理学	H21. 4. 1
	助 手	芝田 宏美	薬物治療学	H19. 4. 1
	助 手	森家 望	薬物動態学	H20. 4. 1
	助 手	佐々木尚子	薬物治療学	H21. 4. 1
臨床薬剤学 6名	教 授	門林 宗男	調剤学	H21.10. 1
	教 授	森山 雅弘	医薬品情報学（実務家）	H22.10. 1
	講 師	大野 雅子	臨床薬理学	H22. 4. 1
	講 師	桂木 聡子	社会薬学	H22. 4. 1
	助 教	竹下 治範	調剤学	H19. 4. 1
	助 手	重松 誠	調剤学	H23. 4. 1
未来医療薬学 8名	教 授	東 純一	臨床ゲノム薬理学	H21. 4. 1
	教 授	田中 明人	創薬化学	H19. 4. 1
	講 師	上田 寛樹	先端医療薬剤学	H20. 4. 1
	講 師	藤野 秀樹	薬物動態学	H20. 4. 1
	講 師	前田真貴子	臨床ゲノム薬理学	H19. 4. 1
	講 師	南畝 晋平	薬物動態学	H21.10. 1
	助 教	清水 忠	創薬化学	H20. 4. 1
	助 教	伊藤 崇志	臨床ゲノム薬理学	H21. 4. 1

iii) 学生の受け入れ

(1) 在籍者状況

平成22・23年度における学生の進級認定数の状況等を表2～3に示す。

表 2. 平成22年度進級認定数等の状況

学 年 次	収容定員数	学 生 数	進 級 者	留 年 者	退 学 者	除 籍 者
1	150	159	143	11	5	0
2	150	177	140	25	12	0
3	150	166	156	9	1	0
4	150	147	146	1	0	0
総 計	600	649	585	46	18	0

表 3. 平成23年度進級認定数等の状況

学 年 次	収容定員数	学 生 数	進 級 者	留 年 者	退 学 者	除 籍 者
1	150	182	151	22	9	0
2	150	168	98	53	17	0
3	150	149	137	9	3	0
4	150	157	155	1	1	0
5	150	146	146	0	0	0
総 計	750	802	687	85	30	0

(2) 学生支援

第1学年次においては、入学直後より学部横断的なアドバイザーグループや、新入生向けガイダンスを実施し、学生の新しい環境への適応を促している。また、各学年を4クラスに分けて、それぞれに担任と副担任を置き、学生委員との協力の下に学生支援を行っている。2学年次以上の学年では長期密着型ゼミナールに所属することで教員及び上級生との距離を縮め、学生支援の一部として機能させている。

学業の不振から留年、退学に至る学生の多くは、勉学に対する態度が不十分である。講義の出席状況から学生の状態をある程度把握可能であることから、各科目責任者が収集した出欠状況のデータをクラス担任と学生委員で共有し、学生が抱えるトラブルを早期に把握することが可能となっている。トラブルを抱えた学生に対しては、学生に付与されているメールアドレスを利用してクラス担任が直接コンタクトをとることが可能であり、情報システムの整備が学生支援に役立っている。また、必要に応じて保護者とも連絡を取り、学生が抱える問題の解決にあたっている。メンタルな問題を把握した場合は、学生相談室で実施している専門的なカウンセリングを積極的に活用するようにしている。

平成23年度進級判定で、2年次に多数の留年者（53名）が出たが、留年者に専任の教員を担当者として2名配属し、学習法や生活習慣など、様々な相談に乗っているほか、空きコマを利用した勉強会を実施している。

経済的な支援として、従来からある貸与型の兵庫医療大学奨学金に加えて、成績優秀者に対して給付型の兵庫医療大学入学生・在学生特別奨学金の制度を開始しており、平成23年度は3名、24年度は30名が対象者となり給付を受ける見込みである。

iv) 教育活動

(1) 薬学部における教育課程の特色

①共用試験 CBT の合格率

平成22年度共用試験 CBT 本試験（コンピュータを用いて知識及び問題解決能力を評価する

客観試験：Computer-based Testing）は、1月31日（月）に実施した。第4学年次生147名の受験予定者は、CBT本試験を全員受験した。CBT本試験における合格ラインを「共用試験センターの示すガイドライン」にしたがい「正答率60.00%以上を合格」とし、「不合格者はCBT追・再試験を受験させる」こととした。

CBT本試験合格者数は144名で、不合格者数は3名だった。3月18日にCBT追・再試験を実施し、3名の受験予定者全員が受験した。CBT追・再試験における合格ラインをCBT本試験と同じとした。合格者は2名で不合格者は1名だった。平成22年度のCBT本試験及び追・再試験の総合格率は、99.32%だった。

平成23年度CBT本試験は、1月31日（火）に実施し第4学年次生156名の受験予定者全員が受験した。CBT本試験における合格ラインを前年度と同様とすることとした。CBT本試験合格者数は153名で、不合格者数は3名だった。3月16日にCBT追・再試験を実施した。BT追・再試験受験者3名のうち、合格者は2名で不合格者は1名だった。平成23年度のCBT本試験及び追・再試験の総合格率は、99.35%だった。

②共用試験OSCEの合格率

平成22年度薬学共用OSCE試験（技能・態度を評価する客観的臨床能力試験：Objective Structured Clinical Examination）は、OSCE委員会の主導のもと前年度に行ったOSCEプラクティスの経験を生かしつつ教職員の協力を得て準備を進めた。事前に評価者養成講習会や模擬患者養成講習会を開催し、直前には本学OSCE評価者に対する直前評価者講習会を開催し、適切な評価のための講習を行った。また、前日までにOSCE試験会場や準備状況等について事前審査を受けた。

本学で始めて実施することから、薬学共用試験センターからの派遣モニターとして武庫川女子大学薬学部 片岡和三郎 教授、特別モニターとして福山大学薬学部 吉富博則 教授の派遣参加を得て、評価者：94名（学内評価者23名、学外評価者71名）、標準模擬患者：25名、補助者：教員9名、事務職員35名、学生補助者69名で構成し実施した。薬学共用OSCE本試験は、12月26日に薬学共用試験センター「薬学共用試験OSCE実施マニュアル」に沿って5領域6課題について5レーン、6ステーションで実施した。受験者は第4学年次生147名であった。

合格判定基準は、課題単位で判定し、次の2項目を満足した受験生を合格と判断した。細目評価：各課題の評価項目で評価者が「1：はい」と評価した項目数につき、評価者2名の合計平均70%以上、概略評価：各課題の概略評価で評価者2名の合計値が「5」以上で合格とした。不合格者については、その課題の再試験を受けることとした。

試験当日の運営について、派遣モニター並びに特別モニターより評価があり、本学のOSCE本試験は公正かつ適切に実施されたと総評された。今後の改善点として、テストラン等を含む試験時間配分の見直し、試験会場の声漏れ対策、受験生の試験会場移動の円滑化等があげられ次年度以降の改善課題とした。試験結果は、薬学部OSCE判定会議にて受験者全員が合格と判定され、共用試験センターへの試験結果報告をもって合格率100%が確定した。

平成23年度OSCE本試験は、12月26日に実施した。試験実施体制等は、前年度方式を準用しつつ試験会場等の設営及び運営に改善を加え、同日無事終了した。派遣モニター（武庫川女子大学薬学部 片岡和三郎 教授）より、全般的に綿密に計画されており、試験は適正に実施されたと講評があった。また、一部試験会場の位置変更や案内の充実が指摘され、次年度の改善課題とする。試験結果は、受験者157名全員合格（合格率100%）であった。

③病院・薬局実務実習

平成22年度は、本学が初めて実施する病院・薬局実務実習の環境整備期間との位置づけで準

備を行った。実務実習モデル・コアカリキュラムに従い、病院実習11週間並びに薬局実習11週間を実施することとし、原則として年間を3期制（1部の病院では4期制）で、地域・通学時間等を考慮して実習生の割り振りを実施することとした。対象学生には、実務実習調整に関して居住地や希望施設等の調査を行い、ふるさと実習の希望については、病院実習についてのみ可能な限り対応することとした。

一般社団法人薬学協議会病院・薬局実務実習近畿地区調整機構（以下 近畿地区調整機構）の実習施設調整担当者会議に参画し、平成23年度病院・薬局実務実習施設調整作業に加わった。関連施設である兵庫医科大学病院並びに兵庫医大ささやま医療センターを実習施設の核として調整を進め、年度末になって対象学生146名の実習施設が決定し、3月14・15日に実習施設等の説明を行った。

近畿地区内では、実習生数に対して実習受入施設数・受入人数が不均衡になっており、調整に難航したことや実習直前に実習施設の変更等が発生したことについては今後の改善を期待する。

平成23年度では、第5学年次生146名の病院・薬局実務実習を開始した。一部の学生については実習施設の変更等が発生したが、近畿地区調整機構との協議により対応することができた。実習施設と大学間の連携については、近畿地区調整機構の指針に従った。

実務実習記録については、実務実習指導・管理システム（FUJI XEROX Web システム）を導入し、実習の進捗状況の把握や実習生の日報、週報等の授受並びにメールによる連絡により、実務実習生への指導を容易に行えるようにした。一部、施設では手書き方式の実習記録を使用することとした。

また、全教員が地域ごとの実習施設を分担し、実習施設への訪問指導を原則3回実施するとともに、実務実習のセンター的機能を果たす実務実習支援室を設置して実習の円滑化を図った。実習の評価は、指導薬剤師の形成的評価を参考に、学生ごとの担当教員が出席状況、実習態度、実習報告書などを評価資料として作成した評価総括評価表を実務実習委員会が判定し、教授会の承認により行った。

病院・薬局実務実習に関する報告会（公開）として、学生個々のポスター発表（示説付）を平成24年4月14日（土）に開催する予定である。

④研究実習

平成23年度から第5学年生を対象とする研究実習を開講した。26の研究実習テーマに対して145名の学生が配属され、病院・薬局実務実習の受講期間外の30週において研究実習に取り組んでいる。

研究成果を上げる学生も多く、平成10月22日（土）に神戸学院大学ポートアイランドキャンパスにおいて開催された第61回日本薬学会近畿支部大会に12名がポスター発表を行った。また、平成24年3月28日（水）～31日（土）に北海道大学にて開催された日本薬学会第132年会では11名の学生がポスター発表を行っている。

⑤学生と教員の交流

薬学部では、平成20年度から自由科目として「長期密着型ゼミナール」を毎週木曜日の午後を用いて開講している。その目的は、a.ゼミナールに配属された学生達とともに1年を通して一緒に活動することにより、担当教員が学習面並びに生活面から個々の学生を密着ケアすること。b.学生達に経済産業省の定義する社会人基礎力「前に踏み出す力（アクション）」、「考え抜く力（シンキング）」及び「チームで働く力（チームワーク）」を涵養できる場を提供することである。

この目的を達成するため、チーム医療コース、地域・社会医療コース、及び医薬基盤(創薬)コースの3つのコースに沿って、講師以上の教員一人ひとりが分担し30ゼミナールを開講した。平成22年度は第4学年次生 483名、23年度は第2～5学年次生 577 名が配属された。

長期密着型ゼミナール担当教員は、個人の専門性や個々のネットワークを活かし、学外施設への体験見学ツアーやボランティア活動、研究室での本格的な研究実習、問題解決型グループ学習、苦手科目対策演習など積極的に組み込んでいる。平成22年度以降の長期密着型ゼミナールでは、学生が3学年以上に亘り同一テーマに取り組むようになり、意図した通りに学年を越えたゼミナール活動の特徴を引き出している。

平成22・23年度の活動について、「兵庫医療大学薬学部 長期密着型ゼミナール活動報告書」を作成し、本学薬学部生だけでなく、保護者並びに高等学校へも配布し、本学薬学部における特色あるカリキュラムとして周知している。

⑥兵庫医科大学病院薬剤部との交流

兵庫医科大学の姉妹校である本学は、教育連携、共同研究、人的交流、実習支援など多様な連携・交流を行っている。薬学部では、特に関係の深い兵庫医科大学病院薬剤部との交流を学部創設時から継続してきた。実務実習施設として薬剤部の存在が非常に大きいことは勿論のこと、薬剤部職員に「みなし専任教員」を委嘱し、実務教育の分担に加え医療現場の紹介や医療人としての態度を指導していただいている。

一方、本学教員(薬剤師)が薬剤部非常勤職員として薬剤部へ在籍し、実際の医療現場において最新の医療に関わることでスキルアップを可能にしている。また、定期的に薬剤部職員との懇談会を開催するなど相互理解と情報交換を行っている。

v) 研究活動

(1) 研究費の取得情報

①科学研究費(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)

薬学部における科学研究費は、平成22年度では19件、総額22,900,000円、23年度には21件、総額30,900,000円が採択された。詳細については、Ⅱ-4-3)学外研究費の取得一覧の項(106頁、表1～2参照)に掲載する。

②厚生労働省科学研究費補助金

厚生労働省科学研究費補助金は、平成22年度では1件、6,400,000円、23年度には1件、4,700,000円が採択された。詳細については、3)外部研究費の取得一覧の項(110頁、表3～4参照)に掲載する。

③その他学外からの資金(研究助成金・受託研究費・共同研究費)

学外からの資金は、平成22年度では9件、総額39,501,812円、23年度は11件、総額37,712,750円であった。詳細については、3)外部研究費の取得一覧の項(111頁、表5～10参照)に掲載する。

vi) 社会貢献

(1) 高大連携活動

昨今の「理科離れ」を例にとるまでもなく、低学年時から薬学の専門分野の魅力をわかりやすく伝え興味を喚起することは非常に重要である。また、薬学部6年制への移行に伴う薬学志望者の急激な減少は、当該分野の発展においても好ましくない。このような観点から本学では、開学当初から積極的に高大連携講義の開催に取り組んでいる。

①連続型高大連携講義

兵庫県立明石南高校では、薬学部専任教員延12名がそれぞれのテーマに基づいて「薬学基礎」講義（全12回）を実施している。私立百合学院中学校では「ステップタイム」講義において「軟膏作りに挑戦！」、「くすりの溶け方観察」、「生薬当てクイズ」等の実習講義（全3回）を行っている、百合学院高等学校では2年生を対象に講義「薬学ってどんな学問？」、帝塚山学院高等学校では1年生を対象に前期、後期で受講者が入れ替わり、医療系講義の同一講義を2回実施している。平成23年度においても同じ講義を同様に担当し実施している。

②出張講義

平成22年度は薬学部専任教員が延べ23回各高等学校に出張訪問し、50分間の模擬講義又は分野紹介、学部学科等の紹介講義を行っている。分野紹介では主に卒後の進路のイメージ作り、学部学科紹介では主に薬学部での学びを中心に講義を行っている。

vii) その他の活動

(1) 薬学部 FD セミナーの開催

薬学部教員の教育能力の向上を目的として、下記の薬学部 FD セミナーを開催した。

日 時：平成23年2月10日（木）午後5時30分より

場 所：M487A 会議室

講 師：小川雅史先生（大阪大谷大学薬学部実践医療薬学講座・教授）

演 題：薬学実務実習における教員訪問指導—大阪大谷大学の場合—

日 時：平成23年10月13日（木）午後5時00分より

場 所：M106講義室

①特別講演

講 師：野口光一先生（兵庫医科大学解剖学講座神経科学部門・教授）

演 題：兵庫医大での国家試験対策の経験から

②研修報告会

報告者：薬学部助手 重松 誠先生

演 題：第1回新任教員研修会に参加して

薬学部 FD ワークショップの開催はなかった

(2) 国際交流事業

①学生の国際交流

ひょうご大学連携推進協議会の主催する2010年夏海外派遣プログラムのうち、平成22年度医療系フィールドワーク計画（8月22日～9月3日）に2名の学生を選抜して派遣した。学生たちは、ハーバード大学、マサチューセッツ薬科大学、ジョスリン糖尿病センター、分子標的製薬 Millennium 社、Community Health Center 等を訪問し研修するとともに、兵庫県下の他大学薬学部生との交流を行っている。

②学術交流に関する大学間協定

平成23年年6月にフィンランド王国のトゥルク応用科学大学（TUAS）と学術交流に関する大学間協定を締結している。本学に関連する部門としてはライフサイエンス系の学部がある。さらに、同大学には医療系コースも設置されており、本学全体を通じて教育分野での交流へも

発展させることが十分に期待できる。広く、医療科学に関連する教育・研究での交流が期待されるところである。

③国際講演会

日時：平成24年 1 月19日午前11時～

場所：M204講義室

講師：Eckart Holtz 氏（ノルウェー製薬工業会シニアアドバイザー）

演題：Diagnostic imaging and pharmaceutical development: a personal view from Norway

(3) 模擬患者養成事業

平成22年度から薬学部第4学年次生には、病院実務実習・薬局実務実習に先立って実務実習事前学習を開講している。この中にある患者接遇（医療面接）では、学生は模擬患者（SP; Simulated Patients）を相手に患者接遇の実習を開始している。また、薬学共用試験を実施し、OSCE の患者接遇、情報提供の試験において標準模擬患者（22年度:25名、23年度:23名）として参加している。

この SP は、平成20年度から毎年募集し、現在（平成24年 3 月）40名が登録している。平成22・23年度は、10名の薬学教員がタスクフォースとして実務実習、OSCE のための SP 及び標準模擬患者養成講習会に参画している。

2) 看護学部

i) 学部の概要

兵庫医療大学の理念に基づき、看護学部における教育課程では、「看護の対象となる人々を深く理解するとともに多様な価値観を大切にし、高い倫理観に富んだ感性豊かな人間性を育成する」、「保健医療福祉を包括的な視野でとらえることのできる力と保健医療福祉が連携する中での看護学の役割・機能を十分に捉え、看護学における実践力の基盤を学士課程で育成する」を目指し編成している。

完成年度を迎える平成22年度は、卒業時到達目標を学生・保護者に提示するとともに、第2回看護学部FD研究会「4年間の看護学部の教育課程の点検」において、教育理念・教育目的・教育目標に照らした教育課程や教育内容・教育方法を点検し、今後の課題を明確にしている。

さらに、平成24年度のカリキュラム改正に向けて、教育理念を看護学構成の概念枠組み（メタ・パラダイム）を基本とした理念の明文化を試みている。卒業時到達目標に照らし合わせた看護実践能力の各科目における教育内容の抽出を行った結果、今後強化すべき教育内容としては、①看護の質の管理および改善への取り組みについて理解できる能力、②疾病構造、疾病対策、医療対策の動向と看護の役割を理解できる能力、③社会変革の動向を理解し、看護学を発展させていく能力、④グローバル・国際化の動向における看護の在り方を思考できる能力等であることを再確認し、これらの改善策を反映した新カリキュラムを作成している。

ii) 学部の教育組織

看護学部は、基盤看護学、療養視線看護学、家族支援看護学、生活支援看護学の4つの専門領域で教員組織を構成している。新たに着任した教員は平成22年度3名、23年度6名であった。平成23年度における専任教員の氏名及び専門分野等の一覧を表1に示す。

看護学部 学部長 土居 洋子（～平成22年度）竹田千佐子（平成23年度～）

表1. 平成23年度看護学部専任教員一覧

専門領域	職位	氏名	専門分野	着任年月日
基盤看護学	教授	竹田千佐子	基礎看護学（技術）	平成19年4月1日
	教授	土居 洋子	基礎看護学（理論）	平成19年4月1日
	准教授	土田 敏恵	基礎看護学（技術・感染）	平成19年4月1日
	講師	水野 暢子	基礎看護学（技術）	平成19年4月1日 （平成24年3月退職）
	助教	鈴木みゆき	基礎看護学（理論・技術）	平成20年1月1日
	助教	増田富美子	基礎看護学（技術）	平成19年4月1日
	助教	吉岡なつき	基礎看護学（技術）	平成23年4月1日
	助教	土屋 智洋	基礎看護学（技術）	平成19年4月1日 （平成24年3月退職）
	助教	荻野 待子	基礎看護学（技術・看護マネジメント）	平成20年4月1日
	助手	笠原 知春	基礎看護学（技術）	平成19年4月1日 （平成23年3月退職）

専 門 領 域	職 位	氏 名	専 門 分 野	着任年月日
療養支援看護学	教 授	佐藤 禮子	がん看護学	平成19年 4 月 1 日
	教 授	網島ひづる	成人看護学（急性）	平成20年 4 月 1 日
	教 授	鈴木 久美	成人看護学（慢性）	平成19年 4 月 1 日
	教 授	新井 信之	精神看護学	平成20年 4 月 1 日
	准教授	大田 直実	成人看護学（急性）	平成20年 4 月 1 日
	准教授	清水 玲子	成人看護学（慢性）	平成21年 4 月 1 日
	講 師	小西美ゆき	成人看護学（急性）	平成21年 4 月 1 日
	講 師	松本 麻里	成人看護学（慢性）	平成20年 4 月 1 日
	助 教	平岡 玲子	成人看護学（急性）	平成20年 4 月 1 日
	助 教	高山 京子	がん看護学	平成19年 4 月 1 日
	助 教	大谷 利恵	精神看護学	平成20年 4 月 1 日
	助 教	大山 末美	精神看護学	平成22年11月 1 日
	助 手	酒井 謙	成人看護学（慢性）	平成23年 4 月 1 日
家族支援看護学	教 授	藤井真理子	小児看護学	平成19年 4 月 1 日
	教 授	末原紀美代	母性看護学	平成21年 4 月 1 日
	教 授	鈴井江三子	助産学	平成23年 4 月 1 日
	准教授	斉藤 雅子	助産学	平成22年 4 月 1 日
	准教授	石原 あや	小児看護学	平成20年 4 月 1 日
	准教授	西村 明子	母性看護学	平成19年 4 月 1 日
	講 師	工藤 里香	母性看護学	平成22年 4 月 1 日
	助 教	飯尾 祐加	助産学	平成19年 4 月 1 日
	助 教	藤田 優一	小児看護学	平成20年 4 月 1 日
	助 教	勝田真由美	母性看護学	平成20年 4 月 1 日
生活支援看護学	教 授	大町 弥生	老年看護学	平成20年 4 月 1 日 (平成23年 3 月退職)
	教 授	上原ます子	地域看護学	平成21年 4 月 1 日
	教 授	細見 明代	老年看護学	平成23年 4 月 1 日
	准教授	富永 真己	地域看護学	平成19年 4 月 1 日
	准教授	青木菜穂子	在宅看護学	平成20年 4 月 1 日
	准教授	土井有羽子	地域看護学	平成23年10月 1 日
	講 師	平木 尚美	老年看護学	平成20年 4 月 1 日 (平成24年 3 月退職)
	講 師	堀口 和子	在宅看護学	平成23年 4 月 1 日
	講 師	山田 千春	老年看護学	平成20年 4 月 1 日
	助 教	藤村 一美	地域看護学	平成20年 4 月 1 日 (平成23年 3 月退職)
	助 教	松本 佳子	地域看護学	平成21年 4 月 1 日
	助 手	加藤 泰子	老年看護学	平成20年 4 月 1 日 (平成24年 3 月退職)

iii) 学生の受け入れ

(1) 学生募集と入学者選抜

看護学部では多様な学生を得るために、平成22・23年度では、推薦入学試験、一般入学試験（前期 A 日程）及び一般入学試験（後期日程）に加え、大学入試センター試験利用入学試験（前期日程、後期日程）を行った。また、看護学部第3学年次編入学試験も実施している。各入学試験における募集定員については、Ⅲ-1-1) 入学試験状況 118頁、表3～4、9～10に示す。

少子化問題や看護系大学の増加において、兵庫県では看護学部・学科が11大学と多く受験生の確保が困難な状況にある。その中で優秀な学生を確保するために平成22年度から大学入試センター試験利用入学試験を導入し、推薦入学試験の調査書の点数を100点から50点に変更するなど、基礎学力を重視する入学試験制度や選抜方法としている。

受験者は、平成22年度においては推薦入学試験152名、一般入学試験の前期 A 日程522名、後期日程95名、大学入試センター試験利用入学試験の前期日程212名、総合計981名であった。平成23年度は、推薦入学試験165名、一般入学試験の前期 A 日程552名、後期日程89名、大学入試センター試験利用入学試験の前期日程85名、後期日程11名、総合計902名であり、一定の受験者数を確保している。

また、合格者の入学率は、平成22年度の前期 A 日程が53.9%、後期日程が75%、23年度の前期 A 日程が52.5%、後期日程が83%とほぼ安定してきているが、関西圏における看護系大学が増加傾向にあることから安閑としてはいられない状況にある。今後も社会・経済情勢を視野に入れながら、志願者数及び入学者数の確保を図っていく必要がある。

(2) 学生在籍者の状況

学生数については、平成22年度入学生は109名（うち編入学生1名）、23年度の入学生は110名（うち編入学生2名）であった。学生数及び留年者、退学者は表2・3の通りである。

表2. 平成22年度進級認定数等

(平成23年3月31日)

学部・学科	学 年	学 生 数	進 級 者	留 年 者	退 学 者	除 籍 者
看護学部 看護学科	1	108	105	3	0	0
	2	112	107	5	0	0
	3	98	96	1	1	0
	4	114*	114*	0	0	0
計		432	422	9	1	0

*は編入学生（1名）を含む。

表3. 平成23年度進級認定数等

(平成24年3月31日)

学部・学科	学 年	学 生 数	進 級 者	留 年 者	退 学 者	除 籍 者
看護学部 看護学科	1	111	101	5	5	0
	2	108	100	7	1	0
	3	110*	108	1	1	0
	4	95*	94	0	1	0
計		424	403	13	8	0

*は編入学生（2名）を含む。

iv) 教育活動

(1) 特色ある教育課程

①教育課程と開講授業実施内容

基礎分野は、専門基礎分野及び専門分野を学習していくうえで必要な知識の修得を目的として、平成14年2月の中央教育審議会答申「新しい時代における教養教育の在り方について」を踏まえ、人間を軸とした「人間と言葉」、「人間と文化」、「人間と社会」、「人間と科学」の4領域で構成した科目を配置している。

平成22・23年度では、「人間と言葉」科目では必修6科目（6単位）・選択5科目、「人間と言葉」以外の科目では必修4科目（8単位）・選択18科目を開講している。平成20年度から、「ドイツ語、韓国語、中国語（第1学年次通年開講）」を複数選択することが可能となり、22年度は3名、23年度では14名の学生が2科目（4単位）を修得している。

専門基礎分野では、基礎分野の知識を活用しながら医学・保健学・福祉学などの近接領域の知識や技術を教授し、専門分野を学習するうえで欠くことのできない基礎知識を「人間と健康」、「環境と健康」、「人間と環境」、「チーム医療」の4領域で構成し体系化している。平成22・23年度は必修18科目（23単位）・選択7科目（8単位）を開講している。

専門分野は、基礎分野、専門基礎分野の科目を基盤に、また看護学のメタパラダイム概念をもとに「基盤看護学」、「療養支援看護学」、「家族支援看護学」、「生活支援看護学」及び「総合」の5領域で構成し体系化している。平成21年度から各科目の臨地実習（基盤看護学・療養支援看護学・家族支援看護学（助産学以外）・生活支援看護学）を開始し、22年度（2年目）・23年度（3年目）を問題なく修了している。平成22・23年度は必修36科目（69単位）・選択14科目（26単位）を開講している。

(2) 特色ある授業

①看護学部学士課程入門チュートリアル

大学での学び方及び作文とレポート・論文との違いが理解でき、適切なレポートが作成でき、主体的に学ぶ姿勢を身につけることを目的に、平成21年度より新入生を対象とした学士課程入門チュートリアルを開講し22・23年度も継続して開講した（単位化はしていない）。回数：5～7回。

方 法：1グループ7～8名のグループに分かれて学習（チューター教員 2名）。

内 容：入門チュートリアルガイダンス、グループディスカッション、個別レポート作成、リフレクションシート作成など。

②リフレクション（第3学年次実習終了後あるいは第4学年次実習開始前）

リフレクションは、自らの経験の振り返りのなかで、経験した事実とそれについての思考から構成され、そこに意味の付加や拡充がともなう経験の再構築とも呼ばれるている。本学部では3年間の自己の学習達成度をみきわめ、今後の学習到達のための課題とその対策を明確にすることを目的に平成22年度より開講している。

到達目標：

- a. 3年間の学習の振り返りを通して、自己の学習到達度を評価し、今後の課題を見極めることができること。
- b. 学習の到達が不十分と認識した課題を達成するため、最終学年における学習のあり方を検討し、具体的に計画することができること。
- c. 看護学臨地実習で直面する様々な問題を解決するために、文献に基づいた知識を活用でき

るよう文献検索の基礎的な方法を習得できること。である。

学習方法：

a. 3年間の学習到達度の評価及び今後の学習課題と到達のための方略を明確化する。(事前準備、グループワークによるディスカッション、レポート作成)

b. 文献検索（基礎編）

看護学臨地実習で直面する様々な疑問や課題の解決に向けて、文献に基づいた知識を活用した看護実践を行なうために、具体的課題に関する文献検索の基礎的な手法を学ぶ。

(3) 看護学臨地実習関連内容

①看護学臨地実習施設

看護基礎教育において看護実践能力を育成するには、看護学臨地実習の充実が不可欠である。この臨地実習は、学内で学習した知識・技術・態度を実践を通して統合する場であるとともに、看護職者に求められる対人関係、判断力・倫理性などを身につける場でもある。看護学臨地実習の配当年次は、第1～4学年次生を対象としている。平成22・23年度に実施した臨地実習を表5に示す。

表4. 平成22・23年度看護学臨地実習

実習科目名	実 習 場 所	単位数	配 当 年 次
〈基盤看護学〉 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ	兵庫医科大学病院 兵庫医科大学病院 兵庫医科大学病院	1単位 1単位 1単位	第1学年前期 第1学年後期 第2学年後期
〈療養支援看護学〉 成人看護学実習Ⅰ(急性) 成人看護学実習Ⅱ(慢性) 精神看護学実習	兵庫医科大学病院 兵庫医科大学病院 医療法人社団正仁会明石土山病院	3単位 3単位 2単位	第3学年後期～第4学年前期 第3学年後期～第4学年前期 第3学年後期～第4学年前期
〈家族支援看護学〉 母性看護学実習 小児看護学実習 助産学実習(選択)	兵庫医科大学病院 兵庫医科大学病院、幼稚園 兵庫医科大学病院、他3施設	2単位 2単位 7単位	第3学年後期～第4学年前期 第3学年後期～第4学年前期 第4学年後期(選択制)
〈生活支援看護学〉 老年看護学実習 地域看護学実習 在宅看護学実習	介護老人保健施設 健康福祉事務所、 保健所・市町保健センター、 事業所訪問看護ステーション	3単位 3単位 1単位	第3学年後期～第4学年前期 第3学年後期～第4学年前期 第3学年後期～第4学年前期
〈総合〉 統合看護実習	兵庫医科大学病院、他20施設	3単位	第4学年後期

②実習ガイダンス

平成22・23年度における看護学臨地実習(第3学年次)履修に関するガイダンスは、8月初旬(夏季休暇前)及び9月下旬(実習開始前)にガイダンスを実施している。ガイダンスの目的は、卒業時の到達度を踏まえたうえで看護学臨地実習の概要、及び臨地実習における学生としての態度・厳守すべき事項について十分に理解し、後期から開始される臨地実習への心構えを明確にすることである。ガイダンス後に実施した学生の自己評価では、学生はガイダンス内容を理解するとともに実習に向けて取るべき行動を明確に捉えている。

③兵庫医療大学看護学臨地実習指導者研修会

兵庫医科大学病院及びささやま医療センターの職員、看護学部の教員を対象に9月初旬に看護学臨地実習指導者研修会を実施している。平成22・23年度に実施した研修内容を表5に示す。

表5. 平成22・23年度兵庫医療大学看護学臨地実習指導者研修会

年度	開催場所	会議及び内容	出席者
平成22年度	兵庫医科大学病院 第2会議室 第3会議室	<p>〈目的〉 看護学教育の一方法としての看護学臨地実習における指導方法を学ぶ</p> <p>〈内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の特性、レディネスと看護学臨地実習における指導方法 ・看護学臨地実習目標達成のための実習環境 ・グループワーク：看護学実習を効果的に進めるために取り組むべき課題について検討した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・兵庫医科大学病院看護部病棟看護師長・主任・臨地実習指導者 ・ささやま医療センター・ささやま老人保健施設看護部職員 ・兵庫医療大学看護学部教員
平成23年度	兵庫医科大学病院 第2会議室 第3会議室	<p>〈目的〉 看護学教育の一方法としての看護学臨地実習における指導方法を学ぶ</p> <p>〈内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学士課程においてコアとなる看護実践能力と本学の卒業時到達目標 ・学生の特性・レディネスと看護学臨地実習における教育方法 ・新人看護師の現任教育 ・新人看護師の現状と課題に関するアンケート結果報告 ・グループワーク：卒業時到達目標を達成するための看護学臨地実習における学生が取り組むべき課題について検討した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・兵庫医科大学病院看護部病棟看護師長・主任・臨地実習指導者 ・ささやま医療センター・ささやま老人保健施設看護部職員 ・兵庫医療大学看護学部教員

④看護学実習室

看護学部には4つの看護学実習室（基礎看護学実習室、成人看護学実習室、助産／母性・小児看護学実習室、精神・地域・在宅・老年看護学実習室）を整備している。看護実践能力の向上及び基礎看護技術の習得を図るための視聴覚資料や学生のための ACLS トレーニングモデル及び医療現場に必要な看護技術に関する設備など、備品設備導入計画に従い整備をしている。

a. 基礎看護技術 DVD 教材の作成及び貸出

「基礎看護技術Ⅰ（生活援助）」の基礎看護技術について手順及びポイントを追加した DVD を作成し、自宅でも復習ができるように貸出を実施している。また、学内の情報処理室や図書館に配備している Web 端末より、DVD コンテンツが閲覧できるよう整備した。

b. 基礎看護技術習得のための自学自習状況

基盤看護学領域では、主体性をもった学生の育成を目指し、“納得できるまで看護技術を練習できる”自己学習のサポート体制を整備し、基礎看護学実習室の開放及び時間外における学生指導を実施している。

c. 看護学部スキルス・ラボ

医療現場に必要な看護技術に関する設備など、備品導入計画に従い看護学スキルス・ラボの整備をすすめている。ACLS トレーニングモデル・周辺機器、輸液ポンプ、その他シミュレーション教育に必要な器具・機材類を整備している。

(4) 保健師助産師看護師学校養成所指定規則

保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部を改正する省令（平成23年文部科学省・厚生労働省令第1号）が公布され、平成23年4月1日からの施行（平成24年度入学生から新カリキュラム適用）に伴い、次のとおり教育内容の改善を図った。

①兵庫医療大学における保健師国家試験受験資格に伴う教育カリキュラム改定

- a. 公衆衛生看護学の基礎科目と専門科目の教育内容の充実を図り、実践力の強化を目指す教育内容とする。
- b. 公衆衛生看護学を体系的に学習させるために必要な専門科目を受講、実習できるように履修の順序性を改善する。
- c. 教育内容の達成及び臨地実習先の受け入れ困難を考慮し、平成24年入学生より保健師国家試験受験資格の取得を選択制とし、教育の質を担保する。

②兵庫医療大学における助産師国家試験受験資格に伴う教育カリキュラム改定

- a. 助産学の基礎科目と専門科目の教育内容の充実を図り実践力強化を目指す教育内容とする。
- b. 助産学を体系的に学習させるために必要な専門科目を受講、実習できるように順序性を整えた。
- c. 教育内容の達成と臨地実習先の受け入れ困難を考慮し、助産師国家試験受験資格の取得を従来通りの選択制とし、教育の質を担保する。

〈修得単位数〉

看護師国家試験受験資格（卒業単位）	:129単位	現行126単位
保健師国家試験受験資格	:137単位	現行126単位
助産師国家試験受験資格	:139単位	現行136単位

(5) 平成22・23年度 兵庫医療大学看護学部後期授業評価結果

平成21年度後期より、本学専任教員が授業科目責任者である講義科目のすべてを対象として、授業評価（表6）を全学生に実施した。看護学部では看護基礎科目、看護専門基礎科目が対象となり、授業科目は12科目であった。平成22・23年度後期授業評価の結果（各項目の平均値）を折れ線グラフ（図1～2）に示す。

授業についての評価15項目は、概ね良好な調査結果を得た。学生の授業に対する取組み4項目に関しては、項目3（授業時間以外の学習）以外は良好な結果を得た。この項目3は、他の18項目と比較し極端に低値を示しており、授業時間以外の自学自習がされていないことを顕著に示している。

今後、自学自習を推進していくためには、シラバスの見直しと活用方法の検討を行い、学部全体の問題として教員と学生が協働し、組織的に取り組む必要がある。また、科目による課題が偏ることで、学生が同時に複数の課題を抱え、学生に過大な負担を与えているという現状もある。各教員が連携し、どのようにして学習意欲の向上と学習習慣の確立を指導するか検討する必要がある。

表 6. 兵庫医療大学授業評価項目一覧

兵庫医療大学授業評価	
【あなたの授業科目への取り組みについて】	
1.	この授業科目に意欲的に取り組みましたか
2.	この授業科目にどのくらいの割合で遅刻もせずに出席しましたか
3.	この授業科目のために、授業時間以外の学習を1週間に何時間くらい行いましたか
4.	この授業科目では私語を交わすこともなく、受講態度はよかったと思いますか
【授業について】	
5.	教員は、初めの授業で授業科目の目標や成績評価について適切に示しましたか
6.	授業の内容は、シラバス（教育要項）のとおりに進められましたか
7.	教科書、参考書やプリント（資料）等の補助教材は、授業内容の理解に役立ちましたか
8.	黒板・視聴覚機器の使い方は適切でしたか
9.	授業の内容はよく理解できましたか
10.	授業内容の組み立て方や、時間配分は適切でしたか
11.	教員は、学生の理解の程度を把握して授業を進めていましたか
12.	質問しやすい雰囲気がありましたか、または、教員はあなたの質問に丁寧に対応してくれましたか
13.	教員は、あなたが提出したレポートや宿題に対して適切な対応（アドバイス・評価など）をしましたか
14.	教員の声・話し方は聞き取りやすかったですか
15.	教員は、学生が授業に集中できるような環境づくりに努めていましたか
16.	教員の授業に対する熱意・意欲を感じましたか
17.	この授業により、知識が得られ自分の考えを深めることができましたか
18.	この授業により刺激を受け、さらに学びを広げたいと思いましたか
19.	総合的に判断して、この授業は満足できるものでしたか

評価指標

4	強くそう思う
3	そう思う
2	そう思わない
1	全くそう思わない

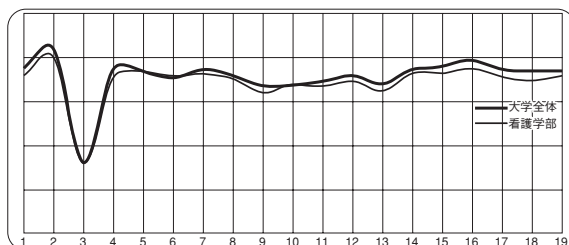


図 1. 平成22年度後期授業評価結果

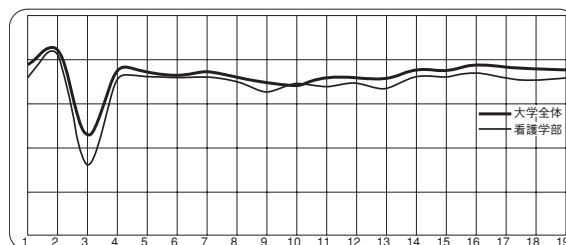


図 2. 平成23年度後期授業評価結果

v) 研究活動

(1) 研究費の取得状況

①科学研究費（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）

看護学部における科学研究費は、平成22年度では13件、総額15,500,000円、23年度には、11件、総額10,500,000円が採択された。詳細については、Ⅱ-4-3) 学外研究費の取得一覧の項（106頁、表1～2参照）に掲載する。

②厚生労働省科学研究費補助金

厚生労働省科学研究費補助金は、平成22年度では1件、総額1,600,000円、23年度には、1件、総額1,500,000円が採択された。詳細については、3) 学外研究費の取得一覧の項（110頁、表3～4参照）に掲載する。

③その他の学外からの資金（助成金）

学外からの資金については、平成23年度に1件、総額1,220,000円であった。詳細については、3)学外研究費の取得一覧の項(111頁、表6参照)に掲載する。

(2) 研究セミナーの実施

本学における看護学部教員の教育・研究能力の向上及び教員の交流を目的として、兵庫医療大学研究セミナーを実施し、平成23年度は、「ナイジェリアにおける現任助産師教育に向けた実態調査とその教育内容およびその評価」について発表した。

vi) その他の活動

(1) 看護学部 FD 研究会

教員の教育・研究能力の向上を目的とし、下記の内容でFD研究会を実施している。

表 7. 平成22年度看護学部 FD 研究会

第 1 回	
日 時	9月14日(火) 13:30～17:00
テーマ	看護学部の専門分野授業科目の相互理解と学位授与の方針(卒業時到達目標)に基づいたシラバスの点検・評価
目 的	看護学部の教育課程専門分野の授業科目(必修)についてシラバス(教育目標・行動目標・教育方法・評価方法)の内容を相互理解し、看護学部の学位授与の方針(卒業時到達目標)に基づいて点検・評価する過程を通して教員の教育力を高め、看護学部の集団・組織としての教育力の向上を図る
内 容	プレゼンテーション; 学士課程教育を構築するための3つの方針(学位授与の方針、教育課程編・実施の方針、入学者の受け入れの方針) プレゼンテーション; 看護学部の教育課程専門分野の授業科目のシラバスについて 全体討議; 看護学部の学士課程教育の構築に向けて今後取り組むべき課題について 参加者: 看護学部教員36名(参加率92.3%)
第 2 回	
日 時	3月24日(木) 15:30～17:00
テーマ	4年間の看護学部の教育課程の点検
目 的	全学FDワークショップ及び第1回看護学部FD研究会を踏まえて、4年間の看護学部の教育課程(カリキュラム内容・教育方法・単位数や時間数等)を、学位授与の方針(卒業時到達目標)と授業評価の結果をもとに点検し、本学部の教育課程の改善点および今後の課題を検討する。この過程を通して教員の教育力を高め、看護学部の集団・組織としての教育力の向上の一助とする。
内 容	グループ討議 ①学位授与の方針(卒業時到達目標)及び昨年度と今年度の授業評価結果等に基づいて、本学部学生の到達度を精査する。 ②①の結果及び全学FDワークショップ、第1回看護学部FD研究会を踏まえて、看護学部の教育課程に関する改善点について検討する。 参加者: 看護学部教員38名(参加率97.4%)

表 8. 平成23年度看護学部 FD 研究会

第 1 回	
日 時	12月26日(月) 17:30～18:15
テーマ	新任教員研修セミナー報告
目 的	「第1回新任教員研修セミナー」での学びを共有し、看護学部の個々の教員の教育力の向上を図る。
内 容	研修セミナー報告: a. 学生参画型授業の実践について 質疑応答: b. 効果的な授業運営方法について 参加者: 看護学部教員31名(参加率77.5%)

第 2 回	
日 時	2月28日（火）13:30～17:30
テーマ	現代の大学生の理解と教育力向上の戦略について
目 的	大学生の学びや職業に対する姿勢や考え方を理解し、効果的な対応の方法を考え、本学部の学生に対する教育力の向上を図る。
内 容	<p>講演：現代の大学生の学びや職業に対する姿勢・考え方 グループワーク：講師；溝上 慎一 准教授（京都大学） 発表・まとめ：現代学生の特徴を踏まえた効果的な対応方法と今後取り組むべき課題について 講演参加者：看護学部教員37名（参加率92.5%）、他学部等教員4名、大学院生1名 グループワーク参加者：看護学部教員36名（参加率90.0%）</p>

(2) オープンキャンパス・模擬講義

①オープンキャンパス

兵庫医療大学のオープンキャンパスは、平成22年度及び23年度とも4回開催している。看護学部志望の受験生向けに、看護学部ガイダンス、キャンパスツアー、在学生交流、教員相談コーナー等を企画し実施した。看護学部受験生のオープンキャンパス参加数は、平成22年度747名、平成23年度870名であった。オープンキャンパス・プログラム内容を表9・10に示す。

オープンキャンパスでの活動状況については、I-11-7) 広報委員会の項（41頁、表1～4参照）に掲載している。

②高等学校における模擬講義

看護学部の教員が行った高等学校における模擬講義数は、表11～12が示すとおり、平成22年度、平成23年度各々14校であった。高校の依頼や対象学年に合わせて、看護専門職とその役割、看護専門職への道のり、看護学などの内容の講義を行った。

③見学会

看護学部の体験実習に来校した高等学校は、表13～14に示すとおり平成22年度8校、23年度3校であった。高校からの依頼に応じて聴診や血圧測定等の体験実習を実施している。

④高大連携推進事業

兵庫県立伊丹西高等学校総合ヒューマン類型コースの「特別講座」（1年次開講）及び「総合ヒューマン基礎」（2年次開講）、帝塚山学院高等学校「創発講座 現代の医療」（1年次開講）において講義及び体験実習を担当し、実施した。

表9. 看護学部オープンキャンパス・プログラム内容（平成22年度）

回	月 日	テ ー マ	看護学部プログラム内容
第1回	8月7日 (土)	「ひと足お先に 兵庫医療大生！」	1. 看護学部ガイダンス（看護学部の教育目標、特徴、教育課程について説明） 2. 教員個別相談（入試、大学生活、実習、卒業後の進路等について個別相談） 3. 在学生交流（受験や大学生活などについて個別相談） 4. キャンパスツアー 5. 実習室見学・実習体験
第2回	8月8日 (日)		①基礎看護学実習室（M302） ・感染予防のテクニックを学ぼう！いつもの手洗い、それで大丈夫？ ・聴診器を使ってみよう ・点滴の準備をしてみよう
第3回	8月21日 (土)		②成人看護学実習室（M301） ・心臓マッサージにチャレンジ！～あ！人が倒れている！さあ、あなたならどうする？ ・いろんな学習モデルを体験してみよう！！～乳がんモデル、ストマモデルなど
第4回	8月22日 (日)		③助産／母性・小児看護学実習室（M303） ・赤ちゃんを抱っこしてみよう！～あなた！赤ちゃんを抱っこしたことは？ ・妊婦体験にチャレンジ！えっちょっと早すぎる？ ・新生児バイタルサイン測定 ④精神・地域・在宅・老年看護学実習室（M305） ・50年後を体験してみよう！ ・やってみよう！食事バランスチェック ・性格テストをやってみよう。

表10. 看護学部オープンキャンパス・プログラム内容（平成23年度）

回	月 日	テ ー マ	看護学部プログラム内容
第1回	8月6日 (土)	「ひと足お先に 兵庫医療大生！」	1. 看護学部ガイダンス（看護学部の教育目標、特徴、教育課程について説明） 2. 教員個別相談（入試、大学生活、実習、卒業後の進路等について個別相談） 3. 在学生交流（受験や大学生活などについて個別相談） 4. キャンパスツアー 5. 実習室見学・実習体験
第2回	8月7日 (日)		①基礎看護学実習室（M302） ・聴診器を使ってみよう ・点滴の準備をしてみよう ・ユニフォームを着てみよう
第3回	8月20日 (土)		②成人看護学実習室（M301） ・痰の吸引に挑戦してみよう ・片麻痺のある患者さんの援助～安全・安楽に移動するにはどうしたらいいの？
第4回	8月21日 (日)		③助産／母性・小児看護学実習室（M303） ・赤ちゃんを抱っこしてみよう！～あなた！赤ちゃんを抱っこしたことは？ ・妊婦体験にチャレンジ！えっちょっと早すぎる？ ④精神・地域・在宅・老年看護学実習室（M305） ・50年後を体験してみよう！ ・やってみよう！食事バランスチェック ・性格テストをやってみよう！

表11. 平成22年度高等学校校内ガイダンス・模擬授業の実施状況

	高 校 名	実 施 日	種 別
1	兵庫県立姫路南高等学校	5月27日	2年生／学部学科分野理解
2	三田松聖高等学校	6月1日	1年生／看護・医療系
3	神戸常盤女子高等学校	6月23日	2年生／模擬授業
4	兵庫県立星陵高等学校	6月23日	3年生／学部学科分野理解
5	大阪府立池田高等学校	6月24日	2年生／学部学科分野理解
6	兵庫県立伊丹高等学校	7月12日	1年生／学部学科分野理解
7	大阪府立今宮高等学校	7月22日	2年生／学部学科分野理解
8	兵庫県立伊川谷高等学校	9月6日	2年生／学部学科分野理解
9	兵庫県立三木東高等学校	10月27日	2年生／学部学科分野理解
10	兵庫県立加古川西高等学校	11月11日	2年生／学部学科分野理解
11	兵庫県立明石城西高等学校	11月18日	1年生／学部学科分野理解
12	兵庫県立高砂南高等学校	3月4日	1年生／学部学科分野理解
13	兵庫県立明石南高等学校	3月8日	1・2年生／学部学科分野理解
14	兵庫県立西脇高等学校	3月10日	2年生／学部学科分野理解

表12. 平成23年度高等学校校内ガイダンス・模擬授業の実施状況

	高 校 名	実 施 日	種 別
1	大阪府立箕面高等学校	6月2日	2年生／学部学科分野理解
2	兵庫県立加古川西高等学校	7月8日	2年生／学部学科分野理解
3	兵庫県立明石南高等学校	7月15日	2年生／学部学科分野理解
4	兵庫県立三木北高等学校	7月19日	2年生／学部学科分野理解
5	西宮市立西宮東高等学校	10月5日	1・2年生／学部学科分野理解
6	兵庫県立神戸甲北高等学校	10月12日	1年生／模擬授業
7	大阪府立千里高等学校	10月13日	1年生／学部学科分野理解
8	姫路市立姫路高等学校	10月27日	2年生／模擬授業
9	兵庫県立姫路南高等学校	11月10日	2年生／学部学科分野理解
10	兵庫県立星陵高等学校	11月25日	1・2年生／学部学科分野理解
11	兵庫県立伊丹高等学校	12月19日	2年生／学部学科分野理解
12	兵庫県立明石西高等学校	1月18日	1年生／学部学科分野理解
13	兵庫県立高砂南高等学校	2月20日	1年生／学部学科分野理解
14	兵庫県立明石南高等学校	3月7日	1年生／学部学科分野理解

表13. 平成22年度見学会実施状況

実 施 日	高 校 名
6月25日（金）	武庫荘総合高等学校
7月29日（木）	兵庫県社高等学校
10月22日（金）	兵庫県立高砂高等学校
10月26日（火）	兵庫県立伊丹北高等学校
12月16日（木）	仁川学院高等学校
12月16日（木）	神戸龍谷高等学校
12月17日（金）	大阪高等学校
3月23日（水）	帝塚山学院高等学校

表14. 平成23年度見学会実施状況

実 施 日	高 校 名
7月25日（月）	兵庫県立社高等学校
10月25日（火）	兵庫県立伊丹北高等学校
12月14日（水）	神戸市立神港高等学校

(3) 学士課程入門チュートリアル

平成21年度から「学士課程入門チュートリアル」の授業科目を初年次教育の一環として位置づけ継続して実施している（表15に示す）。この科目は、単位化されておらず時間外を使って実施しているが、学生の出席率は概ね良好で「作文とレポートの違いや大学と高校での学び方が良くわかった」「学びを今後の課題に活かしていきたい」など毎年肯定的な意見があがっている。これまでの実績を踏まえて、平成24年度より単位化を検討している。

表15. 学士課程入門チュートリアル実施状況

年 度	目 的	回数	参加状況
平成22年度 (4～5月)	〈目的〉 大学での学び方が理解でき、主体的に学ぶ姿勢を身につけることができる。 〈方法〉 1グループ学生7～8名とし、各グループにチュート教員2名を配置。学生が主体となって行うグループディスカッション。 チュートリアル終了後、学生は目標達成度を自己評価し、個別に教員からフィードバックを受ける。	7	学生109人 (3回以上欠席5人)
平成23年度 (4～6月)	〈目的〉 大学での学び方及び作文とレポート・論文との違いを理解でき、適切なレポートが作成できるようになる。 〈方法〉 平成22年度と同様	5	学生107人 (3回以上欠席1人)

(4) 国家試験研究会

[平成22年度]

看護学部における国家試験研究会では、看護師・保健師・助産師の国家試験の合格率100%を目指し、教員部会及び学生部会がともに連携し活動している。平成22年度は初めて国家試験を受験することもあり、学生部会員が中心となって国家試験までの具体的な目標設定と計画を立案し、5月には第4学年次生全員に周知して目標を共有した。

具体的な対策として、模擬試験や外部講師による特別講座、共通教育センターの教員による補講を実施している。また、教育部会が学習を強化する必要がある学生、学習方法に不安を抱いている学生、等を対象としたグループ面談及び個別面談を実施した。その結果、第1期生国家試験受験結果は、看護師100%、保健師82.3%、助産師100%という高い合格率を得ることができた。

[平成23年度]

前年度の国家試験結果と1期生からの助言を受けて、前年度活動内容に加え保健師の擬試験回数を増やした。国家試験学習が本格的になる10月に、第1期国家試験研究部会の卒業生を招いて情報交換会を開催した。補講の企画では、学生部会が中心となって苦手分野の抽出を行うとともに他学部教員の協力を得て開講した。また、既卒者へのサポートとしては、模擬試験や特別講座、国家試験の受験手続などの案内を行っている。

第2期生国家試験合格率は、看護師98.9%、保健師94.7%、助産師87.5%であった。全員合格とは至らなかったが、保健師国家試験は前年度よりも高く、総合的に高い水準を維持している。既卒者の保健師国試受験者10名のうち5名が合格した。今後の国試対策については、2回の試験結果を踏まえて課題の再検討を行い、教員部会と学生部会の連携を密にして進めて行く。

(5) ブランディングワーキンググループ

平成22・23年度にブランディングに関するアンケート調査を実施した。調査内容は、学部の社会的評価、本学で育まれる人間性・一般教養・看護専門性、本学に対する思いなど70項目である。

平成22年度は、在學生と看護学部教員を対象とし、23年度には前年度と同様の内容で本学卒業生も対象に加え実施している。その結果、学生の約7割が「本学に通っていることを誇りに思う」「卒業後も本学の役に立ちたい」と回答している。また8割が「卒業時到達目標に向かっている」「対象者の価値観を受け止められる」と回答している。

本学が目指しているチーム医療への理解については、学生の7割、教員の8割が「チーム医療におけるそれぞれの専門性を理解できる」と答えており、2回のアンケート調査ともほぼ同様の回答を得ている。

卒業生からは、「卒業後も研究など学びの機会をつくってもらえることを期待する」との声があった。調査結果から、在學生が自学自習できる教員の関わり、卒業生と本学との関係構築など課題が明確になり、今後、それらの課題達成に向けた取り組みを進める。

(6) 国際交流（デンマーク研修）

兵庫医療大学欧州研修は、デンマーク王国における医療・福祉・教育の実際を知り、日本の医療・福祉の現状を見つめなおすとともに、グローバルな視野を養うことを目的として毎年実施している。

研修先については、日欧文化交流学院を拠点に重度身体障害者入居施設や高齢者施設、Middelfart 病院精神病棟認知症対策班、州立病院、幼稚園、看護大学等の施設を主としている。研修前に知識を深めるため、日本・デンマークの産業、文化、医療・福祉・教育制度について学習会を開催、また、研修後には報告会を実施している。

第4回欧州研修（平成23年3月14～24日）は、初めて2学部合同での研修となった。看護学部第1学年次生3名、2年次生4名、リハビリテーション学部の理学療法学科2年次生4名、作業療法学科1年次生1名、2年次生3名の15名が参加し、看護学部の教員2名が引率している。第4回研修では、トレーニングセンターの見学や理学療法士の講話の企画を追加し、職種の異なる立場から両国における医療・福祉について考える機会となった。

第5回欧州研修（平成24年3月12～23日）では、看護学部第1学年次生2名、2年次生8名、3年次生4名の14名が参加、看護学部教員2名が引率している。第5回研修では、従来の研修施設に加え、精神疾患があり犯罪を起こした患者が入院しているオーデンセ大学病院（1,358床）の触発精神科を訪問している。デンマークの医療現場で行われているチーム医療の実際や看護が果たす役割等について学ぶ機会とした。

(7) 進路状況

平成22年度卒業生114名（第1期生）の進路については、就職者109名、進学2名、その他3名であった。また平成23年度卒業生94名（第2期生）は、就職者は91名、その他3名であった。就職状況については表16に示す。

表16. 看護学部看護学科卒業生の就職状況

	大学病院	公立病院	民間病院	公務員	合計
第1期生	76名	22名	10名	1名	109名
第2期生	71名	5名	15名	—	91名

3) リハビリテーション学部

i) リハビリテーション学部の推移と今後の方針

これまで、リハビリテーションは、傷病に伴う心身の障害、あるいは生まれながらにして障害を負う人々に対し、その障害の軽減に努めるとともに、残された機能・能力を最大限に発揮させながら、家庭や職場などにおける社会生活が営めるよう導いてきた。

人口の少子・高齢化や慢性疾患増加に伴う疾病構造の変化などにより、リハビリテーションが担う役割は、健康増進から障害の予防と治療にまで至り、より質の高い生活を推進するために大きな期待が寄せられている。そこで、障害の予防や急性期における早期リハビリテーション、在宅を主とした地域密着型のケアなど、多種多様できめ細やかなリハビリテーションが必要となってきた。

すなわち、リハビリテーションを必要とされる方々は患者や高齢者のみならず、非常に多様であるので、リハビリテーションを行うに当たっても、医学的、教育的、社会的、職業的なさまざまなアプローチが必要である。そのためには、理学療法士、作業療法士、医師、看護師、薬剤師などさまざまな医療専門職者が協力して行う総合リハビリテーションが重要である（図1.）。

本学では、開学以来、大学内ではリハビリテーション学部、薬学部、看護学部と合同でチュートリアル教育を行い、また、同じ法人で医師を育成する兵庫医科大学とも合同チュートリアル教育を行い、学生のうちから医療専門職者が協力して行うことの重要性を認識させる教育を行っている。

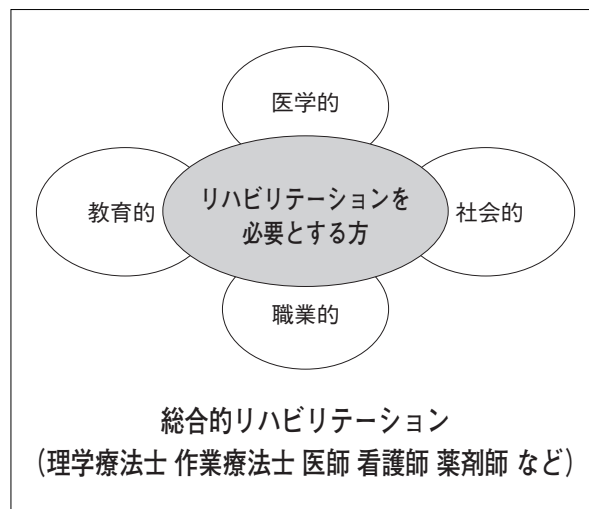


図1. 総合リハビリテーションのアプローチ

平成19年4月に開学して以来、22年度には完成年度を迎えて4学年がそろい、第1期生が卒業した。また、平成23年度には第2期生が卒業し、本学の伝統が築かれつつある。学内での講義や実習及び学外での実習など、種々のカリキュラムも滞りなく進行して充実した大学教育ができています。

そこで今一度、本学の建学の精神及び本学部の教育理念、教育目的、教育目標に基づき、リハビリテーション学部のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを具体的に再検討し、ホームページなど種々の広報媒体で広く周知している。

表1. リハビリテーション学部のポリシー

<p>リハビリテーション学部アドミッションポリシー</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医学・健康科学を学びたい学生 2. 医療や保健、福祉の分野に貢献したい学生 3. 人の身体活動や精神・心理に興味がある学生 4. 人とのコミュニケーションを大切にする学生 5. 基本的なスタディースキルを有する学生 6. 様々な課題に対して前向きで柔軟に取り組むことができる学生 7. 地域社会や国際社会において障がい者等の支援や援助に関心のある学生
<p>リハビリテーション学部カリキュラムポリシー</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションを実践するために必要な医学、医療、保健、福祉、行政などに関する知識の修得。 2. 人の身体的機能や精神心理、行動を深く理解できる幅広い教養の修得と心豊かな人格の育成。 3. 効果的なリハビリテーションの実践に必要な専門知識と確かな技術の修得。 4. リハビリテーションの実践にあたって生じる種々の課題に対して柔軟に対応・解決できる能力の修得。 5. チーム医療を担う一員として、様々な医療専門職者の役割の理解と円滑なコミュニケーションをもって連携・協力できる実践力の修得。 6. 医療の高度化や多様化に対応して、チーム医療を担う一員として関連分野と連携できる知識や技能の修得。 7. 先駆的な教育や研究へ展開できるための知識や能力の修得。 8. 生涯にわたって自己を練成できる能力の修得。 9. 多様な文化や価値観を理解し、地域的・国際的感覚および豊かな人間性の涵養。 10. 地域社会において、医療や福祉、教育など多様なニーズに応えることが出来る能力の修得。 11. 地域社会や国際社会において医療や福祉、教育などの分野でリーダーシップを発揮できる知識の修得と人間性の育成。
<p>リハビリテーション学部デプロマポリシー</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本学部の規定のカリキュラムを修了する。 2. リハビリテーションを実践するために必要な医学、医療、保健、福祉、行政などの知識を修得し、人の身体的機能や精神心理・行動を深く理解する。 3. 効果的なリハビリテーションの実践に必要な専門知識と確かな技術を修得し、リハビリテーションの実践にあたって生じる種々の課題に対して柔軟に対応・解決できる能力を修得する。 4. チーム医療を担う一員として、様々な医療専門職者の役割や専門性を理解し、円滑なコミュニケーションをとって連携・協力できる総合的実践力を修得する。 5. 先駆的な研究・教育を展開できるための知識・技能および生涯にわたって自己を練成できる能力を修得する。 6. 地域社会において、医療や福祉、教育など多様なニーズに応えることが出来る能力を修得する。 7. 多様な文化や価値観を理解し、国際的感覚及び豊かな人間性を備え、人々の幸福と共生に奉仕する精神をもって行動する人間力を身に付ける。

ii) 事業計画の進捗状況

平成22年度には第1期生、23年度には2期生が無事卒業し医療現場へ送り出すことができた。また、新設大学の重要な課題として「学生数の確保」と「教育の充実」に教職員一同取り組んできた。

理学療法学科及び作業療法学科では、魅力ある大学を目指して特色ある科目を開講し、学生が学習しやすい環境を整備するなど支援してきた。また、同一法人の兵庫医科大学及び附属病院の特色を活かし診療に直結した理学療法士及び作業療法士の育成を行ってきた。

実際に卒業生が理学療法士や作業療法士として活躍するためには、国家試験に合格し、希望する病院や施設に就職できることが重要で、国家試験の高合格率や優良な就職先の確保は受験生にとっても非常に魅力あることである。高校進路指導教員説明会、高校訪問等による高校生へのガイダンスやオープンキャンパスなどを通じて広く周知することにより、本学への受験生を増やす方向にも作用している。現在、これらの活動が成果を挙げてお互いに良い方向に働いていると考える。

iii) 学部教育組織

教員の専門分野と着任状況を表1～2に示す。

リハビリテーション学部長：藤岡 宏幸
理学療法学科長：藤岡 宏幸
作業療法学科長：山崎 せつ子

表2. 理学療法学科教員一覧

職 位	氏 名	専 門 分 野	着 任 日
教 授	藤岡 宏幸	整形外科学	平成23年1月1日
教 授	P.D.Andrew	運動学	平成19年4月1日
教 授	川口浩太郎	運動器理学療法学・スポーツ理学療法学	平成19年4月1日
教 授	玉木 彰	内部障害理学療法学	平成23年4月1日
教 授	日高 正巳	地域理学療法学	平成19年4月1日
教 授	野崎 園子	神経内科学	平成20年4月1日
講 師	坂口 顕	物理療法学	平成19年4月1日
講 師	山田 哲	バイオメカニクス学	平成20年4月1日
講 師	香川 真二	義肢装具学	平成20年4月1日
講 師	森 明子	臨床運動学	平成21年4月1日
講 師	森沢 知之	内部障害理学療法学	平成21年4月1日

表3. 作業療法学科教員一覧

職 位	氏 名	専 門 分 野	着 任 日
教 授	土肥 信之	リハビリテーション医学	平成19年4月1日
教 授	山崎せつ子	身体障害作業療法学	平成20年4月1日
教 授	山田 大豪	精神障害作業療法学	平成19年4月1日
教 授	松井 徳造	精神医学	平成23年10月1日
准 教 授	伊藤 斉子	発達障害作業療法学	平成19年4月1日
准 教 授	稲富 宏之	精神障害作業療法学	平成20年4月1日
講 師	有吉 正則	発達障害作業療法学	平成19年4月1日
講 師	櫛辺 勇	身体障害作業療法学	平成19年4月1日
講 師	佐野 恭子	身体障害作業療法学	平成20年4月1日
講 師	坂本 浩	日常生活援助・精神障害作業療法学	平成21年4月1日
講 師	坂本 利恵	老年期障害作業療法学	平成21年4月1日
助 手	奥谷 研	精神障害作業療法学	平成21年4月1日

iv) 学生の受け入れ

(1) 理学療法学科

① 学生募集の状況

理学療法学科では、平成23年度入試より推薦入学試験、一般入学試験（前期 A 日程）、一般入学試験（後期日程）、及び大学入試センター試験利用入試を新規に導入した。平成24年度の定員は、推薦入学試験理学療法学科10名、一般入学試験（前期 A 日程）約25名、一般入学試験（後期日程）理学療法学科若干名、大学入試センター試験利用（前期日程）2名である。

②入学者選抜の状況

推薦入学試験の試験科目は、外国語、小論文、調査書（高等学校長が発行する調査書の国語・外国語・数学・理科の評定平均をそれぞれ5倍）である。一般入学試験前期 A 日程の試験科目は、外国語、数学、理科（化学または生物）である。また、後期日程の試験科目は外国語、小論文、理科（化学または生物）である。大学入学センター試験利用入試の試験科目は、外国語、国語、数学、理科（化学、生物、物理）のうち3教科である。平成24年度受験者数は推薦入学試験では77名（平成23年度100名で前年度比－23.0%）、一般入学試験前期 A 日程では213名（平成23年度229名で前年度比－7.0%）、一般入学試験後期日程は、26名（平成23年度43名で前年度比－39.6%）、大学入試センター利用入試（前期日程）は50名（平成23年度63名で前年比－20.7%）であった。

出身地別の出願者数については、兵庫県が述べ236名（63.3%）、大阪府が56名（15.1%）で近隣府県からの受験であり、ほぼ例年の通りの傾向であった。

③在籍者の状況

平成23年度末の在籍者数は、176名である。そのうち、平成22年度の入学生は50名、23年度の入学生は46名である。

(2) 作業療法学科

①学生募集の状況

作業療法学科では、推薦入学試験、一般入学試験前期 A 日程・B 日程及び一般入学試験後期日程、平成23年度入試より大学入試センター試験利用入試を新規に導入した。定員は推薦入学試験15名、一般入学試験前期 A 日程約12名、前期 B 日程 8 名、一般入学試験後期日程若干名、大学入試センター試験利用（前期日程）2 名である。

②入学者選抜の状況

推薦入学試験の試験科目は、外国語、小論文、調査書（高等学校長が発行する調査書の国語・外国語・数学・理科の評定平均をそれぞれ5倍）である。一般入学試験前期 A 日程の試験科目は、外国語、国語、理科（化学又は生物）、前期 B 日程は外国語、数学、理科（化学又は生物）、後期日程は外国語、小論文、理科（化学又は生物）である。

大学入学センター試験利用入試の試験科目は、外国語、国語、数学の3教科である。平成24年度の受験者数は、推薦入学試験では32名（前年度比－36.0%）、一般入学試験前期 A 日程45名（前年度比－23.8%）、一般入学試験前期 B 日程54名（前年度比－6.9%）、一般入学試験後期日程 8 名（前年度比－42.9%）、大学入試センター利用入試（前期日程）は13名（前年度比－35.0%）である。

出身地別の出願者数については、兵庫県が述べ93名（60.8%）、大阪府が33名（21.6%）で近隣県からの受験者が主であり、ほぼ例年の通りの傾向であった。

③在籍者の状況

平成23年度末の在籍者数は185名である。そのうち、平成22年度の入学生は50名、23年度の入学生は45名である。

v) 教育活動

(1) 理学療法学科

①特色ある科目

理学療法学科では、運動器系、神経系、内部障害系に関する理学療法科目をコア科目とし、

学生が評価から治療まで系統的に学ぶことができるよう科目配置を行っている。

②進級状況

平成22年度は初めて卒業生を送り出した年であるが、第4学年次の学生40名が無事に卒業した。平成22年度の留年者は、第3学年次2名（休学による留年）、第2学年次1名（休学による留年）、第1学年次2名であった。また、退学者は、第2学年次1名、第1学年次2名で、いずれも進路再考によるものであった。

平成23年度の留年者については、第4学年次3名、第3学年次3名（休学による留年1名を含む）、第2学年次3名であり、第1学年次での留年はいなかった。第4学年次での留年者は、総合臨床実習で単位を修得することができなかった学生である。また、退学者は、第3学年次1名、第2学年次3名、第1学年次2名で、いずれも進路再考によるものであった。平成22・23年度の学生数を表4～5に示す。

③学生支援

休学者、退学者については、休学、退学前に学生本人、保護者と教員が密な連絡を取り対応した。同学年に留まった学生に対しては、担任が面接を行い、学習指導を行った。

臨床実習で単位を修得できなかった学生に対しては、知識面の補充のみならず、技術面、実習態度についても指導を行った。

④授業評価

講義系科目について、それぞれの科目で科目担当責任者、学生双方から授業評価を行った。科目担当責任者はその結果を基に授業内容の振り返りを行い、よりよい授業を提供できるよう授業内容の見直しを含めて改善を行った。

(2) 作業療法学科

①特色ある科目

作業療法学科のカリキュラムは、基本的には、作業療法の主領域である発達領域、精神領域、身体領域、老年期領域に関して、指定規則を軸として、基礎学問、評価、治療と系統的に構成されているが、さらに、1年次には幅広い知識を習得させるための教養科目を、4年次には専門性を発展させる能力を修得させる科目「卒業研究」を配した。また、学生の作業療法に対する興味を広め深めることを目的として、各教員の専門性を生かし、多様な臨床系科目を配した。

②進級状況

平成22年度については、退学生2名（第1学年次）、原級に留まった学生（留年生）10名（第2学年次4名、第3学年次3名、第4学年次3名）であった。退学の理由は、進路の再考であった。平成23年度では、退学生6名（第1学年次1名、第2学年次1名、第3学年次3名、第4学年次1名）、原級に留まった学生10名（第1学年次2名、第2学年次3名、第3学年次3名、第4学年次2名）であった。

平成23年度における退学の理由は進路再考が主であるが、経済的な理由の場合もあった。平成22・23年度の学生数を表4・5に示す。

③学生支援

各学年2名の担任制を敷き、年1～2回の個人面談を全学生と行うことを基本とした。何らかの躓きをもちながら大学生活を送っている学生に関しては、個別に、必要に応じて、学科長、担任教員を始め適切な教員が対応した。進級や進路変更等に関する問題の場合は、学生のみならず保護者の方とも密に連絡をとった。休学生に関しては、学生個人の事情を考慮しながらも可能な限り定期的に連絡を取り合い、学生の本学への所属感を維持し、復学時の抵抗感や休学

中に生じるギャップを極力減少させるように計らった。

平成23年度は、原則として毎週行われる学科教員ミーティングにおいて、各教員の得た学生情報を共有し合うことで、学科教員全員が学生の事情を考慮しながら適切に対応できるようにした。

④授業評価

講義系科目について、それぞれの科目で科目担当責任者、学生双方から授業評価を行った。科目担当責任者はその結果を基に授業内容の振り返りを行い、よりよい授業を提供できるよう授業内容の見直しを含めて改善を行った。

表 4. 平成22年度 リハビリテーション学部 学生数 (平成22年 5 月 1 日現在)

学部・学科	学年	学 生 数	進級者・卒業者	留 年 者	退 学 者
リハビリテーション学部 (理学療法学科)	1	53	49	2	2
	2	46	44	1	1
	3	36	34	2	0
	4	40	40	0	0
リハビリテーション学部 (作業療法学科)	1	48	46	0	2
	2	51	47	4	0
	3	40	37	3	0
	4	39	36	3	0

表 5. 平成23年度リハビリテーション学部 学生数 (平成23年 5 月 1 日現在)

学部・学科	学年	学 生 数	進級者・卒業者	留 年 者	退 学 者
リハビリテーション学部 (理学療法学科)	1	46	45	0	1
	2	50	44	3	3
	3	46	43	2	1
	4	34	31	3	0
リハビリテーション学部 (作業療法学科)	1	45	42	2	1
	2	50	46	3	1
	3	50	44	3	3
	4	40	37	2	1

vi) 国家試験合格率

国家試験に対する支援体制として、平成22年 9 月から小グループによる学習体制を整え、学部教員による集中講義の実施や全国模擬試験（年 4 回）、定期的な小テストによる学習状況の確認及び、学習が伸び悩む学生に対しては学生に合わせた補習を行い、国家試験に備えた。さらに、平成23年度には、既卒者に対しても同じ内容の支援を実施している（表 6～8）。

表 6. 理学療法学科国家試験合格率

年 度	全 体			新 卒			既 卒		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
平成22年度	40	38	95.0%	40	38	95.0%	—	—	—
平成23年度	33	33	100.0%	31	31	100.0%	2	2	100.0%

表 7. 作業療法学科国家試験合格率

年 度	全 体			新 卒			既 卒		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
平成22年度	36	38	95.0%	36	34	94.4%	—	—	—
平成23年度	33	33	100.0%	37	35	94.6%	2	2	100.0%

vii) 学生の進路

(1) 理学療法学科

平成22年度卒業生（第1期生）40名、同23年度卒業生（第2期生）31名が就職した。就職内定率は両年度とも100%であった。卒業生の地域別就職先内訳を表8に示す。

表 8. 理学療法学科地域別就職先

	兵 庫 県	大 阪 府	京 都 府	岡 山 県	そ の 他	合 計
第1期生	23	7	6	2	2	40
第2期生	17	10	0	2	2	31

(2) 作業療法学科

平成22年度卒業生（第1期生）35名、23年度卒業生（第2期生）35名が就職した。就職内定率は両年度とも100%であった。卒業生の地域別及び領域別内訳を表9～10に示す。

表 9. 作業療法学科地域別就職先

	兵 庫 県	大 阪 府	京 都 府	岡 山 県	そ の 他	合 計
第1期生	26	5	2	1	1	35
第2期生	24	8	2	0	1	35

表10. 作業療法領域地域別就職先

	身体障害	精神障害	老年期障害・地域	発達障害	そ の 他	合 計
第1期生	26	5	3	0	1	35
第2期生	31	4	0	0	0	35

viii) 広報活動

平成22年度は29校、23年度では31校の高等学校に対して、リハビリテーション学部教員による校内ガイダンスや模擬授業を実施している（表11～12）。また、平成22年度、23年度とも1・2年生を対象とした、職業理解とリハビリテーション分野における専門性の早期理解を目的とした活動が増加傾向を示している。

さらに、リハビリテーション学部では、平成22・23年度とも本学の実習室などを会場として、理学療法・作業療法に関するガイダンス、体験実習、模擬講義などの機会を提供している（表13～14）。特に、高大連携活動の一環とした連携講座は、平成22年度の兵庫県立伊丹西高等学校の2年生を対象に開始した連携講座に加え、平成23年度には兵庫県立東灘高等学校の2年生を対象に開始するなど対象学年と対象校の拡大がみられる。

本講座は、高校生活における学習意欲の向上や将来の目標設定への一助になるものと期待される。今後についても、対象学年の拡大や講義内容の充実を図りながら継続し開催する予定としている。

表11. 平成22年度校内ガイダンス・模擬授業等一覧

	高 校 名	実 施 日	種 別
1	兵庫県立加古川北高等学校	5月26日（水）	1年生/リハビリテーション分野別
2	兵庫県立加古川南高等学校	6月24日（木）	2年生/リハビリテーション分野別
3	大阪府立市岡高等学校	6月24日（木）	2年生/リハビリテーション分野別
4	兵庫県立御影高等学校	7月8日（水）	1年生/リハビリテーション分野別
5	兵庫県立須磨友が丘高等学校	7月8日（水）	2年生/リハビリテーション分野別
6	兵庫県立神戸高塚高等学校	7月13日（火）	3年生/リハビリテーション分野別
7	兵庫県立篠山鳳鳴高等学校	7月14日（水）	模擬授業/2年生/リハビリテーション分野別
8	兵庫県立宝塚高等学校	7月15日（木）	1年生/職業理解
9	大阪府立三島高等学校	7月15日（木）	2年生/リハビリテーション分野別
10	兵庫県立伊川谷北高等学校	7月16日（金）	学校別
11	兵庫県立西宮高等学校	9月22日（水）	1年生/リハビリテーション分野別
12	兵庫県立柏原高等学校	9月30日（木）	3年生/2年生/1年生/リハビリテーション分野別
13	兵庫県立加古川北高等学校	10月6日（水）	1年生/リハビリテーション分野別
14	仁川学院高等学校	10月18日（月）	1年生/リハビリテーション分野別
15	兵庫県立川西緑台高等学校	10月21日（木）	2年生/リハビリテーション分野別
16	兵庫県立姫路西高等学校	10月23日（土）	2年生/1年生/職業理解
17	園田学園高等学校	10月29日（金）	2年生/リハビリテーション分野別
18	兵庫県立高砂南高等学校	11月5日（金）	2年生/リハビリテーション分野別
19	兵庫県立赤穂高等学校	11月16日（火）	2年生/リハビリテーション分野別
20	姫路市立琴丘高等学校	11月16日（火）	模擬授業/2年生/1年生/リハビリテーション分野別
21	兵庫県立高砂南高等学校	11月22日（月）	1年生/リハビリテーション分野別
22	兵庫県立高砂高等学校	12月14日（火）	2年生/リハビリテーション分野別
23	神戸龍谷高等学校	12月15日（水）	1年生/リハビリテーション分野別
24	兵庫県立三田西陵高等学校	12月15日（水）	2年生/リハビリテーション分野別
25	兵庫県立加古川北高等学校	12月15日（水）	2年生/リハビリテーション分野別
26	兵庫県立三田西陵高等学校	1月25日（火）	1年生/リハビリテーション分野別
27	兵庫県立高砂南高等学校	2月21日（月）	模擬授業/1年生
28	兵庫県立西脇高等学校	3月10日（木）	2年生/リハビリテーション分野別
29	兵庫県立明石西高等学校	3月10日（木）	2年生/リハビリテーション分野別

表12. 平成23年度校内ガイダンス・模擬授業等一覧

	高 校 名	実 施 日	種 別
1	西宮市立西宮高等学校	5月5日（月）	3年生/リハビリテーション分野別
2	兵庫県立東播磨高等学校	6月6日（月）	1年生/職業理解
3	神戸学院大学附属高等学校	6月15日（水）	1年生/職業理解
4	兵庫県立尼崎北高等学校	7月11日（月）	1年生/リハビリテーション分野別
5	兵庫県立鳴尾高等学校	7月12日（火）	1年生/リハビリテーション分野別
6	兵庫県立尼崎小田高等学校	7月13日（水）	1年生/リハビリテーション分野別
7	兵庫県立舞子高等学校	7月13日（水）	1年生/リハビリテーション分野別
8	大阪府立三島高等学校	7月14日（木）	2年生/リハビリテーション分野別
9	大阪府立高等学校	8月30日（火）	3年生/職業理解

	高 校 名	実 施 日	種 別
10	西宮市立西宮高等学校	9月1日（木）	模擬授業/2年生
11	兵庫県立尼崎稲園高等学校	9月26日（月）	1年生/リハビリテーション分野別
12	大阪府立泉陽高等学校	9月26日（月）	2年生/リハビリテーション分野別
13	伊丹市立伊丹高等学校	9月28日（水）	1年生/リハビリテーション分野別
14	兵庫県立神戸甲北高等学校	10月12日（水）	模擬授業/1年生
15	大阪府立旭高等学校	10月27日（木）	模擬授業/2年生
16	兵庫県立明石城西高等学校	11月17日（木）	1年生/リハビリテーション分野別
17	姫路市立琴丘高等学校	11月22日（火）	2年生/1年生/リハビリテーション分野別
18	兵庫県立高砂南高等学校	11月28日（月）	1年生/リハビリテーション分野別
19	兵庫県立三田西陵高等学校	12月13日（火）	2年生/リハビリテーション分野別
20	兵庫県立伊川谷北高等学校	12月15日（木）	2年生/リハビリテーション分野別
21	兵庫県立香寺高等学校	12月19日（月）	2年生/リハビリテーション分野別
22	兵庫県立淡路三原高等学校	12月19日（月）	2年生/リハビリテーション分野別
23	兵庫県立明石北高等学校	1月19日（木）	1年生/リハビリテーション分野別
24	兵庫県立神戸鈴蘭台高等学校	1月25日（水）	1年生/リハビリテーション分野別
25	兵庫県立篠山鳳鳴高等学校	2月8日（水）	1年生/リハビリテーション分野別
26	神戸学院大学附属高等学校	2月22日（水）	模擬授業/2年生/リハビリテーション分野別
27	兵庫県立福崎高等学校	3月7日（水）	2年生/リハビリテーション分野別
28	兵庫県立明石南高等学校	3月7日（水）	1年生/リハビリテーション分野別
29	兵庫県立明石清水高等学校	3月7日（水）	模擬授業/2年生/1年生/リハビリテーション分野別
30	兵庫県立三田西陵高等学校	3月8日（木）	模擬授業/2年生
31	兵庫県立西脇高等学校	3月8日（木）	2年生/リハビリテーション分野別

表13. 平成22年度高大連携活動・体験実習等一覧

	高 校 名	実 施 日	種 別
1	兵庫県立伊丹西高等学校	10月19日（火）	1年生/リハビリテーション分野別/高大連携
2	兵庫県立高砂南高校	10月28日（木）	1年生/施設見学(学校説明含む)/体験実習
3	兵庫県立伊丹西高等学校	11月2日（火）	2年生/リハビリテーション分野別/高大連携
4	神戸市立神港高等学校	12月16日（木）	2年生/施設見学(学校説明含む)/体験実習
5	大阪高等学校	12月17日（金）	2年生/施設見学(学校説明含む)/体験実習
6	兵庫県立加古川南高等学校	12月21日（火）	2年生/施設見学(学校説明含む)/体験実習
7	帝塚山学院高等学校	3月23日（水）	1年生/施設見学(学校説明含む)/体験実習

表14. 平成23年度高大連携活動・体験実習等一覧

	高 校 名	実 施 日	種 別
1	兵庫県立伊丹西高等学校	5月12日（木）	1年生/リハビリテーション分野別/高大連携
2	兵庫県立東灘高等学校	5月31日（火）	2年生/リハビリテーション分野別/高大連携
3	兵庫県立加古川南高等学校	6月21日（火）	1年生/施設見学(学校説明含む)/体験実習
4	兵庫県立鳴尾高等学校	7月15日（金）	2年生/施設見学(学校説明含む)/体験実習
5	兵庫県立伊丹西高等学校	10月19日（水）	1年生/リハビリテーション分野別/高大連携
6	兵庫県立高砂高等学校	10月21日（金）	1年生/施設見学(学校説明含む)/体験実習
7	兵庫県立伊丹西高等学校	11月8日（火）	2年生/リハビリテーション分野別/高大連携

ix) 研究活動

(1) 研究費の取得状況

①文部科学省科学研究費補助金

リハビリテーション学部における文部科学省科学研究費補助金は、平成22年度では4件、総額4,800,000円、23年度には5件、総額8,400,000円が採択された。詳細についてはⅡ-4-3) 学外研究費の取得一覧(106頁、表1～2参照)に掲載する。

②その他の研究費補助金

平成22年度におけるその他の研究費補助金は、1件、総額100,000円、平成23年度には2件、総額500,000円が採択された。詳細は3)学外研究費の取得一覧(111頁、表5～10参照)に掲載する。

(2) 研究セミナーの活動状況

リハビリテーション学部における教員の教育・研究能力の向上及び情報交換を行い交流を深めるため、研究セミナーを開催し多くの教員が参加している。平成22年度には5回開催し10名で10テーマを発表している。平成23年度では17回開催され18名で17テーマを発表している。詳細はⅡ-4-5) 兵庫医療大学研究セミナーの112頁、表2に掲載する。

4) 共通教育センター

i) 概要

共通教育センターは、薬学部、看護学部、リハビリテーション学部の基礎教育及び一部の専門基礎教育を担当し、また兵庫医科大学医学部との教育連携を図る目的で、また本学の教育の中心的理念であるボーダレス教育を支える部署として開学時に設けられた。平成20～23年度は末廣謙教授がセンター長を務めた。

将来、本学卒業生が医療チームの一員として心の通った医療を提供するためには、個々の患者さんを理解できる人間性、社会人としての常識、そして専門領域以外の医療知識も必要である。また、高度化する医療と複雑化する疾病に対応するために、医療専門職者は担当領域のみならず、幅広い知性を備えることが求められている。こうした素養を身につけるため、自然科学、人文科学、語学、体育など多彩な基礎科目とともに幾つかの専門基礎科目の学びを支えるのが「共通教育センター」の役目である。

さらに、3学部合同又は兵庫医科大学医学部を交えた4学部合同で学ぶ「チーム医療」関連科目及び合同実習・演習のコーディネートなど、本学の特徴である「ボーダレスな教育体制」を整えるのも、共通教育センターの役割である。

ii) 教員組織

平成23年度における教員の氏名、専門分野などの教員一覧を表1に示す。

共通教育センター長：末廣謙教授

表1. 平成22・23年度専任教員一覧

職 位	氏 名	主な担当教科	着任年月日
教 授	末廣 謙	医療科学概論、内科学、疾病治療論、チーム医療論演習	平成19年4月1日
教 授	磯部 孝彦	化学、有機化学、基礎実習	平成19年4月1日
教 授	藤田 幸久	化学、物理化学	平成19年4月1日
教 授	磯 博行	心理学、人間発達学、行動科学	平成19年4月1日
教 授	伊東 久男	生物学、形態機能学、解剖学実習	平成19年4月1日
教 授	秦 正哲	英文読解	平成19年4月1日
准教授	加藤 精一	物理学、情報科学	平成19年4月1日
准教授	紀平 知樹	生命・医療倫理学、哲学、倫理学	平成21年4月1日
講 師	賀屋 光晴	スポーツ健康科学、体育科学理論・実習	平成19年4月1日
講 師	高木 範子	英語発音、英語文法、科学英語	平成19年4月1日

iii) 教育活動

共通教育センターは、全学部の基礎教育科目と一部の専門基礎科目を表1に示した10名の専任教員及び30名以上の非常勤講師によって担当している。また、本センターの教育の特徴はボーダレスな環境、つまり3学部の合同教育を行う点である。

さらに、本学のモットーである「チーム医療」教育を支える中心となっている。チーム医療に関する教育は本学独自のものであり、第1学年次、第2学年次、及び第4学年次において3学部合同で講義・実習などが行われている。以下のその概要を示す。

(1) 医療科学概論

全学部第1学年次を対象に「医療科学概論」を前期に開講している（2単位）。医療科学概論は次の4つの課題から構成している。

①最初に医療概説の講義を8回行う。科目責任者は末廣謙教授であるが、講義は学長、副学長、各学部長を交えたオムニバス方式で行われる。

②さらに学生たちが自ら学ぶことを支援することを目的に3週間を1ユニット（6コマ分）とするチュートリアル教育が2ユニット行われる。8～9名のグループを作り（全40グループ）、オープンカンファレンス室などを活用して毎週金曜の午後の2コマを使って実施している。

第1週目は、リソーサーによる課題の提示と学生による問題点の抽出、チューターの下での討議が行われる。チューターは、議論を見守ることを主とし、討議について評価する。第2週目は、調査とまとめ、第3週目の発表会の準備を行う。

第3週目は、自分たちが調べた内容を全員の前で発表する。発表時間は5分とし、全40グループの発表を行う。その評価は、教員と学生によって行われている。

③夏休み前の1週間、Early Clinical Exposure（ECE：早期臨床体験実習）を兵庫医科大学病院において実施している。この企画は、早期に医療の実際に直接触れ医療者としての自覚を培い、勉学のモチベーションを高めることを目的としている。3学部の学生が学部混合チームに別れ、兵庫医科大学病院の病棟において看護部の指導のもと臨床体験をしている。

本学は、教育の中心となるキーワードは「チーム医療」であり、優れた医療者を育成するためのボーダレスな教育を目指している。このECEはその実践教育の第一歩である。さらに、第1学年次からこのような大規模な臨床体験が可能なのは、兵庫医科大学を母体とした本学ならではの企画である。

体験実習は、病棟実習と病院施設見学を各1日とし、学生を3～4名からなる80グループに分けて4日間で行っている。病棟実習では、学生一人に対して病棟の看護師一人が対応する形式で病棟業務の基本である24時間医療を体験している。

病院施設の見学においては、大学病院中央部門の概略について説明を受けた後、薬剤部及びリハビリテーション部の2部署について、担当職員の指導のもと施設見学を実施している。

兵庫医療大学に入学して初めて白衣を身につけ、3学部合同で病院実習を行ったことで学生たちの今後の勉学への方向付けができると考えている。

④第1学年次の医学部生を後期の授業が始まる直前の時期に医療大学に招いて、2日間に渡って4学部合同チュートリアル（1ユニット分）が行われる。この授業科目の時間的な配分は、第1日目の午前中にリソーサーによる課題の提示と問題点の抽出、午後にはチューター付きの討議が行われる。2日目の午前中にまとめと発表準備、午後には発表会が行なわれている。

(2) チーム医療概論

全学部第2学年次を対象に「チーム医療概論」を後期に開講している（1単位）。授業は講義6回、グループ討議2回からなり、講義は学長及び3学部長、福田ささやま医療センター長などによる。また、グループ討議は6回の講義で学んだチーム医療について討議を行う。

(3) チーム医療論演習

兵庫医療大学全学部第4学年次生と、兵庫医科大学第3学年次生による合同教育科目として「チーム医療論演習」が後期はじめの1週間、兵庫医科大学においてチュートリアル形式で行われる（1単位）。表2はその概要を示している。

- ①参加学生：兵庫医科大学第3学年次及び、兵庫医療大学第4学年次生、約480名
 (全体をA組、B組に分け、8名単位の学部混成チュートリアルグループ60組を編成)
- ②教員参加：チューターは医療大学教員10名、医科大学教員20名(A・B組2回コアタイム担当)、他にリソーサー教員、特別講義担当教員、科目担当教員

iv)「チーム医療演習」合同チュートリアルの概要

「チーム医療演習」合同チュートリアル学生の参加者は、兵庫医療大学第4学年次生及び兵庫医科大学第3学年次生の合計で約480名、全体をA組、B組に2分、学部混成で8名単位の計60組のチュートリアルグループで実施した。

教員：チューターは兵庫医療大学10名、兵庫医科大学20名の計30名(AB2回コアタイム担当)、他にリソーサー教員、特別講義担当教員、科目担当教員などが参加し、兵庫医科大学において実施した。

表1. 平成22年度「チーム医療演習」合同チュートリアル日程

月 日	時 間	実 施 内 容	場 所
9月24日 (金)	9:00	A グループ集合	3-3講義室
	9:30	A グループガイダンス	3-3講義室
	10:00～11:15	A グループコアタイム (チューター配属)	チュートリアル室
	10:30	B グループ集合	3-3講義室
	11:00	B グループガイダンス	3-3講義室
	11:30～12:45	B グループコアタイム (チューター配属)	チュートリアル室
	コアタイム終了後	A・Bとも昼食、自習、発表準備	
9月27日 (月)	9:00	A グループ集合	チュートリアル室
	9:30～10:45	A グループコアタイム (チューター配属)	チュートリアル室
	10:30	B グループ集合	チュートリアル室
	11:00～12:15	B グループコアタイム (チューター配属)	チュートリアル室
	コアタイム終了後	A・Bとも昼食、自習、発表準備	
9月28日 (火)	9:00	A グループ集合	3-3、9-1講義室
	9:30～12:30	A グループチュートリアル発表会 A グループ1 (担当：末廣、成瀬) A グループ2 (担当：鈴木、磯)	3-3講義室 9-1講義室
	13:00	B グループ集合	3-3、9-1講義室
	13:30～16:30	B グループチュートリアル発表会 B グループ1 (担当：末廣、成瀬) B グループ2 (担当：鈴木、磯)	3-3講義室 9-1講義室
9月29日 (水)	9:00	A グループ集合	3-3講義室
	9:30～12:30	A グループ症例講義、全体討議	3-3講義室
	13:00	B グループ集合	3-3講義室
	13:30～16:30	B グループ症例講義、全体討議	3-3講義室
9月30日 (木)		医学部試験	3-3講義室
		薬学部試験	3-3講義室
		看護学部、リハ学部試験	3-3講義室
		特別講義 (チーム医療について) 全体講評、まとめ	平成記念会館 平成記念会館

表 2. 平成23年度「チーム医療演習」合同チュートリアル日程

月 日	時 間	実 施 内 容	場 所
9 月26日 (月)	9:00 9:30 10:00～11:15	A グループ集合 A グループガイダンス A グループコアタイム (チューター配属)	3-3講義室 3-3講義室 チュートリアル室、セミナー室
	10:30 11:00 11:30～12:45	B グループ集合 B グループガイダンス B グループコアタイム (チューター配属)	3-3講義室 3-3講義室 チュートリアル室、セミナー室
	コアタイム終了後	A・Bとも昼食、自習、発表準備	A グループ は 9-1、9-3、9-4、9-5、4-1、4-2講義室 B グループは チュートリアル室、セミナー室
9 月27日 (火)	午前	自習、発表準備、適宜昼食	9-1、9-3、9-4、9-5、4-1、4-2講義室
	午後	特別講義	平成記念会館
9 月28日 (水)	9:00 9:30～10:45	A グループ集合 A グループコアタイム (チューター配属)	チュートリアル室、セミナー室 チュートリアル室、セミナー室
	10:30 11:00～12:15	B グループ集合 B グループコアタイム (チューター配属)	チュートリアル室、セミナー室 チュートリアル室、セミナー室
	コアタイム終了後	A・Bとも昼食、自習、発表準備	3-3、4-2、9-1講義室 チュートリアル室、セミナー室
9 月29日 (木)	9:00 9:30～12:30	午前グループ集合 グループチュートリアル発表会 A1—4、B1—4グループ A9—12、B9—11グループ A16—19、B16—18グループ A23—26、B23—26グループ	3-3講義室:担当 成瀬 4-1講義室:担当 末廣 4-2講義室:担当 磯 9-1講義室:担当 鈴木
	13:00 13:30～16:30	午後グループ集合 グループチュートリアル発表会 A5-8、B5-8グループ A13-15、B12-15グループ A20-22、B19-22グループ A27-30、B27-30グループ	3-3講義室:担当 成瀬 4-1講義室:担当 末廣 4-2講義室:担当 磯 9-1講義室:担当 鈴木
9 月30日 (金)	9:00 9:10～12:00 (適宜休憩)	全グループ集合 症例講義、全体討議 試験解説講義、全体講評、まとめ	平成記念会館
	12:00～13:00	昼食	3-3講義室、4-1講義室、4-2講義室
	13:30～14:00	試験	兵庫医療大学 3 学部 平成記念会館
	14:00～14:30	試験	兵庫医科大学医学部 3-3講義室

v) 研究活動

共通教育センターにおける科学研究費補助金は、平成22年度では1件、総額700,000円が採択された。その他科学技術振興機構受託研究1件、5,382,000円であった。詳細については、Ⅱ-4-3) 学外研究費の取得一覧の項に掲載する(111頁、表7参照)。

vi) 社会貢献の活動状況

表 1. 平成22年度特別講演会及び出前授業

回	開催日	テーマ	講師	参加数
—	7月6日(火)	七夕出前授業(舞鶴市立大浦小学校)	准教授 加藤 精一	—
—	7月7日(水)	七夕出前授業(綾部市立吉美小学校)	准教授 加藤 精一	—
第1回	7月9日(金)	全国同時七夕講演会「みそ汁と太陽」	准教授 加藤 精一	38
—	1月27日(木)	はやぶさ出前授業(舞鶴市立志志楽小学校)	准教授 加藤 精一	—

表 2. 平成23年度ポアイ 4 大学公開講座・特別講演会及び出前授業

回	開催日	テーマ	講師	参加数
第1回	3月5日(土)	水の話 ―生体と水―	教授 藤田 幸久	92
第2回	7月18日(月)	全国同時七夕講演会「七夕の星と天の川」	准教授 加藤 精一	65
—	9月29日(木)	出前授業(舞鶴市立余内小学校)	准教授 加藤 精一	—

vii) その他の活動

平成22年11月7日(日)に、会員数681名の関西心理学会第122回大会が磯博行教授を大会会長として兵庫医療大学において開催した。参加者総数200名あまり。午前・午後の2つの口頭発表セッションでは、延べ50題の講演発表が行われ、本学松田暉学長による「先進医療における心理学の役割」と題する特別講演が行われた。

5) 医療人育成センター

i) 概要

医療人育成センターは、兵庫医療大学3学部学生の兵庫医科大学病院での実習の活動拠点としての機能を果たすとともに、医学部学生の実習支援、臨床研修医・新人看護師の実践能力向上研修及び学外からの看護実習生を受入れ支援を行うなど、学校法人兵庫医科大学における医療人育成への幅広い取り組みを実施している。平成22年度から新たに他大学薬学部学生の実習支援に加え、23年度からは兵庫医療大学大学院生への講義支援を実施している。

なお、本センターでの実習、研修等による年間延べ利用者は毎年増加を傾向を示しており、平成23年度では17,000人を超えている。

ii) 活動支援の内容

①兵庫医療大学・兵庫医科大学連携教育及び学生教育への支援

・早期臨床体験実習、チーム医療演習(チュートリアル教育)、エスコート実習、レベル選択科目アップ、プレクリニカル教育等の指導等を一部担当

②学生実習の支援・調整

③兵庫医科大学病院における臨床研修医、看護師の研修受入れ

④研修等の支援及びセンター見学

- ・シミュレータ貸出 : 246件
- ・相 談 : 33人
- ・見 学 : 255人（看護師募集に係る病院見学者への施設紹介）

iii) 活動実績

表 1. 平成22年度学生実習の支援受入者数

兵庫医療大学		兵庫医科大学		他 大 学	
学 部	延人数	学 部	延人数	学 部	延人数
看 護 学 部	5,011	医 学 部	2,755	武庫川女子大学等 薬 学 部	3,097
リハビリテーション 学部理学療法学科	1,456	—	—	尼崎看護専門学校	484
リハビリテーション 学部作業療法学科	633	—	—	—	—

表 2. 平成23年度学生実習の支援受入者数

兵庫医療大学		兵庫医科大学大学院		兵庫医科大学		他 大 学	
学 部	延人数	研 究 科	延人数	学 部	延人数	学 部	延人数
薬 学 部	2,532	看 護 研 究 科	50	医 学 部	3,467	神 戸 学 院 大 学 薬 学 部	622
看 護 学 部	5,054	医 療 科 学 研 究 科	18	—	—	尼崎看護専門学校	121
リハビリテーション 学部理学療法学科	910	—	—	—	—	—	—
リハビリテーション 学部作業療法学科	276	—	—	—	—	—	—

6) 臨床薬学研修センター

i) 概要

臨床薬学研修センターは、M棟の1階（M-105）と2階（M-205）に位置しており、保険薬局や病院薬局における薬剤師業務を模擬的に演習・実習できるように設置された施設である。

施設の構成は、学生が臨場感をもって臨床現場での薬剤師業務の実習ができるように、室内デザイン、設置機器及びシステムなどに工夫が施されており、調剤はもちろんのこと服薬指導やバイタルチェックなどの実習も可能になっている。

本センターは、実務実習事前学習の実習室として中心的な役割を果たしているほか、第4学年次に受験する全国統一薬学共用試験（OSCE）の試験会場の一部に充てている。さらに、学内のゼミナールや地域の薬剤師関連研修施設としても活用している。施設の主な構成と機能を表1～2に示す。

表 1. M-105臨床薬学研修センター (311㎡)

室 名	主な設備機器・システム等	機 能
服薬指導室 (薬局カウンター)	一般用医薬品陳列棚、薬歴・調剤報酬算定システム 他、	薬局カウンターでの患者対応 の実習
調剤実習室	散剤調剤台(監査システム付)、水剤調剤台、錠剤・ 外用剤調剤台、薬剤監査台、処方オーダーリングシス テム、薬剤一包化システム 他、	計数・計量調剤実習
クリニカルトレーニング室	血圧・採血シミュレーター、バイタルシミュレータ ー、がん化学療法シミュレーター (リクライニング チェア・輸液ポンプ)、視聴覚教育コーナー 他、	薬剤監査・交付実習、バイタ ルサイン実習、視聴覚教育
無菌調製室 (前室、手洗い設備付属)	更衣ロッカー、パスボックス、エアシャワー、クリ ーンベンチ、安全キャビネット 他、	手洗い実習、無菌薬剤(注射 薬)調製実習

表 2. M-205臨床薬学研修センター (311㎡)

室 名	主な設備機器・システム等	機 能
医薬品情報演習室	パソコン27台(外部アクセス可能)、液晶プロジェ クター 他、	薬剤情報検索実習
模擬薬局・病室	患者面談デスク16台、病室ベッド3台 他、	服薬指導実習 (薬剤管理指導)
TDM・製剤実習室	高速液体クロマトグラフ、蛍光分光光度計、 蒸留水製造装置、クリーンベンチ、崩壊試験器、 人工気象器、アンプル熔閉機 他、	薬物血中濃度測定実習、院内 製剤・薬局製剤調製実習、品 質試験実習
実習準備室	薬品庫、保冷库、実習材料 他、	実習準備

3. 大 学 院

1) 兵庫医療大学大学院の構成

i) 概要

本学の大学院修士課程は、大学の基本理念である次世代の医療を担う医療人の育成の趣旨を発展させることを目的としています。すなわち、優れた科学的知識と実践的能力を培い、創造性、科学性、そして広い視野をもって医療科学の新たな分野を開拓できる人材を育成します。そのため、新たな展開を目指した研究領域と、社会の期待に対応すべく高度実践専門職者を育てる領域の二つの柱を置いています。

ii) 大学院研究科の特色

本学では看護学部とリハビリテーション学部の大学院修士課程を平成24年4月よりスタートしました。看護学研究科と医療科学研究科（リハビリテーション科学領域）の二つで、それぞれ研究主体の修士論文コースと臨床実践におけるキャリアアップ（高度実践）を図る課題研究コースを置いたことが特徴です。

これらの研究科には、優れた指導教員のみならず二つの研究科の間に共通科目も設定し、兵庫医科大学と連携し、最新の医学的、臨床的視点に立った特長あるカリキュラムをおいています。社会の医療の質の向上と高い専門性への期待に沿うべく社会人枠も取り入れ、臨床現場におられる方々に広く門を開放している。そのために、以下の5つを方針としている。

①専門性を重視した教育研究者の育成

- a. 看護学研究科では基礎研究領域（修士論文）の4分野10専門特定分野を設置
- b. 医療科学研究科ではリハビリテーション科学領域で2分野6コースを設置

②高度実践専門職者の育成

- a. 看護学研究科では高度実践領域（課題研究）の4特定分野で専門看護師（CNS）の育成
- b. 医療科学研究科（リハ科学領域）では臨床実践指向の課題研究コースの開設

③医療専門職者のコラボレーション（協働）を促すための研究科共通科目の開講

- a. 「疾病・病態特論」、「健康科学特論」、「先進医療支援特論」を開講し、高度なチーム医療を推進できる医療人の育成をめざす
- b. 学部教育で培ったチーム医療教育の発展的展開

④充実した教育研究環境

- a. 学際的な教育・研究環境
- b. ボーダレスな教育・研究環境
- c. 伝統ある兵庫医科大学との連携

⑤医療従事者のキャリアアップ支援

- a. 大学院設置基準14条特例および社会人入学生に対する履修上の配慮

2) 看護学研究科

i) 研究科の概要

看護学は実践科学として進歩発展していますが、医療が高度化し複雑化する中で、安全安心を第一として質の向上が問われています。看護現場のさらなる発展のためには、科学的根拠に基づく看護学の教育・研究並びに高度な実践能力が必要です。

兵庫医療大学大学院看護学研究科は、長い歴史を基盤に培われてきた看護学を多様な関連科学とも繋がりながら学問として探求し、専門性の高い高度看護実践者として巣立つことを目的としている。また、保健医療福祉を担い変革を推進できる看護職者を育成するために、新たな高度看護専門職者教育課程への対応も考慮した教育内容・方法・環境を準備して、看護の質向上に資することである。

ii) 教育目的

看護学研究科は、建学の精神に則ると共に、看護学が真に人々にとって必要とされる専門的知識・技術を修得し、看護実践能力を強化して、社会の求めに応じる看護専門職者を育成する。看護学研究科のモットーは大学院生と教員・指導者とが学修の目標を共有し、一体となって学修を促進し、常に相互交流を通じて互いに成長することを目指している。

研究科は、看護学基礎研究領域（4分野10特定分野）と看護学課題研究・高度実践領域（CNS）（3分野4特定分野）の2つのコースを開設している。

iii) アドミッションポリシー

看護学研究科は、生命と人権の尊重を基盤とし、保健・医療・福祉及び社会の動向に先駆的・創造的に対応できる看護実践能力をもち、人々のQOL（Quality of Life）の向上及び看護学の発展に寄与できる人材を育成している。そのために、以下のような学生を求めている。

- ①主体的に学び、目標に向かって邁進できる
- ②看護専門職者として高度看護実践・看護学の発展に貢献する意欲にあふれている
- ③志望する専門分野に必要な基礎知識と技術を修得している
- ④国際的視野に立ち、柔軟な発想ならびに理論的思考を探究する姿勢をもっている

iv) 教育方法

(1) 教員組織の構成及び指導体制

看護学研究科の教育研究組織は、看護学の専門性に応じて基盤看護学、療養支援看護学、家族支援看護学、生活支援看護学の4分野で構成し、合わせて看護学基礎研究と看護課題研究・高度実践の2領域を担う構成である。研究科の理念・目的である看護学の科学的・専門的探究及び看護学教育研究者と高度専門看護職者の育成に適した組織構成としている。

看護学の専門分野に共通する理論、倫理、教育研究、管理等については、学外の看護実践者・教育者の協力を得て組織の充実を図っている。科学的根拠に基づく高い専門知識と看護実践への応用を教授する研究科共通科目については、学内全学部と共通教育センター、さらに兵庫医科大学の協力を得て本学の教育環境の特色を反映し、連携・協働を促進する組織となっている。

看護学研究科教員組織は、大学院学則に基づき研究科委員会を設置し、研究科長と大学院担当教員の教授及び准教授で構成し、研究科長が学事を統括し、研究科委員会を開催することで運営している。

看護学研究科長：上原 ます子

表 1. 平成22・23年度医科学研究科教員一覧

分野	看護学基礎研究領域	看護学課題研究高度実践領域(CNS)	専任教員	
基盤 看護学分野	基礎看護学	—	教授 准教授	竹田 千佐子 土田 利恵
	看護教育学	—	教授	土居 洋子
療養支援 看護学分野	急性看護学	急性・重症患者看護学	教授	網島 ひづる
	がん看護学・慢性看護学	がん看護	教授 教授	佐藤 禮子 鈴木 久美
	精神看護学	—	教授	新井 信之
家族支援 看護学分野	母性看護学	母性看護	教授	藤井 真理子
	小児看護学	—	教授	末原 紀美代
		—	教授	鈴井 江三子
生活支援 看護学分野	老年看護学	—	教授	細見 明代
	地域看護学	—	准教授	富永 真己
	在宅看護学	在宅看護	教授 准教授	上原 ます子 青木 菜穂子

(2) 教育活動

①教育課程編成の考え方

教育編成としては、看護学部から継続した基盤看護学、療養支援看護学、家族支援看護学、生活支援看護学の4領域で構成し、学部教育からの発展と教育・研究内容の向上をはかり円滑に教育・研究を推進できる体制を整えている。

各看護領域の教育組織は教授・准教授・講師・助教の構成とし、博士の学位取得者及び大学院教育経験や看護現場の経験豊富な教授・准教授を中心に研究科の教育・研究を担当する。各専門分野の理論的基盤となる講義科目及び研究科目は、専門分野の豊富な教育・研究業績を有する教授・准教授を中心に担当し、専門的看護実践能力を高める演習・実習科目には講師・助教が加わり手厚い教育・指導体制とする。

また、看護学課題研究・高度実践領域における専門看護師（CNS）養成の4分野は専門分野の臨床経験及び看護師教育経験豊富な教授・准教授が担当する。特に卓越した看護実践と専門看護師の相談・教育・調整等の役割を果たす能力の育成は、各分野の資格を取得し活躍中の専門看護師が非常勤として教育にあたる体制を整えている。

さらに、研究科共通科目においては、本学3学部の共通教育センター及び薬学部、看護学部、リハビリテーション学部の学術的専門性を生かし、兵庫医科大学医学部・病院の協力を得て、法人として教育・研究に積極的に参画し教育・研究資産を有効に活用する体制を整えている。

②修了要件

看護学研究科に2年以上在学し、32単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ修士論文又は課題研究の審査及び最終試験に合格することとする。

看護学基礎研究領域と看護学課題研究・高度実践領域の履修単位については、2領域共に研究科共通科目については2単位以上、看護学共通科目については4単位以上、各分野専門科目については10単位以上を修得する。また、看護学基礎研究領域は特別研究10単位、課題研究・高度実践領域は実習6単位と課題研究4単位を履修する。

v) 学生の受入

(1) 入学者選抜の概要

看護学研究科入学者の受け入れ方針としては、本研究科の目的にある高度専門看護職者を志向し、熱意を持って就学・研究に取り組み、将来人々の安寧と地域の保健医療福祉及び看護の発展に貢献することができる学生を求めている。

看護師及び保健師・助産師の免許を有することが必要であり、ついで学士の学位を取得（取得見込み含む）していることが必要である。しかし、現在就業している看護職者の多くは専修学校等修了者であり、その大学院進学への要求に応えるために、研究科において入学資格に関わる学力認定審査等を実施し、大学卒業と同等以上の学力を有し、看護職就業経験を通じて研鑽を蓄積した者には広く門戸を開いている。

(2) 社会人受け入れのための具体的方策

社会人が受験しやすいように、学力検査と面接の日程を土・日・祝日に設定している。授業の実施方法については、社会人入学生が無理なく受講できるように平日は夜間授業（6時限 18:00～19:30、7時限 19:40～21:10）を開講する。また、夏季休業中に集中講義を行い、社会人が効果的に学習できるよう調整している。

(3) 入学者選抜

看護学研究科の入学定員は8名とする。看護学4領域特定分野において個々の学生に緻密な研究・論文指導を行う計画であること、及び将来専門看護師を目指す看護学高度実践領域では、学生の実習等の指導が臨地の場で必要であり、指導できる学生数が限られることから。適切な入学定員を8名と決定している。

入学者選抜は、学力検査（専門科目、外国語、小論文）と面接、調査書の内容を総合して判定している。

平成23年度大学院入学試験を次のとおり実施した。

- ①選 抜 方 法：外国語（英語）、専門科目、面接
- ②試 験 日：平成23年2月11日（金・祝）
- ③合格発表日：平成23年2月21日（月）午後3時
- ④募集人員等：8名

平成24年度大学院入学試験を次のとおり実施した。

- ①選 抜 方 法：外国語（英語）、専門科目、面接
- ②試 験 日：平成23年10月1日（土）
- ③合格発表日：平成23年10月12日（水）午後3時
- ④募集人員等：8名

表2. 平成23・24年度 募集人員

区 分	平成23年度	平成24年度
募 集 人 員	8	8
出 願 者 数	8	10
受 験 者 数	8	10
合 格 者 数	8	8
入 学 者 数	8	8

表 3. 平成23・24年度看護学研究科院生数

領 域	分 野	第 1 期 生	第 2 期 生
看護学基礎研究領域	基礎看護学分野	0	2
	療養支援看護学分野	2	4
	家族支援看護学	4	2
	生活支援看護学分野	1	0
看護学課題研究・高度実践領域（CNS）	急性・重症患者看護専門看護師分野	1	0
	がん看護専門看護師分野	0	0
	母性看護専門看護師分野	0	0
	在宅看護専門看護師分野	0	0
合 計		8	8

3) 医療科学研究科

i) 研究科の概要

医学・医療科学の発展ならびに急速な高齢化の進行、個人の価値観の多様性等によって、疾病や障害を有した方が社会で生活していくためのニーズは多様化・複雑化してきており、これらの変化に対応していくことが求められている。その中で、リハビリテーション科学の学問的発展に寄与するとともに、より高度な専門的知識と技術を有するリハビリテーション専門職の育成に寄与することである。そのために、以下の3つを研究科の方針としている。

- ①リハビリテーション科学領域における研究の発展と高度実践専門職者の養成を目指す。
- ②本学リハビリテーション学部教育の基盤である理学療法士・作業療法士のみならず、リハビリテーションチームを構成する専門職に対し広く門戸を開放する。
- ③医療機関等に在職のまま大学院へ入学を希望する社会人に対して、大学院設置基準 第14条に定める教育方法の特例措置を実施する。

ii) 教育目的

建学の精神及び大学の理念のもと、科学的思考に支えられた高度な実践力の獲得を目指し、チームを形成し活動する力を養い、患者や地域住民の生活の質の向上に資することを目標とし、以下の2つのコースを開設している。

(1) 研究コース

研究志向の院生については、修士論文を課し、研究に必要な知識・技術を修得し研究者として研究を企画遂行できる人材を育成する。

(2) 課題研究コース

高度実践専門職者を志向する院生に対しては、臨床現場での臨床研修ならびに臨床的テーマに関する課題研究を課し、高度な専門的知識と臨床技能を身につけ、臨床現場のリーダーとなる人材を育成する。また、目的とする分野に精通した他大学の専門家を外部委員として委嘱し、指導を受ける。

表 1. 医療科学研究科における研究指導コース

区分	研 究 コ ー ス	課 題 研 究 コ ー ス
アドミッションポリシー		
	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーション科学領域において、先駆的・学際的・発展的な研究を展開しようとする志向性を有する院生 2. 将来、本領域において研究・教育を牽引していこうという意欲にあふれる院生 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自らの臨床的知識・技術を積極的に高めたい院生 2. 臨床的スキルの向上を図り、その結果をリハビリテーション医療の向上に貢献しようとする院生
カリキュラムポリシー		
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幅広い教養修得と医療人としてのキャリアアップを目指した研究科共通科目の開講 2. リハビリテーション科学領域に重点を置いた医学特論、研究法、統計学の専門基礎科目の開講 3. 予備研究、倫理審査会、中間報告を含めた演習、研究指導、研究活動においては、適宜、必要な研究組織を構築し、倫理審査委員会の承認を受けた上で研究活動を展開する 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幅広い教養修得と医療人としてのキャリアアップを目指した研究科共通科目の開講 2. リハビリテーション科学領域に重点を置いた医学特論、研究法、統計学の専門基礎科目の開講 3. 外部委員※を含めた事前審査の後、目的とする分野（課題）の臨床研修を適切な施設と指導体制のもとで実施する <p>※外部委員 道免和久（兵庫医科大学リハビリテーション医学教授） 奈良 勲（金城大学学長） 菅原洋子（国際医療福祉大学保健医療学部教授）</p>
デプロマポリシー		
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画書に基づいた研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめることができる（その後学術誌等への投稿を目指す） 2. 修士論文審査会において、研究結果について十分な討議ができる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 目的とした臨床的課題から得られた臨床的推論が、適切かつ十分な症例と科学的根拠に基づいていることを説明できる 2. 臨床研修で経験した事例について、課題研究論文としてまとめることができる（その後学術誌等への投稿を目指す） 3. 自己の臨床的推論の裏付けとなる先行研究等をエビデンステーブルとして整理できる 4. 課題研究論文審査会において、課題研究論文を報告し、十分な討議ができる

iii) 教育方法

科目の開講は、社会人院生が多いことを踏まえて平日夜間あるいは土日に開講することを基本とし、いずれかの履修方式にしか都合が合わない院生への履修上の配慮として共通科目は1・2年次のいずれでも履修できるように配当し講義並びに演習を行う。専門基礎科目については、課題達成に向けた基盤となる素養の修得を図るべく、科目によって講義・演習・実習の形態をとる。専門科目について、特論は講義を中心とするも大学院の講義水準となるように一方向性の講義だけでなく、双方向性の主体的学習を支援するように努める。

高度実践専門職者を志向する院生に対しては、それぞれの基盤となる職種に応じて指定される専門基礎科目を履修するとともに、臨床現場での実践的演習を含めてリハビリテーション科学課題研究に取り組むよう指導する。

研究を志向する院生に対しては、各科目履修と並行し、研究計画の立案、予備研究並びに倫理委員会の審査、本研究の実施という「リハビリテーション科学研究」の中での指導を行う。

(1) 教員組織の構成及び指導体制

大学院を担当する教員は、学部教育も兼ねるが本学の専任教員を主としており、専門科目並びに専門基礎科目についても、それぞれ臨床経験を有し臨床現場での技術指導を継続的に実施している

人材をもって充当することとしている。研究指導に当たる教員は、臨床研究を含めた豊富な研究業績を有するとともに、そのほとんどが博士の学位を取得している。

さらに、高度実践専門職の育成の観点からは、すでに日本理学療法士協会が認定する専門理学療法士、日本作業療法士協会が認定する認定作業療法士の認定を受けている教員を配置するとともに、認定者と同等以上の学位を有する教員にて構成しており、それぞれの職能団体が認定する専門・認定制度における水準を超える教育の提供ができる体制を有している。

表 2. 平成22・23年度医科学研究科教員一覧

(平成23年 5 月 1 現在)

専任教員	
教授(研究科長)	野 崎 園 子
教 授	土 肥 信 之
教 授	藤 岡 宏 幸
教 授	P . D . A n d r e w
教 授	川 口 浩 太 郎
教 授	玉 木 彰
教 授	日 高 正 巳
教 授	湖 海 正 尋
教 授	山 田 大 豪
教 授	山 崎 せつ子

専任教員	
准 教 授	稲 富 宏 之
准 教 授	伊 藤 斉 子
講 師	坂 口 顕
講 師	森 明 子
講 師	山 田 哲
講 師	森 沢 知 之
講 師	香 川 真 二
講 師	櫛 邊 勇
講 師	佐 野 恭 子
講 師	坂 本 利 恵

(2) 教育活動

①教育課程編成の考え方

教育編成としては、コースワークを重視したカリキュラム並びに社会人大学院生を受け入れるため、勤務時間に配慮して、週末や平日17時以降の開講や研究指導を行っている。さらに、課程制大学院の趣旨に合わせて、高度実践専門職者養成、研究者養成の目的を問わず、一定の講義ならびに演習を要件として課すため、下記の考え方に基づいた科目を開講している。

- 医療科学における科学的根拠ならびに最新の専門的知識を修得し、幅広い医療人としての教養を培う目的で開講する共通科目
- 専攻する分野におけるより高度な専門的知識ならびに技術を修得し、臨床現場において実践できるとともに発展・向上に努めることができる素養を培うための専門基礎科目ならびに専門科目
- 臨床に有益な研究を遂行する能力を養うための科目
- 臨床的推論に基づく臨床実践と後進の育成のための臨床現場での指導者としての素養を高める科目
- 最終的に学位審査の基準となる研究・課題研究科目を設けている

【研究科共通科目】：必修2単位

【専門基礎科目】：必修12単位

【専門科目】：履修するテーマに応じた特論2単位、演習6単位を含めて10単位以上、研究指導から8単位を修得することを要件とする。

②卒業要件

研究科共通科目については2単位以上、各分野専門科目については10単位以上を履修する。また、基礎研究領域では特別研究10単位、課題研究は実習6単位と課題研究4単位を履修し、

合計32単位以上を修得し、かつ必要な修士論文または課題研究指導を受けた上で、本大学院が行う論文審査及び最終試験に合格することを要件とする。

iv) 学生の受け入れ

(1) 入学者選抜の概要

それぞれ専門職としての基礎的知識はもちろんのこと、自らの高めたい素養あるいは取り組みたい研究テーマは何かを明確にした上での選抜を行っている。

選抜方法については、大学院設置基準14条特例の適用の如何を問わず同一とし、書類選考、学力試験のみではなく、面接試験も合わせて行った。自らの臨床的知識・技能を積極的に高めたいという高度実践専門職者への志向のある学生ならびに、リハビリテーション科学の領域において先駆的・学際的・発展的な研究を展開しようという研究に対する志向性の高い学生を求めている。

(2) 社会人受け入れのための具体的方策

社会人の選抜においては、22歳を超えれば学士の学位取得の有無に関係なく、個別入学資格審査を経て入学試験を受ける権利を認めることとしている。特定の領域に限定しない出題にて行うとともに、社会人の知識と技術に関わる経験について行う面接の結果を反映させた上で合否判定を行った。事前相談では時間割を含む修了までのタイムテーブルを確認し、履修の可能性を判断した上で出願するように指導を行った。

(3) 入学者選抜

開設前の平成23年度入学試験については、医療科学研究科の基礎となる両学科（リハビリテーション学部）の下で、平成24年度入学試験は医療科学研究科の下で実施した。

平成23・24年度入学試験において、一般選抜も社会人選抜も同一試験として実施し、外国語、専門科目、面接により総合的に判定を行った。

平成23年度大学院入学試験を次のとおり実施した。

- ①選 抜 方 法：外国語（英語）、専門科目、面接
- ②試 験 日：平成23年2月11日（金・祝）
- ③合格発表日：平成23年2月21日（月）午後3時
- ④募集人員等：6名

平成24年度大学院入学試験を次のとおり実施した。

- ①選 抜 方 法：外国語（英語）、専門科目、面接
- ②試 験 日：平成23年10月1日（土）
- ③合格発表日：平成23年10月12日（水）午後3時
- ④募集人員等：6名

表3. 平成23・24年度 募集人員

区 分	平成23年度	平成24年度
募 集 人 員	6	6
出 願 者 数	12	9
受 験 者 数	12	9
合 格 者 数	9	9
入 学 者 数	9	9

表 4. 平成23・24年度医療科学研究科院生数

(平成24年 5 月 1 日現在)

分 野	コ ー ス	第 1 期生	第 2 期生
病 態 運 動 学	中枢神経系障害治療学	0	1
	運動器系障害治療学	2	2
	生活活動支援学	4	2
人 間 活 動 科 学	身体・認知活動学	1	2
	精神・心理	1	0
	摂食嚥下リハビリテーション学	0	2
合 計		8	9

v) 研究活動

(1) 概要

[平成23年度]

平成23年 5 月12日 (木) 第 1 期生の研究計画紹介

平成23年 9 月12日 (月) 第 1 期生の課題研究の研修施設承認

平成24年 1 月19日 (木) 第 1 期生中間報告会を M 棟487A・B 会議室において開催

第 1 期生による中間報告会は、表 5 に示す通り発表研究課題数 8 題、発表時間は10分、質疑応答時間 5 分の予定で実施した。研究コースの課題については、兵庫医療大学倫理審査委員会の承認を得て行っている。

表 5. 兵庫医療大学大学院医療科学研究科 中間報告会プログラム

平成23年 1 月19日 (木)

時 間	院生氏名	研 究 課 題 名	指導教員	司会・進行
13:00～13:05		研究科長挨拶		
13:05～13:20	猪俣 陽一	ラットを用いた神経因性疼痛モデルに対する物理療法の試み	川口 教授	藤岡 教授
13:20～13:35	荻野 智之	上肢支持が呼吸運動に及ぼす影響について	玉木 教授	
13:35～13:50	奥谷 研	精神科入院患者の退院意識と関連要因を考慮した作業療法プログラムの立案・実施に関する研究	稲富准教授	
13:50～14:05	垣下 真宏	橈骨遠位端骨折後の自主トレーニングの実施時間と治療成績の関連性	櫛邊 講師	
14:05～14:20		休憩		

表 5. 兵庫医療大学大学院医療科学研究科 中間報告会プログラム

平成23年 1 月19日 (木)

時 間	院生氏名	研 究 課 題 名	指導教員	司会・進行
14:20～14:35	永瀨 輝佳	人工股関節全置換術後のリハビリテーションプログラム確立のための基礎的研究	玉木 教授	山崎 教授
14:35～14:50	安福 祐一	ペダリング運動における Locomotor Respiratory Coupling 発生による呼吸困難の抑制効果と呼吸パターンの特徴について	玉木 教授	
14:50～15:05	小山 智士	バランスを対象とした運動療法と徒手療法による理学療法介入	川口 教授	
15:05～15:20	水本 雄介	身体・心理・環境を包括した入浴動作指導技術の検討	日高 教授	
15:20～		学長総評		

※：課題研究コース：課題研究コースの院生は、中間報告会終了後、外部委員の先生に直接指導していただいた。

(2) 課題研究

大学院医療科学研究科の特色として、高度専門職養成を目的とした課題研究コースを設けている。課題研究コースは、講義・演習のコースワークと並行して臨床現場において研修活動を行い、自らの臨床能力・臨床推論能力の向上を図るものである。平成23年度に開設したところであり、第1期生2名が選択し取り組んでいる。

臨床研修については、初めての取り組みでもあり手探り状態でのスタートであったが、随時検討を加えながら取り組んでいる。また、課題研究においては学外の外部委員の意見を聞きながら進めている。外部委員は、研究科委員会において道免和久氏（兵庫医科大学）、奈良勲氏（神戸学院大学）、菅原洋子氏（国際医療福祉大学）の3名を選出し委託している。

院生が選択し設定した臨床課題と臨床研修先の指導体制については、外部委員3名に諮り意見を求め、2施設を適切という答申を受けて、研究科委員会にて研修施設の承認を行ったのち課題に取り組んでいる。

表 6. 平成23年度課題研究臨床研修施設一覧

施設名	所在地
西川整形外科リハビリクリニック	兵庫県尼崎市
医療法人仁寿会石川病院	兵庫県姫路市

臨床研修としては、院生が設定したテーマについて、臨床活動を展開しながら、症例検討会等を指導教員ならびに臨床研修先の指導者を交えて開催している。

中間報告にて、進捗状況について報告するとともに、終了後には、外部委員より直接指導を受け、2年目に向けた設定課題の絞り込みを行った。

(3) FD 研修会・合同セミナー

表 7. 平成22年度

月 日	内 容	テ ー マ	講 師
1月6日（木）	第1回FD研修会	大学院教育 ―14条特例と課題研究の必要性― 内容:14条特例の実際と課題研究の内容及び審査について	日高正巳 教授
1月8日（土）	第1回学校法人兵庫医科大学リハビリテーション関連施設合同セミナー	〈基調講演〉 先端医療としてのリハビリテーション ―現状と今後の課題― 一般演題（7題）	道免和久 教授 (兵庫医科大学)

表 8. 平成23年度

月 日	内 容	テ ー マ	講 師
9月3日（土）	第2回学校法人兵庫医科大学リハビリテーション関連施設合同セミナー	〈特別講演〉 東日本大震災とリハビリテーション ―被災地の中の格差にどう立ち向かうか― 一般演題（6題）	上月正博 教授 (東北大学)
10月20日（木）	第2回FD研修会	ムードルの基礎 内容：大学院教育におけるムードルの活用方法について	山田 哲 講師

第1回 FD 研修会日時：平成23年1月6日 講師：日高正巳 教授

テーマ：「大学院教育—14条特例と課題研究の必要性—」

内 容：14条特例の実際と課題研究の内容および審査等について講義ののち、ディスカッションを実施。

第2回 FD 研修会

日 時：平成23年10月20日 講師：山田 哲講師

テーマ：「ムードルの基礎」

内 容：大学院教育におけるムードルの活用方法について、具体的な利用方法を教授すると共に活用時のリスク等について講義を実施。

第1回学校法人兵庫医科大学リハビリテーション関連施設合同セミナー

日 時：平成23年1月8日

内 容：「先端医療としてのリハビリテーション—現状と今後の課題—」をテーマに兵庫医科大学 道免和久教授の基調講演の後、7題の一般演題発表が行われた。

第2回学校法人兵庫医科大学リハビリテーション関連施設合同セミナー

日 時：平成23年9月3日

内 容：「東日本大震災とリハビリテーション—被災地の中の格差にどう立ち向かうか—」をテーマに東北大学大学院 上月正博教授の特別講演の後、6題の一般演題発表が行われた。

4. 研究施設の活動状況

1) 動物実験センター

i) 概要

動物実験センター206.44㎡（G-106：G棟1階）及び分室116.16㎡（G-211：G棟2階）には、兵庫医療大学動物実験センター規程及び兵庫医療大学動物実験センター利用手引が定められ、本センターに専任職員1名、業務委託職員1名を配置しており適正な飼養保管体制となっている。本学の実験動物管理者は業務の実施にあたり、常時、動物実験センター職員並びに教育研究者の指導に当たっている。

施設の管理運営には、「動物の愛護及び管理に関する法律」、「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」、「兵庫県の定める動物の愛護及び管理に関する条例」、及び文部科学省が定める「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」等を厳密に遵守し、適正な実験動物の飼養と動物実験を行うための支援的機能をもつ施設として運営を行っている。

本センターは、実験動物学を科学的基盤とした薬理学的実験、生理機能実験、行動実験などのバイオサイエンス研究を行う研究者に利用されており、疾病の病態解明や難病の治療法開発などの研究活動を支援している。

ii) 活動状況

本センターでは、動物実験を実施するにあたり動物実験責任者、動物実験実施者及び飼養者に教育訓練と確認試験を義務付けている。確認試験については、基準点を設け基準点以上の者を合格とし、基準に達しないと全ての動物実験に携われない制度をとっている。日程等が合わず教育訓練と確認試験を受けることができない場合は、随時、教育訓練の内容を収録したDVDを貸し出し、利用者の都合に合わせて確認試験を実施している。

また、SPFエリア（Specific Pathogen Free：特定病原微生物を持たない動物を飼育する環境）の実験動物を対象に、定期検査項目である主要感染微生物について年4回の微生物モニタリング、人獣共通感染症の病原微生物（Hanta virus、LCMV、サルモネラ菌）については2～4回の検査を実施している。動物実験センター及び分室における活動状況を表1～4に示す。

表1. 平成22・23年度活動実績

年度	月 日	時 間	活 動 事 項	参加者
平成22年度	4月1日(水)	—	動物実験センター分室内規施行	—
	4月7日(水)	16:00～17:30	動物実験センター分室利用者説明会	12
	4月19日(月)	—	特定外来生物（ウシガエル）飼養許可申請	—
	4月27日(火)	16:00～18:00	第1回動物実験センター利用者DVD講習会	3
	1月24日(月)	15:00～18:00	第2回動物実験センター利用者DVD講習会	1
	3月10日(木)	15:00～18:00	第3回動物実験センター及び分室利用者DVD講習会	1
平成23年度	4月6日(水)	14:00～17:00	第1回動物実験センター及び分室利用者説明会、DVD講習会	6
	4月6日(水)	14:00～17:00	学生動物実験センター及び分室利用者説明会、学生DVD講習会	82
	4月21日(木)	15:00～18:00	特定外来生物（ウシガエル）飼養許可申請	—
	6月23日(木)	15:00～18:00	第2回動物実験センター及び分室利用者DVD講習会	1
	1月26日(木)	15:00～18:00	第3回動物実験センター及び分室利用者DVD講習会	5
	3月13日(火)	15:00～18:00	第4回動物実験センター及び分室利用者DVD講習会	1

表 2. 動物実験センター及び分室の利用者数

(延人数)

年 度	動物実験センター利用者数	分室利用者数	総利用者数
平成22年度	2,144	120	2,264
平成23年度	2,593	464	3,057

表 3. 搬入実験動物匹数

(匹数)

年 度	SPF マウス	CONV マウス	SPF ラット	CONV ラット	組換え マウス	モル モット	分室 ハムスター	分室 マウス	ウシ ガエル
平成22年度	96	793	0	539	(714)	8	7	0	48
平成23年度	233	519	0	759	(336)	8	0	93	42

() は自家繁殖匹数

表 4. 使用飼育ケージ数

(延ケージ数)

年 度	SPF マウス	CONV マウス	SPF ラット	CONV ラット	組換え マウス	モル モット	分室 ハムスター	分室 マウス	ウシ ガエル
平成22年度	6,520	5,823	0	3,833	23,823	48	383	0	—
平成23年度	2,802	1,937	0	8,469	24,261	32	982	2,419	—

2) 薬用植物園

i) 薬用植物園の整備状況

漢方薬やサプリメントとして利用される生薬の年間使用量は、莫大なものがある。また、薬用植物に由来する天然有機化合物は、現在でも医薬品としての活用が多数見られる。従って、薬学教育において医薬品原料となる薬用植物や漢方生薬の原植物を知ることには大変重要であり、それらの育成維持及び観察教育に薬用植物園は不可欠である。

開学時より整備を進めてきた「薬学部附属薬用植物園」は、さらに育成植物や付帯設備を充実させ、薬学部第3学年次「天然薬物学実習」における観察教育など、積極的な活用が進められている。

ii) 施設の概要

大学敷地内南東部に約600㎡の薬用植物園用地を整備し、さらに用地内に床面積約50㎡の温室を設置した。敷地内には栽培用畝及び防風植栽樹栽培地を整備し、土壌改良を施している。さらに高温・直射光忌避植物栽培のための寒冷紗も設置している。

iii) 育成植物

平成22～23年度には、従来から育成していた日本薬局方収載生薬の基原植物約103種に、さらに13種の薬用植物を追加した。現状の育成植物リストを表1に示す。

表 1. 薬用植物園の育成植物リスト (50音順)

アカネ	オミナエシ	ゴシュユ	チャ	ハマボウフウ
アカメガシワ	カキ (マメガキ)	コノテガシワ	チョウセンゴミシ **	ジャクブ
アキノワスレグサ	ガジュツ	サイカチ	ツワブキ	ヒヨス
アシタバ	カラスビシャク	ザクロ	テンダイウヤク	ビワ
アマ	カリン	サボンソウ	トウキ	ヘラオオバコ
アマチャ	カワラナデシコ	サラシナショウマ **	トウネズミモチ	ホウノキ
アミガサユリ	カワラヨモギ	サンザシ	トキワイカリソウ	ボタン
アロエ **	キキョウ **	サンシュユ	トクサ	マルバアイ
アンズ	キク **	サンショウ	ドクダミ	ミシマサイコ
イチョウ **	キササゲ	ジギタリス	トチバニンジン **	ムラサキ
イブキジャコウソウ	キハダ	シナマオウ	トチュウ	モモ
ウイキョウ	キンミズヒキ	シナレンギョウ	ナツメ	ヤブツバキ
ウコン	クコ	シャクヤク	ナルコユリ **	ヤマザクラ
ウスバサイシン **	クサノオウ	ジャノヒゲ	ナンテン	ヤマノイモ
ウツボグサ	クスノキ	ジロボウエンゴサク	ニガキ	レモンガラス
ウド **	クチナシ	セネガ	日本ハッカ	ワタ
ウマノスズクサ	クヌギ	センキュウ	ニワトコ	
ウメ	クララ	センダン	ヌルデ	
ウンシュウミカン	クロタネソウ	センナ	ノイバラ	
エビスグサ	クロモジ	ダイダイ	ハシリドコロ	
エンジュ	クワ	タケニグサ	ハス **	
オウレン	ケジギタリス	タチバナ	ハトムギ	
オオバコ	ゲンノショウコ	タムシバ	ハブソウ	
オケラ	コウホネ **	タラノキ	ハマゴウ	
オタネニンジン **	コガネバナ	チガヤ	ハマナス	

** 追加薬用植物

3) 学外研究費の取得一覧

i) 概要

(1) 科学研究費助成事業 (科学研究費補助金／学術研究助成基金助成金)

平成22年度科学研究費補助金は、38件が採択され総額60,150,000円 (うち直接経費47,100,000円、間接経費13,050,000円) の交付があった。

平成23年度科学研究費補助金については、29件が採択され総額47,970,000円 (うち直接経費36,900,000円、間接経費11,070,000円) の交付があった。また、平成23年度から開始された学術研究助成基金助成金については、9件が採択され総額21,970,000円 (うち直接経費16,900,000円、間接経費5,070,000円) の交付があった。平成22・23年度科研費交付の詳細については、表1～2に示す。

ii) 研究活動の内容

表 1. 平成22年度科学研究費補助金交付一覧

研究種目	研究課題名	所属部局	職名	研究代表者	交付額(円)
基盤研究(B)	外来化学療法を受ける肺がん患者の生活を支援する情報提供・相談システムの開発と評価	看護学部	教授	網島ひづる	1,400,000
基盤研究(B)	心不全に対する埋め込み型補助人工心臓による社会復帰を目指した新たな治療法の導入		学長	松田 暉	3,200,000
基盤研究(B)	乳がん早期発見のための乳房セルフケア促進プログラムの開発と妥当性の検討	看護学部	教授	鈴木 久美	3,400,000

研究種目	研 究 課 題 名	所属部局	職名	研究代表者	交付額(円)
基盤研究(B)	外来化学療法を受ける肺がん患者の生活を支援する情報提供・相談システムの開発と評価	看護学部	教授	網島ひづる	1,400,000
基盤研究(B)	心不全に対する埋め込み型補助人工心臓による社会復帰を目指した新たな治療法の導入		学長	松田 暉	3,200,000
基盤研究(B)	乳がん早期発見のための乳房セルフケア促進プログラムの開発と妥当性の検討	看護学部	教授	鈴木 久美	3,400,000
基盤研究(C)	内因性血管新生阻害物質活性化を標的とした天然由来新規抗がんリード化合物の創製	薬学部	教授	青木 俊二	700,000
基盤研究(C)	自然の資本化に関する現象学的研究 ―「持続可能な開発」の倫理に向けて	共通教育センター	准教授	紀平 知樹	700,000
基盤研究(C)	「心の理論」高次テスト（日本版）は高機能広汎性発達障害の補助診断法として有効か？	リハビリテーション学部	准教授	伊藤 斉子	700,000
基盤研究(C)	アストロサイトにおける酸化ストレスによる DNA 修復酵素とヌクレオシド輸送体の変化	薬学部	助教	田中 康一	700,000
基盤研究(C)	ユビキタス・ネットワークシステムを活用した感染制御技術の向上	看護学部	准教授	土田 敏恵	900,000
基盤研究(C)	炎症性メディエーターによる DRG ニューロンの感作メカニズム	薬学部	准教授	戴 毅	1,000,000
基盤研究(C)	光触媒による新規複合型レドックス反応の開発	薬学部	講師	甲谷 繁	1,100,000
基盤研究(C)	HGF アンタゴニスト（NK4）による骨膜増殖の制御	薬学部	教授	岩崎 剛	1,000,000
基盤研究(C)	認知症高齢者グループホームの終末期ケアにおける看護連携システムの開発	看護学部	講師	平木 尚美	1,100,000
基盤研究(C)	在宅嚥下リハビリテーションの EBM の確立―高齢者の誤嚥性肺炎予防プログラムの構築	リハビリテーション学部	教授	野崎 園子	1,000,000
基盤研究(C)	ラジカル種の特性を活用した合成法開拓の新展開	薬学部	教授	宮部 豪人	1,300,000
基盤研究(C)	疾患による免疫系の活性化が肝薬物代謝酵素の機能に及ぼす影響	薬学部	教授	九川 文彦	1,700,000
基盤研究(C)	血小板減少症治療薬インターロイキン-11を用いた有効な心不全発症予防療法の確立	薬学部	講師	前田真貴子	1,000,000
基盤研究(C)	シスプラチン腎障害のメカニズム解明とその軽減に向けた薬物療法の創出	薬学部	准教授	上田 晴康	1,600,000
基盤研究(C)	高内皮細静脈特異的な細胞動員シグナルによる自然免疫と獲得免疫を繋ぐ細胞動態制御	薬学部	教授	田中 稔之	1,500,000
基盤研究(C)	薬物輸送通路の解明―トランスポーターとギャップ結合の関連―	薬学部	助教	三浦 大作	1,300,000
基盤研究(C)	肥満と活性酸素：メタボリック症候群と動脈硬化の病態に対する SOD の関与	薬学部	准教授	大河原知水	1,900,000
基盤研究(C)	身体活動量を指標とした新しい心臓外科手術後リハビリテーションプログラムの開発	リハビリテーション学部	教授	高橋 哲也	2,100,000
基盤研究(C)	転移性肝がん患者への原発がん手術の体験を反映させた周手術期看護援助方法の考案	看護学部	講師	小西美ゆき	900,000

研究種目	研 究 課 題 名	所属部局	職名	研究代表者	交付額(円)
基盤研究(C)	メンタルヘルス不全により休職した看護師の実態調査及び復職支援ツールの開発	看護学部	准教授	富永 真己	1,400,000
基盤研究(C)	神経因性疼痛における新規Kチャンネルと交感神経の役割に関する研究	薬学部	教授	山本 悟史	1,200,000
挑戦的萌芽研究	C型慢性肝炎患者のセルフマネジメントを促す心理教育的グループ介入プログラムの開発	看護学部	教授	鈴木 久美	1,300,000
挑戦的萌芽研究	近赤外蛍光イメージングに資する新規蛍光色素の戦略的开发	薬学部	教授	前田 初男	900,000
挑戦的萌芽研究	周産期における父親のうつ状態の推移と危険因子—社会的要因と生物学的要因の重要性—	看護学部	講師	西村 明子	1,400,000
若手研究(B)	PET 癌検診へのアプローチ：低分子 ⁶⁸ Ga標識プローブおよび ¹¹ C 標識法の開発	薬学部	助教	吉岡 英斗	900,000
若手研究(B)	がん臨床試験に参加する患者のセルフ・アセスメント能力向上のための教育用ツール開発	看護学部	助教	高山 京子	1,000,000
若手研究(B)	親が参加する小学生・中学生の健康教育プログラムの開発	看護学部	講師	工藤 里香	700,000
若手研究(B)	慢性閉塞性肺疾患患者の憎悪予防のための自己管理を促す心理教育的介入プログラム開発	看護学部	講師	松本 麻里	900,000
若手研究(B)	悪性中皮腫の多剤耐性獲得におけるヒアルロン酸が誘発する上皮間葉転換の意義	薬学部	助教	大野 喜也	1,600,000
若手研究(B)	長鎖脂肪酸：アミノ酸抱合経路によるインスリン抵抗性の制御	薬学部	助教	伊藤 崇志	1,600,000
若手研究(B)	PKC-ε 選択的活性化による新規抗認知症治療剤創製と新規ターゲット探索	薬学部	助教	清水 忠	600,000
若手研究(B)	前立腺癌の個別化適正ホルモン療法確立のための科学的基盤構築	薬学部	講師	南畝 晋平	1,300,000
若手研究(B)	他動的下肢体幹運動および努力性横隔膜呼吸運動が腸管運動に及ぼす影響	リハビリテーション学部	講師	森沢 知之	1,000,000
若手研究(B)	入院する小児の転倒転落リスクアセスメントツールの作成とその効果に関する研究	看護学部	助教	藤田 優一	600,000
若手研究(B)	排尿障害を有する脳卒中患者における自立支援からみた排尿誘導方の有用性	看護学部	助教	鈴木みゆき	500,000
合 計				38件	47,100,000

表 2. 平成23年度科学研究費助成事業交付一覧

研究種目	研 究 課 題 名	所属部局	職名	研究代表者	交付額(円)
基盤研究(B)	外来化学療法を受ける肺がん患者の生活を支援する情報提供・相談システムの開発と評価	看護学部	教授	網島ひづる	500,000
基盤研究(B)	心不全に対する埋め込み型補助人工心臓による社会復帰を目指した新たな治療法の導入		学長	松田 暉	4,000,000
基盤研究(B)	乳がん早期発見のための乳房セルフケア促進プログラムの開発と妥当性の検討	看護学部	教授	鈴木 久美	2,100,000
基盤研究(B)	遺伝子多型情報に基づくワルファリンの適正投与量設定へ向けた前向き臨床試験	薬学部	教授	東 純一	4,600,000

研究種目	研 究 課 題 名	所属部局	職名	研究代表者	交付額(円)
基盤研究(C)	呼吸リハビリテーションのための遠心性収縮ペダリングシステムの開発と臨床応用	リハビリテーション学部	教授	玉木 彰	500,000
基盤研究(C)	光触媒による新規複合型レドックス反応の開発	薬学部	講師	甲谷 繁	700,000
基盤研究(C)	HGF アンタゴニスト (NK4) による滑膜増殖の制御	薬学部	教授	岩崎 剛	700,000
基盤研究(C)	認知症高齢者グループホームの終末期ケアにおける看護連携システムの開発	看護学部	講師	平木 尚美	500,000
基盤研究(C)	在宅嚥下リハビリテーションの EBM の確立—高齢者の誤嚥性肺炎予防プログラムの構築	リハビリテーション学部	教授	野崎 園子	1,100,000
基盤研究(C)	ラジカル種の特性を活用した合成法開拓の新展開	薬学部	教授	宮部 豪人	900,000
基盤研究(C)	疾患による免疫系の活性化が肝薬物代謝酵素の機能に及ぼす影響	薬学部	教授	九川 文彦	500,000
基盤研究(C)	血小板減少症治療薬インターロイキン—11を用いた有効な心不全発症予防療法の確立	薬学部	講師	前田真貴子	1,400,000
基盤研究(C)	シスプラチン腎障害のメカニズム解明とその軽減に向けた薬物療法の創出	薬学部	准教授	上田 晴康	1,300,000
基盤研究(C)	高内皮細静脈特異的な細胞動員シグナルによる自然免疫と獲得免疫を繋ぐ細胞動態制御	薬学部	教授	田中 稔之	1,000,000
基盤研究(C)	薬物輸送通路の解明—トランスポーターとギャップ結合の関連—	薬学部	助教	三浦 大作	800,000
基盤研究(C)	肥満と活性酸素：メタボリック症候群と動脈硬化の病態に対する SOD の関与	薬学部	准教授	大河原知水	1,100,000
基盤研究(C)	転移性がん患者への原発がん手術の体験を反映させた周手術期看護援助方法の考案	看護学部	講師	小西美ゆき	500,000
基盤研究(C)	メンタルヘルス不全により休職した看護師の実態調査及び復職支援ツールの開発	看護学部	准教授	富永 真己	900,000
基盤研究(C)	神経因性疼痛における新規 K チャネルと交感神経の役割に関する研究	薬学部	教授	山本 悟史	1,100,000
基盤研究(C)	光切断リンカー付アフィニティ樹脂を用いた汎用的な生理活性物質探索法の開拓	薬学部	教授	田中 明人	900,000
基盤研究(C)	臨床検体に基づく実践的生体分子を標的とする天然由来分子標的抗がん剤の探索	薬学部	教授	青木 俊二	1,800,000
基盤研究(C)	膜破壊型殺菌消毒剤を活用した細菌の多剤耐性獲得に関する転写調節因子の分子機構解明	薬学部	准教授	前田 拓也	3,300,000
基盤研究(C)	ペインセンサー TRPA 1 のチャネル活性抑制メカニズムの解明	薬学部	准教授	戴 毅	1,700,000
挑戦的萌芽研究	周産期における父親のうつ状態の推移と危険因子—社会的要因と生物学的要因の重要性—	看護学部	准教授	西村 明子	1,000,000
挑戦的萌芽研究	学童保育指導員の性被害・虐待被害児へのケア能力向上に向けた教育に関する研究	看護学部	教授	鈴井江三子	500,000
挑戦的萌芽研究	関節拘縮予防のための安全な他動運動の実施に関する研究	リハビリテーション学部	教授	日高 正巳	2,200,000
挑戦的萌芽研究	新規ミトコンドリア融合抑制因子 HPGB による心臓／代謝機能制御の同定	薬学部	教授	馬場 明道	1,800,000

研究種目	研 究 課 題 名	所属部局	職名	研究代表者	交付額(円)
挑戦的 萌芽研究	サーモグラフィを手法とした感染制御のための発熱判定ガイドラインの構築	薬学部	助手	芝田 宏美	2,200,000
挑戦的 萌芽研究	型肝炎患者の治療中のセルフマネジメントを促すグループ介入プログラムの効果の検証	看護学部	教授	鈴木 久美	1,400,000
若手研究(A)	微弱電流刺激のエビデンスを創造する	リハビリテーション学部	講師	坂口 顕	4,100,000
若手研究(B)	慢性閉塞性肺疾患患者の増悪予防のための自己管理を促す心理教育的介入プログラム開発	看護学部	講師	松本 麻里	1,300,000
若手研究(B)	悪性中皮腫の多剤耐性獲得におけるヒアルロン酸が誘発する上皮間葉転換の意義	薬学部	助教	大野 喜也	1,400,000
若手研究(B)	長鎖脂肪酸：アミノ酸抱合経路によるインスリン抵抗性の制御	薬学部	助教	伊藤 崇志	1,500,000
若手研究(B)	PKC-ε 選択的活性化による新規抗認知症治療剤創製と新規ターゲット探索	薬学部	助教	清水 忠	1,200,000
若手研究(B)	前立腺癌の個別化適正ホルモン療法確立のための科学的基盤構築	薬学部	講師	南畝 晋平	1,000,000
若手研究(B)	他動的下肢体幹運動および努力性横隔膜呼吸運動が腸管運動に及ぼす影響	リハビリテーション学部	講師	森沢 知之	500,000
若手研究(B)	入院する小児の転倒転落リスクアセスメントツールの作成とその効果に関する研究	看護学部	助教	藤田 優一	200,000
若手研究(B)	レビー小体型認知症のある高齢者の体験に基づいたケア方法の構築	看護学部	助手	加藤 泰子	1,600,000
合 計				38件	53,800,000

(2) 厚生労働省科学研究費補助金

平成22年度厚生労働省科学研究費補助金は、2件が採択され総額8,000,000円の交付があった。平成23年度については、2件が採択され総額6,200,000円の交付があった。詳細を表3～4に示す。

表3. 平成22年度厚生労働省科学研究費補助金／委託費

研究事業名	研究課題名	所属部局	職名	研究代表者	交付額(円)
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	禁煙治療薬による喫煙関連疾患予防法の再評価と効果的な禁煙指導法の確立と普及のための多施設共同臨床試験	薬学部	教授	東 純一	6,400,000
			講師	前田真貴子(分担者)	
地域医療基盤開発推進研究事業	諸外国のマグネット・ホスピタルの組織特性とその要素に影響する取り組みに関する研究	看護学部	教授	富永 真己	1,600,000
合 計				2 件	8,000,000

表4. 平成23年度厚生労働省科学研究費補助金／委託費

研究事業名	研究課題名	所属部局	職名	研究代表者	交付額(円)
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	禁煙治療薬による喫煙関連疾患予防法の再評価と効果的な禁煙指導法の確立と普及のための多施設共同臨床試験	薬学部	教授	東 純一	4,700,000
			講師	前田真貴子(分担者)	
地域医療基盤開発推進研究事業	諸外国のマグネット・ホスピタルの組織特性とその要素に影響する取り組みに関する研究	看護学部	教授	富永 真己	1,500,000
合 計				2 件	6,200,000

(3) その他、平成22・23年度研究助成金・寄付金

その他財団法人及び企業等からの受託研究、共同研究など学外研究費の取得については、平成22年度では取得件数10件、総額44,883,812円、23年度の取得件数は12件、総額38,932,750円であった。学外研究費の詳細な取得状況については表5～10に示す。

表5. 平成22年度研究助成金

財 団 名	所属部局	職名	研究代表者	助成額(円)
公益財団法人上原記念生命科学財団	薬学部	助教	伊藤 崇志	2,000,000
(財) ひょうご科学技術協会	薬学部	准教授	戴 毅	1,000,000
合 計			2 件	3,000,000

表6. 平成23年度研究助成金

財 団 名	所属部局	職名	研究代表者	助成額(円)
(財) 日中医学協会	薬学部	准教授	戴 毅	2,000,000
ニッセイ財団	看護学部	講師	堀口 和子	1,220,000
(財) ひょうご科学技術協会	薬学部	准教授	芝崎 誠司	1,000,000
合 計			3 件	4,220,000

表7. 平成22年度受託研究

委 託 企 業 等	所属部局	職名	研究代表者	委託費(円)
(独) 科学技術振興機構	共通教育センター	教授	磯 博行	5,382,000
(独) 医薬基盤研究所	薬学部	教授	青木 俊二	9,000,000
NPO 法人近畿バイオインダストリー	薬学部	准教授	芝崎 誠司	11,504,812
(社) 日本化学工業協会	薬学部	教授	清宮 健一	4,997,000
(社) 日本化学工業協会	薬学部	教授	田中 稔之	4,000,000
(株) 大日本精機	薬学部	教授	田中 明人	3,000,000
アステラス製薬(株)	薬学部	教授	田中 明人	3,000,000
合 計			7 件	40,883,812

表8. 平成23年度受託研究

委 託 企 業 等	所属部局	職名	研究代表者	委託費(円)
(独) 医薬基盤研究所	薬学部	教授	青木 俊二	9,000,000
NPO 法人近畿バイオインダストリー	薬学部	准教授	芝崎 誠司	11,712,750
大正製薬(株)	薬学部	教授	東 純一	3,000,000
アステラス製薬(株)	薬学部	教授	田中 明人	3,000,000
合 計			4 件	26,712,750

表9. 平成22年度共同研究

共同研究先企業等	所属部局	職名	研究代表者	共同研究費
生化学工業(株)	薬学部	教授	田中 稔之	1,000,000
合 計			1 件	1,000,000

表10. 平成23年度共同研究

共同研究先企業等	所属部局	職名	研究代表者	共同研究費
(株) オフテクス	薬学部	教授	田中 明人	3,000,000
(独) 宇宙航空研究開発機構	薬学部	助教	中野 明博	500,000
倉敷紡績 (株)	薬学部	教授	東 純一	2,000,000
(株) ジェノラック BL	薬学部	准教授	芝崎 誠司	500,000
生化学工業 (株)	薬学部	教授	田中 稔之	2,000,000
合 計			5 件	8,000,000

4) 兵庫医療大学研究セミナー

i) 概要

このセミナーの開催は、兵庫医療大学における3学部と共通教育センターにより教員の研究面での交流を深めるため、情報交換を行いお互いに相手を知ることが重要である趣旨から、当初より学部交代で開催することとし継続している。平成22・23年度の兵庫医療大学研究セミナーの活動状況の詳細を表1～3. に示す。

ii) 活動状況

表1. 平成22年度兵庫医療大学研究セミナー

回	開催日時	場所	担当部署	講演テーマ	講演担当	参加者
第14回	7月29日(木) 16時～17時	M106	薬学部	新しいアレルギーの概念	兵庫医科大学 学長 中西 憲司	56名

表2. 平成23年度兵庫医療大学研究セミナー

回	開催日時	場所	担当部署	講演テーマ	講演担当	参加者
第15回	5月19日(木)	M487	リハビリテーション学部	自立動作を支援するロボットスーツ HAL についての講演と HAL 装置体験、パロを用いたロボットセラピーの実際	大和ハウス工業(株) ヒューマン・ケア 事業推進部 ロボット事業推進室 田中 一正 福田 祐介	26
第16回	6月16日(木)	M487	リハビリテーション学部	Adventures with the Foot	リハビリテーション学部研究員 Juan Garbalosa Ph.D.	20
第17回	9月14日(水)	M106	研究支援グループ	これからの医療の新展開、全人的統合医療について	大阪大学大学院生 体機能補完医学講座 教授 伊藤壽記	41
第18回	1月26日(木)	M106	研究推進委員会	PACAP 遺伝子改変マウスからの精神疾患関連標的分子の探索	兵庫医療大学副学長 薬学部 教授 馬場 明道	38
				先端医薬研究センター活動報告	薬学部 教授 田中 明人 助教 清水 忠 研究員 所 美雪	

表 3. 平成22・23年度兵庫医療大学知的財産セミナー

回	開催日時	場所	担当部署	講 演 テ ー マ	講 演 担 当	参加者
第1回	2月9日(水) 17時00分～ 18時30分	M106	研究支援 グループ	大学と特許	(独)工業所有権情報・ 研修館人材育成部大学 知的財産アドバイザー 青森県立保健大学 客員教授 丞村 宏	25
第2回	12月7日(木)	M106	法務・ 知的財産室	強い特許をとるには	(独) JST 特許主任調査員 渡邊純造	20

表 4. 平成23年度兵庫医療大学全学教職員フォーラム

回	開催日時	場所	担当部署	講 演 テ ー マ	講 演 担 当	参加者
	5月26日(木)	M487	医療科学 研究科	医療科学研究科セミナー 車椅子推進介助における下肢の特徴	リハビリテーション学部 講師 山田 哲	20
	9月13日(火)	M487	看護学部	看護学部セミナー ナイジェリアにおける現任助産師 教育に向けた実態調査と教育内容 およびその評価	看護学部 教授 鈴井江三子	28
	10月13日(木)	M106	薬学部	薬学部 FD 研究セミナー 兵庫医大での国家試験対策の経験 から 第1回新任教員研修会に参加して	兵庫医科大学解剖学 神経科学部門 教授 野口 光一 薬学部 助手 重松 誠	67

5) 教育・研究・社会活動における新聞記事

表 1. 平成22年度

月 日	新 聞 社	記 事 内 容	学 部	職 位	氏 名
6月13日	神戸 朝	4大学の社会貢献を考える —地域が求める大学をめざして—			
9月14日	毎日 朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 母性看護学	看護学部	教授	末原紀美代
9月28日	毎日 朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 認知症のケア	看護学部	教授	町田 弥生
10月5日	毎日 朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 適切な在宅療養へ橋渡し	看護学部	教授	上原ます子
10月19日	毎日 朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 副作用対策など支援プログラム	看護学部	教授	鈴木 久美
10月26日	毎日 朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 がん理解し患者支援の実践学	看護学部	副学長	佐藤 禮子
12月9日	神戸 朝	嚥下食メニューを強化 神戸のホテルと兵庫医療大連携	リハ学部	教授	野崎 園子

月 日	新 聞 社	記 事 内 容	学 部	職 位	氏 名
12月18日	神戸	朝	兵庫医療大に大学院 大学設置神14校の新設認可答申	大学	
2月4日	神戸	夕	人出不足を反映 看護系軒並み高倍率県内私大 入試 医療系学科が林立「就職心配ない」	大学入試	
3月29日	毎日	朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 独自の薬学研究 チーム、地域への有用な人材を	薬学部 副学長	馬場 明道

表 2. 平成23年度

月 日	新 聞 社	記 事 内 容	学 部	職 位	氏 名
4月5日	毎日	朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 海から“くすり”を探す	薬学部 教授	青木 俊二
4月10日	神戸	朝	AMDA 県支部神戸で報告会 「近くに入院先ない」 ストレスで感染症多発	薬学部 講師	桂木 聡子
4月12日	毎日	朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携事業 見えない分子を見る！ 蛍光物質による可視化	薬学部 教授	前田 初男
4月12日	毎日	夕	家族よ、よく決断 臓器移植法成立後初の心臓 移植手術を執刀した松田暉（ひかる）・兵庫医 療大学長（心臓血管外科）	学長	松田 暉
4月19日	毎日	夕	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携事業 薬を創る 病気に効く蛋白質探究	薬学部 教授	田中 明人
4月26日	毎日	朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携事業 ゲノム薬理学「確率」から「確信」へシフト	薬学部 学部長	東 純一
5月1日	神戸	朝	被災地の力に 心的外傷・癒して あす岩手へ 自ら行うケア法指導	看護学部 助教	大山 末美
6月6日	毎日	朝	3大学20人が義援金 支局に委託 イベントの8万3000円	学生 4年	松ヶ下 壮
9月12日	薬事		“一包化” 監査用シート開発 背景色を工夫し 見やすく	薬学部 教授	前田 初男
9月13日	毎日	朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 明日のリハビリテーション	リハ学部 教授	土肥 信之
9月28日	毎日	朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 地域リハビリテーション 学際領域との連携が 重要	リハ学部 教授	日高 正巳
10月4日	毎日	朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 精神科領域の作業療法 生きる希望と楽しみを	リハ学部 教授	山田 大豪
10月25日	毎日	朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 高次脳機能障害 周囲の理解・協力が不可欠	リハ学部 教授	山崎せつ子
10月25日	毎日	朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 運動器リハビリテーション 健康と生活の向上 図る	リハ学部 学部長	藤岡 宏幸
12月9日	神戸	朝	嚥下障害あっても食べる楽しみ やわらかいフランス料理提供	リハ学部 教授	野崎 園子
1月21日	神戸	朝	ひょうごの医療シリーズ19手や腕、肩の病気③ 兵庫医療大学リハビリテーション学部藤岡宏幸 教授に聞く小皮切法や内視鏡手術 どの方法も 長所と短所	リハ学部 学部長	藤岡 宏幸
2月4日	神戸	朝	「心臓外科医が見た医療事情」	学長	松田 暉
2月14日	毎日	朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 在宅医療サービス もしもに備え情報収集	看護学部 准教授	青木菜穂子

月 日	新 聞 社		記 事 内 容	学 部	職 位	氏 名
2月18日	サンケイ リビング	神戸 西	兵庫医療大学 カンジタ感染予防の「食べるワ クチン」	薬学部	准教授	芝崎 誠司
2月18日	サンケイ リビング	神戸 西	意外と知らないお薬の話 花粉症の点鼻薬の上 手な使い方は？即効性のあるタイプ、ないタイ プ 特徴を知って使い分けを	薬学部	教授	青木 俊二
2月21日	毎日	朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 スマート・イメージアップ 所有者の日常生活 理解を	看護学部	准教授	土田 敏恵
2月28日	毎日	朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 老年看護 「自分らしい生活」支える	看護学部	教授	細見 明代
3月6日	毎日	朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 小児看護学 家族の価値観理解し支援	看護学部	教授	藤井真理子

Ⅲ. 管理・運営活動

1. 学生の受け入れ

1) 入学試験状況

i) 概要

平成22年度入学試験、平成23年度入学試験、並びに看護学部三年次編入学試験の日程、及び募集人員等は次のとおりである。平成22・23年度入学試験及び看護学部三年次編入学試験の結果については、表1～12に示す。

(1) 平成22年度入学試験

①推薦入学試験（専願制）

募集人員：薬学部 20名

看護学部 30名

リハビリテーション学部理学療法学科 10名

リハビリテーション学部作業療法学科 15名

選抜方法：全学部共通 外国語、小論文、調査書

試験日：平成21年11月14日（土）

合格発表日：平成21年11月26日（木）

②推薦入学試験（薬学部指定校推薦入学制度）

募集人員：薬学部 10名

合格発表日：平成21年11月27日（金）

③推薦入学試験（併願制 A 日程）

募集人員：薬学部 7名

選抜方法：薬学部（外国語、小論文、調査書）

試験日：平成21年11月15日（日）

合格発表日：平成21年11月26日（木）

④推薦入学試験（併願制 B 日程）

募集人員：薬学部 7名

選抜方法：薬学部（外国語、小論文、調査書）

試験日：平成21年12月5日（土）

合格発表日：平成21年12月11日（金）

⑤一般入学試験（前期 A 日程）

募集人員：薬学部 60名

看護学部 60名

リハビリテーション学部理学療法学科 25名

リハビリテーション学部作業療法学科 12名

選抜方法：薬学部（外国語、数学、理科）

看護学部（外国語、国語、理科）

リハビリテーション学部理学療法学科（外国語、数学、理科）

リハビリテーション学部作業療法学科（外国語、国語、理科）

試験日：平成22年1月30日（土）

合格発表日：平成22年2月10日（水）

⑥一般入学試験（前期B日程）

募集人員：薬学部 30名

リハビリテーション学部作業療法学科 8名

選抜方法：薬学部（外国語、理科）

リハビリテーション学部作業療法学科（外国語、数学、理科）

試験日：平成22年1月31日（日）

合格発表日：平成22年2月10日（水）

⑦一般入学試験（後期日程）

募集人員：薬学部 10名

看護学部 5名

リハビリテーション学部理学療法学科 5名

リハビリテーション学部作業療法学科 5名

選抜方法：薬学部（外国語、数学、理科）

看護学部（外国語、国語、理科）

リハビリテーション学部理学療法学科（外国語、小論文、理科）

リハビリテーション学部作業療法学科（外国語、小論文、理科）

試験日：平成22年2月27日（土）

合格発表日：平成22年3月9日（火）

⑧大学入試センター試験利用入学試験

募集人員：薬学部 6名

看護学部 5名

選抜方法：薬学部（外国語、数学、理科、国語）

看護学部（外国語、国語、理科）

試験日：本学独自の学力試験はなし。

合格発表日：平成22年2月10日（水）

⑨看護学部三年次編入学試験

募集人員：看護学部 10名

選抜方法：看護学部（外国語、専門科目、面接）

試験日：平成21年9月12日（土）

合格発表日：平成21年9月18日（金）

表1. 平成22年度推薦入学試験

薬学部	専願制	専願(追試)	指定校推薦	併願制A日程	併願制B日程	計
募集人員	20		10	7	7	44
出願者数	37		4	40	17	98
受験者数	34	1	4	36	17	92
合格者数	24	0	4	19	8	55
入学者数	24		4	10	5	43

表 2. 平成22年度一般入学試験

薬学部	前期 A 日程	前期 B 日程	前期 B(追試)	センター利用	後期日程	計
募集人員	60	30		6	10	106
出願者数	136	114		46	52	348
受験者数	131	112	1	46	39	329
合格者数	103	80	1	21	31	236
入学者数	60	30	1	0	16	107

表 3. 平成22年度推薦入学試験・一般入学試験

看護学部	推薦入学試験	一般入学試験				計
	専願制	前期 A 日程	前期 A(追試)	センター利用	後期日程	
募集人員	30	60		5	5	100
出願者数	154	531		212	97	994
受験者数	152	522	2	212	95	983
合格者数	30	143	2	12	8	195
入学者数	30	70	2	0	6	108

表 4. 平成22年度 3 年次編入学試験

看護学部	編入学試験
募集人員	15
出願者数	43
受験者数	43
合格者数	18
入学者数	18

表 5. 平成22年度推薦入学試験・一般入学試験

リハビリテーション学部理学療法学科	推薦入学試験	一般入学試験		計
	専願制	前期 A 日程	後期日程	
募集人員	10	25	5	40
出願者数	94	199	32	325
受験者数	93	197	31	321
合格者数	12	57	8	77
入学者数	12	32	7	51

表 6. 平成22年度推薦入学試験・一般入学試験

リハビリテーション学部作用療法学科	推薦入学試験	一般入学試験			計
	専願制	前期 A 日程	前期 B 日程	後期日程	
募集人員	15	12	8	5	40
出願者数	43	51	65	9	168
受験者数	43	51	65	9	168
合格者数	18	23	29	5	75
入学者数	18	16	7	3	44

(2) 平成23年度入学試験

①推薦入学試験（専願制）

募集人員：薬学部 25名

看護学部 30名

リハビリテーション学部理学療法学科 10名

リハビリテーション学部作業療法学科 15名

選抜方法：薬学部（外国語、理科、調査書）

看護学部（外国語、小論文、調査書）

リハビリテーション学部（外国語、小論文、調査書）

試験日：平成22年11月13日（土）

合格発表日：平成22年11月25日（木）

②推薦入学試験（薬学部指定校推薦入学制度）

募集人員：薬学部 10名

合格発表日：平成22年11月25日（木）

③推薦入学試験（併願制 A 日程）

募集人員：薬学部 10名

選抜方法：薬学部（外国語、理科、調査書）

試験日：平成22年11月6日（土）

合格発表日：平成22年11月16日（火）

④推薦入学試験（併願制 B 日程）

募集人員：薬学部 10名

選抜方法：薬学部（理科、調査書）

試験日：平成22年12月4日（土）

合格発表日：平成22年12月10日（金）

⑤一般入学試験（前期 A 日程）

募集人員：薬学部 40名

看護学部 57名

リハビリテーション学部理学療法学科 約25名

リハビリテーション学部作業療法学科 約12名

選抜方法：薬学部（外国語、数学、理科）

看護学部（外国語、国語、理科）

リハビリテーション学部理学療法学科（外国語、数学、理科）

リハビリテーション学部作業療法学科（外国語、国語、理科）

試験日：平成23年2月2日（水）

合格発表日：平成23年2月10日（木）

⑥一般入学試験（前期 B 日程）

募集人員：薬学部 25名

リハビリテーション学部作業療法学科 約8名

選抜方法：薬学部（外国語、理科）

リハビリテーション学部作業療法学科（外国語、数学、理科）

試験日：平成23年2月3日（木）

合格発表日：平成23年2月10日（木）

⑦一般入学試験（前期 C 日程）

募集人員：薬学部 15名

選抜方法：薬学部（理科、外国語・数学〔1教科選択〕）

試験日：平成23年2月19日（土）

合格発表日：平成23年2月25日（金）

⑧一般入学試験（後期日程）

募集人員：薬学部 10名

看護学部 5名

リハビリテーション学部理学療法学科 若干名

リハビリテーション学部作業療法学科 若干名

選抜方法：薬学部（外国語、数学、理科）

看護学部（外国語、国語、理科）

リハビリテーション学部理学療法学科（外国語、小論文、理科）

リハビリテーション学部作業療法学科（外国語、小論文、理科）

試験日：平成23年2月26日（土）

合格発表日：平成23年3月8日（火）

⑨大学入試センター試験利用入学試験（前期日程）

募集人員：薬学部 5名

看護学部 5名

リハビリテーション学部理学療法学科 2名

リハビリテーション学部作業療法学科 2名

選抜方法：薬学部（外国語、理科）

看護学部（外国語、国語、理科）

リハビリテーション学部理学療法学科（外国語、数学、国語、理科）

リハビリテーション学部作業療法学科（外国語、数学、国語）

試験日：本学独自の学力試験はなし。

合格発表日：平成23年2月10日（木）

⑩大学入試センター試験利用入学試験（後期日程）

募集人員：看護学部 3名

選抜方法：看護学部（外国語、国語、理科）

試験日：本学独自の学力試験はなし。

合格発表日：平成23年3月25日（金）

⑪看護学部三年次編入学試験

募集人員：看護学部 10名

選抜方法：看護学部（外国語、専門科目、面接）

試験日：平成22年9月11日（土）

合格発表日：平成22年9月17日（金）

表 7. 平成23年度推薦入学試験

薬学部	専願制	指定校推薦	併願制 A 日程	併願制 B 日程	計
募集人員	25	10	10	10	55
出願者数	38	5	114	42	119
受験者数	35	5	113	41	194
合格者数	25	5	39	25	94
入学者数	24	5	8	18	55

表 8. 平成23年度一般入学試験

薬学部	前期 A 日程	前期 B 日程	前期 C 日程	センター利用	後期日程	計
募集人員	40	25	15	5	10	95
出願者数	189	99	72	41	57	458
受験者数	182	95	66	41	37	421
合格者数	104	61	45	21	28	259
入学者数	30	33	34	5	14	116

表 9. 平成23年度推薦入学試験・一般入学試験

看護学部	推薦入学試験	一般入学試験			計
	専願制	前期 A 日程	センター(前期)	後期日程	
募集人員	30	57	5	5	100
出願者数	167	575	85	91	929
受験者数	165	552	85	89	902
合格者数	31	127	13	6	180
入学者数	31	68	1	5	108

表10. 平成23年度三年次編入学試験

看護学部	編入学試験
募集人員	10
出願者数	5
受験者数	5
合格者数	4
入学者数	2

表11. 平成23年度推薦入学試験・一般入学試験

リハビリテーション 学部理学療法学科	推薦入学試験	一般入学試験			計
	専願制	前期 A 日程	センター(前期)	後期日程	
募集人員	10	約25	2	若干名	40
出願者数	100	234	63	45	442
受験者数	100	229	63	43	435
合格者数	15	41	14	3	73
入学者数	15	25	1	3	44

表12. 平成23年度推薦入学試験・一般入学試験

リハビリテーション 学部作業療法学科	推薦入学試験	一 般 入 学 試 験				計
	専 願 制	前期 A 日程	前期 B 日程	センター(前)	後期日程	
募 集 人 員	15	約12	約 8	2	若干名	40
出 願 者 数	50	59	60	20	16	205
受 験 者 数	50	59	58	20	14	201
合 格 者 数	15	22	25	4	3	69
入 学 者 数	15	13	13	1	3	45

2) 学 生 数

表 1. 平成22年度学生数（4月1日現在）

学 部	学 科	第1学年次	第2学年次	第3学年次	第4学年次	計
薬 学 部	医療薬学科	160	177	166	147	650
看 護 学 部	看 護 学 科	108	112	98※	114	432
リハビリテー シ ョ ン 学 部	理学療法学科	53	46	36	40	175
	作業療法学科	48	51	40	39	178
計		369	386	340	340	1,435

※看護学部第3学年次には、編入学生1名を含んでいます。

表 2. 平成23年度学生数（4月1日現在）

学 部	学 科	第1学年次	第2学年次	第3学年次	第4学年次	第5学年次	計
薬 学 部	医療薬学科	182	168	149	157	146	802
看 護 学 部	看 護 学 科	111	110	110※	95	—	426
リハビリテー シ ョ ン 学 部	理学療法学科	46	50	46	34	—	176
	作業療法学科	45	50	50	40	—	185
計		384	378	355	326	146	1,589

※看護学部第3学年次には、編入学生2名を含んでいます。

2. 学生の福利厚生

1) 奨学金の貸与状況

i) 奨学金制度の概要

本学における各種奨学金（日本学生支援機構奨学金、兵庫医療大学奨学金、兵庫医科大学病院貸与奨学金（返還免除特典付）、兵庫医科大学篠山病院奨学金（返還免除特典付））の貸与を受けている学生の割合は、平成22年度では全学生の54%、23年度は56%となり、奨学金へのニーズは年々増加している。

また、平成21年度より、日本学生支援機構奨学金において奨学金貸与者に対する貸与額減額指導する制度が始まったこともあり、本学独自の奨学金返還の自覚促進サポートについては、本機構の減額指導制度に合わせて、貸与額の確認や各学生部委員が面談を行い指導している。

さらに、卒業前に返還説明会を開催し、卒業後の返還対応についてもサポートを行っている。平成22・23年度における奨学金制度の利用状況を図1～2に示す。

ii) 入学生・在学生特別奨学金の新設

平成23年度より、入学試験の上位成績者に対する初年度学納金の全額免除又は入学後に優秀な成績修め、他の模範となる資質を有すると認められる在学生に対する学費の全額免除もしくは半額免除する入学生・在学生特別奨学金制度を新設した。この制度は、学生全体の学習意欲を高め、優秀な学生を輩出し、次代の医療をリードする人材の育成を目指すことを目的としている。平成23年度については、当該年度入学受験生3名を奨学生対象者に採用され入学している。

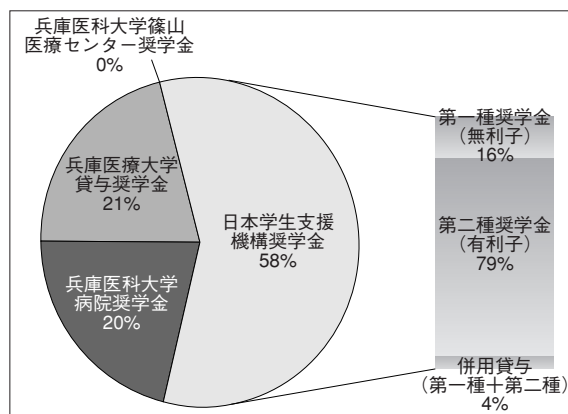


図1. 平成22年度奨学金採用者種類別割合（延人数）

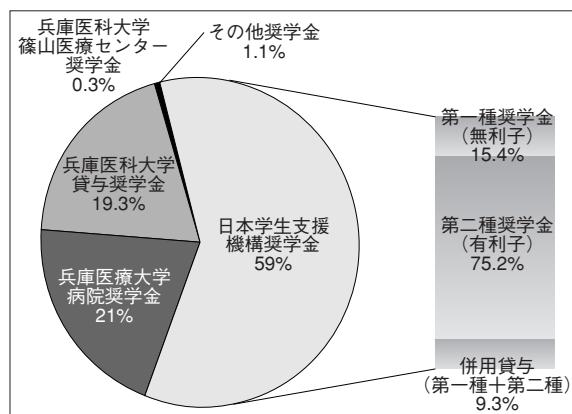


図2. 平成23年度奨学金採用者種類別割合（延人数）

2) 学生会活動

i) 概要

課外活動の参加状況については、平成22年度では758名、23年度893名の学生が参加しており、参加人数は年々増加している。在学学生数の比率からすると平成22年度では53%と前年度比の55%から減少したが、23年度には57%と増加している。開学時からの在学学生数比率では毎年減少傾向を示して

いたが、下げ止まり感が見られる。

公認活動団体における学部別の参加人数では、薬学部の学生が多いが、在学生数の比率からではリハビリテーション学部の学生が一番多い結果となっている。また、学年別では、第1、2学年次の学生が多い結果となった。学生の課外活動状況の詳細を図1～3に示す。

ii) 課外活動の状況

平成23年度時点で、学生組織2団体、部活動11団体、同好会活動19団体の計32団体が公認を受けて活動している。平成22年度に5団体、23年度には2団体が新たに公認課外活動団体へと昇格が認められている。大学公認課外活動団体の一覧及び顧問（指導者）を表1に示す。

iii) 公認課外活動団体の活動場所

平成21年3月より使用可能となった体育館（G棟アリーナ）を中心に、学内の各施設（講義室、オクタホール、ミニグラウンド等）を毎月開催する学内施設使用者会に利用計画を提出し協議したうえ公認課外活動団体が優先し使用している。

学内に活動施設を持たない団体（アーチェリー部等）については、公認団体が個別に学外施設を確保契約して活動を行っている。以前より制度化している学外施設利用に対する補助制度により、各部活動団体並びに同好活動団体への活動支援を実施している。平成22年7月より関西電力グラウンドを時間借りし、野球部、サッカー部、テニス部等の部活動団体、及びソフトボールサークル等の同好活動団体が使用するグラウンドやテニスコートなどの練習場所を確保する支援を行っている。公認課外活動団体の主な活動場所を表2に示す。

iv) 学生会行事・イベントの活動状況

平成22年度では、4月に新入生歓迎会、6月には学生総会、10月には第3回海梟祭、11月に臨時学生総会及び次年度学生会役員選挙、クリスマスイルミネーション点灯式、1月にスポーツ大会を開催した。

また、学生委員会では、公認課外活動団体の顧問に対し、情報交換、指導上の協力を得ることを目的として顧問懇談会を開催している。さらに、学生会活動や課外活動における学生会、大学行事実行委員会、公認課外活動団体としてのあり方について理解を深め、各々の役割を認識するとともに学生会を中心とした組織作りを行うことを目的に、学生会執行部、大学行事実行委員会、及び公認課外活動団体所属学生を対象に1泊2日の課外活動リーダーズキャンプを実施している。平成22・23年度に学生委員会が実施した行事の詳細を表3に示す。

平成23年度には、上記以外にも姉妹校兵庫医科大学との交流戦として、6団体（野球、バドミントン、テニス、ソフトテニス、サッカー、バスケットボール）が試合を行い、5勝1敗にて兵庫医療大学が優勝した。学生委員会としても、交流戦の懇親会や親睦会の経費に対する補助を行うなど両大学の交流を積極的に支援している。

また、課外活動功労賞については、学生が在学期間を通じて他の学生の模範となり学生会活動やクラブ活動、課外活動、及び人道活動等の諸活動を通じて兵庫医療大学の発展に功労のあった学生を讃えらるとともに、積極的に取り組む風土を育てることを目的として設け、平成22年度第1回卒業式より表彰している。

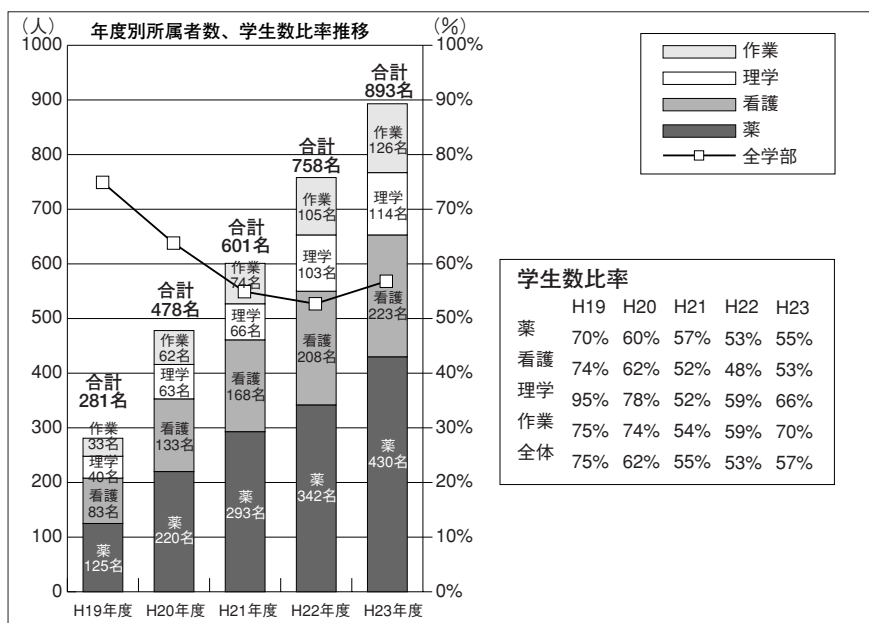


図1. 年度別課外活動所属者数、学生数比率推移

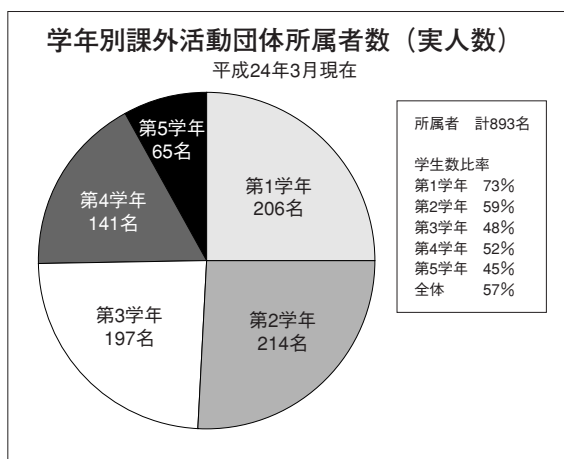
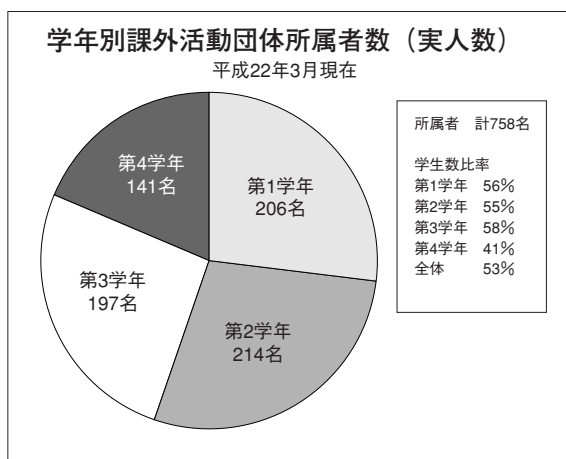


図2. 学年別課外活動所属者人数（実人数）

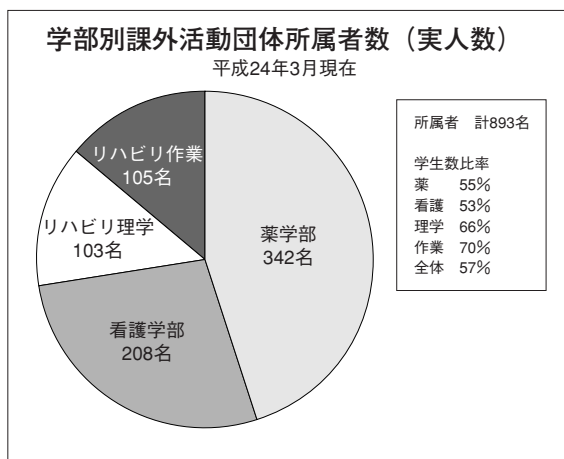
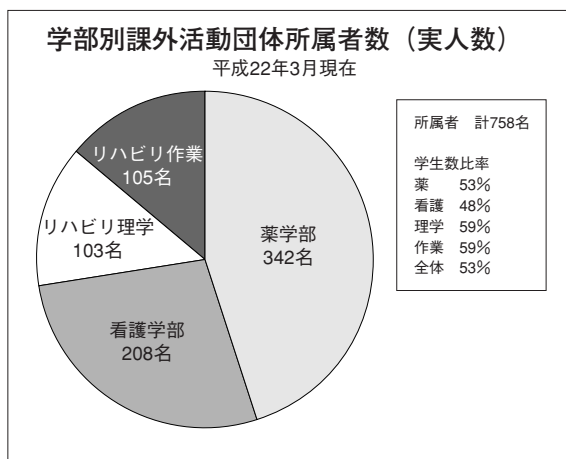


図3. 学部別課外活動団体所属者人数（実人数）

表 1. 大学公認課外活動団体一覧

団体区分	団体名称	所属人数	顧問（指導者）		
学生会組織	兵庫医療大学 学生会	27			
	兵庫医療大学 大学行事实行委員会	102			
小 計		129			
部活動団体	兵庫医療大学 アーチェリー部	21	薬学部	教授	田中 明人
	兵庫医療大学 バスケットボール部	25	リハビリテーション学部 共通教育センター	講師 講師	森 明子 賀屋 光晴
	兵庫医療大学 バトミントン部	68	共通教育センター	教授	伊東 久男
	兵庫医療大学 野球部	45	薬学部	教授	前田 初男
	兵庫医療大学 テニス部	33	薬学部	教授	青木 俊二
	兵庫医療大学 サッカー部	38	薬学部	教授	田中 稔之
	兵庫医療大学 水泳部	19	リハビリテーション学部	教授	川口浩太郎
	兵庫医療大学 ソフトテニス部	12	リハビリテーション学部	講師	有吉 正則
	兵庫医療大学 軽音楽部	127	共通教育センター	教授	磯 博行
	兵庫医療大学 Jazz バンド部	57	薬学部	准教授	前田 拓也
	兵庫医療大学 芸術研究部	9	薬学部	准教授	芝崎 誠司
小 計		454			
同好活動団体	HUHS バスケットボールサークル	33	リハビリテーション学部	講師	香川 真二
	兵庫医療大学 フットサルサークル	51	リハビリテーション学部	教授	山田 大豪
	兵庫医療大学 卓球サークル	16	リハビリテーション学部	教授	日高 正巳
	兵庫医療大学 テニスサークル	74	薬学部	助手	大野 喜也
	兵庫医療大学 ダンスサークル	64	リハビリテーション学部	講師	佐野 恭子
	兵庫医療大学ソフトボールサークル	20	リハビリテーション学部	教授	山崎せつ子
	兵庫医療大学 合気道同好会	12	看護学部	准教授 師範	土田 敏 琴地 茂
	兵庫医療大学 フットサルサークル	66	共通教育センター	准教授	紀平 知樹
	兵庫医療大学 陸上競技サークル	32	薬学部	助教	清水 忠
	Huhs ソフトテニスサークル	19	薬学部	助教	長野 基子
	兵庫医療大学 ヨガサークル	20	薬学部	講師	
	兵庫医療大学バレーボールサークル	75	看護学部	講師	西村 明子
	HUHS 弓道サークル	11	共通教育センター	教授	磯部 孝彦
	兵庫医療大学 漫画研究サークル	20	看護学部	講師	水野 暢子
	兵庫医療大学 映画鑑賞サークル	43	薬学部	講師	藤野 秀樹
	兵庫医療大学 天文サークル	32	共通教育センター	講師	加藤 精一
	兵庫医療大学 写真サークル	26	薬学部	教授	山本 悟史
	兵庫医療大学 医療研究サークル	22	共通教育センター	教授	藤田 幸久
	兵庫医療大学 書道華道茶道サークル	38	リハビリテーション学部	准教授 教授	伊藤 斉子 山内翠澄正
小 計		632			
総 合 計		1,215			

表 2. 公認課外活動団体活動場所一覧

施設区分	施 設 名	
学内施設	Garden Wing Arena	アリーナ、多目的ホール 1・2
		スタジオ
		工作室、アトリエ
		共同施設（スクエア・ミーティングルーム・ピロティ）
	テニスコート	
	グラウンド	ミニグラウンド（サッカーゴール）
	バスケットゴール（野外）	センタープラザ
	講義室	
	オクタホール	500席
	実習室	
	学内構内スペース	図書館、M棟4Fバルコニー、芝生広場（レストラン前）
学外施設	兵庫医科大学	平成記念会館、アリーナ、トレーニングルーム
	関西電力グラウンド	
	学外屋内施設	スタジオ（三宮近辺）
		プール（ポートアイランド島内）
		体育館（三宮近辺）
		公民館（三宮近辺）
	学外屋外施設	テニスコート
		グラウンド
		フットサルコート
	学外屋外施設	アーチェリー場
	その他	個人制作、海・山・川

表 3. 平成22・23年度学生会及び課外活動関連行事

平成22年度		行 事 内 容	平成23年度		行 事 内 容
4 月	6 日 5 ～ 9 日	新入生歓迎会 課外活動新入生勧誘	4 月	9 日	新入生歓迎会
5 月			5 月	19日	顧問懇談会
6 月	19～20日 30日	課外活動リーダーズキャンプ 学生総会	6 月	18～19日 24日	課外活動リーダーズキャンプ 学生総会
7 月			7 月		
8 月			8 月		
9 月	21日	顧問懇談会	9 月		
10月	9 ～10日	第 3 回兵庫医療大学大学祭 (海梟祭)	10月	8 ～ 9 日	第 4 回兵庫医療大学大学祭 (海梟祭)
11月	30日	臨時学生総会 学生会役員選挙 クリスマスイルミネーション 点灯式	11月	21日 28～日	臨時学生総会 スポーツ大会
12月		学生会役員選挙	12月	～ 5 日 7 日	スポーツ大会 クリスマスイルミネーション点 灯式
1 月	19～21日	スポーツ大会	1 月		学生会役員選挙
2 月			2 月		
3 月	7 ～ 9 日 13日	公認課外活動団体更新・昇格ヒ アリング 謝恩会	3 月	5 ～ 7 日 11日	公認課外活動団体更新・昇格ヒ アリング 謝恩会

3) 保健管理センター

i) 施設の概要

保健管理センターは、保健室と学生相談室の2部門より構成され、学生を対象として体調の変化や心の悩みの相談に応じている。定期健康診断や予防接種などが主な業務であるが、学内の感染症の集団発生や事故の予防、学生の健康管理やメンタルヘルスケアの積極的支援を心がけている。病気や事故の際には、当センターを当然利用することになるが、本来これらの事柄は発生しないことが望ましい。病気になるまでに、何らかの徴候を自覚した時点で気楽に相談してもらえようように努めている。

ii) 保健室の活動状況

スタッフ：医師1名、保健師2名

(1) 健康診断

第1～6学年次の健康診断については兵庫県健康財団に委託して、内科診察や胸部X線直接撮影、身体計測（身長・体重・BMI）及び視力測定を実施している。健康診断では、「健康調査票」を学生に提出させ、既往歴、現病歴、アレルギー等と学生生活での支障や医師・保健師との相談希望の有無の調査をしている。記載内容から医師が面談が必要と判断した学生については、掲示板で

呼び出し、医師・保健師による面談を実施し学生生活での健康管理に役立つ指導や助言を行っている。

新入生については、大学生活を始めるに際し、健康状態を把握して運動許容を決める安全配慮目的と生活習慣を見直して健康増進できるよう支援するためである。「健康診断結果のお知らせ」（個人票）は、セントラルオフィスの教育学生支援グループで対応してる。また、要精密検査や要治療者については、保健室で「健康診断結果のお知らせ」（個人票）と兵庫県健康財団からの「紹介状（診療情報提供書）」を提示のうえ受診と精密検査を勧めている。受診後に来室させた学生からは、受診結果と検査結果、医師の指示や指導内容を確認している。

健康診断の身体計測や血液検査の結果、生活習慣を改善する必要がある肥満学生には、保健師から保健指導をしている。学生の定期健康診断の実施状況について表１～３に示す。

表１．平成22・23年度学生健康診断の実施状況

年度	受付日・受付時間		対 象 学 生	
平成22年度	4月1日(木)	9:00～12:00 13:00～17:00	薬学部	第2・3・4学年次
	4月2日(金)	9:00～12:00 13:00～17:00	看護学部 リハビリテーション学部	第2・3・4学年次
	4月10日(土)		3学部新入生	第1学年次
平成23年度	4月1日(金)	9:00～12:00 13:00～17:00	薬学部	第2・3・4・5学年次
	4月4日(月)	9:00～12:00 13:00～17:00	看護学部 リハビリテーション学部	第2・3・4学年次
	4月9日(土)		3学部新入生	第1学年次

会 場：G棟アリーナ2F（体育館）、（新入生：1F（多目的ホール1））
委託機関：兵庫県健康財団

表２．平成22年度学生定期健康診断実施者数

対 象 部 署	対 象 者 数	健 康 診 断		胸部 X 線直接撮影	
		実 施 者 数	受 診 率	実 施 者 数	受 診 率
薬学部	642	637	99.2	636	99.8
看護学部	430	430	100.0	430	100.0
リハビリテーション学部	350	350	100.0	350	100.0

※対象者に休学者を省く

表３．平成23年度学生定期健康診断実施者数

対 象 部 署	対 象 者 数	健 康 診 断		胸部 X 線直接撮影	
		実 施 者 数	受 診 率	実 施 者 数	受 診 率
薬学部	796	790	99.2	790	100.0
看護学部	422	421	99.8	421	100.0
リハビリテーション学部	356	356	100.0	356	100.0

※対象者に休学者を省く

(2) 抗体検査とワクチン予防接種

病院実習での感染予防対策として、本学では抗体検査とワクチン予防接種を兵庫県健康財団に委託し学内において実施している。平成22・23年度の新入生に対し、水痘・ムンプス・麻疹・風疹の4種ウィルスのEIA法による抗体検査を実施している。抗体検査の結果、陰性者及び擬陽性者には、早期臨床体験実習までに学内においてワクチンを接種した。体調不良等の理由で接種できなかった学生は、医療機関で個別にワクチン接種し、接種後の抗体確認検査について統一した基準で確認するため学内で行っている。

ワクチン接種により抗体を獲得できなかった場合、第2学年次に再度ワクチン接種を実施している。2回接種しても陽性とならなかった場合は、第3学年次において、希望者にワクチン接種を実施している。学年が上がるごとに抗体陽性率が上昇していることから、ワクチン接種が有用であると考えている。ワクチン接種後の抗体陽性状況について表4～5に示す。

表4．平成22年度抗体検査及びワクチン予防接種

日	時	検 査 項 目	対 象 学 生
4月6日(火)		抗体検査	第1学年次
5月7日(金)	12:40～16:10	ワクチン接種	
6月11日(金)	12:40～15:20		第1・2学年次対象者 第3学年次希望者
7月16日(金)	12:40～13:40		
7月16日(金)	13:10～13:40	確認抗体検査	看護学部・リハビリテーション学部 第3学年次ワクチン接種者
10月28日(木)	13:10～17:10	ワクチン接種	第1・2学年次 薬学部3学年次
11月4日(木)	13:10～17:10		

会 場：地域連携実践センター
実施健診機関：兵庫県健康財団

表5．平成23年度抗体検査及びワクチン予防接種

日	時	検 査 項 目	対 象 学 生
4月7日(木)		抗体検査	第1学年次
5月13日(金)	12:30～16:10	ワクチン接種	第1・2学年次対象者 第3学年次希望者
6月10日(金)	12:30～15:20		
7月15日(金)	12:30～13:40		
7月15日(金)	12:30～13:40	確認抗体検査	看護学部・リハビリテーション学部 第3学年次ワクチン接種者
11月7日(月)	11:10～13:40 14:30～16:30	ワクチン接種者	第1・2学年次、 薬学部第3学年次
11月17日(木)	12:40～17:00		

会 場：地域連携実践センター
実施健診機関：兵庫県健康財団

表 6. 各学年のワクチン接種後の抗体陽性率

(平成23年 3 月末現在)

	麻 疹	風 疹	水 痘	ム ンプス
第 1 学年次 (平成22年度入学)	100.0 (98.0)	99.4 (91.9)	97.2 (92.2)	92.5 (78.8)
第 2 学年次 (平成21年度入学)	99.5 (98.0)	99.0 (93.7)	98.4 (93.7)	89.6 (75.7)
第 3 学年次 (平成20年度入学)	100.0 (80.6)	99.5 (84.1)	99.8 (88.4)	95.8 (76.0)

※ () は各学年の入学時の抗体陽性率。

表 7. 各学年のワクチン接種後の抗体陽性率

(平成24年 3 月末現在)

	麻 疹	風 疹	水 痘	ム ンプス
第 1 学年次 (平成23年度入学)	99.7 (98.4)	97.0 (92.1)	98.4 (95.1)	87.4 (63.8)
第 2 学年次 (平成23年度入学)	100.0 (98.0)	99.4 (91.9)	97.7 (92.2)	95.7 (78.8)
第 3 学年次 (平成21年度入学)	100.0 (98.0)	99.1 (93.7)	99.7 (93.7)	98.0 (75.7)

※ () は各学年の入学時の抗体陽性率。

(3) 保健室の利用状況

保健室利用者は 4・5 月に次いで 6 月が多い。この時期は抗体検査やワクチン接種関連の説明及び要精密検査者・要治療者への健康診断の結果説明や保健指導が多く、「健康調査票」の記載内容に応じた「面談・説明」の件数が多い。

新生活に慣れずに体調不良となり、ベッドを利用する学生もこの時期に多い。また、10月から翌年 1 月の時期は、発熱や上気道感染症状、消化器症状など内科症状の利用者が多くなり、検温や問診結果により早期受診勧奨や感染拡大防止（手洗い・うがい・マスク装着）の指導を行っている。平成22・23年度における保健室利用状況を表 8～9 に示す。

表 8. 平成22年度症状別保健室利用者数

利 用 内 容	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
内科	88	81	93	63	43	10	60	72	72	71	23	4	680
外科	33	47	64	64	13	11	37	34	38	16	11	6	374
その他診療科	17	17	16	6	5	2	17	17	9	8	2	1	117
相談	20	5	6	5	4	1	1	2	2	1	1	0	48
ベット休養	20	28	28	14	8	5	25	8	19	15	4	0	174
医療機関タクシー搬送	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
救急車搬送	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
面談・説明	338	226	165	86	58	39	109	197	96	217	138	62	1,731
測定	31	34	25	11	3	5	16	8	9	9	1	0	152
その他	46	57	72	59	22	21	81	71	43	36	12	3	523
合 計	573	467	441	294	148	89	321	401	269	358	188	76	3,625

表 9. 平成23年度症状別保健室利用者数

利 用 内 容	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	合計
内科	88	98	83	58	21	32	70	77	54	38	22	5	646
外科	34	39	53	40	20	33	20	26	26	19	7	5	322
その他診療科	18	12	26	21	1	5	6	8	8	3	3	3	114
相談	8	6	4	6	2	4	5	2	8	5	5	1	56
ベット休養	22	21	31	21	5	14	16	20	6	8	4	2	170
医療機関タクシー搬送	0	0	0	1	1	0	1	0	1	0	0	0	4
救急車搬送	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
面談・説明	458	351	254	125	48	87	110	129	140	88	103	153	2,046
測定	33	14	15	18	3	10	20	36	16	8	1	0	174
その他	106	59	85	41	37	46	68	63	40	59	25	2	631
合 計	745	579	520	309	132	217	229	341	292	220	166	169	3,989

※ベット休養は内科の再掲

※医療機関搬送（タクシー）・救急車搬送は内科あるいは外科の再掲

(4) インフルエンザの出席停止措置について

①「感染症罹患報告受付」状況

インフルエンザに罹患した学生の保健室への報告については、平成22年度は48名（A 型31名、B 型1名）、23年度では、39名（A 型5名、B 型23名）であった。インフルエンザの他に平成22年度は流行性耳下腺炎2名の報告があった。

②「出席停止措置」の状況

学校保健安全法に定める感染症に罹患した学生については、登校許可日に保健室へ提出した「感染症罹患届」（診断書添付）を保健管理センター長が確認して出席停止期間を認定し、教務部長に報告している。平成22年度で47名、23年度で38名であった。

③インフルエンザ対策

新型インフルエンザ感染者に係わる措置については、流行期を脱し小康期に入ったことから平成22年4月15日付で解除した。解除後も、新たな集団感染の発生や流行拡大を想定して、インフルエンザの感染予防及び高病原性鳥インフルエンザに関する対策（平成22年11月から終息まで）を啓蒙するため学内掲示板で学生に周知をしてきた。

(5) その他

①禁煙支援

学生の禁煙を支援する「卒煙教室」を平成22年5月～23年2月の期間に毎月開催し、そのうち5月27日（2名）、9月30日（4名）、平成23年7月14日（5名）は、学内の地域連携実践センターで開催した。ニコチン依存症（ND）チェック、呼気中一酸化炭素濃度（マイクロスモーカーライザー）測定、医師面談後にニコチネルパッチ無料提供も実施した。参加学生で禁煙が継続できた2名には、平成23年7月に「卒煙証書」を保健管理センター長から授与した。

卒煙関連の保健室利用者数は平成22年度164名、23年度93名で、卒煙できたと保健室に報告した学生数は22年度12名、23年度1名あった。卒煙教室を利用できない学生には、保健室で卒煙個別相談を平成22年度95名、23年度82名に随時実施した。禁煙前後のマイクロスモーカーライザー測定値を励みに禁煙に取り組む学生も平成22年度66名、23年度11名いた。平成22年10月にタバコ税が増税されたことより、23年度よりも22年度の方が、禁煙への意識は高まっていた

と考えられる。

②女子学生のセルフケア支援

女子学生の来室理由に多い、月経によるトラブル予防について啓蒙するため社団法人日本家族計画協会による講演助成事業を利用し、講演会を開催している。参加者は、平成22年度は21名、平成23年度は9名であった。産婦人科女性医師による月経や体重などの講演については、終了後のアンケート調査によると参加学生の悩みや興味に沿った内容であり、女性ホルモンと関連がある食生活改善への関心が高まったようである。

③保健だより

「保健だより」を有志の学生スタッフが協力し、年4回（春・夏・秋・冬）発行を続けている。学生スタッフが健康に関するテーマを自主的に選んで調べ、記事を掲載している。

④証明書発行（健康診断証明書、抗体検査・予防接種証明書）

薬学部5年生の病院・薬局実務実習や看護学部及びリハビリテーション学部の学外実習に必要な「実習用健康診断証明書」（平成22年度17件、23年度716件）、「抗体検査・予防接種証明書」（平成22年度17件、23年716件）を発行している。

さらに、キャリアデザインセンターからの依頼による就職活動に必要な「就職活動用健康診断証明書」（平成22年度69件、23年度88件）の発行にも対応している。

iii) 学生相談室の活動状況

スタッフ：相談員2名

(1) 学生相談室利用状況

学生相談室は、相談員2名体制、開室日は月・火・木の週3日である。平成22年度の相談室利用件数は62件で、23年度は133件であった。

相談室では、新入学オリエンテーション時において、パワーポイントでの施設案内や相談員の紹介及び学生相談室春のイベント案内など相談室の広報活動を行っている。

相談内容を区分的にみると「性格」、「友人等との対人関係」、「授業などの学業」が上位に位置している。大学時代は社会に出る一歩手前の自分自身の将来について考える時期でもあり、今の自分に不適応感を感じて、「性格」の問題が浮かび上がってくると思われる。また、医療専門職を目指す大学であることから、グループワークや実技実習、学部学科の学生同士が同じ講義を受講する中で、学業に関する様々な問題や人間関係に関する悩みが生じやすいといえる。社会性の発達に関してサポートを必要としている学生の支援や教職員とのコミュニケーション問題が見られる。

さらに、学生を取り巻く関係者（教職員・保護者）とのコンサルテーションを中心とした支援体制について、試行錯誤しながら整備充実に努めている。具体的には、教職員に対する「教職員サポートブック」の配布、アドバイザーグループ説明会において「学生相談室のコンサルテーションについて」の説明を行っている。

表10. 平成22年度相談内容別件数

相 談 内 容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
就職や将来の進路													0
異性問題													0
授業など学業	2	1		3	2	1	1	3	2	1	1		17
友人等との対人関係		3	4	2			3		1				13
性格	3	3	5	6			2		2		1		22
経済問題(家計・学費・ローン)													0
価値観													0
健康													0
課外活動													0
家族や家庭内のこと				1									1
その他	2	3							3		1		9
合 計	7	10	9	12	2	1	6	3	8	1	3	0	62

表11. 平成23年度相談内容別件数

相 談 内 容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
就職や将来の進路								1					1
異性問題	1							1					2
授業など学業	2		2	1		1	1		1				8
友人等との対人関係	5	4	4	2			21	5	2				43
性格	3	2	8	5	4	4	1	3	4	4	4	3	45
経済問題(家計・学費・ローン)													0
価値観													0
健康	2	1					1	2					6
課外活動													0
家族や家庭内のこと													0
その他							2		2	12	9	3	28
合 計	13	7	14	8	4	5	26	12	9	16	13	6	133

表12. 平成23年度コンサルテーション件数

	教 職 員	保 護 者	そ の 他	合 計
件 数	11	0	0	11

(2) 学生相談室イベントの開催

平成22・23年度と学生相談室主催のイベントを春と秋の年2回行った。イベント開催は、学生が、学生生活において、悩んだり困ったりしたときに相談室に来談しやすいように、相談員との交流を図り、相談室の敷居を低くする取り組みのひとつとして行っている。

表13. 平成22・23年度学生相談室イベント開催状況

年度	月 日	時 間	場 所	内 容	参加者
平成22年度	4月20日 (火)	13:40～15:10 15:20～16:50	くつろぎスペース ひだまり	学生相談室イベント	37名
	4月22日 (木)	13:40～15:10 15:20～16:50		「あなたの性格はどんなタイプ？」	
	12月07日 (火)	13:40～15:10 15:20～16:50	くつろぎスペース ひだまり	学生相談室イベント with キャリアデザインセンター	22名
	12月09日 (木)	13:40～15:10 15:20～16:50		「自分の興味と心理的傾向を知って、 キャリアデザインに活かそう」	
平成23年度	4月14日 (木)	13:40～15:10 15:20～16:50	くつろぎスペース ひだまり	学生相談室主催イベント	39名
	4月19日 (火)	13:40～15:10 15:20～16:50		「自分を知る」 ～より良い人間関係のために～	
	11月15日 (木)	14:00～15:30	くつろぎスペース ひだまり	実習や国試の時にも役立つ	8名
	12月06日 (火)	14:00～15:30		心と体がほっとする プログレッシブ・リラクゼーション	

(3) 保健管理センター便り

保健管理センター便り「ばたばた幸せふくろう便」を保健管理センターから年間4回（春・夏・秋・冬）発行した。

(4) 教職員サポートハンドブック

平成21年4月に「教職員サポートハンドブック」をより充実した内容となるように加筆改訂した。

(5) 兵庫医療大学学部・大学院学生等のハラスメントの窓口

平成22年10月1日より、相談員が学校法人ハラスメント防止委員会から学生ハラスメントに関する相談窓口を担当するよう委嘱を受けた。

3. 附属施設・活動状況

1) 図 書 館

i) 概要

兵庫医療大学図書館は、薬学部、看護学部、リハビリテーション学部の3学部4学科からなる医療系総合大学である。キャンパスの北西海側に位置するP棟3階（全フロアー）にあり、中央ブラウジングからは瀬戸内海国立公園に指定されている緑豊かな六甲山と神戸港全体を一望することができる。

図書館は、3学部の共通図書館として、教員の研究活動への最新情報を提供する役割を担っており、蔵書構成や閲覧施設環境の充実を図るなど大学完成年度（平成24年度）に向けて順次整備を進めている。また本学では、医学部生を加えた2大学4学部合同形式でのチュートリアル教育の中で、学部の枠を超えたボーダレスな教育「チーム医療」をテーマに、時代の変化を見据えた先進的教育にも利用されている。

面積は約2,772㎡、図書の保管能力約20万冊、閲覧席752㎡、グループ学習室20室（6～10人用）並びに情報処理演習室1 315㎡（116席）の施設を併設するなど恵まれた環境にある。閲覧室の中央には開架式書架を設置しており、和書・洋書混合で日本十進分類法に基づいて配架している。蔵書数は19,848冊、単行書16,886冊（和15,251、洋1,635）、製本雑誌1,595冊、視聴覚資料1,367点を所蔵している。カレント誌は422種（洋雑誌145種含む）所蔵しており、また電子ジャーナル約3,819誌を閲覧可能としている。電子ジャーナルパッケージ3種、データベースは9種を導入しており、学内すべてのPCより電子ジャーナル3,819種が閲覧できる。

図書館の開館時間は、平日（月～金）8:30～21:00、学生の休業日は9:00～17:00迄で、10月からは土・日・祝日も21:00まで行っている。また、試験期間中を除き文部科学省の戦略的大学連携事業に係るボーアイ4大学の学生、法人兄弟校である兵庫医科大学の学生及び、近隣の医療従事者にも開放している。

ii) 図書館設備・資料の整備

図書館システムはCALIS ODINを導入しており、図書の予約及び貸出予約などの利用状況が確認できるMy Library機能も搭載している。閲覧座席数は494席（図書館374席、グループ学習室120席）と学生数の約31%を確保している。試験期間中には、館内閲覧座席、グループ学習室とも満席となることが多く、混雑を解消するため図書館中央ブラウジングゾーンの改修計画を立てている。

図書資料の受入は、新刊図書を中心として3学部で年間2,100冊余りを受入れるなど専門図書の充実に努めている。平成22・23年度における図書資料の受入状況を表1に示す。

iii) 図書館委員会の活動

平成22年度では、図書業務の拡大とともに年3～4回実施してきた選書業務を本学図書館が蔵書する図書資料の資料集書基準や寄贈図書資料の受入基準及び、図書資料の取扱基準等に基づいて年1回の実施とする業務の合理化・見直しを図っている。

外国雑誌については、原則継続収集を目標としているが新たな教員の着任や3年間の利用状況を鑑み平成24年度購読契約に向けて、各専門領域でのコア雑誌の選定、新規閲覧雑誌、閲覧希望順位付け等、雑誌購読タイトルの見直しを行う計画である。

また、学生から要望のあった国試対策の一環とした土曜日・日曜日・祝日等の休日開館については、

午前 8 時30分～午後 9 時00分まで開館している。

iv) 図書館の利用状況

平成22年度の図書館利用対象者が、学生・教職員合わせて17.3%の増加に対し、入館者数は前年度比48.9%の大幅増となった。学年進捗とともに学生の意欲的な学習や教員の研究活動の一端を担っていると考えている。また、平成23年度からは、本学卒業生に対しても蔵書検索をはじめ館内閲覧やコピー利用、貸出など広く開放している。

平成22・23年度における図書館及びグループ学習室の利用状況は表2～4に示す。平成23年度の入館者数の減少については、図書館以外の教員研究室フロアの各種ラウンジに自習スペースを設けたことによる影響があるものと思われる。

表 1. 平成22・23年度図書資料の受入状況

	単 行 書		製 本 雑 誌		視聴覚資料		合 計
	和 書	洋 書	和 書	洋 書	和 書	洋 書	
平成22年度	1,207	87	159	476	110	0	2,039
平成23年度	1,464	114	170	369	52	0	2,169
合 計	2,671	201	329	845	162	0	4,208

表 2. 平成22・23年度 図書館の利用状況

	開 館 日	利 用 者		入 館 者 (延 数)	貸 出		複 写 枚 数
		学 生 数	教職員数		冊 数	人 数	
平成22年度	288	1,591	354	176,797	14,046	4,463	6,725
平成23年度	312	1,735	318	159,764	11,861	4,134	4,730

表 3. 平成22・23年度グループ学習室の利用状況

	授業での利用 (コマ数)	個別利用 (時間)
平成22年度	205	5,752
平成23年度	198	6,185

表 4. 平成22・23年度図書館の相互利用

	依 頼				受 付			
	複 写	貸 借	閲 覧	照 会	複 写	貸 借	閲 覧	照 会
平成22年度	324	4	0	0	692	5	3	1
平成23年度	450	9	3	0	575	1	2	0

図書館に併設しているグループ学習室20室（6～10人）の授業での利用は、平成22・23年度では約200コマ、個別利用は420件余りが増加した。試験直前から試験期間中にかけて満室となることが多くなり、学生の自学自習に良く活用されている。

また、臨床学外実習において姉妹校である兵庫医科大学で本学学生が図書館を利用する。また、兵庫医大生がチュートリアル教育で本学に來学し本学図書館を利用するなど、両大学の学生が相互に図書館を利用している。

v) 学習支援・研究支援

開学当初より入学時のオリエンテーション等において図書館利用案内や各学部の第1年次学生の授業科目「情報科学」の中で4コマを図書館員が担当し、図書館の利用方法と文献情報検索の基礎を解説している。看護学部においては、第3～4年次学生を対象の授業においてより高度な文献情報検索を解説している。

相互利用による他大学図書館等への文献複写依頼及び貸借依頼は、主に教員が利用しており学生の申込みはなかった。本学図書館は、依頼件数より受付件数が多いことから、学外者への学術情報の提供に大きく貢献している。

2) キャリアデザインセンター

i) 施設の概要

社会に有用な卒業生の排出を目指す専門職業教育支援の拠点とするため、平成21年4月からキャリアデザインセンターをM棟1階（M-104）に開設している。また、その目的達成のためキャリアデザイン委員会を設置し、毎月開催している。

卒業学年次生を対象とした病院・企業説明会、各種ガイダンス・講座、求人情報の提供、応募書類の作成、面接指導などの「就職支援」及び、進路を考え、キャリアデザインの基盤作りとなる「キャリア支援」を行うことにより、学生の卒業後の充実した進路選択をサポートしている。平成22・23年度の活動状況については、表1～12に示す。

ii) 活動内容

(1) キャリア支援

- a. 仕事研究セミナー
- b. 病院・施設等職場見学
- c. 合同病院説明会（学校法人兵庫医科大学連携病院の会）

(2) 就職支援

- a. 求人票案内
- b. 就職相談、求人紹介
- c. 面接対策（講座、模擬面接）
- d. 書類の書き方指導、添削
- e. 学内合同病院説明会
- f. 薬学部 企業説明会・就職・実習説明会
- g. 社会人スキルガイダンス・スキル対策講座
- h. 公務員採用試験ガイダンス
- i. 保健師ガイダンス
- j. 求人開拓

(3) その他

- a. 新学期オリエンテーション
- b. オープンキャンパスでのキャリア、就職支援の紹介
- c. キャリアデザイン委員会の運営
- d. PI4 大学連携キャリア実務者会議

iii) 活動状況

＜平成22年度＞

表 1. 仕事研究セミナー

回	開催日	テーマ	対象	参加数
第 7 回	5 月 28 日 (金)	GCU の現場から保健師へ	看護学部 (全学年)	17 名
第 8 回	7 月 2 日 (金)	OT 理想と現実	リハビリテーション学部 (全学年)	17 名

表 2. 学内合同病院説明会

回	開催日	テーマ	対象	参加数
第 1 回	5 月 8 日 (土)	学校法人兵庫医科大学連携病院の会	全学部 (全学年)	161 名
第 1 回	2 月 15 日 (火)	兵庫医科大学病院・兵庫医科大学ささやま医療センター	看護学部 (3 年生)	93 名

表 3. 薬学部企業説明会・就職・実習説明会

回	開催日	テーマ	対象	参加数
第 1 回	3 月 14 日 (月)	就職・実務実習説明会	薬学部 (4 年生)	147 名
第 2 回	3 月 15 日 (火)			

表 4. 社会人スキルガイダンス

回	開催日	テーマ	対象	参加数
第 1 回	4 月 15 日 (木)	就職試験対策 (履歴書の書き方、面接対策、マナー)	看護学部	127 名
第 2 回	4 月 16 日 (金)		リハビリテーション学部 (4 年生)	115 名
第 3 回	8 月 30 日 (月)	就職試験対策 (履歴書の書き方、面接対策、マナー)	リハビリテーション学部 (4 年生)	62 名

表 5. 社会人スキルスガイダンス

回	開催日	テーマ	対象	参加数
第 2 回	2 月 17 日 (木)	就職ガイダンス (年間スケジュール、試験対策、ビジネスマナー等) 美肌学講座 (スキンケア法、印象の良いメイク法)	看護学部 (3 年生)	91 名

表 6. 公務員採用試験・保健師ガイダンス

回	開催日	テーマ	対象	参加数
第 3 回	1 月 21 日 (金)	保健師の採用状況、試験内容、対策ポイント 及び、資格職の採用状況 (必要な公務員試験 の勉強方法の具体的な説明)	看護学部 (3 年生)	24 名

〈平成23年度〉

表 7. 仕事研究セミナー

回	開催日	テーマ	対象	参加数
第9回	4月27日(水)	医療用医薬品製造業社の比較とMRについて	薬学部(全学年)	15名
第10回	5月18日(水)	卒業生からのメッセージ	理学療法学科 (全学年)	80名
第11回	7月15日(金)	養護教諭としての働き方	看護学部(全学年)	18名

〈平成23年度〉

表 7. 仕事研究セミナー

回	開催日	テーマ	対象	参加数
第12回	8月3日(水)	麻薬取締官・自衛隊の薬剤師	薬学部(全学年)	27名
第13回	10月27日(木)	卒業生からのメッセージ	作業療法学科 (全学年)	9名
第14回	11月21日(月)	なぜ私が企業の研究職を選んだのか?	理学療法学科 (全学年)	106名
第15回	1月6日(金)	県職員(研究職)としての薬剤師の仕事	薬学部(全学年)	8名

表 8. 学内合同病院説明会

回	開催日	テーマ	対象	参加数
第1回	5月7日(土)	学校法人兵庫医科大学連携病院の会	看護学部(全学年)	287名
第2回	2月16日(木)	兵庫医科大学病院・兵庫医科大学ささやま医療センター	看護学部 (3年生)	103名

表 9. 薬学部企業説明会・就職・実習説明会

回	開催日	テーマ	対象	参加数
第1回	12月24日(土)	企業説明会	薬学部(5年生)	135名
第3回	2月23日(木)	就職・実務実習説明会	薬学部(4年生)	130名
第4回	2月24日(金)			

表10. 社会人スキル対策講座

回	開催日	テーマ	対象	参加数
第4回	4月15日(木)	就職試験対策 (履歴書の書き方、面接対策、マナー)	看護学部(4年生)	94名
第5回	4月16日(金)		リハビリテーション学部 (4年生)	80名
第6回	8月11日(木)	就職試験対策 (履歴書の書き方、面接対策、マナー)	リハビリテーション学部 (4年生)	65名

表11. 社会人スキルガイダンス

回	開催日	テーマ	対象	参加数
第4回	2月17日(金)	就職ガイダンス (年間スケジュール、試験対策、ビジネスマナー等) 美肌学講座 (スキンケア法、印象の良いメイク法)	看護学部(3年生)	91名

表12. 公務員採用試験・保健師ガイダンス

回	開催日	テーマ	対象	参加数
第4回	7月8日(金)	保健師の採用状況、試験内容、対策ポイントの具体的説明	看護学部(3年生)	27名
第5回	1月5日(木)	保健師の採用状況、試験内容、対策ポイント及び、資格職の採用状況、必要な公務員試験の勉強方法の具体的説明	全学部(全学年)	32名

3) 情報センター

i) 施設の概要

情報センターは平成21年1月に学長直轄の組織として出発し、各学部・共通教育センターからそれぞれ1名選出された教員、広報・情報グループの事務職員で構成される組織である。本センターは、兵庫医療大学の情報ネットワークを含む情報システムの企画・整備・運用により、本学の教育・研究を支援し、本学の発展に資することを目的としている。

ii) 活動状況

業務に情報機器がなくてはならない存在になっていることから、情報センターの業務は様々な分野と関わりを持っている。平成22、23年度においては引き続き学内ネットワークや各種業務系情報システムのサーバ管理・運用、ホームページの作成支援、情報処理演習室の管理・運用、情報システムの利用に関する教職員・学生のサポート等を行った。さらに、月1回の定例会議においては後述する案件について議論を行い、実行した。実行するにあたっては、情報センター運営委員会委員長である学長と協議し、適宜情報センター運営委員会を開催し承認を得ることとなっている。開学当時導入したシステムは、平成23年度末から順次保守が切れる機器が増えてくるため、今後は特に平成25年4月に予定されている情報システムの更新について注力する。

iii) 平成22・23年度に実行した案件

- a. 安否確認システムの運用開始
- b. 無線LAN環境のセキュリティ強度と利用方法の改善
- c. 大学協議会の電子会議化
- d. CBT 運用に関する支援
- e. 情報センターのホームページ外部公開
- f. 教育端末におけるソフトウェアのバージョンアップ
- g. 外向けインターネット回線の高速化
- h. Learning Management System「moodle」の学内利用開始
- i. 就職支援システムの導入支援
- j. 奨学金管理システムの導入支援
- k. 卒業生、大学院生に対する情報システムの対応
- l. 次期情報システムの検討
 - ア. 導入スケジュールの検討

- イ.学内電子メールの Gmail への移行
- ウ.仮想化基盤システムの導入検討

4) 地域連携実践センター

i) 施設の概要

地域連携実践センターは、本学の創立と同時に P 棟の 2 階に設置され、地域連携推進委員会を中心に、本学教員がそれぞれの専門分野に則して、地域住民の方々が参加しやすい公開講座や健康相談事業などを実施している。平成20年度からは「神戸ポートアイランド・キャンパス 4 大学連携事業」によって本学に設置された「ポーアイ健康・生活支援ステーション」と連動する実践活動と地域連携実践センター独自の活動を行っている。

ii) 社会との連携・協力に関する方針

大学の特色として、本学の教育研究分野はすべてが生活と密接にかかわる分野であることから、地域との連携を重視し、地域との連携を推進するために地域連携推進委員会を組織し、地域連携実践センターをその活動主体としている。本委員会は地域連携実践センターの運営及び本学の地域連携に関する企画を立案し、本学教員による市民健康公開講座の開催、及び個別の健康相談事業、地域交流プロジェクト等を実施している。

iii) 地域連携実践センターの活動

地域連携実践センターでは、「公開講座・健康相談」、「地域交流プロジェクト」、「講演会・ワークショップ」の 3 つのカテゴリーの企画を実施している。また、イベント開催時以外にも地域住民に開放し、本学教員の教育研究活動成果のポスター、漢方薬処方や生薬標本も展示して、医療に関するさまざまな情報を公開している。これまでに医療関係から子供の絵本に至る208冊の書籍を購入し、地域住民の方々が閲覧できるように図書を開架している。ホームページ上に蔵書リストを公開し、蔵書の貸出しやコピーサービスも行っている。この他、健康や医療などに関する情報検索ができるようにインターネットに接続した 2 台のパソコンや子供が自由に遊べるように玩具を備えた部屋なども設置している。

iv) 公開講座及び健康相談

薬学部、看護学部、リハビリテーション学部、共通教育センターが各々企画し、この 2 年間で 7 回開催した。また、各公開講座のテーマに関連した参加者の健康相談を併せて実施した。受講者に対するアンケート調査を取り入れ、情報の発信だけにとどまらず、参加者の意見を取り入れるなど参加者に密着した運営に取り組んでいる。参加者は、平成22年度では354名(4回開催)、平成23年度では242名(3回開催)であり、1講座あたりの参加者は平均85名と、参加者の認知度が高く維持されるようになった。

「全国同時七夕記念講演会」、「HIV 講演会」は平成21年度から継続して、各々年 1 回ずつ、2 年間で計 4 回開催し、本学の学生も多く参加した。

平成23年度からは、兵庫県と大学コンソーシアムひょうご神戸が協働する少子化対策及び子育て支援推進事業「まちの寺子屋師範塾」に参画し、「子育て上手になろう」のテーマのワークショップを

看護学部が実施した。

v) 地域交流プロジェクト

地域交流プロジェクトは、地域住民の健康の維持・増進・回復のために、本学教員の専門領域に即したテーマについて、受講者を募集し、双方向での数回の講義を実施するもので、平成20年度より実施している。平成22年度は3つのプロジェクトを、平成23年度は6つのプロジェクトを採択し、実施した。延参加人数は、平成22年度では247名、平成23年度では333名であり、参加者からは好評を得ている。

vi) 教員教育研究活動の展示

地域連携実践センター内のロビーの掲示板に、薬学部、看護学部、リハビリテーション学部、共通教育センターの教員の教育研究活動成果のポスター、漢方薬処方や生薬標本を展示して、医療に関するさまざまな情報を公開している

vii) PR 活動

公開講座などの広報先は、これまでのポートアイランド内の神戸新聞1紙の折り込みから新聞6紙に増やし、配布地域をポートアイランドに加えて神戸市内灘区まで拡大した。

本学のホームページに地域連携センターの活動を掲載した。公開講座や地域交流プロジェクトの前には案内を掲載し、事後には講座の内容や反響の様子を載せた。

表1. 平成22年度活動報告

実施日 (回数)	事業名	所属	担当者	参加者 (延人数)
公開講座 6月5日	クスリの副作用に関する 「因縁ばなし」	薬学部	東 純一	132名 (健康相談) 13名
公開講座 10月9日	孫育て教室	看護学部	末原紀美代 藤井真理子	42名 (健康相談) 1名
公開講座 11月27日	生き活きと歩き続けるために ～高齢者の歩行の特徴と転倒予防について～	リハビリテーション学部	日高 正巳	88名 (健康相談) 14名
公開講座 3月5日	水の話～生体と水～	共通教育 センター	藤田 幸久	92名 (健康相談) 10名
講演会 7月9日	全国同時七夕記念講演会 みそ汁と太陽	共通教育 センター	加藤 精一	38名
講演会 12月2日	HIV 講演会 —共に生きる社会を目指して— HIV+ (ポジティブ) のほくからあなたへのメッセージ	看護学部	末原紀美代	82名
地域交流プロジェクト 9月10日/24日	注意集中力と老化の関連性	リハビリテーション学部	坂本 利恵	80名
地域交流プロジェクト 年度内 (3回)	がんサポートプログラム ～「語り合い・学びあい・支えあい」 —がんと共に生きる～	看護学部	上原ます子	120名
地域交流プロジェクト 年度内 (3回)	健康みなおしプロジェクト ～からだのアンチエイジング～	リハビリテーション学部	森 明子 森沢 知之 香川 真二 高橋 哲也 森崎 園子	47名

表 2. 平成23年度活動報告

実 施 日 (回数)	事 業 名	所 属	担 当 者	参 加 者 (延人数)
公開講座 5月21日	健康ってなんだろう？ ～健康について一緒に考えませんか～	薬学部	桂木 聡子	74名 (健康相談) (10名)
公開講座 10月8日	こころ元気講座 ～元気なところで生活を豊かに過ごすために～	看護学部	新井 信之 網島ひづる	70名 (健康相談) 9名
公開講座 11月27日	肩や手、指の痛みについて	リハビリテーション学部	藤岡 宏幸	98名 (健康相談) 14名
講演会 7月9日	全国同時七夕記念講演会 七夕の星と天の川	共通教育センター	加藤 精一	65名
講演会 12月8日	HIV 講演会 —共に生きる社会を目指して— HIV+（ポジティブ）なほくからあなたへのメッセージ エイズ対策・性教育・生命理論、そして「生きる」ということ	看護学部	末原紀美代	130名
地域交流プロジェクト 年度内（8回）×2班	いきいき倶楽部	リハビリテーション学部	坂本 利恵	166名
地域交流プロジェクト 年度内（3回）	がんサポートグループプログラム ～語りあい・学びあい・支えあい～－がんと共に生きる－	看護学部	上原ます子	16名
地域交流プロジェクト 年度内（2回）	生活習慣病予防教室 ～体の内側からの健康～	リハビリテーション学部	森 明子	50名
地域交流プロジェクト 年度内（4回）	血圧をモニタリングしてみよう ～日常生活ふりかえりプログラム～	看護学部	土居 洋子	24名
地域交流プロジェクト 年度内（4回）	乳がん早期発見のための乳房セルフケア促進プログラム	看護学部	鈴木 久美	47名
地域交流プロジェクト 11月12日	ポーポキ・ピース・ネットワーク	薬学部	桂木 聡子	30名

表 3. 平成23年度大学コンソーシアムひょうご神戸

実 施 日 (回数)	事 業 名	所 属	担 当 者	参 加 者 (延人数)
年度内（5回）	まちの寺子屋師範塾 ～子育て上手になろう～	看護学部	末原紀美代 家族支援 看護学 教員一同	26名

表 4. 公開講座広報先

方 法	配 布 先 ・ 掲 示 先	部数 ～2009.01	部数 2010.03～
新聞折込	神戸新聞（ポートアイランド内）	2,300	
	ポートアイランド内（6紙）		5,900
	神戸新聞灘岩屋専売所		2,150

方 法	配 布 先 ・ 掲 示 先	部数 ～2009.01	部数 2010.03～
ポートアイランド内	ふれあいセンター（港島自治連合協議会）	100	100
	兵庫県退職公務員連盟	5	5
	「新老人の会」兵庫支部 世話人 ひまわりの会	5	5
	神戸ポートビレジ管理組合生活クラブ	5	5
	チャレンジショップ	15	15
医療関係	日本調剤ポートアイランド薬局	40	40
	フタツカ薬局ポートアイランド	40	40
	藤本内科クリニック	10	10
	神戸市立医療センター中央市民病院	50	50
	兵庫医科大学病院	100	100
その他	神戸学院大学	50	50
	神戸女子大学・短期大学	70	70
	学内	50	50
	㈱紀伊国屋書店（そごう三宮店分）		
	他講座開催時	50	50
	過去参加者・案内希望者へ郵送・FAX・メール（※）		
	ポータルライナー（三宮・市民病院前）にポスター掲示		
	ニュースリリース（ポーアイ4大学連携推進センターから）		
	合 計	2,890	8,640

4. 神戸ポートアイランド4大学連携事業 —安全・安心・健康のための総合プログラムを軸として—

1) ポーアイ健康・生活支援ステーション

i) 概要

平成20年10月に文部科学省「戦略的大学連携支援事業」の第1期事業として実施してきた「神戸学院大学、神戸女子大学、兵庫医療大学及び神戸女子短期大学の4大学の取組む総合的連携事業（ポーアイ4大学連携事業）」は、平成22年度末にて文部科学省の支援事業としての活動は終了した。

平成23年度から、本ポーアイ4大学連携事業は新たな局面を迎えた。本学内に設置された「ポーアイ健康・生活支援ステーション」は、この3年間の経験を礎に、地域住民の健康・生活支援を目的として、啓蒙活動、リカレント教育、情報公開等に取り組んできた。以下に平成22年度及び23年度の事業活動について報告する。

ii) 活動状況

平成22・23年度においては、本学の教員から「ポーアイ健康・生活支援ステーション」へ企画提案され、その中で実施した事業を表1～2にまとめた。

表1. 平成22年度実施事業

実施日 (回数)	事業名	所属	担当者	参加者 (延人数)
年度内 (15回)	ポーアイ65歳大学 —介護予防・生きがいづくりを応援する—	リハビリテーション学部	有吉 正則	364名
年度内 (2回)	高齢者を介護する人のための支援 —そのときあなたが困ったら—	看護学部	平木 尚美 土居 洋子	181名
年度内 (8回)	花倶楽部 「高齢者の健康増進やストレス緩和等を目的に、緑や花にふれる」	リハビリテーション学部	伊藤 斉子	340名
講演会1回 収集活動6回	禁煙キャンパス地区を目指した禁煙支援活動の実践	薬学部	前田真貴子	113名
7月3日	学術講演 ユーザー参加型デザイン研究会 ～保険薬局をデザインする～	薬学部	前田 初男 石崎真紀子	70名
9月16日	ポートアイランド内の住環境の調査、 健康生活見守りマップの作成	リハビリテーション学部	高橋 哲也	80名
HIV 講演会 12月2日	—共に生きる社会を目指して— HIV+ (ポジティブ) のほくからあなたへのメッセージ	看護学部	末原紀美代	82名
公開講座 6月5日	クスリの副作用に関する「因縁ばなし」	薬学部	東 純一	132名 (健康相談) 13名
公開講座 10月9日	孫育て教室	看護学部	末原紀美代 藤井真理子	42名 (健康相談) 1名
公開講座 11月27日	生き活きと歩き続けるために	リハビリテーション学部	日高 正巳	88名 (健康相談) 14名
公開講座 3月5日	水の話～生体と水～	共通教育 センター	藤田 幸久	92名 (健康相談) 10名

表 2. 平成23年度実施事業

実施日 (回数)	事業名	所属	担当者	参加者 (延人数)
年度内 15回×2班	ポアアイ65歳大学 —介護予防・生きがいづくりを応援する—	リハビリテーション学部	有吉 正則	452名
年度内 4回	高齢者を介護する人のための支援 「日常の困りごと相談」「認知症の人のケア」「大往生」 ※神戸女子大・短期大学と共同企画	看護学部	平木 尚美 土居 洋子 細見 明代	183名
年度内 11回×2班	花倶楽部 「シニアライフの新たな魅力を見つけ、さらに健康に...」	リハビリテーション学部	伊藤 斉子	340名
収集活動 12回	禁煙キャンパス地区を目指した禁煙支援活動の実践	薬学部	前田真貴子	105名
12月3日	学術講演 ユーザー参加型デザイン研究会 ～保険薬局をデザインする Part 2～	薬学部	前田 初男 石崎真紀子	41名
HIV 講演会 12月8日	—共に生きる社会を目指して— HIV+ (ポジティブ) なぼくからあなたへのメッセージ エイズ対策・性教育・生命理論、そして「生きる」ということ	看護学部	末原紀美代	130名
公開講座 5月21日	健康ってなんだろう？ ～健康について一緒に考えませんか～	薬学部	桂木 聡子	74名 (健康相談) 10名
公開講座 10月8日	こころ元気講座	看護学部	新井 信之 網島ひづる	70名 (健康相談) 9名
公開講座 11月27日	肩や手、指の痛みについて	リハビリテーション学部	藤岡 宏幸	98名 (健康相談) 14名

この2年間も「ポアアイ健康・生活支援ステーション」は、申請書及びヒアリング審査に基づき規格を厳選するだけでなく、参加者のニーズも踏まえ、活動事業を市民密着型として実施した。その結果、市民のニーズにマッチした健康推進活動が行え、地域住民にも非常に好評であった。平成24年度以降は、市民のニーズにマッチするだけでなく、市民の中に新しいニーズを生み出す企画事業を立案することにより、ポアアイ健康推進プロジェクトをより一層進めていく所存である。

2) 地域交流プロジェクト

i) 活動状況

文部科学省の戦略的大学連携事業におけるポアアイ4大学連携事業は、安全・安心・健康のための総合プログラムを軸とし、下記の公開講座をはじめ講演会・ワークショップ等の取り組みは「地域連携実践センター」が主体となって実施している。

地域の方々の健康の維持・増進・回復のために、教員が主体的に企画したプロジェクトで幅広いテーマで実施した。

平成22・23年度に実施した活動内容を表1～3に示す。

表 1. 平成22年度地域交流プロジェクト

プロジェクト名	日 程	テ ー マ	担 当 者
4 大学連携事業 花倶楽部 A 班・B 班・各 8 回	5 月～2 月(金) 10:00～12:00	高齢者の健康促進やストレス緩和等を目的に緑や花にあふれる「フラワーアレンジメント」と介護予防・健康増進講座を実施します。	伊藤 斉子
「からだのアンチエイジング」 健康みなおしプロジェクト	9 月10日(金) 10月15日(金) 11月19日(金) 13:00～16:00	日々の運動こそがアンチエイジングの重要な要素の 1 つです。最新機器を用いて、体力を測定し、個人に合った運動を提案します。	森 明子 森沢 知之 香川 真二 高橋 哲也 野崎 園子
4 大学連携事業 —健康・生活・安心サポート— 健康生活を守るための 介護予防・介護する人の支援	10月16日(土) 14:00～16:00	「大往生を考える —日本人の心と仏教—」「介護予防」「介護する人への支援」に関する講座を実施します。	土居 洋子
4 大学連携事業 ポーアイ 65 歳大学 (全15 回)	10 月24 日) 2 月27 日(日)	A コース 10:00～12:00 B コース 14:00～16:00 生きがいづくりのお手伝いをするための講座です。一緒に、心豊かな時間を過ごしませんか？	有吉 正則
がんサポートプログラム 「語り合い・学びあい・支えあい」 —がんと共に生きる—	1 月23 日(日) 13:30～15:30 ----- 2 月20 日(日) 13:30～15:30	「がんの体験と私の気持ち」 「日々の健康と生活への対応」 「さまざまな資源と役立つ情報」	上原ます子
4 大学連携事業 —健康・生活・安心サポート— 健康を守るための介護予防・ 介護する人の支援	3 月12 日(土) 14:00～16:00	「認知症予防・認知症の理解」 「介護予防」「介護する人への支援」に関する講座の第11回目	平木 尚美

表 2. 平成23年度地域交流プロジェクト

プロジェクト名	日 程	テ ー マ	担 当 者
4 大学連携事業 「禁煙キャンパス地区」を 目指した禁煙支援活動	6 月23 日(木) 14:00～	『タバコ (ポイ捨て) 吸殻の収集作業』 クリーンなキャンパス地区を目指してポイ 捨てタバコの収集活動を実施しています！	前田真貴子
いきいき倶楽部 (各 8 回)	7 月～2 月(水) 10:00～12:00	A 班：(脳トレなど頭を使うのが好きな方) B 班：(体操など身体を使うのが好きな方) 注意力を高めて認知症を予防しませんか。	坂本 利恵
4 大学連携事業 花倶楽部 全 8 回	7 月～3 月(金) 10:00～12:00	A 班・B 班 シニアライフの新たな魅力を見つけ、さら に健康になりませんか。	伊藤 斉子
4 大学連携事業 65 歳大学 全15 回	8 月28 日～ 12 月18 日(日)	A コース (10:00～12:00) B コース (14:00～16:00) 生きがいづくりのお手伝いをするための講 座です。一緒に、心豊かな時間を過ごし ませんか？	有吉 正則
4 大学連携事業 健康生活を守るための 介護予防・介護する人の支援	9 月18 日(日) 13:30～15:00	「日常の困りごと相談—介護でサポートし てほしいと思った時に役立つ知恵—」 「介護相談」に関する講座です。サービ スの活用法、在宅におけるケアのワンポ イントをお話しします。	細見 明代

プロジェクト名	日 程	テ ー マ	担 当 者
第2回がんサポートプログラム 「語りあい・学びあい・支えあい」 —がんと共に生きる—	10月16日(日) 13:30～15:30	「がんの体験と私の気持ち」	上原ます子
	10月30日(日) 13:30～15:30	「日々の健康と生活への対応」	
	11月13日(日) 13:30～15:30	「さまざまな資源と役立つ情報」	
生活習慣病予防教室 ～体の内側からの健康～	10月7日(金) 13:00～16:00 測定・指導	活動量計や動脈硬化検査機器など最新機器を用いて、健康状態を測定し、個人に合った運動を提案し、健康維持のお手伝いをさせていただきます。	森 明子
	11月18日(金) 13:00～16:00 運動	活動量計や動脈硬化検査機器など最新機器を用いて、健康状態を測定し、個人に合った運動を提案し、健康維持のお手伝いをさせていただきます。	
まちの寺子屋師範塾 子育て上手になろう	10月15日(土) 13:30～14:30	「ベビーマッサージ」	勝田真由美
	11月19日(土) 13:30～14:30	「子どもの救急 —上手な病院へのかかり方—」	湯浅真裕美 (兵庫医科大学)
	12月17日(土) 13:30～14:30	「子どもの事故予防」	藤田 優一
	1月21日(土) 13:30～14:30	「子どもと楽しく遊ぶ～身近にあるもので簡単におもちゃを作ろう～」	石原 あや
	2月18日(土) 13:30～14:30	「エアロビクスを取り入れたらくらく安産体操」	鈴井江三子
血圧をモニタリングしよう 日常生活ふりかえりプログラム	10月22日(土) 13:00～16:00	「血圧測定と記録」	土居 洋子
	11月12日(土) 13:00～16:00	「療養行動の決定」	
	12月10日(土) 13:00～16:00	「療養行動の評価・修正」	
	3月上旬 (予定)	「療養行動のふりかえり」	
ポーボキ・ピースネットワーク	11月12日(土) 13:00～16:00	グループに分かれて1時間程この街を歩きながら「平和」と「元気」を探して、写真などで記録します。そのあと、みんなで大きな「ピース・マップ」を作ります。	桂木 聡子
4大学連携事業 介護予防・介護する人の支援	11月13日(日) 14:00～16:00	『認知症の人の緩和ケア —オーストラリア（メルボルン）の緩和ケアから—』 がんだけでなく、認知症を含むがんでない人の緩和ケアについて考えます。	平木 直美
乳がん早期発見のための乳房セルフケアプログラム	11月26日(土)	A: 10:00～11:30 B: 13:30～15:00 乳がん早期発見のために乳がんの症状や検診方法・治療について学びます。また体験者のお話を聞いたり、乳房モデルを用いた実技実習を通して、セルフチェックを習得します。	鈴木 久美
	12月4日(日)	C: 10:00～11:30 D: 13:30～15:00 乳がん早期発見のために乳がんの症状や検診方法・治療について学びます。また体験者のお話を聞いたり、乳房モデルを用いた実技実習を通して、セルフチェックを習得します。	

プロジェクト名	日 程	テ ー マ	担 当 者
4 大学連携事業 「禁煙キャンパス地区」を 目指した禁煙支援活動	1 月 27 日 (金) 2 月 17 日 (金) 3 月 23 日 (金)	集合場所：兵庫医療大学噴水前 『ポイ捨てタバコ吸殻の収集作業』 クリーンなキャンパス地区を目指してポイ 捨てタバコの収集活動を実施しています！	前田真貴子
4 大学連携事業 介護予防・介護する人の支援	2 月 25 日 (土) 14:00～16:00	『大往生—自分らしく生き、逝くために—』 その人らしい最後を送ることができるよう に、「事前指定—自分で決定する最後の選 択—」も含めて考えます。	土居 洋子

表 3. 平成22年度特別公開講座・講演会・ワークショップ

プロジェクト名	日 程	テ ー マ	担 当 者
★	7 月 3 日 (土)	みんなで一緒に医療を考えよう —ユーザ参加型医療デザインワークショップ— 「保険薬局をデザインする」の巻	前田 初男
	7 月 9 日 (金)	全国同時七夕講演会2010 「みそ汁と太陽」	加藤 精一
★	9 月 22 日 (水)	元タバコ会社副社長の提言 ～秘められたタバコ添加物の作用とタバコ規制における FDA の新たな取り組み～	前田真貴子
☆	12 月 2 日 (木)	世界エイズデーによせて —共に生きる社会を目指して— HIV+ (ポジティブ) のボクからあなたへのメッセージ	末原紀美代

★：4 大学連携事業

☆：4 大学連携事業（ボーアイ教養科目）

表 4. 平成22年度特別公開講座・講演会・ワークショップ

プロジェクト名	日 程	テ ー マ	担 当 者
	7 月 8 日 (金)	全国同時七夕講演会2011 「七夕の星と天の川」	加藤 精一

★：4 大学連携事業

☆：4 大学連携事業（ボーアイ教養科目）

ii) 公開講座・個別健康相談

薬・看護・リハビリテーション各学部と共通教育センターが順に企画し運営している。公開講座のテーマを中心に、一般的な健康や病気に関する個別健康相談も合わせて実施している。

表 5. 平成22年度公開講座・個別健康相談

日 程	テ ー マ	担当部署	講 演 者	参加者
6 月 5 日 (土)	クスリの効果・副作用に関する「因縁ばなし」	薬学部	東 純一	132名
10 月 9 日 (土)	孫育て教室	看護学部	末原紀美代 藤井真理子	42名
11 月 27 日 (土)	生き活きと歩き続けるために —高齢者の歩行の特徴と転倒予防について—	リハビリテ ーション学部	日高 正己	88名
3 月 5 日 (土)	水の話 —生体と水—	共通教育セ ンター	藤田 幸久	92名

表 6. 平成23年度公開講座・個別健康相談

日 程	テ ー マ	担当部署	講 演 者	参加者
5月21日 (土)	健康って何だろう？ —健康について一緒に考えませんか—	薬学部	桂木 聡子	74名
10月8日 (土)	こころ元気講座 —元気なところで生活を豊かに過ごすために—	看護学部	網島ひづる 新井 信之	70名
11月19日 (土)	肩や手、指の痛みについて	リハビリテーション学部	藤岡 宏幸	98名

3) 部会活動

(1) 図書館部会

i) 概要

ポートアイランド内の4大学間図書館の積極的な連携により、各大学における教育研究資源を有効活用することにより、教育・研究・学生支援・社会貢献等における基盤強化を図ることとし、ポータイ4大学連携図書館会議を年4回開催している。その中で図書の貸出閲覧や巡回展示（1大学1ヶ月間）を実施している。

ii) 平成20・21年度の活動状況

ポータイ4大学における図書館相互利用のサービス内容は、各館とも閲覧・複写は可能であり、図書の貸出サービスは各館独自の利用証を作成することで可能となった。利用促進対策については、ホームページ上に「ポータイ連携4大学図書館利用条件・サービス内容一覧」を公開するなどの対策を講じていくことを検討した。また、4大学連携での電子ジャーナル共同購入の可能性を探るべく「電子ジャーナル導入とコンソーシアム事例」講演会を開催するなど、導入に向けて必要な環境整備を検討している。

更に平成21・22年度事業計画「ポータイ4大学における連携事業—安全・安心・健康のための総合プログラムを軸として」を通じ、各大学の特色を生かした図書等の合同展示活動を行うこととし、21年度は展示会場の提供校としてのみ参加した。

iii) ポータイ4大学図書館巡回展示

ポータイ4大学（兵庫医療大学、神戸学院大学、神戸女子大学及び神戸女子短期大学）による連携事業の一環として、神戸夙川学院大学にも特別にご協力をいただき、「人・まち・社会を考える」～地域力、文化力、教育、健康管理～ について、それぞれ大学の特徴を生かしたテーマでの蔵書や資料を出展し、4大学図書館間を巡回展示した。

〈平成22年度各大学からの出展資料〉

- a. 兵庫医療大学：「薬草と健康」に関する図書 11冊 + B1パネル5枚
- b. 神戸学院大学：「安全・安心のまちづくり」に関する図書 106冊 + 説明資料
- c. 神戸女子大学・神戸女子短期大学：「健康と運動・スポーツ」に関する図書 30冊
- d. 神戸夙川学院大学：「バリアフリー・ヘルスツーリズム」に関する図書 22冊 + 雑誌・新聞

表 1. 平成22年度合同巡回展示会場および出展時期

期間	兵庫医療大学図書館	神戸学院大学 ポートアイランドキャンパス 図書館	神戸女子大学・ 神戸女子短期大学図書館 (ポートアイランド)	神戸夙川学院大学図書館
6月	「薬草と健康」	「安全・安心のまちづくり」	「健康と運動・スポーツ」	「バリアフリー・ヘルスツーリズム」
10月	「安全・安心のまちづくり」	「健康と運動・スポーツ」	「バリアフリー・ヘルスツーリズム」	「薬草と健康」
11月	「健康と運動・スポーツ」	「バリアフリー・ヘルスツーリズム」	「薬草と健康」	「安全・安心のまちづくり」
12月	「バリアフリー・ヘルスツーリズム」	「薬草と健康」	「安全・安心のまちづくり」	「健康と運動・スポーツ」

〈平成23年度各大学からの出展資料〉

- ・兵庫医療大学：「くらしの中での健康を考える ～熱中症の予防～」に関する図書12冊、B1パネル7枚（熱中症の予防③、体温と体温調節②、体温を測る②）
- ・神戸学院大学：「地域力再考」に関する図書33冊（地域力 ～震災から16年、今再び「地域力」を問う～〈震災救援・復興〉に関する図書）、説明資料
- ・神戸女子大学・神戸女子短期大学：「Rethinking-教育」に関する図書36冊
- ・神戸夙川学院大学：「地域の文化力を考える」に関する図書34冊、観光パンフレット14冊

表 2. 平成23年度合同巡回展示会場および出展時期

期間	兵庫医療大学図書館	神戸学院大学 ポートアイランドキャンパス 図書館	神戸女子大学・ 神戸女子短期大学図書館 (ポートアイランド)	神戸夙川学院大学図書館
6月	くらしの中での健康を考える ～熱中症の予防～	地域力再考	Rethinking-教育	地域の文化力を考える
10月	地域力再考	くらしの中での健康を考える ～熱中症の予防～	地域の文化力を考える	Rethinking-教育
11月	Rethinking-教育	地域の文化力を考える	くらしの中での健康を考える ～熱中症の予防～	地域力再考
12月	地域の文化力を考える	Rethinking-教育	地域力再考	くらしの中での健康を考える ～熱中症の予防～

(2) キャリア支援部会

i) 概要

設立当初は、就職対象の学年が在籍しておらずエクステンション（課外）講座を中心にエクステンション部会として資格取得を共同で実施する目的で結成した。他大学からも受講可能な独自資格講座（資格取得やキャリアアップの講座）として設置し、連携を進めていった。平成21年度末より、就職対象の学年の在籍に伴いキャリア支援の内容も議論されるようになり、22年度に「キャリア支援部会」という名称に変更した。部会は、隔月の第2、3週の火曜日に4大学が輪番で幹事を担当し開催している。主に、各校の予定行事や資格講座を報告した後に、連携可能なもの（事業）を協議している。将来的には、生涯学習やインターンシップに関しても、共同で取り組もうという方向で検討をかさね

ている。

ii) キャリア支援専門部会の開催

表 1. 平成22年度キャリア支援部会

	日 時	開 催 場 所
第 17 回	平成22年 5 月11日 (火)	神戸夙川学院大学
第 18 回	平成22年 7 月20日 (火)	神戸学院大学
第 19 回	平成22年10月19日 (火)	兵庫医療大学
第 20 回	平成22年12月14日 (火)	神戸女子・短期大学
第 21 回	平成23年 3 月 8 日 (火)	神戸夙川学院大学

表 2. 平成23年度キャリア支援部会

	日 時	開 催 場 所
第 22 回	平成23年 5 月31日 (火)	兵庫医療大学
第 23 回	平成23年 7 月12日 (火)	神戸学院大学
第 24 回	平成23年10月11日 (火)	神戸女子・短期大学
第 25 回	平成23年12月13日 (火)	神戸夙川学院大学
第 26 回	平成24年 3 月13日 (火)	神戸学院大学

iii) 4 大学連携事業の活動状況

(1) 平成22年度連携した事業

①神戸学院大学による

- a. 業界・企業研究セミナー
- b. 同窓会による就職フォーラム（講演会・個別企業説明会）10/16(土)12:30～

②神戸夙川学院大学による

- a. 旅行業取扱管理者講座4/24～10/2

(2) 平成23年度連携した事業

①神戸学院大学による

- a. 公務員採用試験制度・業務内容説明会5/23～5/31
- b. 就職交流会6/29(水)
- c. 中小企業庁事業 合同企業説明会9/2(金)
- d. 就職フォーラム（講演会・個別企業説明会）10/1(土)

②神戸夙川学院大学による

- a. サービス介助士2級検定対策講座
- b. 旅行業務取扱管理者講座

③4 大学連携による

- a. 4 大学合同企業説明会10/15(土)

5. ボランティア活動

1) 東日本大震災に対する対応

i) 概要

平成23年3月11日に発生した東北地方の大地震とその後の大津波による未曾有の大災害は日本中を震撼させ、特に東部地区に大きな爪痕を残した。加えて福島原発からの放射能汚染が深刻な状況をもたらした。全国から多くの人たちや団体の献身的なボランティア活動が進められていったなかで、将来の医療人を育成し、また教員に多数の医療専門職者を抱える本学としても何らかの活動をすべきと考えた。教員は兵庫医科大学チームへの参加や各専門団体の活動に積極的な参加を呼びかけた。また、学生にもチャンスがあれば参加の支援をすべく議論を進めた。平成22年度及び23年度における大学、教職員及び学生の取り組みは以下のとおりである。

(1) 在学生・教職員に対する支援

東日本大震災により被災された本学在学生及び教職員に対する、休学や学費、奨学金等に係る特別措置の実施を決定した。

(2) 医療活動など

本学薬学部教員2名や看護学部教員1名が、AMDA（国際医療ボランティア組織、平成23年3月17日から3月23日、5月2日から5月5日）や大阪薬剤師会（平成23年5月4日から5月8日）、NPO 法人関西アロマセラピストフォーラム（平成23年5月2日から5月4日）などの団体を通じて東日本大震災の被災地でボランティア活動に関わった。本学看護学部教員2名が、(社)兵庫県看護協会が被災地へ派遣する災害支援ナースに登録した。

(3) 募金活動

教職員から義援金を募り、平成23年3月14日から3月31日の間で西宮・篠山キャンパス（兵庫医科大学）、神戸キャンパス（兵庫医療大学）から総額3,991,784円の義援金が集まり、日本赤十字社を通じて送金した。

(4) 被災地域学生に対する支援

大学コンソーシアムひょうご神戸の会員校として、同コンソーシアムからの呼びかけを受け、被災地域の学生を、「疎開留学」として受け入れすることを表明（各学部2名以内、合計4名以内）した（平成23年4月6日）。

(5) 被災地視察

学生のボランティア活動を進めるうえで、大学としての安全性やその意義を把握すべく、平成23年7月17・18日に、学長、学生部長、教員と学生支援グループ職員からなる視察チームを作り、一泊二日の駆け足であったが、宮城、岩手地区を視察した。

(6) ボランティア憲章

大学としてボランティア活動全般に当てはめて、基本理念を決めることとし、ボランティア憲章をおいた。以下にその内容を示す。（平成23年6月制定）

兵庫医療大学ボランティア憲章

兵庫医療大学は、建学の精神・教育理念を踏まえて、
ここに兵庫医療大学ボランティア憲章 5 か条を定める。

1. 兵庫医療大学の学生・教職員は、建学の精神に基づき、自主的かつ自己責任において非営利の公益活動（ボランティア活動）を実践する。
2. 兵庫医療大学は、学生によるボランティア活動を原則として課外活動と位置付け、修学に影響しない範囲内で推奨し支援する。
3. 兵庫医療大学の学生は、医療専門職者となる素養を培う。
4. 兵庫医療大学の教職員は、医療専門職者を育成する機関の一員として自己実現の場とする。
5. 兵庫医療大学は、ボランティア活動をこの憲章に則り顕彰する。

平成23年 6 月13日

兵 庫 医 療 大 学

ii) 学生ボランティア活動

一時、文部科学省から学生のボランティア活動を支援する通知（科目の読み替え）が出たが、その後厚生労働省から医療系では実習について特別扱いはいしない、との通知があり、本学としては夏休みになどの講義や実習のない時期への参加は可とする決定をした。実際には、神戸学院大学で実施されている活動への参加という形で進めることとなった（詳細を表1に示す）。

平成23年 8 月29日から 9 月 2 日に看護学部生 5 名、薬学部生 1 名、リハビリテーション学部生 1 名、共通教育センター教員 1 名が宮城県での活動に参加した。さらに12月22日から12月25日にも看護学部生 2 名、共通教育センター教員 1 名が活動した。

また、平成24年 2 月24日から 2 月27日に「大学コンソーシアムひょうご神戸」の活動に看護学部生 5 名が参加した。

なお、かかる学生ボランティア活動支援のために東日本大震災ボランティア準備委員会を学生部長主導で設置している（平成23年 5 月）。

表 1. 東日本大震災に関わる学生ボランティアの活動状況

期 間	活動場所	内 容	参加者
平成23年 8 月29日（月） ～ 9 月 2 日（金）	名取市及び石巻市の 仮設住宅、避難場所	宮城県学生ボランティア （神戸学院大学 4 大学連携での実施プログラムに参加） 仮設住宅支援（仮設住宅のお茶会等）、子供の支援（子供食堂、子供縁日、人形劇等）	（学生） 7 名 （教職員） 1 名
平成23年 12月22日（木） ～12月25日（日）	名取市及び石巻市の 仮設住宅	宮城県学生ボランティア （神戸学院大学 4 大学連携での実施プログラムに参加） 仮設住宅支援（仮設住宅のお茶会、クリスマス会等）	（学生） 2 名 （教職員） 1 名
平成24年 2 月24日（金） ～ 2 月27日（月）	名取市及び石巻市の 仮設住宅	宮城県学生ボランティア （神戸学院大学 4 大学連携での実施プログラムに参加） 仮設住宅支援（スポーツイベント、和紙ひな人形づくり等）	（学生） 5 名 （教職員） 1 名

iii) 学生ボランティア活動への支援団体の設置

学生委員会の支援で、ボランティア支援団体「ふくろう」の設置が認められた（平成23年9月）。

補足：医療系大学として学生の災害時のボランティア活動は支援したいが、指定規則などの縛りがあり、容易ではない。かかる課題を纏めて、大学時報の特集「成長の場としてのボランティア」に投稿した（医療系大学での対応と課題、巻末の業績参照）。

2) その他の学生ボランティア活動

i) 概要

(1) ピンクリボンスマイルウォーク

乳がんへの知識を深め、検診の大切さを伝えるイベントであるピンクリボンスマイルウォークに本学看護学部の学生（平成22年10月17日：19名、平成23年10月16日：16名）がボランティアスタッフとして参加した。

(2) 第1回神戸マラソン団体ボランティア

本学学生が30名のボランティアグループと15名のボランティアグループで計45名がランナーサポートなどの活動に参加した（平成23年11月20日）。

(3) ボイ捨てタバコ吸殻の収集作業

「禁煙キャンパス地区」を目指した禁煙支援活動として、キャンパス地区のタバコ吸殻収集作業に本学の学生、教職員が平成22年度には6回実施し延べ113名、平成23年度には12回実施し延べ105名が参加した。

編集後記

関係する方々のご協力によって、ここに兵庫医療大学年報 Vol.3を発行することができましたことを厚くお礼申し上げます。この年報の掲載内容は、開学より4・5年目にかけて（平成22・23年度）の2年間の教育・研究等の内容に関するものです。

近年、少子化の影響により大学を取り巻く環境は大変厳しい状況にあり、大学が地域・社会に果たす役割も変化しています。これらに適切に対応するためには、大学は継続的な自己点検・評価によって改革・改善しなければなりません。

本学は大学基準協会による認証評価を平成24年度に受けました。これまでの年報を含めた掲載内容が「自己点検・評価報告書」の基礎資料として使用されています。年報の発行は自己点検・評価の方法として重要な意義を持っており、外部評価の資料としても肝要な位置づけがされています。年報が本学の今後の発展に向けての資料となるように編集・発行していく所存です。

年報編集委員会

編集委員長	薬学部教授	清宮	健一
図書館長	薬学部教授	西原	力
	看護学部准教授	齋藤	雅子
	看護学部准教授	太田	直実
	共通教育センター准教授	紀平	知樹
リハビリテーション学部（理学）講師		森沢	知之
リハビリテーション学部（作業）講師		佐野	恭子
研究支援グループマネージャー		木原	淳彦
図書館グループマネージャー		松原	良知
図書館グループリーダー		津田	雅代
図書館グループ		藤本	茶千

兵庫医療大学年報（平成22・23年度）

発行日	平成25年3月20日
編集・発行	兵庫医療大学 年報編集委員会 〒650-8530 神戸市中央区港島1丁目3番6 TEL 078-304-3000 FAX 078-304-2700
印刷	株式会社小西印刷所

Hyogo University of Health Sciences



学校法人 兵庫医科大学

西宮市武庫川町1丁目1番 TEL.0798-45-6111